男女共同参画社会に向けての市民意識調査
報　告　書

令和８年３月

嘉　麻　市

目　次

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的 ･･･ 1
２．調査の性格 ･･･ 1
３．調査項目 ･･ 1
４．回答者の属性･･･ 2
５．調査結果利用上の注意･･･ 4

Ⅱ　調査結果

第１章　男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方について

１．性別役割分担意識について･･ 5
（１）「男は仕事、女は家庭」という考え方･･････････････････････････････ 5
（２）「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由･･････････････････ 8
２．男女の地位の平等感･･ 10

第２章　家庭生活や子育てについて

１．家庭内の役割分担･･ 25
２．子育てに関する考え方･･ 41
３．社会で男女共同参画を推進するために学校教育の場で力をいれるところ･････････ 46
４．妊娠や性に関する考え方･･ 48

第３章　就労・働き方について

１．女性が職業を持つことについて･･････････････････････････････････････ 52
２．女性が職業を続けない方がよいと思う理由･･････････････････････････････ 55
３．職業について･･ 57
（１）職業の有無･･ 57
（２）就労形態･･ 59
（３）自営業者の就労状況･･ 61
（４）雇用者の職場環境･･ 63
４．育児休業・介護休業制度について･･････････････････････････････････････ 65
（１）育児休業・介護休業制度の利用意向･･････････････････････････････････ 65
（２）育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由･･････････ 67
５．「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度･･････････････････････ 69
６．ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するための条件整備･･････ 72

第４章　地域活動について

１．地域の役職に推薦された場合の対処･･･ 75
２．地域の役職を断る理由･･･ 78
３．地域で感じる男女の差･･･ 83
４．地域活動での男女の役割分担･･ 85
５．地域の長に女性が就くことが少ない理由･･････････････････････････････････ 90
６．災害に備えるために必要な男女共同参画の視点･･････････････････････････････ 92

第５章　暴力などの人権侵害について

１．セクシュアル・ハラスメントについて･･････････････････････････････････････ 94
（１）セクシュアル・ハラスメントを受けた経験･･････････････････････････････ 94
（２）セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動･･････････････････････････ 97
２．暴力だと思うもの･･･ 99
３．暴力について･･ 105
（１）暴力の経験･･ 105
（２）相談の有無･･ 110
（３）相談しなかった理由･･ 112
４．身近で見聞きした暴力について･･･ 114
（１）身近で見聞きした暴力の有無･･ 114
（２）身近で見聞きした暴力への対処･･ 116
５．暴力についての相談窓口の認知･･･ 118

第６章　悩みや困りごとについて

１．悩みや困りごとについて･･･ 120
（１）悩みや困りごとの有無･･ 120
（２）相談の有無･･ 122
（３）相談した機関･･ 124
（４）相談しなかった理由･･ 125
２．相談窓口の情報の入手方法･･･ 127
３．困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するための環境や支援･････････ 129

第７章　男女共同参画社会の実現について

１．男女共同参画に関する法令・制度、用語などの認知･･････････････････････････ 131
２．男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと･･･ 137
３．「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること･･････････････････････ 140

Ⅲ　調査結果のまとめと今後の課題

１．男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方について･････････････････････････ 143
２．家庭生活や子育てについて･･･ 143
３．就労・働き方について･･･ 144
４．地域活動について･･･ 145
５．暴力などの人権侵害について･･ 146
６．悩みや困りごとについて･･ 147
７．男女共同参画社会の実現について･･ 147

Ⅳ　参考資料

◎　自由記述の抜粋･･･ 149
◎　使用した調査票･･ 159

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

この調査は、嘉麻市における男女共同参画意識について現状を把握し、「男女共同参画社会基本計画」及び「ＤＶ防止基本計画」策定のための基礎資料として活用することを目的として実施した。

２．調査の性格

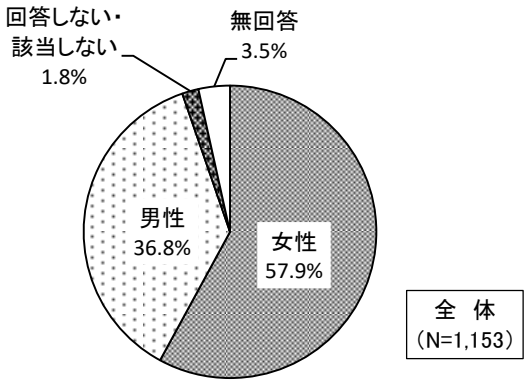
（１）調 査 地 域	嘉麻市全域
（２）調査対象者	市内に住所を有する１８歳以上の市民３，０００人
（３）有効回答数	１，１５３人（郵送９５１人、WEB２０２人） 有効回答率　３８．４％
（４）抽 出 方 法	住民基本台帳から無作為抽出
（５）調 査 方 法	郵送により配布、郵送・WEB 併用回収
（６）調 査 期 間	令和７年９月８日（月）～１０月６日（月） （ただし、１０月２０日回収分までを集計に含めている。）
（７）分析の監修と調査結果のまとめ	武藤桐子（特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所　理事）

３．調査項目

（１）男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方について
（２）家庭生活や子育てについて
（３）就労・働き方について
（４）地域活動について
（５）暴力などの人権侵害について
（６）悩みや困りごとについて
（７）男女共同参画社会の実現について

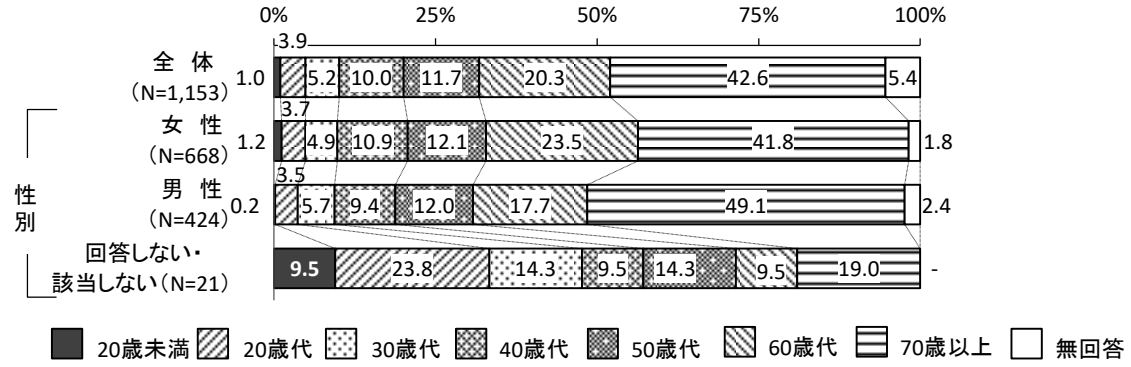
４．回答者の属性

◎性　別



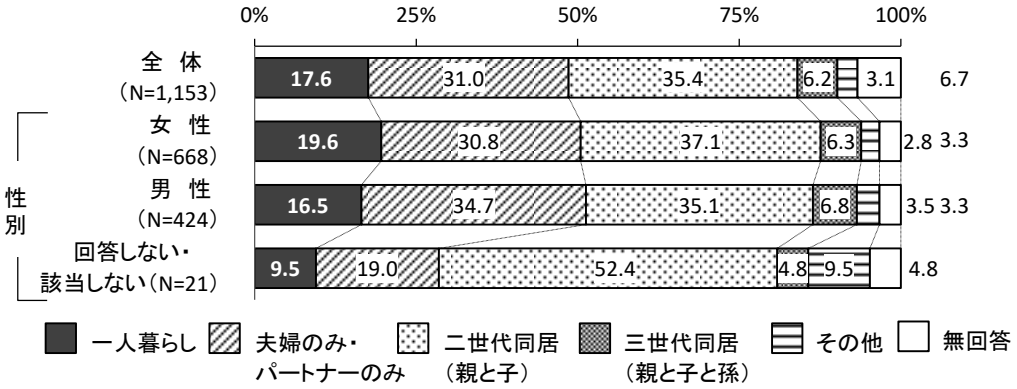
回答者の性別は「女性」が 57.9%、「男性」が 36.8%で女性の回答者が 21.1 ポイント多い。

◎年齢



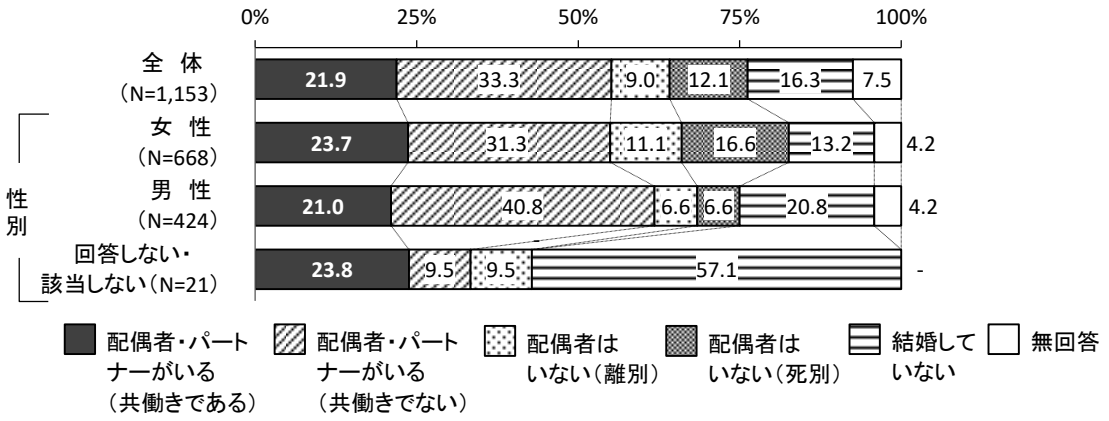
回答者の年齢は、「70 歳以上」（42.6%）、「60 歳代」（20.3%）、「50 歳代」（11.7%）、「40 歳代」（10.0%）の順で多く、『60 歳以上』で約６割を占めている。性別でみると、男性は「70 歳以上」が 49.1%とほぼ半数に上る。

◎家族構成



回答者の家族構成は、「二世代同居（親と子）」が 35.4%で最も多く、次いで「夫婦のみ・パートナーのみ」が 31.0%、「一人暮らし」が 17.6%、「三世代同居（親と子と孫）」が 6.2%となっている。

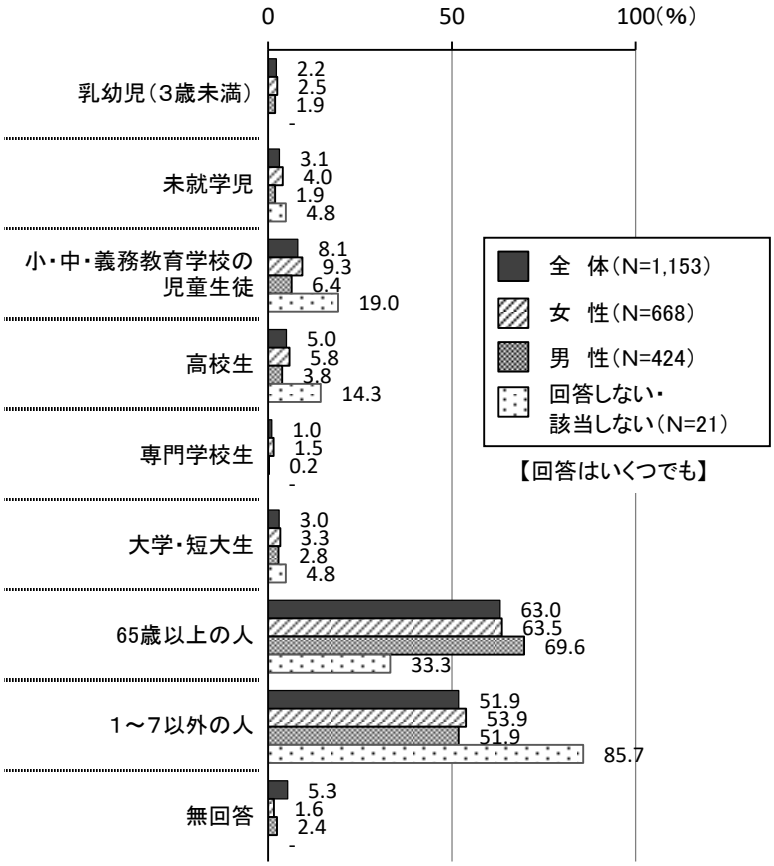
◎配偶関係



回答者の配偶関係は「配偶者・パートナーがいる（共働きでない）」が 33.3%、「配偶者・パートナーがいる（共働きである）」が 21.9%となっており、現在配偶者・パートナーがいる人は 55.2%である。「結婚していない」は 16.3%、「配偶者はいない（死別）」は 12.1%、「配偶者はいない（離別）」は 9.0%となっている。

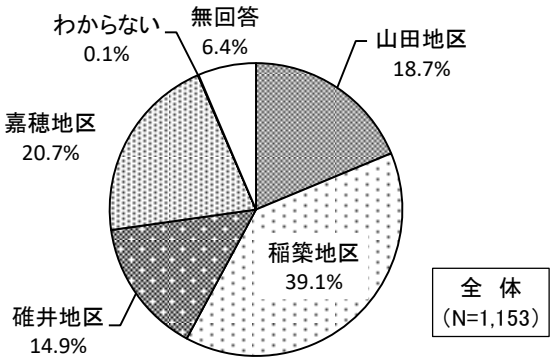
性別でみると、女性は「配偶者はいない（死別）」（16.6%）が男性より 10.0 ポイント多く、男性は「結婚していない」（20.8%）が 7.6 ポイント、「配偶者・パートナーがいる（共働きでない）」（40.8%）が 9.5 ポイント女性より多い。

◎同居家族



回答者自分も含めた同居家族は「65 歳以上」の人が 63.0%と最も多い。

◎居住地区



回答者の居住地区は、「稲築地区」が 39.1%、「嘉穂地区」が 20.7%、「山田地区」が 18.7%、「碓井地区」が 14.9%となっている。

５．調査結果利用上の注意

（１）数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。

（２）文中の数字は、百分比の小数以下第２位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも 100%とはならない。

（３）２つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。

（４）数表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。

（５）付問、付付問は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。

（６）文中の選択肢の表記は「　」で行い、選択肢のうち２つ以上のものを合計して表す場合は『　』とした。

（７）今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

嘉麻市　「男女共同参画社会に向けての市民意識調査」令和２年 11 月実施

福岡県　「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和６年 12 月実施

内閣府　「男女共同参画社会に関する世論調査」令和６年９月実施

Ⅱ　調査結果

Ⅱ　調査結果

第１章　男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方について

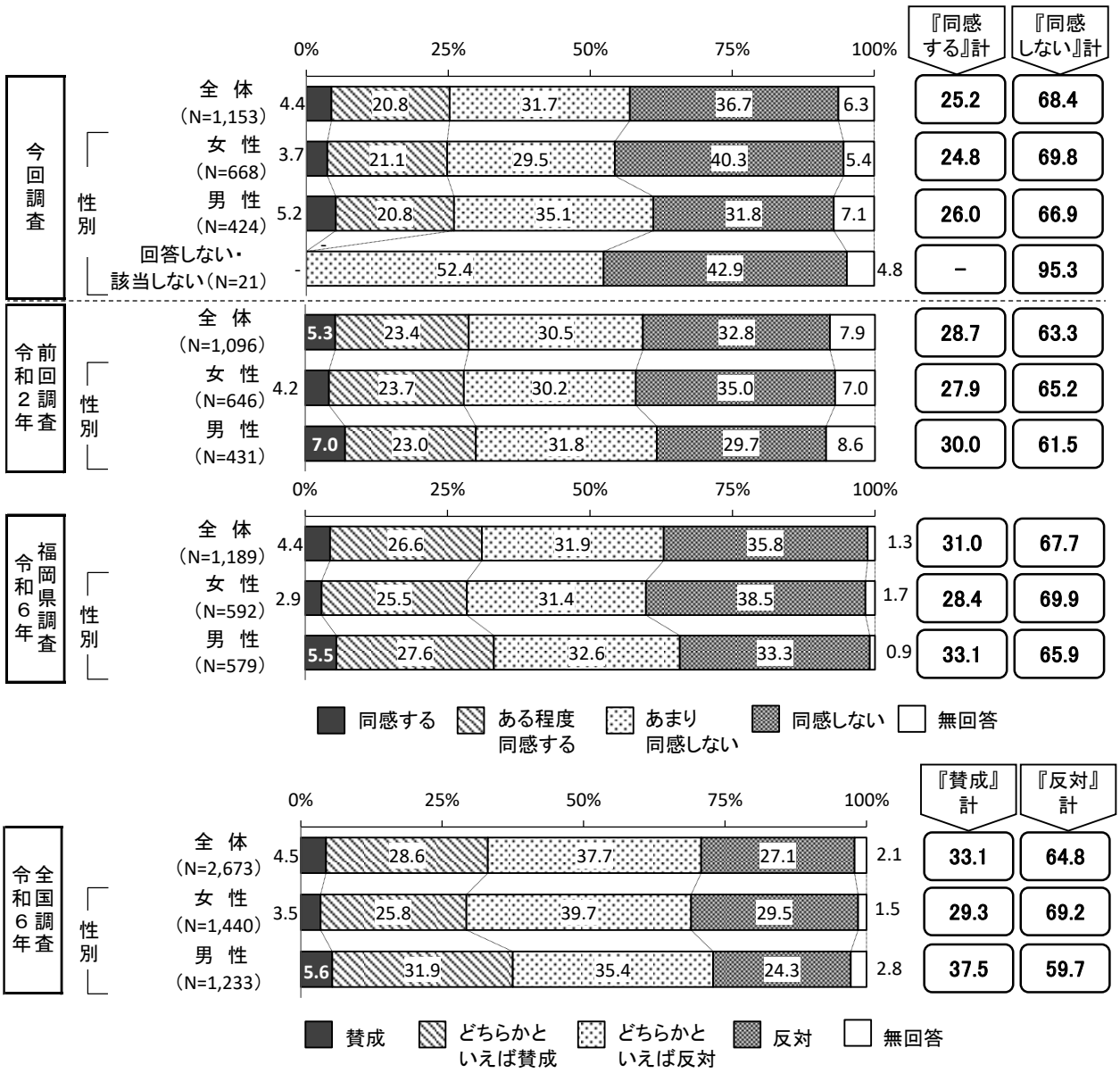
１．性別役割分担意識について

（１）「男は仕事、女は家庭」という考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感しない』人は女性では約7割、男性では6割台半ば。前回調査よりも性別役割分担を容認しない人が男女とも約5ポイント増加している。

問１「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。１つ選んでください。

図表１－１　「男は仕事、女は家庭」という考え方［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識に対して、全体では「同感する」（4.4%）と「ある程度同感する」（20.8%）を合わせた『同感する』は 25.2%で、「同感しない」（36.7%）と「あまり同感しない」（31.7%）を合わせた『同感しない』は 68.4%と、『同感する』を 43.2 ポイント上回っている。

性別でみると、『同感しない』（女性 69.8%、男性 66.9%）では男女で大きな差はないが、より強い「同感しない」は女性が 40.3%で男性の 31.8%を 8.5 ポイント上回っており、女性の方が性別役割分担意識を容認しない傾向がみられる。

令和２年 11 月に実施された「男女共同参画社会に向けての市民意識調査」（以下、「前回調査」という）と比べると、男女とも『同感しない』が 4.6～5.4 ポイント増加しており、性別役割分担意識を容認しない人が男女とも増えている。

令和６年 12 月に福岡県で実施された「男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、「福岡県調査」という）と比べると、男女とも『同感しない』は大きな差はないが、『同感する』は今回調査の方が男女とも 3.6～7.1 ポイント少なくなっている。

令和６年９月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、全国調査という）と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、性別役割分担を容認しない人は女性では同程度、男性では 7.2 ポイント多く、今回調査の方が男性で性別役割分担を容認しない人が多くなっている。

年齢別でみると、男女とも 70 歳以上で『同感しない』が比較的低いが、それでも女性の 56.6%、男性の 65.4%が『同感しない』と回答している。女性の 40 歳代で『同感しない』が 68.5%、男性の 50 歳代で 66.6%と、それ以外の年代に比べて低くなっている。女性の 29 歳以下、30 歳代、50 歳代、60 歳代と、男性の 29 歳以下では『同感しない』が約８割から８割台半ばと高い。

配偶関係別でみると、女性の共働きでは『同感しない』が 74.7%であるのに対し、共働きでない場合は 67.9%とやや低い。男性では共働きの場合も共働きでない場合でも『同感しない』が約７割とほぼ変わらない。結婚していない場合、女性の『同感しない』は 80.7%と最も高く、男性（67.0%）を 13.7 ポイント上回っており、未婚の女性は性別役割分担を容認しない人が多い。

図表１－２　「男は仕事、女は家庭」という考え方について［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

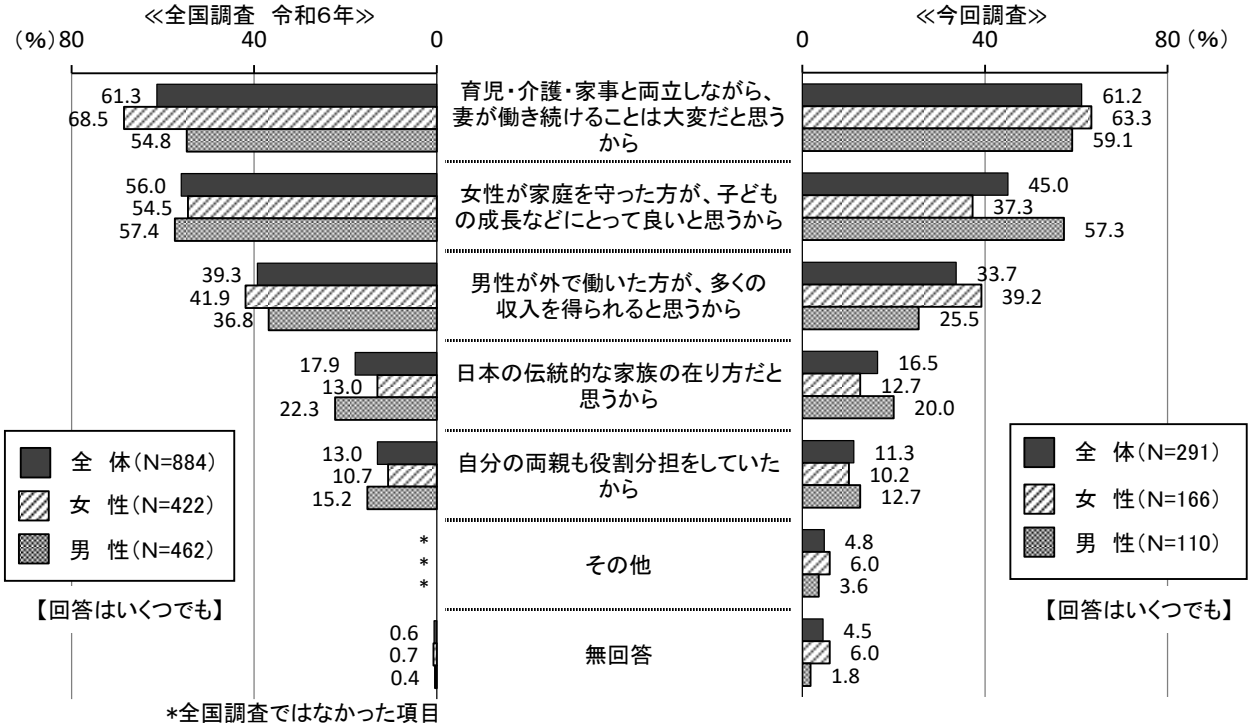
		標本数	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	『同感する』計	『同感しない』計
全体		1,153	51	240	366	423	73	291	789
		100.0	4.4	20.8	31.7	36.7	6.3	25.2	68.4
年齢別	女性:29歳以下	33	6.1	12.1	30.3	51.5	－	18.2	81.8
	女性:30歳代	33	3.0	15.2	27.3	54.5	－	18.2	81.8
	女性:40歳代	73	2.7	26.0	30.1	38.4	2.7	28.7	68.5
	女性:50歳代	81	1.2	12.3	34.6	50.6	1.2	13.5	85.2
	女性:60歳代	157	3.8	11.5	29.9	49.7	5.1	15.3	79.6
	女性:70歳以上	279	4.7	30.1	26.9	29.7	8.6	34.8	56.6
	男性:29歳以下	16	－	12.5	43.8	37.5	6.3	12.5	81.3
	男性:30歳代	24	－	25.0	37.5	33.3	4.2	25.0	70.8
	男性:40歳代	40	7.5	15.0	40.0	30.0	7.5	22.5	70.0
	男性:50歳代	51	3.9	17.6	33.3	33.3	11.8	21.5	66.6
	男性:60歳代	75	2.7	18.7	37.3	33.3	8.0	21.4	70.6
	男性:70歳以上	208	6.7	22.6	33.7	31.7	5.3	29.3	65.4
	回答しない・該当しない	21	－	－	52.4	42.9	4.8	－	95.3
	無回答	62	8.1	25.8	27.4	24.2	14.5	33.9	51.6
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	1.3	20.3	30.4	44.3	3.8	21.6	74.7
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	3.3	22.0	28.2	39.7	6.7	25.3	67.9
	女性:配偶者はいない（離別）	74	4.1	23.0	25.7	45.9	1.4	27.1	71.6
	女性:配偶者はいない（死別）	111	5.4	28.8	24.3	33.3	8.1	34.2	57.6
	女性:結婚していない	88	6.8	9.1	36.4	44.3	3.4	15.9	80.7
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	－	21.3	36.0	33.7	9.0	21.3	69.7
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	4.0	20.8	39.9	29.5	5.8	24.8	69.4
	男性:配偶者はいない（離別）	28	7.1	14.3	35.7	32.1	10.7	21.4	67.8
	男性:配偶者はいない（死別）	28	3.6	39.3	17.9	39.3	－	42.9	57.2
	男性:結婚していない	88	11.4	15.9	31.8	35.2	5.7	27.3	67.0
	回答しない・該当しない	21	－	－	52.4	42.9	4.8	－	95.3
	無回答	86	8.1	24.4	30.2	22.1	15.1	32.5	52.3

（２）「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由

「男は仕事、女は家庭」に同感する理由は「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多い。

問１付問１ **【問１で「１.同感する」、「２.ある程度同感する」と回答した方におたずねします】**
同感すると思う理由はなぜですか。いくつでも選んでください。

図表１－３　「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由
［全体、性別］（全国調査比較）



「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感する」、「ある程度同感する」と回答した人に、そう思うのはなぜか聞いたところ、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 61.2%、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 45.0%と高く、以下、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(33.7%)、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」(16.5%)、「自分の両親も役割分担をしていたから」(11.3%) となっている。

性別でみると、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は男性で 57.3%と女性 (37.3%) を 20.0 ポイント上回っている。一方、女性では「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が 39.2%で男性 (25.5%) より 13.7 ポイント高くなっている。

図表１－４　「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	その他	無回答
全体		291	131	178	98	48	33	14	13
		100.0	45.0	61.2	33.7	16.5	11.3	4.8	4.5
年齢別	女性:29歳以下	6	16.7	83.3	66.7	16.7	－	16.7	－
	女性:30歳代	6	33.3	83.3	50.0	－	16.7	－	－
	女性:40歳代	21	33.3	57.1	57.1	9.5	9.5	19.0	－
	女性:50歳代	11	45.5	72.7	45.5	27.3	－	9.1	－
	女性:60歳代	24	33.3	54.2	33.3	20.8	20.8	－	4.2
	女性:70歳以上	97	39.2	63.9	34.0	10.3	9.3	4.1	9.3
	男性:29歳以下	2	50.0	－	－	50.0	50.0	－	－
	男性:30歳代	6	－	16.7	－	16.7	50.0	33.3	－
	男性:40歳代	9	66.7	44.4	44.4	22.2	－	11.1	－
	男性:50歳代	11	54.5	63.6	36.4	27.3	18.2	－	－
	男性:60歳代	16	50.0	75.0	31.3	18.8	18.8	－	－
	男性:70歳以上	61	67.2	63.9	21.3	18.0	8.2	1.6	3.3
	回答しない・該当しない	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	21	38.1	47.6	33.3	28.6	9.5	－	4.8
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	34	32.4	73.5	61.8	8.8	5.9	5.9	－
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	53	43.4	67.9	39.6	11.3	7.5	5.7	3.8
	女性:配偶者はいない(離別)	20	25.0	55.0	20.0	15.0	10.0	10.0	15.0
	女性:配偶者はいない(死別)	38	44.7	60.5	34.2	15.8	18.4	2.6	5.3
	女性:結婚していない	14	28.6	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	21.4
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	19	36.8	36.8	42.1	26.3	15.8	10.5	－
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	43	67.4	67.4	27.9	16.3	9.3	－	4.7
	男性:配偶者はいない(離別)	6	66.7	100.0	－	50.0	50.0	－	－
	男性:配偶者はいない(死別)	12	75.0	66.7	8.3	8.3	8.3	－	－
	男性:結婚していない	24	54.2	54.2	20.8	20.8	12.5	4.2	－
	回答しない・該当しない	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	28	32.1	50.0	32.1	25.0	7.1	3.6	3.6

年齢別でみると、女性の 29 歳以下と 30 歳代では「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が８割を超えて高くなっている。また、男女とも 50 歳代で「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」が約３割と他の年代に比べて高い。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合で「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が高くなっている。また、共働きの女性では「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 73.5%と高いが男性では 36.8%と、共働きの場合でも性別で差がみられる。

２．男女の地位の平等感

・「平等である」との回答が高い分野は「学校教育の場」で約5割。その他の分野は『男性優遇』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では6割台半ばから7割に上る。
・前回調査から大きな変化はみられず、不平等感が解消されていないことがうかがえる。

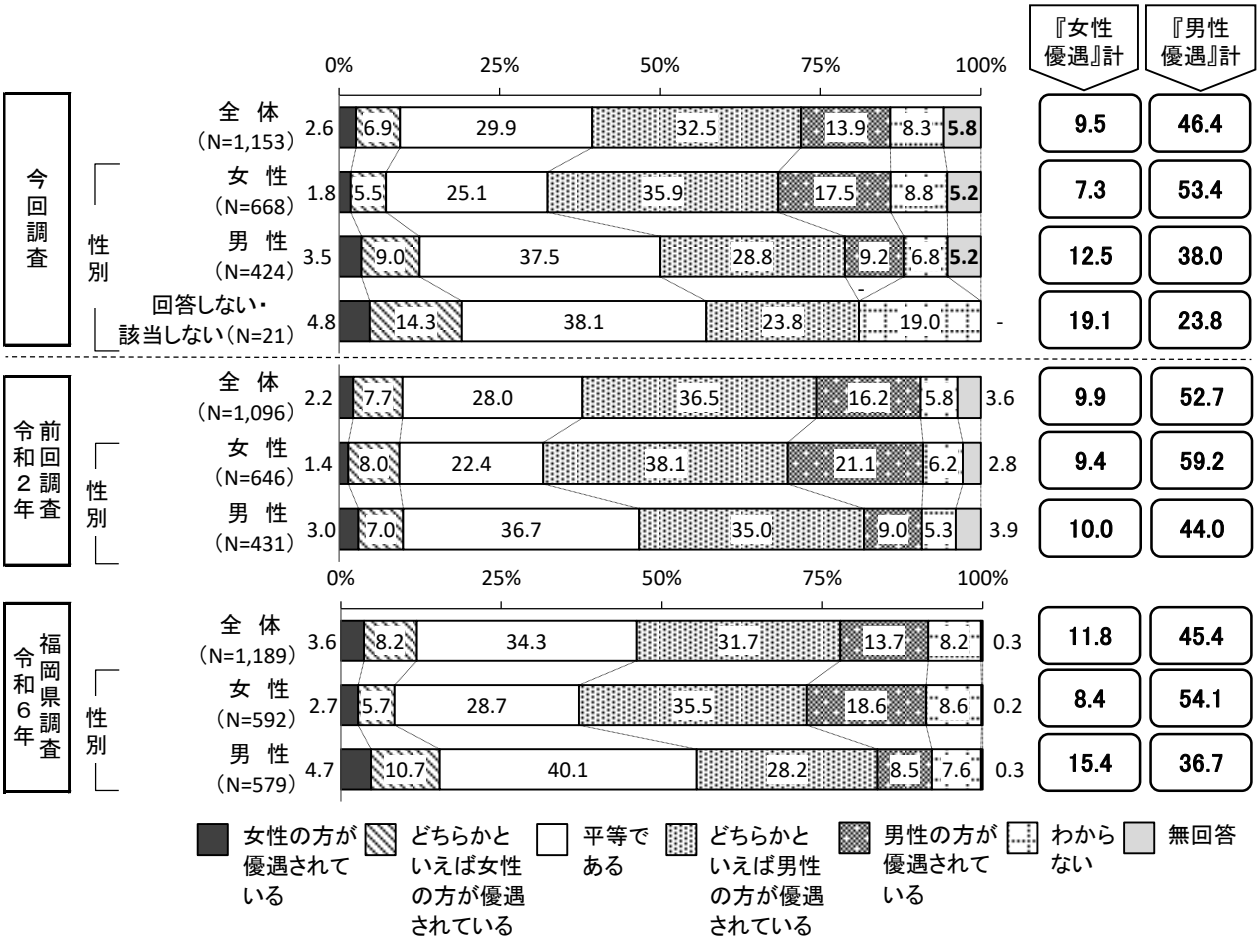
問２　あなたは、次の（ア）～（ク）の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。（ア）～（ク）の各分野について、あなたの考えに近いものをそれぞれ１つ選んでください。

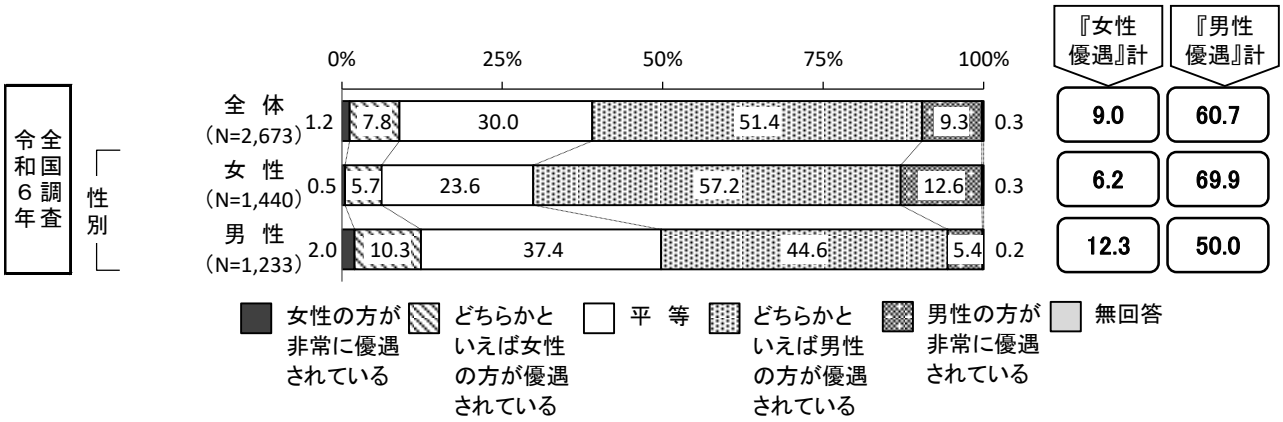
社会における８つの分野における男女の地位の平等感について５段階でたずねた。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」との合計を『女性優遇』、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との合計を『男性優遇』とする。

（ア）家庭生活では

図表１－５　家庭生活での男女の地位の平等感［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





「家庭生活」での男女の地位は、『男性優遇』が 46.4％と４割台半ばに上る。「平等である」は29.9％と約３割となっており、『女性優遇』は 9.5％と約１割である。

性別でみると、『男性優遇』が女性は 53.4％と５割を超えるのに対し、男性は 38.0％と女性の方が 15.4 ポイント高い。一方、「平等である」は男性が 37.5％と女性（25.1％）を 12.4 ポイント上回っており、女性の方が家庭生活において男性が優遇されていると感じている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 5.8～6.0 ポイント減少しているが、「平等である」の割合はそれほど変化していない。

福岡県調査と比べても大きな違いはあまりみられない。

全国調査と比べると、『男性優遇』の割合は今回調査の方が男女とも 12.0～16.5 ポイント低いが、全国調査では設けられていない「わからない」や無回答の割合が高くなっているため、「平等である」の割合には大きな差がみられない。

年齢別でみると、女性の 60 歳代で『男性優遇』が約６割と高い。「平等である」は女性の 29 歳以下で約４割、男性の 30 歳代以下で４割台半ばから５割台半ばと高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合より共働きでない場合の方が『男性優遇』の割合が高い。また、「平等である」は男性では共働きの場合の方が共働きでない場合より高いが、女性ではほとんど差はみられない。

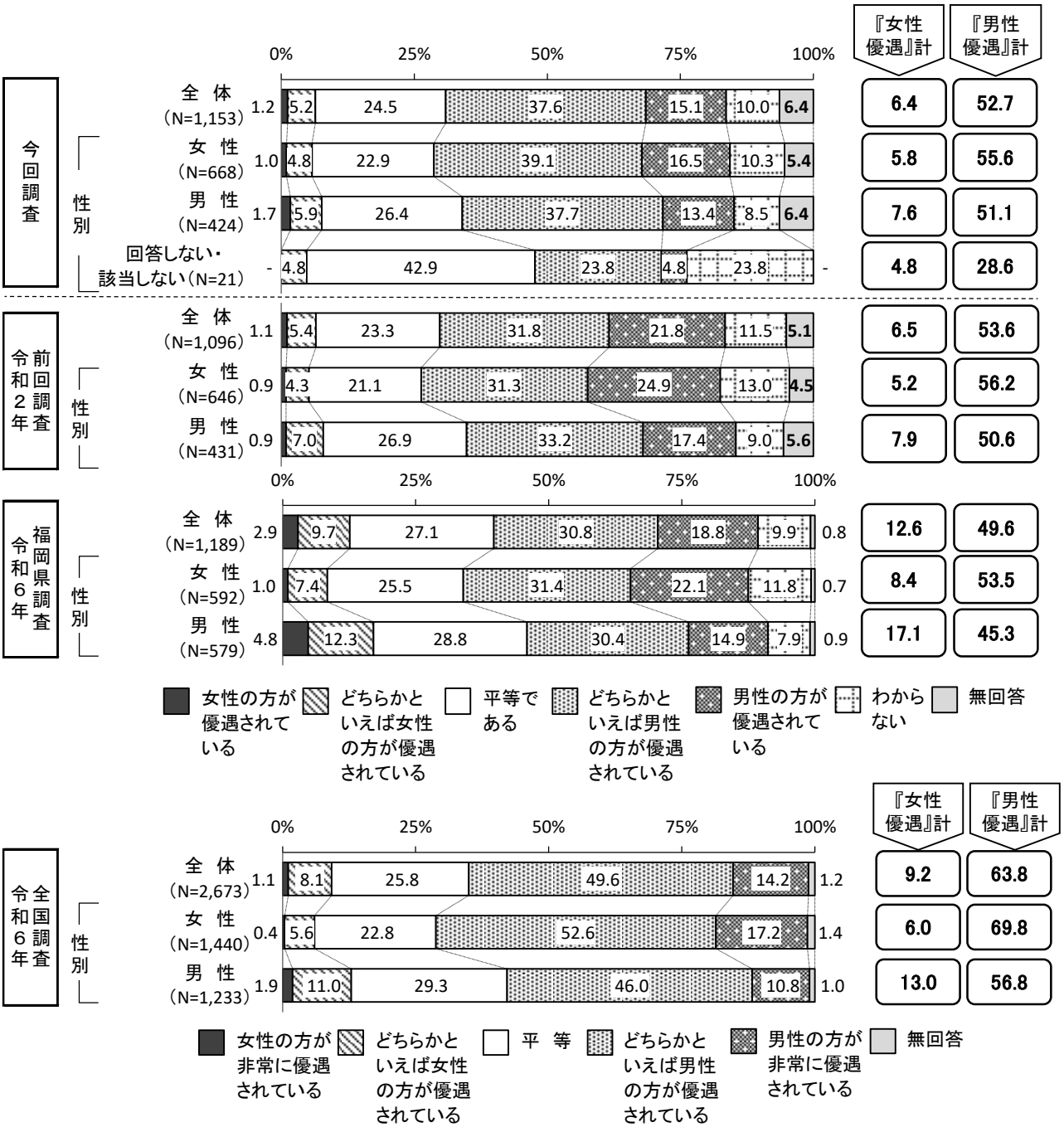
図表１－６　家庭生活での男女の地位の平等感［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,153	30	80	345	375	160	96	67	110	535
		100.0	2.6	6.9	29.9	32.5	13.9	8.3	5.8	9.5	46.4
年齢別	女性:29歳以下	33	－	－	39.4	33.3	15.2	12.1	－	－	48.5
	女性:30歳代	33	6.1	3.0	24.2	33.3	18.2	12.1	3.0	9.1	51.5
	女性:40歳代	73	2.7	8.2	31.5	26.0	13.7	13.7	4.1	10.9	39.7
	女性:50歳代	81	1.2	4.9	24.7	27.2	25.9	13.6	2.5	6.1	53.1
	女性:60歳代	157	3.2	3.8	18.5	39.5	21.0	9.6	4.5	7.0	60.5
	女性:70歳以上	279	0.7	6.5	25.8	39.4	15.1	4.7	7.9	7.2	54.5
	男性:29歳以下	16	－	18.8	56.3	12.5	6.3	6.3	－	18.8	18.8
	男性:30歳代	24	12.5	16.7	45.8	4.2	－	20.8	－	29.2	4.2
	男性:40歳代	40	7.5	12.5	35.0	25.0	10.0	7.5	2.5	20.0	35.0
	男性:50歳代	51	7.8	2.0	33.3	25.5	5.9	15.7	9.8	9.8	31.4
	男性:60歳代	75	－	6.7	38.7	37.3	8.0	5.3	4.0	6.7	45.3
	男性:70歳以上	208	2.4	8.7	37.0	31.3	12.0	3.4	5.3	11.1	43.3
	回答しない・該当しない	21	4.8	14.3	38.1	23.8	－	19.0	－	19.1	23.8
	無回答	62	3.2	9.7	24.2	25.8	6.5	11.3	19.4	12.9	32.3
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	3.2	4.4	25.9	32.3	22.8	5.7	5.7	7.6	55.1
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	1.4	3.8	23.9	41.6	20.1	4.3	4.8	5.2	61.7
	女性:配偶者はいない（離別）	74	2.7	6.8	27.0	31.1	17.6	10.8	4.1		
	女性:配偶者はいない（死別）	111	0.9	11.7	25.2	34.2	9.9	8.1	9.9	12.6	44.1
	女性:結婚していない	88	1.1	2.3	27.3	30.7	13.6	23.9	1.1	3.4	44.3
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	4.5	6.7	44.9	24.7	6.7	7.9	4.5	11.2	31.4
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	2.9	10.4	38.2	32.4	8.7	2.3	5.2	13.3	41.1
	男性:配偶者はいない（離別）	28	3.6	14.3	21.4	42.9	10.7	3.6	3.6		
	男性:配偶者はいない（死別）	28	－	3.6	46.4	25.0	10.7	10.7	3.6	3.6	35.7
	男性:結婚していない	88	5.7	8.0	33.0	21.6	13.6	14.8	3.4	13.7	35.2
	回答しない・該当しない	21	4.8	14.3	38.1	23.8	－	19.0	－	19.1	23.8
	無回答	86	2.3	7.0	23.3	32.6	8.1	9.3	17.4	9.3	40.7

（イ）職場では

図表１－７　職場での男女の地位の平等感［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



「職場」での男女の地位は「平等である」は 24.5%にとどまり、『男性優遇』が 52.7%に上っている。

性別でみると、女性は『男性優遇』が 55.6%で男性（51.1%）より 4.5 ポイントとやや高くなっている。

前回調査から大きな変化はみられない。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男性の『男性優遇』の割合が 5.8 ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合は今回調査の方が低いが、「平等である」の割合にはあまり差がみられない。

職業の有無別でみると、職業を持っている女性の 52.9%が『男性優遇』としているのに対し、男性は 46.1%と女性の方が 6.8 ポイント高いが、「平等である」（女性 32.1%、男性 34.7%）には大きな差はない。

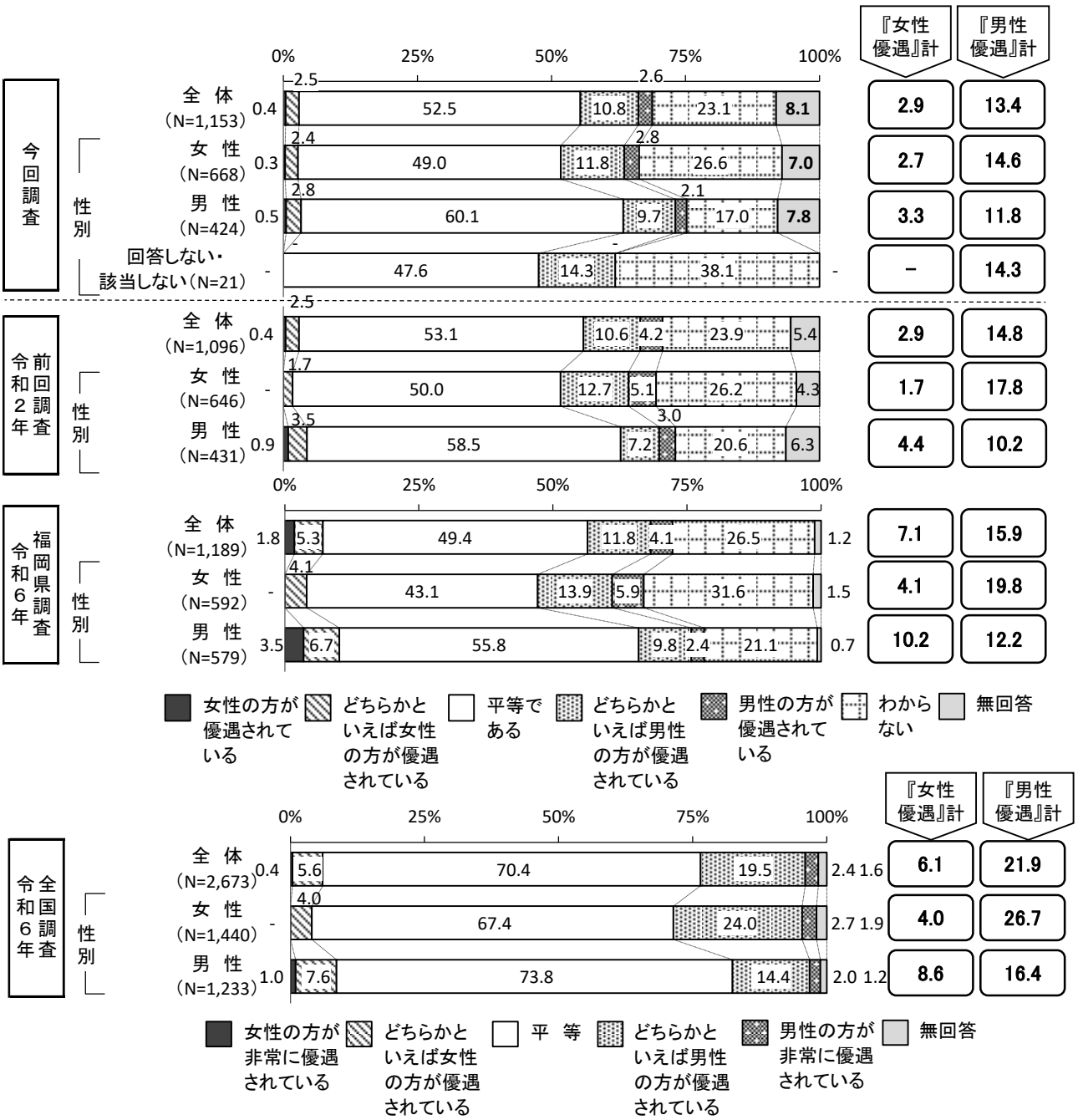
図表１－８　職場での男女の地位の平等感［全体、職業の有無別］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,153	14	60	282	434	174	115	74	74	608
		100.0	1.2	5.2	24.5	37.6	15.1	10.0	6.4	6.4	52.7
職業の有無別	女性:職業を持っている	327	0.9	6.4	32.1	38.2	14.7	5.5	2.1	7.3	52.9
	女性:以前職業を持っていたが、いまは持っていない	292	0.3	2.4	14.7	42.5	18.2	13.7	8.2	2.7	60.7
	女性:いままで職業を持ったことはない	32	6.3	12.5	9.4	21.9	18.8	25.0	6.3	18.8	40.7
	男性:職業を持っている	213	3.3	7.5	34.7	36.2	9.9	3.3	5.2	10.8	46.1
	男性:以前職業を持っていたが、いまは持っていない	184	－	4.3	18.5	40.8	17.4	11.4	7.6	4.3	58.2
	男性:いままで職業を持ったことはない	15	－	－	13.3	26.7	26.7	26.7	6.7	－	53.4
	回答しない・該当しない	21	－	4.8	42.9	23.8	4.8	23.8	－	4.8	28.6
	無回答	69	1.4	4.3	17.4	24.6	13.0	17.4	21.7	5.7	37.6

（ウ）学校教育の場では

図表１－９　学校教育の場での男女の地位の平等感［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



「学校教育の場」での男女の地位は「平等である」が 52.5％と８分野中唯一５割を超え、最も高くなっている。「わからない」も 23.1％と高く、『男性優遇』は 13.4％にとどまる。

性別でみると、「平等である」は男性では 60.1％であるのに対し、女性は 49.0％で、男性の方が 11.1 ポイント高くなっている。女性は「わからない」が男性に比べて高く、『男性優遇』『女性優遇』の割合には大きな差はない。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられない。

福岡県調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が男女とも 4.3～5.9 ポイント高い。

全国調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が 13.7～18.4 ポイント低く、他の分野に比べて平等感は高いものの全国調査と比べると低い。

年齢別でみると、男女とも29歳以下で「平等である」（女性72.7%、男性81.3%）が高い。女性の40歳代では『男性優遇』が20.5%と比較的高くなっている。

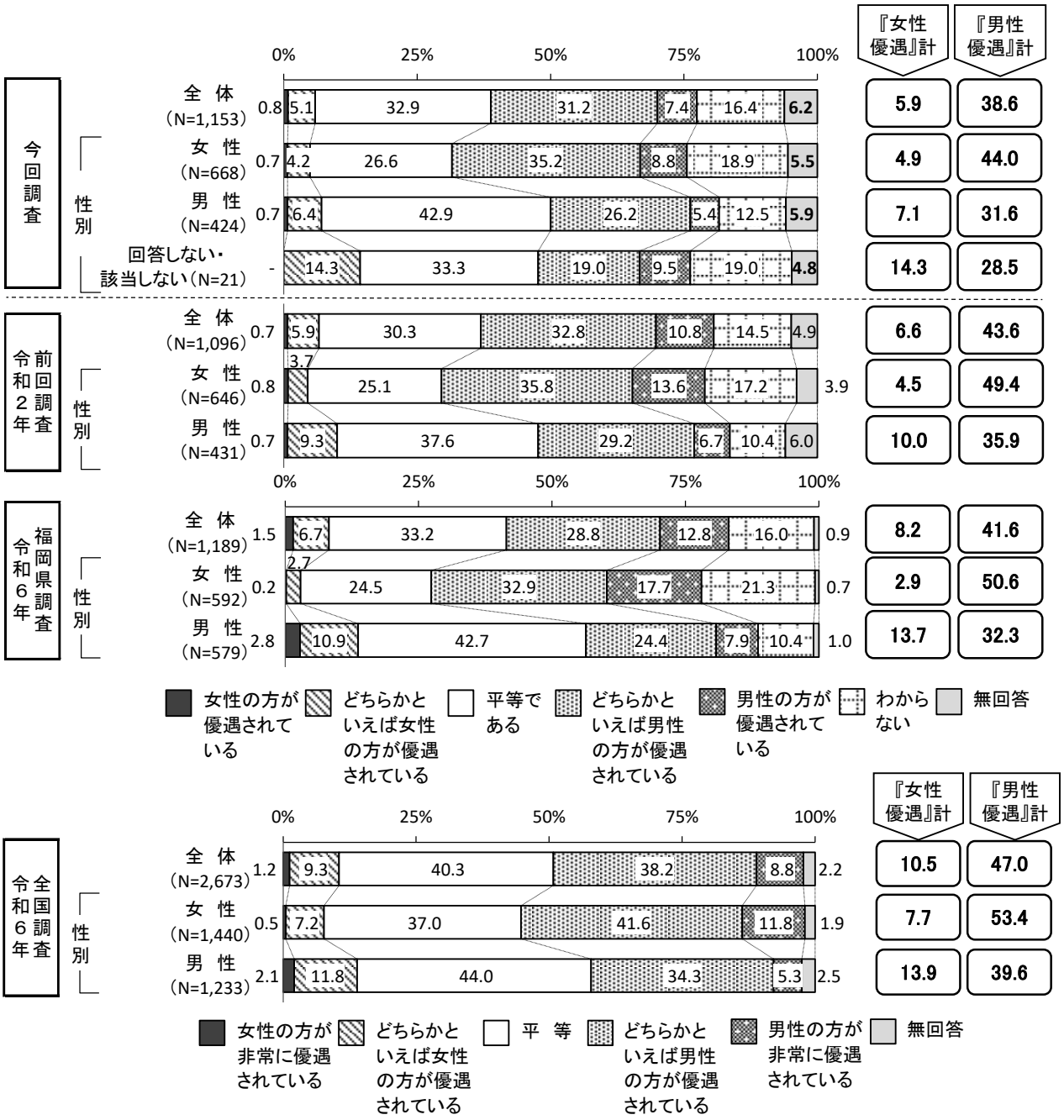
図表１－10　学校教育の場での男女の地位の平等感［全体、年齢別］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,153	5	29	605	125	30	266	93	34	155
		100.0	0.4	2.5	52.5	10.8	2.6	23.1	8.1	2.9	13.4
年齢別	女性:29歳以下	33	－	6.1	72.7	3.0	－	18.2	－	6.1	3.0
	女性:30歳代	33	－	6.1	63.6	6.1	3.0	12.1	9.1	6.1	9.1
	女性:40歳代	73	－	2.7	41.1	17.8	2.7	31.5	4.1	2.7	20.5
	女性:50歳代	81	－	1.2	44.4	14.8	2.5	34.6	2.5	1.2	17.3
	女性:60歳代	157	－	3.8	49.0	11.5	3.2	28.7	3.8	3.8	14.7
	女性:70歳以上	279	0.7	1.1	48.4	11.1	3.2	23.7	11.8	1.8	14.3
	男性:29歳以下	16	－	6.3	81.3	6.3	－	6.3	－	6.3	6.3
	男性:30歳代	24	－	8.3	62.5	8.3	－	20.8	－	8.3	8.3
	男性:40歳代	40	2.5	10.0	57.5	5.0	2.5	20.0	2.5	12.5	7.5
	男性:50歳代	51	－	3.9	54.9	7.8	2.0	19.6	11.8	3.9	9.8
	男性:60歳代	75	－	1.3	65.3	10.7	2.7	16.0	4.0	1.3	13.4
	男性:70歳以上	208	0.5	1.0	58.2	11.5	2.4	16.3	10.1	1.5	13.9
	回答しない・該当しない	21	－	－	47.6	14.3	－	38.1	－	－	14.3
	無回答	62	1.6	1.6	37.1	6.5	3.2	25.8	24.2	3.2	9.7

（エ）地域活動・社会活動の場では

図表１－11　地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感［全体、性別］
（前回・福岡県・全国調査比較）



※自治会やPTAなどの地域活動の場

「地域活動・社会活動の場」での男女の地位は、「平等である」が 32.9%に対し、『男性優遇』が 38.6%となっている。

性別でみると、女性は『男性優遇』が 44.0%と４割を超えるが、男性は 31.6%と 12.4 ポイント低く、「平等である」（女性 26.6%、男性 42.9%）は男性の方が 16.3 ポイント高いなど男女での平等感に違いがみられる。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が 4.3 ポイント低く、「平等である」が 5.3 ポイント高くなっているが、女性では『男性優遇』は 5.4 ポイント下がったものの、「平等である」はほぼ変化していない。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が 6.6 ポイント低いが、「平等である」は男女とも大きな差はない。

全国調査（「自治会やＮＰＯ等の地域活動の場」）と比べると、女性の「平等である」が今回調査の方が 10.4 ポイント低くなっているが、男性では大きな差はみられない。

年齢別でみると、女性では 40 歳代以上で『男性優遇』が４割を超えて高くなっている。男性は 60 歳代以上で『男性優遇』が約４割に上っているが、50 歳代以下では約１割から２割となっており、40 歳代、50 歳代では性別による認識の差が大きい。

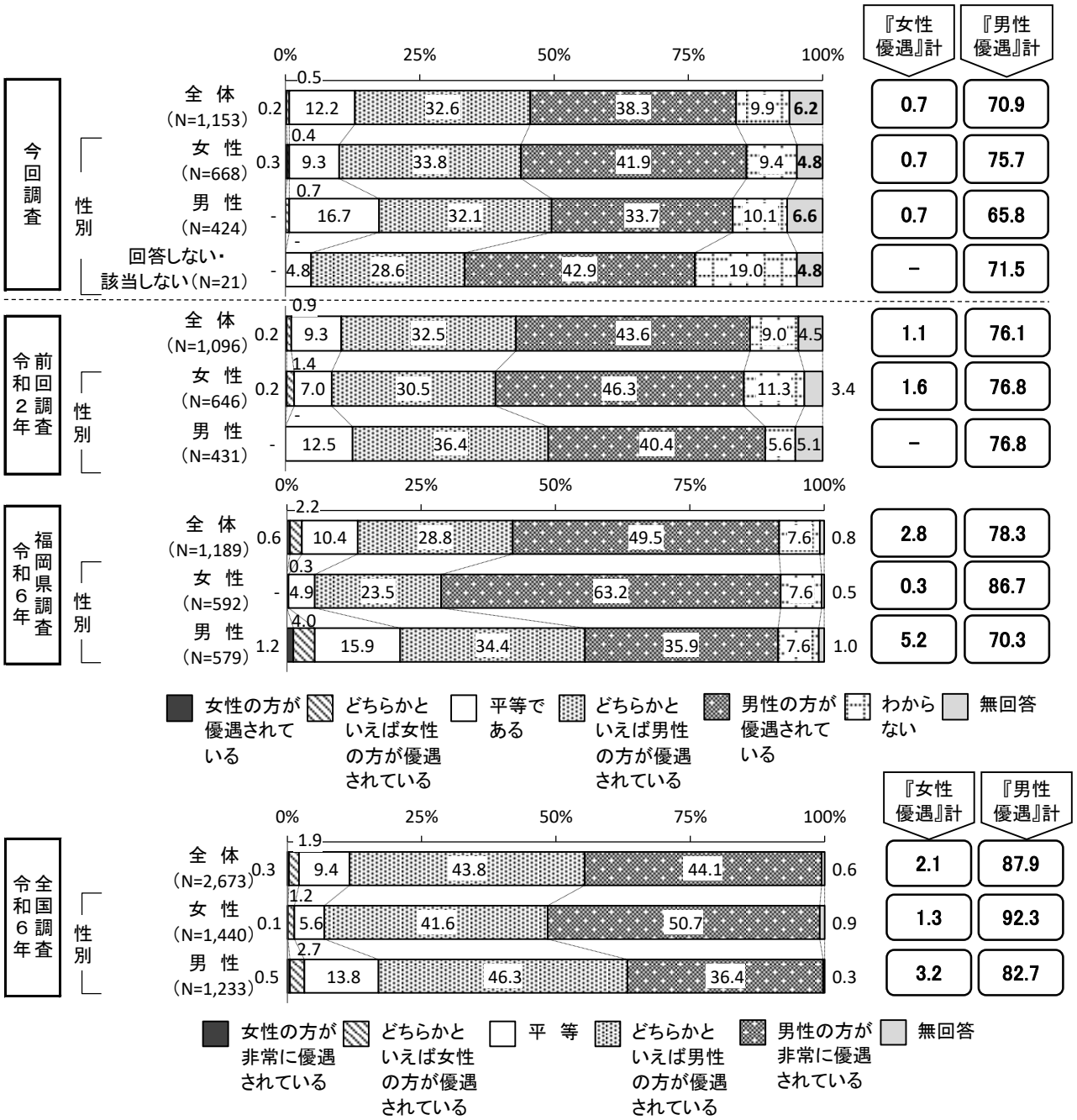
図表１－12　地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感［全体、年齢別］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,153	9	59	379	360	85	189	72	68	445
		100.0	0.8	5.1	32.9	31.2	7.4	16.4	6.2	5.9	38.6
年齢別	女性:29歳以下	33	3.0	6.1	27.3	21.2	－	39.4	3.0	9.1	21.2
	女性:30歳代	33	3.0	－	51.5	21.2	12.1	12.1	－	3.0	33.3
	女性:40歳代	73	－	4.1	19.2	35.6	9.6	27.4	4.1	4.1	45.2
	女性:50歳代	81	－	3.7	16.0	34.6	8.6	33.3	3.7	3.7	43.2
	女性:60歳代	157	－	5.1	29.9	36.3	8.3	17.2	3.2	5.1	44.6
	女性:70歳以上	279	1.1	4.3	26.5	38.7	9.7	10.8	9.0	5.4	48.4
	男性:29歳以下	16	－	－	56.3	12.5	－	31.3	－	－	12.5
	男性:30歳代	24	－	12.5	54.2	12.5	－	20.8	－	12.5	12.5
	男性:40歳代	40	2.5	5.0	57.5	17.5	2.5	12.5	2.5	7.5	20.0
	男性:50歳代	51	2.0	3.9	54.9	9.8	3.9	15.7	9.8	5.9	13.7
	男性:60歳代	75	－	5.3	38.7	34.7	8.0	8.0	5.3	5.3	42.7
	男性:70歳以上	208	0.5	7.2	36.5	31.7	6.7	11.1	6.3	7.7	38.4
	回答しない･該当しない	21	－	14.3	33.3	19.0	9.5	19.0	4.8	14.3	28.5
	無回答	62	1.6	3.2	32.3	22.6	3.2	19.4	17.7	4.8	25.8

（オ）政治の場では

図表１－13　政治の場での男女の地位の平等感［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



「政治の場」での男女の地位は『男性優遇』が 70.9％と８分野の中で最も高く、「平等である」は 12.2％と最も低いなど、男性優遇が強く認識されている。

性別でみると、『男性優遇』は女性で 75.7％、男性では 65.8％で、女性の方が 9.9 ポイント高く、「平等である」は女性が 9.3％、男性 16.7％と、男性の方が 7.4 ポイント高くなっている。

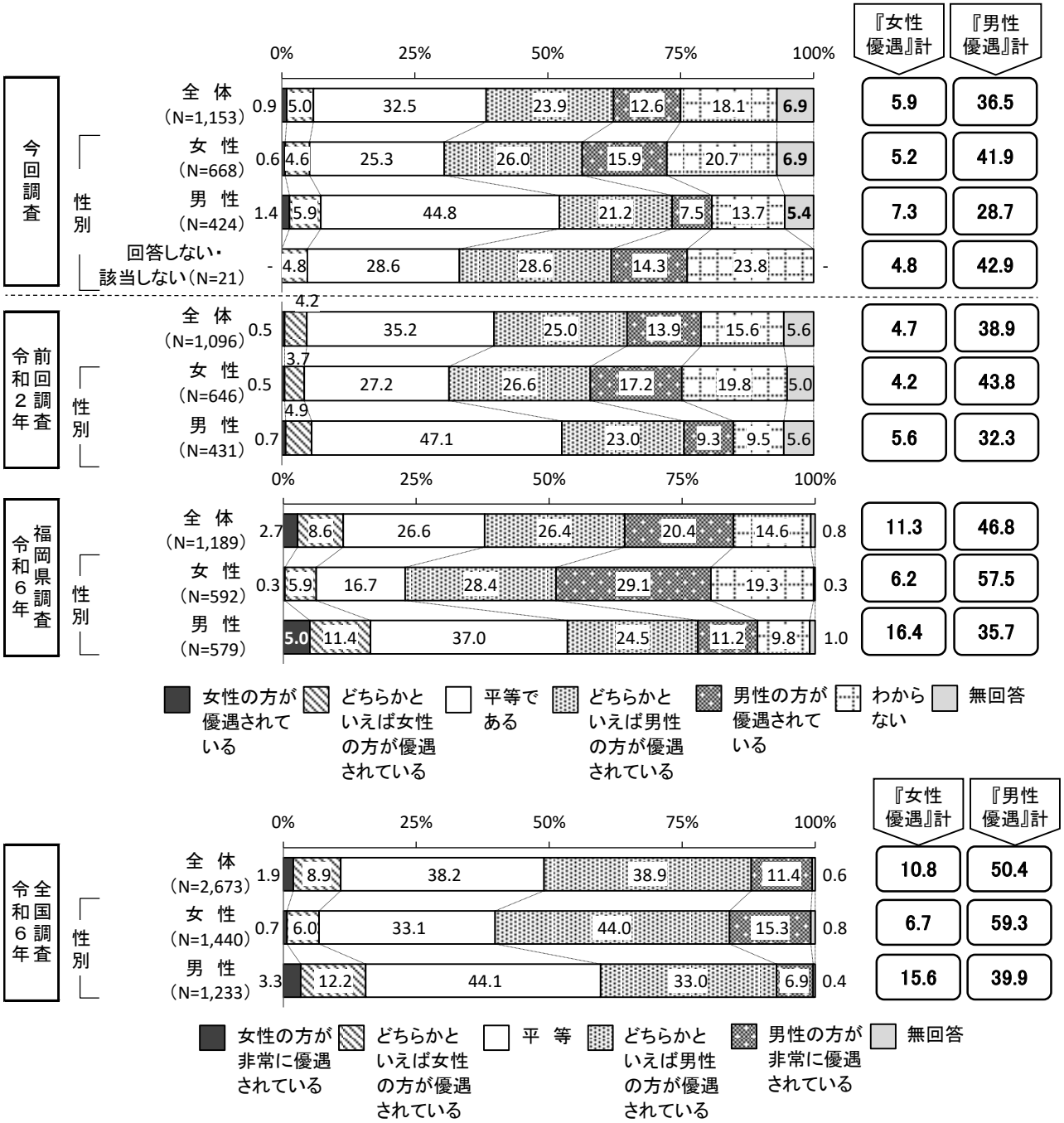
前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が 11.0 ポイント減少したが、女性ではほぼ変化がみられない。

福岡県調査と比べると、男女とも今回調査の方が『男性優遇』が 4.5～11.0 ポイント低く、女性は「平等である」が 4.4 ポイント高い。

全国調査と比べても、男女とも今回調査の方が『男性優遇』が 16.6～16.9 ポイント低くなっているが、男性優遇という認識が非常に強いという点では傾向に大きな差はない。

（カ）法律や制度のうえでは

図表１－14　法律や制度のうえでの男女の地位の平等感［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



「法律や制度のうえ」での男女の地位は、『男性優遇』が 36.5%、「平等である」32.5%で、男性優遇という認識ではあるものの、「平等である」が８分野中３番目に高くなっている。

性別でみると、「平等である」は男性が 44.8%に対し、女性は 25.3%と 19.5 ポイントの差がある。また『男性優遇』（女性 41.9%、男性 28.7%）は女性の方が 13.2 ポイント上回っており、男女の認識の違いが大きい分野となっている。

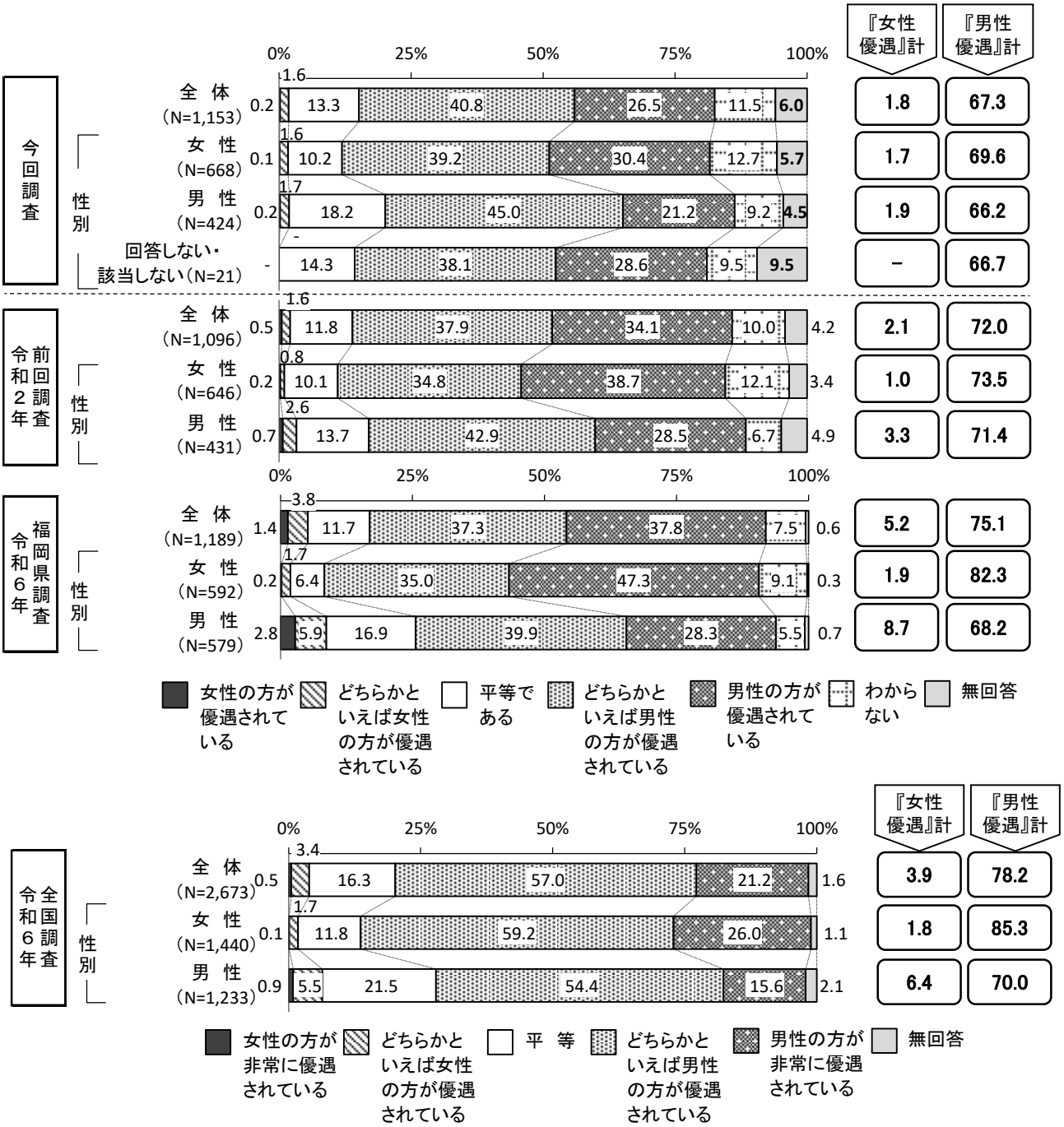
前回調査と比べると、男女とも大きな変化はみられない。

福岡県調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が男女とも 7.8～8.6 ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、「平等である」は男性では同程度であるが、女性は今回調査の方が 7.8 ポイント低くなっている。

（キ）社会通念・慣習・しきたりなどでは

図表１－15　社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感［全体、性別］
（前回・福岡県・全国調査比較）



「社会通念・慣習・しきたりなど」での男女の地位は、『男性優遇』が 67.3%と、政治の場に次いで２番目に高くなっている。一方、「平等である」は 13.3%と低く、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別でみると、『男性優遇』（女性 69.6%、男性 66.2%）は大きな差はないが、「平等である」（同 10.2%、18.2%）は女性が男性より 8.0 ポイント低くなっている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 3.9～5.2 ポイント減少したが、「平等である」は男性では 4.5 ポイント増加したものの、女性は変化がない。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は女性では今回調査の方が 12.7 ポイント低いが、男性では大きな差はない。

全国調査と比べると、『男性優遇』は女性では今回調査の方が 15.7 ポイント低いが、男性ではそれほど大きな差はない。政治の場と同様、男性優遇という認識が非常に強いという点には変わりがない。

年齢別でみると、女性の 30 歳代と 60 歳代、男性の 60 歳代で『男性優遇』が７割台後半と高い。「平等である」は男性の 30 歳代以下で約３割と比較的高くなっている。

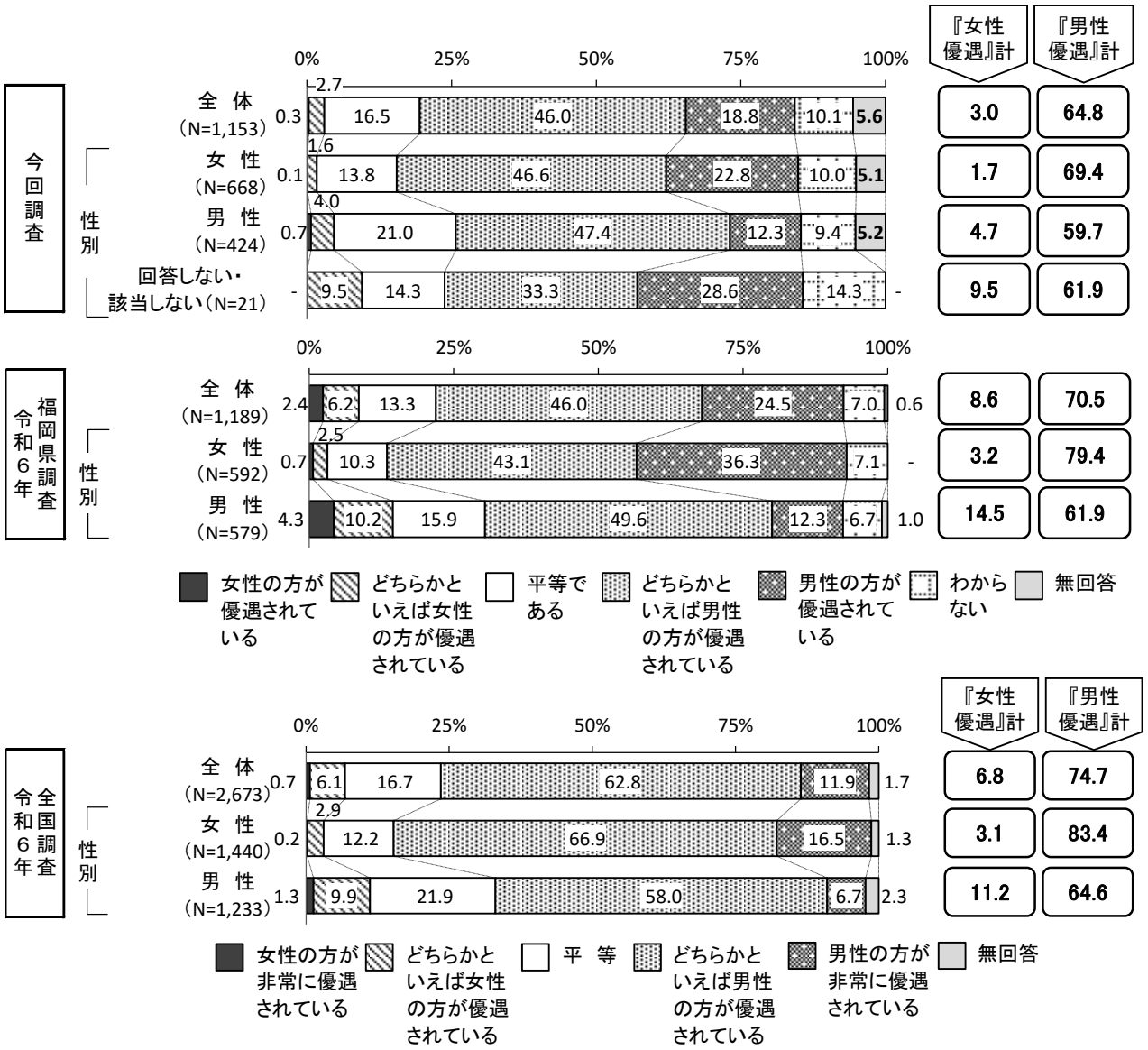
図表１－16　社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感［全体、年齢別］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,153	2	19	153	471	306	133	69	21	777
		100.0	0.2	1.6	13.3	40.8	26.5	11.5	6.0	1.8	67.3
年齢別	女性:29歳以下	33	－	6.1	12.1	33.3	30.3	15.2	3.0	6.1	63.6
	女性:30歳代	33	－	－	3.0	39.4	39.4	18.2	－	－	78.8
	女性:40歳代	73	－	1.4	9.6	38.4	30.1	16.4	4.1	1.4	68.5
	女性:50歳代	81	－	2.5	9.9	34.6	35.8	14.8	2.5	2.5	70.4
	女性:60歳代	157	0.6	1.9	7.6	45.2	30.6	9.6	4.5	2.5	75.8
	女性:70歳以上	279	－	1.1	12.5	38.0	28.0	11.5	9.0	1.1	66.0
	男性:29歳以下	16	－	6.3	31.3	25.0	12.5	18.8	6.3	6.3	37.5
	男性:30歳代	24	－	4.2	29.2	25.0	12.5	29.2	－	4.2	37.5
	男性:40歳代	40	－	－	25.0	32.5	30.0	10.0	2.5	－	62.5
	男性:50歳代	51	－	－	25.5	37.3	19.6	11.8	5.9	－	56.9
	男性:60歳代	75	－	2.7	10.7	48.0	29.3	5.3	4.0	2.7	77.3
	男性:70歳以上	208	0.5	1.4	15.4	51.9	19.7	6.7	4.3	1.9	71.6
	回答しない･該当しない	21	－	－	14.3	38.1	28.6	9.5	9.5		
	無回答	62	－	1.6	12.9	32.3	16.1	17.7	19.4	1.6	48.4

（ク）社会全体では

図表１－17　社会全体での男女の地位の平等感［全体、性別］
（福岡県・全国調査比較）



「社会全体」での男女の地位は、『男性優遇』が 64.8%、「平等である」は 16.5%で、男性優遇との認識が強くなっている。

性別でみると、『男性優遇』（女性 69.4%、男性 59.7%）で、女性の方が 9.7 ポイント高い。一方、「平等である」（同 13.8%、21.0%）は女性が男性より 7.2 ポイント低くなっている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は女性では今回調査の方が 10.0 ポイント低いが、男性ではそれほど大きな差はない。

全国調査と比べると、『男性優遇』は男女とも 4.9～14.0 ポイント低いが、「平等である」は男女とも大きな差はみられない。

年齢別でみると、女性の30歳代で『男性優遇』が84.9%と非常に高い。一方、男性の30歳代では『男性優遇』は41.6%で、29歳以下の次に低くなっており、この年代の男女の意識差が大きい。

図表１－18　社会全体での男女の地位の平等感［全体、年齢別］

(%)

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	「女性優遇」計	「男性優遇」計
全体		1,153	4	31	190	530	217	116	65	35	747
		100.0	0.3	2.7	16.5	46.0	18.8	10.1	5.6	3.0	64.8
年齢別	女性:29歳以下	33	－	6.1	15.2	48.5	18.2	12.1	－	6.1	66.7
	女性:30歳代	33	－	－	9.1	48.5	36.4	6.1	－	－	84.9
	女性:40歳代	73	－	1.4	15.1	46.6	23.3	11.0	2.7	1.4	69.9
	女性:50歳代	81	－	2.5	13.6	40.7	30.9	9.9	2.5	2.5	71.6
	女性:60歳代	157	－	2.5	10.8	53.5	19.7	10.2	3.2	2.5	73.2
	女性:70歳以上	279	0.4	0.4	15.1	44.8	20.8	9.7	9.0	0.8	65.6
	男性:29歳以下	16	－	18.8	25.0	25.0	－	25.0	6.3	18.8	25.0
	男性:30歳代	24	－	12.5	25.0	33.3	8.3	20.8	－	12.5	41.6
	男性:40歳代	40	5.0	2.5	27.5	42.5	12.5	7.5	2.5	7.5	55.0
	男性:50歳代	51	－	5.9	23.5	41.2	7.8	13.7	7.8	5.9	49.0
	男性:60歳代	75	－	1.3	14.7	61.3	10.7	8.0	4.0	1.3	72.0
	男性:70歳以上	208	0.5	2.4	20.2	49.0	15.9	6.7	5.3	2.9	64.9
	回答しない・該当しない	21	－	9.5	14.3	33.3	28.6	14.3	－		
	無回答	62	－	4.8	19.4	27.4	16.1	14.5	17.7	4.8	43.5

第２章　家庭生活や子育てについて

１．家庭内の役割分担

・『主に妻』の役割は、「日常の家事」（約8割）、「家計の管理」（約6割）、「病人・高齢者の世話」（5割台半ば）、「育児、子どものしつけ」（約5割）などで高い。
・『主に夫』の役割は、「生活費を得る」（5割台半ば）、「高額なものの購入」（約4割）、「家庭問題の最終決定」（3割台半ば）などで高い。
・「子どもの教育方針や進学目標の決定」は「妻と夫が同程度」が4割台半ば。
・前回調査から大きな変化はみられない。

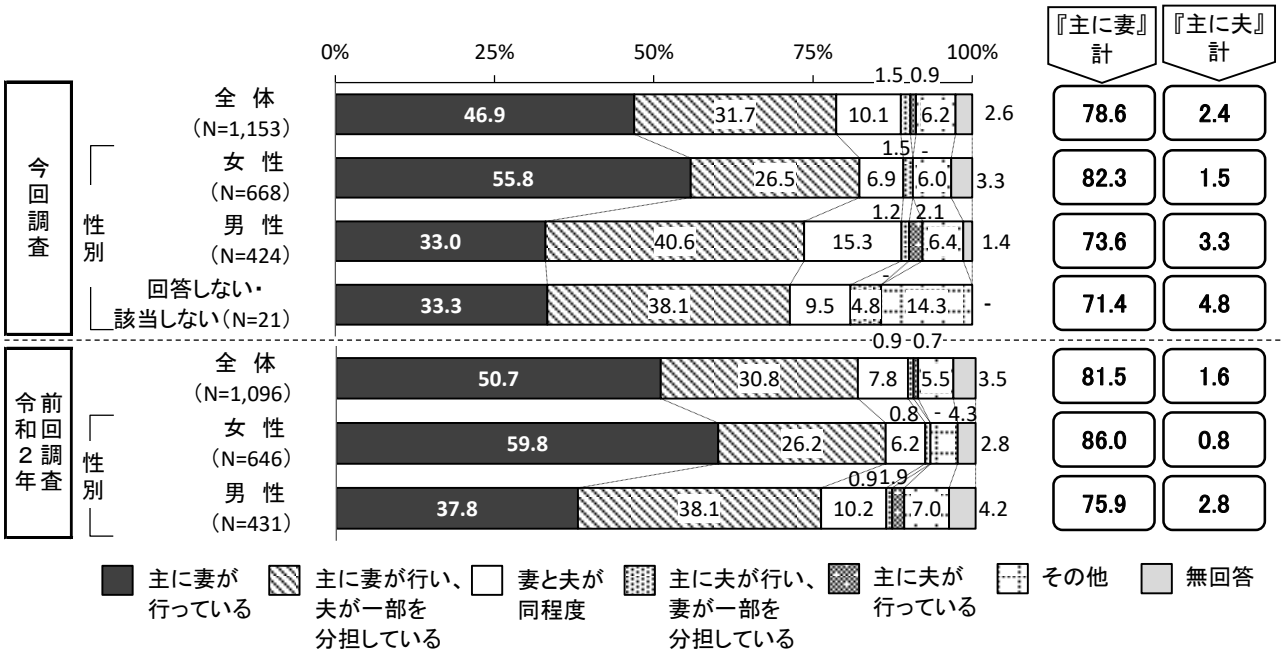
問３　あなたのご家庭では、次の（ア）～（ケ）のような家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。（ア）～（ケ）の各項目について、最もあてはまるものをそれぞれ１つ選んでください。配偶者（パートナー）や子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。

家庭内での男女の役割分担に関する９つの項目について６段階でたずねた。

「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」との合計を『主に妻』、「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」との合計を『主に夫』とする。

（ア）炊事・掃除・洗濯などの家事

図表２－１　炊事・掃除・洗濯などの家事［全体、性別］（前回調査比較）



「炊事・掃除・洗濯などの家事」は『主に妻』は 78.6％でそのうち「主に妻が行っている」は 46.9％と５割近くに上る。「妻と夫が同程度」は 10.1％、『主に夫』は 2.4％とわずかで、日常の家事は妻が中心的に担っている。

性別でみると、『主に妻』は女性で 82.3%、男性でも 73.6%となっており、そのうち「主に妻が行っている」（女性 55.8%、男性 33.0%）は女性が男性よりも 22.8 ポイント高くなっており、男女とも日常の家事は妻が担っていると認識しているが、女性でよりその傾向が強い。また、「妻と夫が同程度」（同 6.9%、15.3%）は男性が 8.4 ポイント高く、男性の方が日常の家事を分担して行っていると認識しているようである。

前回調査と比べて、男女とも「主に妻が行っている」がやや減少しているものの、大きな変化はみられない。

年齢別でみると、女性の 60 歳代で『主に妻』が 86.0%と最も高く、30 歳代、40 歳代、70 歳以上でも８割を超えて高くなっている。男性の 30 歳代では「妻と夫が同程度」が 25.0%と比較的高い。

配偶関係別でみると、共働き、共働きでないいずれの場合でも『主に妻』が高く、約７割から９割に上る。共働きの場合では、「妻と夫が同程度」が男性では 23.6%だが、女性では 11.4%にとどまっている。

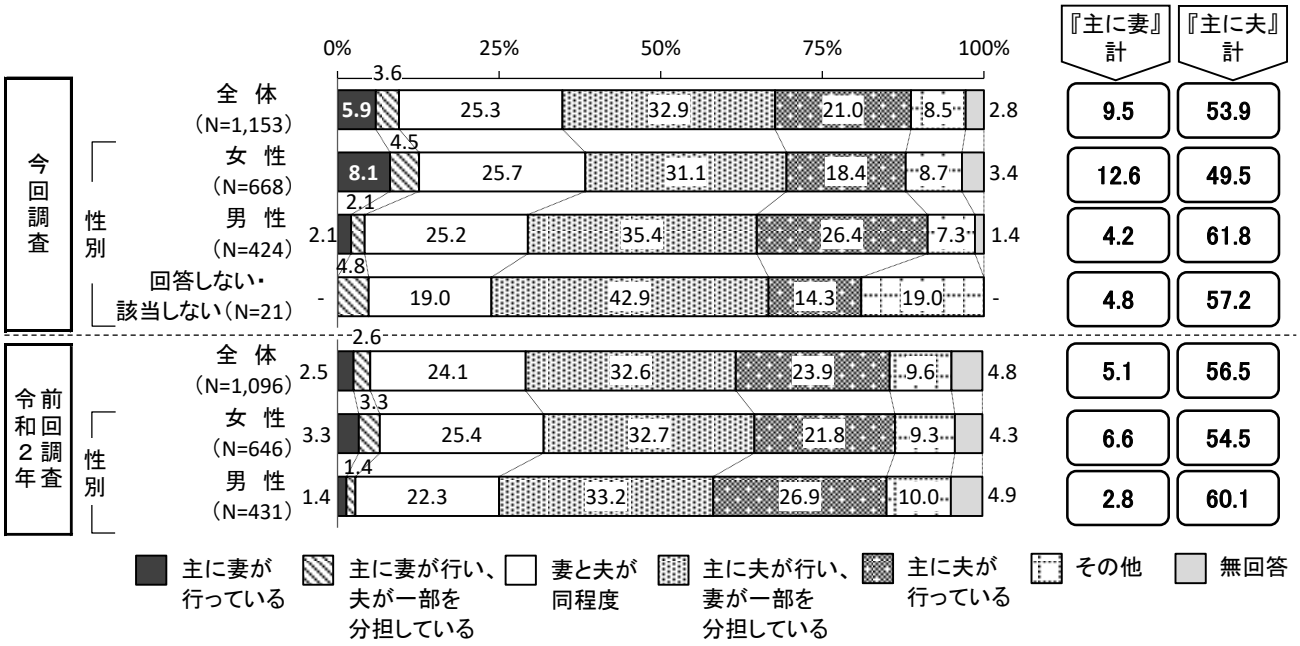
図表２－２　炊事・掃除・洗濯などの家事［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	541	366	117	17	10	72	30	**907**	**27**
		100.0	46.9	31.7	10.1	1.5	0.9	6.2	2.6	**78.6**	**2.4**
年齢別	女性:29歳以下	33	51.5	21.2	12.1	－	－	9.1	6.1	**72.7**	－
	女性:30歳代	33	39.4	42.4	9.1	－	－	9.1	－	**81.8**	－
	女性:40歳代	73	46.6	35.6	5.5	1.4	－	9.6	1.4	**82.2**	**1.4**
	女性:50歳代	81	53.1	25.9	11.1	2.5	－	6.2	1.2	**79.0**	**2.5**
	女性:60歳代	157	58.6	27.4	7.6	1.3	－	3.2	1.9	**86.0**	**1.3**
	女性:70歳以上	279	61.6	21.5	5.0	1.4	－	5.4	5.0	**83.1**	**1.4**
	男性:29歳以下	16	43.8	25.0	18.8	－	－	6.3	6.3	**68.8**	－
	男性:30歳代	24	29.2	41.7	25.0	－	－	4.2	－	**70.9**	－
	男性:40歳代	40	35.0	42.5	17.5	2.5	－	2.5	－	**77.5**	**2.5**
	男性:50歳代	51	23.5	39.2	15.7	－	－	13.7	7.8	**62.7**	－
	男性:60歳代	75	28.0	46.7	14.7	1.3	2.7	6.7	－	**74.7**	**4.0**
	男性:70歳以上	208	35.6	40.4	13.5	1.4	3.4	5.3	0.5	**76.0**	**4.8**
	回答しない・該当しない	21	33.3	38.1	9.5	4.8	－	14.3	－	**71.4**	**4.8**
	無回答	62	45.2	27.4	9.7	3.2	1.6	8.1	4.8	**72.6**	**4.8**
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	53.8	31.0	11.4	1.9	－	0.6	1.3	**84.8**	**1.9**
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	64.1	25.4	7.2	1.9	－	－	1.4	**89.5**	**1.9**
	女性:配偶者はいない（離別）	74	51.4	24.3	5.4	－	－	13.5	5.4	**75.7**	－
	女性:配偶者はいない（死別）	111	58.6	19.8	2.7	1.8	－	9.0	8.1	**78.4**	**1.8**
	女性:結婚していない	88	44.3	31.8	5.7	－	－	15.9	2.3	**76.1**	－
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	25.8	44.9	23.6	1.1	1.1	3.4	－	**70.7**	**2.2**
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	43.4	41.0	12.7	0.6	1.2	0.6	0.6	**84.4**	**1.8**
	男性:配偶者はいない（離別）	28	25.0	42.9	21.4	－	－	10.7	－	**67.9**	－
	男性:配偶者はいない（死別）	28	14.3	50.0	14.3	7.1	－	14.3	－	**64.3**	**7.1**
	男性:結婚していない	88	27.3	36.4	10.2	－	5.7	15.9	4.5	**63.7**	**5.7**
	回答しない・該当しない	21	33.3	38.1	9.5	4.8	－	14.3	－	**71.4**	**4.8**
	無回答	86	46.5	22.1	9.3	3.5	2.3	10.5	5.8	**68.6**	**5.8**

（イ）生活費を得る

図表２－３　生活費を得る［全体、性別］（前回調査比較）



「生活費を得る」については『主に夫』が 53.9%、「妻と夫が同程度」が 25.3%となっており、生活費を得ることについては夫が担っているとの認識が５割を超えている。また、「妻と夫が同程度」は 25.3%で、炊事・掃除・洗濯などの家事と比べて高くなっている。

性別でみると、『主に夫』の割合は女性が 49.5%と男性（61.8%）より 12.3 ポイント低く、『主に妻』（女性 12.6%、男性 4.2%）は女性が男性より 8.4 ポイント高い。「妻と夫が同程度」（女性 25.7%、男性 25.2%）はほぼ同率である。

前回調査と比べると、女性で『主に夫』の割合が 5.0 ポイント減少し、『主に妻』が 6.0 ポイント増加している。

配偶関係別でみると、共働きの場合は『主に夫』が女性では51.3%、男性では66.3%で、共働きの場合でも生活費を稼ぐ役割は主に男性が担っているが、「妻と夫が同程度」（女性 38.6%、男性32.6%）は３割台と比較的高い。また、共働きの男女での「妻と夫が同程度」との認識の差は、炊事・掃除・洗濯などの家事と比べると小さくなっている。

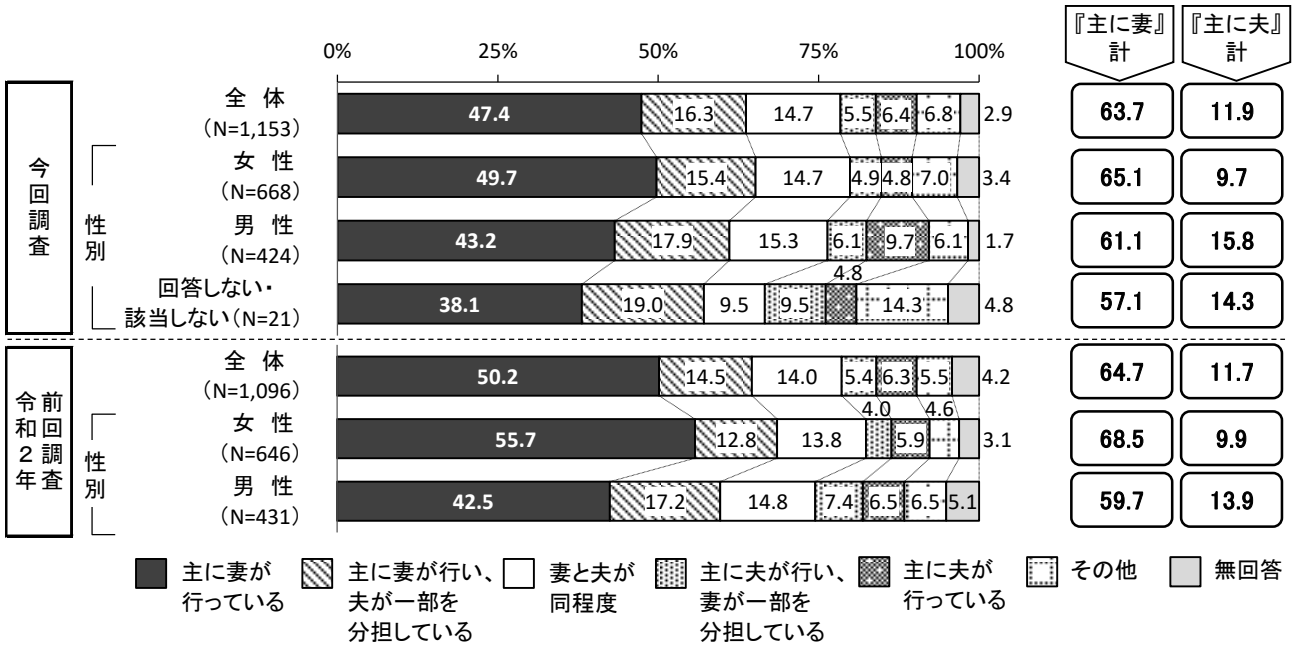
図表２－４　生活費を得る［全体、配偶関係別］

（%）

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	68	42	292	379	242	98	32	110	621
		100.0	5.9	3.6	25.3	32.9	21.0	8.5	2.8	9.5	53.9
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	4.4	5.1	38.6	41.8	9.5	0.6	－	9.5	51.3
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	6.7	5.7	24.9	25.4	29.7	5.3	2.4	12.4	55.1
	女性:配偶者はいない（離別）	74	21.6	4.1	23.0	23.0	6.8	16.2	5.4	25.7	29.8
	女性:配偶者はいない（死別）	111	8.1	3.6	13.5	34.2	18.9	12.6	9.0	11.7	53.1
	女性:結婚していない	88	6.8	1.1	25.0	34.1	14.8	15.9	2.3	7.9	48.9
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	－	1.1	32.6	49.4	16.9	－	－	1.1	66.3
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	2.3	3.5	24.9	29.5	32.9	5.2	1.7	5.8	62.4
	男性:配偶者はいない（離別）	28	－	－	14.3	42.9	32.1	10.7	－	－	75.0
	男性:配偶者はいない（死別）	28	3.6	－	14.3	46.4	25.0	10.7	－	3.6	71.4
	男性:結婚していない	88	3.4	2.3	25.0	28.4	22.7	15.9	2.3	5.7	51.1
	回答しない・該当しない	21	－	4.8	19.0	42.9	14.3	19.0	－	4.8	57.2
	無回答	86	9.3	4.7	22.1	24.4	17.4	15.1	7.0	14.0	41.8

（ウ）家計の管理

図表２－５　家計の管理［全体、性別］（前回調査比較）



「家計の管理」では『主に妻』は 63.7％と、炊事・掃除・洗濯などの家事に次いで２番目に高い。「妻と夫が同程度」は 14.7％、『主に夫』は 11.9％で、日々の家計の管理は妻の役割となっている場合が多い。

性別でみると、男性は『主に夫』が 15.8％で女性（9.7％）を 6.1 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、『主に妻』「妻と夫が同程度」『主に夫』の割合には大きな変化はないが、女性の『主に妻』のうち「主に妻が行っている」の割合が 6.0 ポイント減少している。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合に『主に妻』の割合が共働きでない場合よりもやや低く、「妻と夫が同程度」の割合がやや高くなっている。

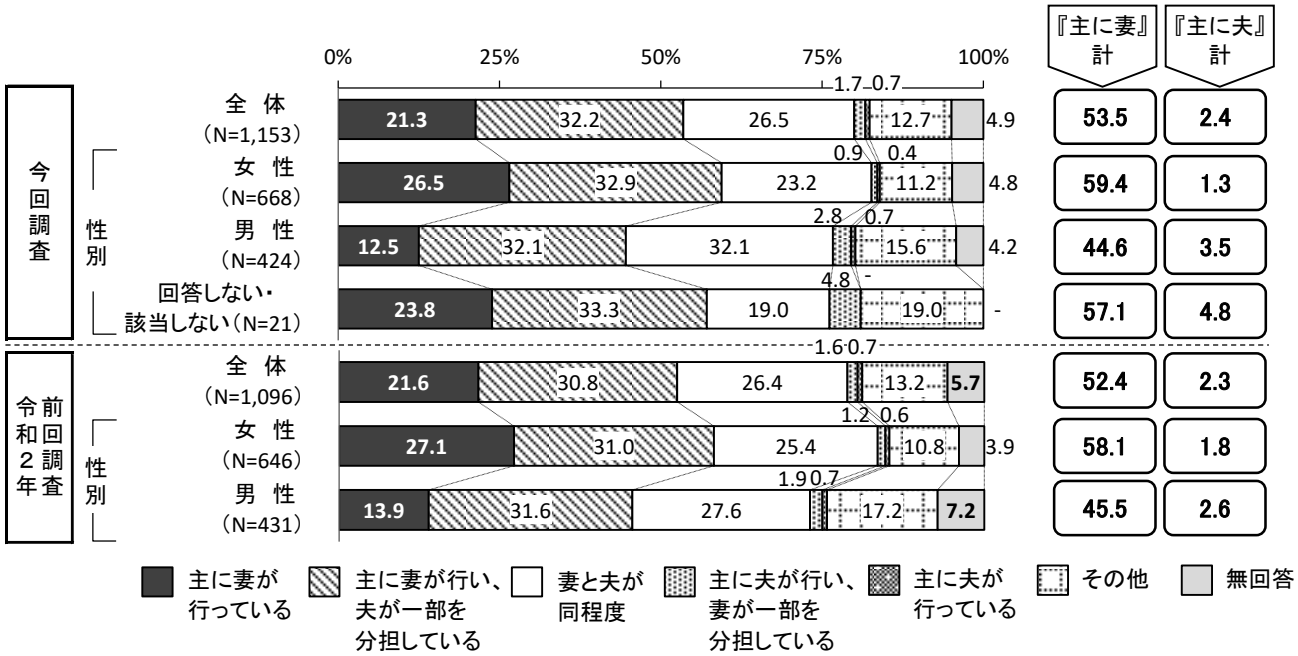
図表２－６　家計の管理［全体、配偶関係別］

（%）

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	546	188	170	63	74	78	34	734	137
		100.0	47.4	16.3	14.7	5.5	6.4	6.8	2.9	63.7	11.9
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	53.8	13.9	19.0	5.7	2.5	2.5	2.5	67.7	8.2
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	55.0	16.3	14.8	4.8	6.7	0.5	1.9	71.3	11.5
	女性:配偶者はいない(離別)	74	44.6	10.8	14.9	6.8	1.4	16.2	5.4	55.4	8.2
	女性:配偶者はいない(死別)	111	49.5	15.3	9.9	2.7	7.2	9.0	6.3	64.8	9.9
	女性:結婚していない	88	36.4	20.5	12.5	6.8	2.3	18.2	3.4	56.9	9.1
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	41.6	18.0	19.1	9.0	9.0	2.2	1.1	59.6	18.0
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	54.3	12.1	13.9	6.9	10.4	2.3	－	66.4	17.3
	男性:配偶者はいない(離別)	28	35.7	25.0	17.9	7.1	7.1	7.1	－	60.7	14.2
	男性:配偶者はいない(死別)	28	35.7	21.4	14.3	－	14.3	7.1	7.1	57.1	14.3
	男性:結婚していない	88	28.4	27.3	13.6	3.4	6.8	17.0	3.4	55.7	10.2
	回答しない・該当しない	21	38.1	19.0	9.5	9.5	4.8	14.3	4.8	57.1	14.3
	無回答	86	48.8	12.8	14.0	3.5	7.0	8.1	5.8	61.6	10.5

（エ）育児、子どものしつけ

図表２－７　育児、子どものしつけ［全体、性別］（前回調査比較）



「育児、子どものしつけ」については、『主に妻』が 53.5％で、育児や子どものしつけも半数以上が妻の役割となっている。「妻と夫が同程度」は 26.5％である。

性別でみると、女性の『主に妻』の割合は 59.4％と男性（44.6％）を 14.8 ポイント上回っている。「妻と夫が同程度」は男性では 32.1％だが、女性では 23.2％と女性で低くなっている。

前回調査と比べると、男性は「妻と夫が同程度」が 4.5 ポイント増加したが、女性で大きな変化はない。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合に「妻と夫が同程度」の割合がやや高くなっている。

同居家族別でみると、小・中・義務教育学校の児童生徒を除く大学・短大生以下の子どもがいる場合は「妻と夫が同程度」が３割を超えており、特に未就学児がいる場合は４割を超えて比較的高くなっている。

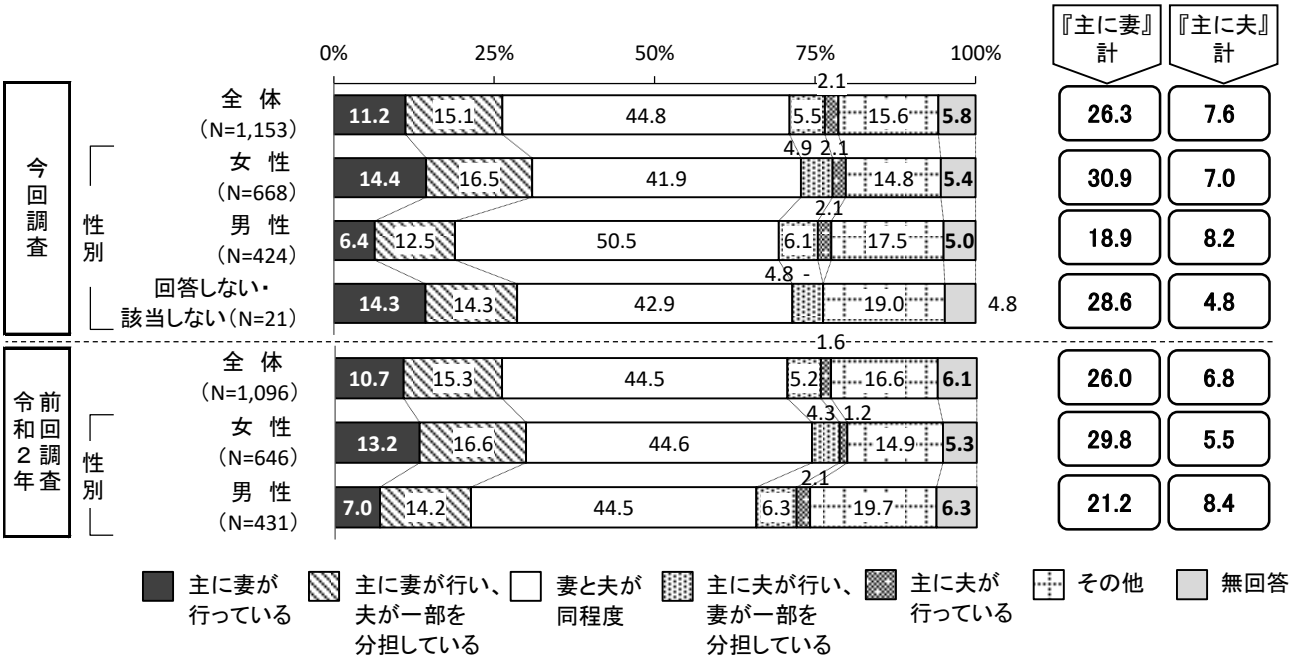
図表２－８　育児、子どものしつけ［全体、配偶関係別、同居家族別］

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	246	371	305	20	8	147	56	617	28
		100.0	21.3	32.2	26.5	1.7	0.7	12.7	4.9	53.5	2.4
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	24.1	35.4	30.4	－	－	8.2	1.9	59.5	－
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	26.3	37.8	22.0	0.5	1.0	6.7	5.7	64.1	1.5
	女性:配偶者はいない(離別)	74	37.8	24.3	17.6	－	－	17.6	2.7	62.1	－
	女性:配偶者はいない(死別)	111	27.0	29.7	18.0	2.7	－	14.4	8.1	56.7	2.7
	女性:結婚していない	88	21.6	27.3	30.7	1.1	1.1	15.9	2.3	48.9	2.2
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	3.4	36.0	41.6	6.7	－	11.2	1.1	39.4	6.7
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	13.3	31.2	30.6	2.3	0.6	16.8	5.2	44.5	2.9
	男性:配偶者はいない(離別)	28	14.3	35.7	35.7	－	－	7.1	7.1	50.0	－
	男性:配偶者はいない(死別)	28	17.9	32.1	35.7	3.6	－	10.7	－	50.0	3.6
	男性:結婚していない	88	18.2	29.5	25.0	1.1	2.3	20.5	3.4	47.7	3.4
	回答しない・該当しない	21	23.8	33.3	19.0	4.8	－	19.0	－	57.1	4.8
	無回答	86	23.3	26.7	17.4	2.3	2.3	12.8	15.1	50.0	4.6
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	25	12.0	44.0	36.0	－	－	4.0	4.0	56.0	－
	未就学児	36	19.4	30.6	41.7	2.8	－	－	5.6	50.0	2.8
	小・中・義務教育学校の児童生徒	93	28.0	33.3	29.0	3.2	－	6.5	－	61.3	3.2
	高校生	58	24.1	27.6	37.9	3.4	－	3.4	3.4	51.7	3.4
	専門学校生	11	27.3	9.1	36.4	9.1	－	18.2	－	36.4	9.1
	大学・短大生	35	31.4	25.7	34.3	－	－	8.6	－	57.1	－
	65歳以上の人	726	21.3	33.5	23.8	1.8	0.7	13.2	5.6	54.8	2.5
	上記以外の人	598	21.4	32.1	29.8	2.0	0.3	11.9	2.5	53.5	2.3
	無回答	61	19.7	27.9	23.0	3.3	3.3	11.5	11.5	47.6	6.6

（オ）子どもの教育方針や進学目標の決定

図表２－９　子どもの教育方針や進学目標の決定［全体、性別］（前回調査比較）



「子どもの教育方針や進学目標の決定」については、「妻と夫が同程度」が 44.8％と９つの項目の中で最も高くなっている。

性別でみると、女性は『主に妻』が 30.9％で男性（18.9％）より 12.0 ポイント高く、「妻と夫が同程度」（女性 41.9％、男性 50.5％）は女性の方が 8.6 ポイント低くなっている。

前回調査と比べると、男性で「妻と夫が同程度」が 6.0 ポイント高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合に「妻と夫が同程度」の割合がやや高くなっており、男性の共働きでは 57.3%と特に高くなっている。

同居家族別にみると、未就学児がいる場合と専門学校生がいる場合に「妻と夫が同程度」が６割台と高くなっている。小・中・義務教育学校の児童生徒がいる場合では、『主に妻』が 38.7%と比較的高い。

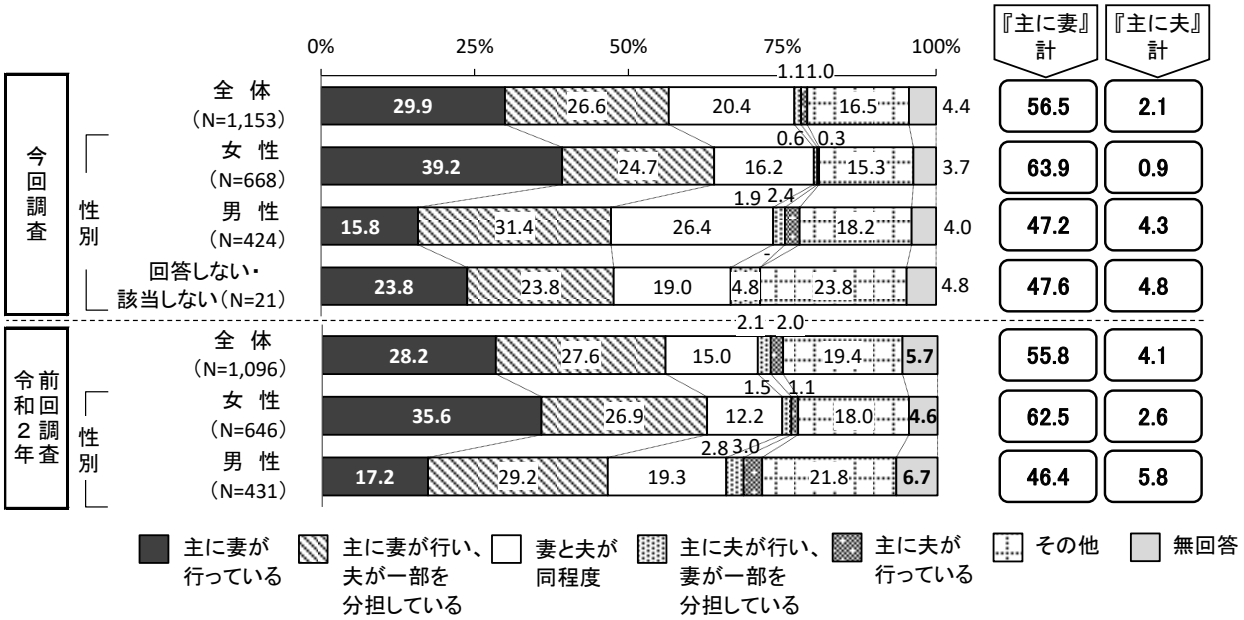
図表２－10　子どもの教育方針や進学目標の決定［全体、配偶関係別、同居家族別］

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	129	174	516	63	24	180	67	303	87
		100.0	11.2	15.1	44.8	5.5	2.1	15.6	5.8	26.3	7.6
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	17.7	19.6	48.1	1.3	0.6	10.8	1.9	37.3	1.9
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	13.9	17.2	42.6	7.2	1.4	12.0	5.7	31.1	8.6
	女性:配偶者はいない(離別)	74	25.7	16.2	29.7	4.1	4.1	16.2	4.1	41.9	8.2
	女性:配偶者はいない(死別)	111	9.9	10.8	46.8	6.3	2.7	14.4	9.0	20.7	9.0
	女性:結婚していない	88	8.0	18.2	38.6	4.5	3.4	23.9	3.4	26.2	7.9
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	4.5	16.9	57.3	9.0	－	11.2	1.1	21.4	9.0
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	5.8	12.7	48.6	6.9	2.9	18.5	4.6	18.5	9.8
	男性:配偶者はいない(離別)	28	3.6	10.7	64.3	－	3.6	10.7	7.1	14.3	3.6
	男性:配偶者はいない(死別)	28	7.1	17.9	50.0	－	－	17.9	7.1	25.0	－
	男性:結婚していない	88	11.4	8.0	40.9	6.8	3.4	22.7	6.8	19.4	10.2
	回答しない・該当しない	21	14.3	14.3	42.9	4.8	－	19.0	4.8	28.6	4.8
	無回答	86	5.8	14.0	36.0	5.8	2.3	17.4	18.6	19.8	8.1
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	25	20.0	16.0	52.0	4.0	－	8.0	－	36.0	4.0
	未就学児	36	22.2	8.3	61.1	2.8	－	2.8	2.8	30.5	2.8
	小・中・義務教育学校の児童生徒	93	18.3	20.4	46.2	7.5	－	6.5	1.1	38.7	7.5
	高校生	58	20.7	13.8	51.7	1.7	－	8.6	3.4	34.5	1.7
	専門学校生	11	18.2	－	63.6	9.1	－	9.1	－	18.2	9.1
	大学・短大生	35	8.6	28.6	28.6	17.1	2.9	11.4	2.9	37.2	20.0
	65歳以上の人	726	9.8	13.8	44.6	6.6	2.2	16.3	6.7	23.6	8.8
	上記以外の人	598	13.0	16.1	47.3	4.0	1.8	14.0	3.7	29.1	5.8
	無回答	61	6.6	16.4	39.3	4.9	3.3	14.8	14.8	23.0	8.2

（カ）病人・高齢者の世話（介護）

図表２－11　病人・高齢者の世話（介護）［全体、性別］（前回調査比較）



「病人・高齢者の世話（介護）」については、『主に妻』の割合が 56.5％と日常の家事や日々の家計の管理に次いで高くなっている。

性別でみると、女性は『主に妻』が 63.9％に対し、男性は 47.2％と 16.7 ポイントの差があり、また「妻と夫が同程度」（女性 16.2％、男性 26.4％）は男性の方が 10.2 ポイント高いなど、性別による認識の差が大きい。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられないが、男女とも「妻と夫が同程度」がやや増加している。

年齢別でみると、女性の 50 歳代以上で『主に妻』が６割を超えて高くなっており、特に 60 歳代では 72.0％と高い。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合には「妻と夫が同程度」がやや高くなっているが、男性の共働きでは「妻と夫が同程度」が 44.9％であるのに対し、女性では 24.7％と大きな差がある。

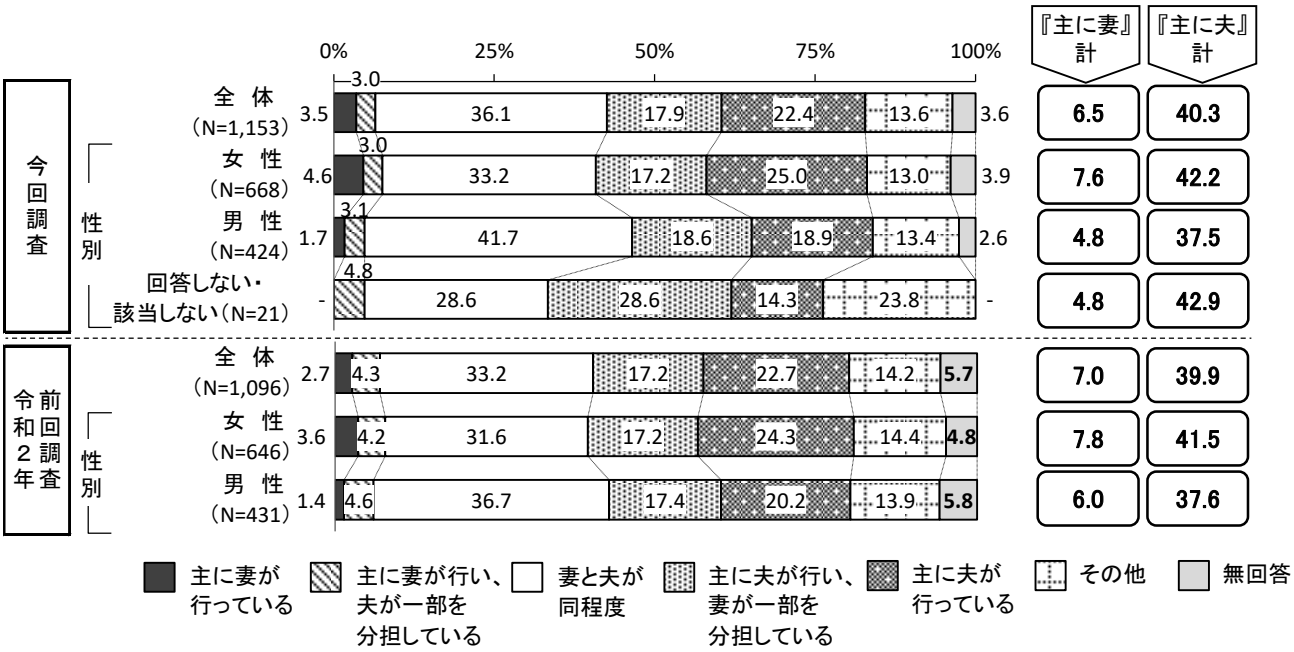
図表２－12　病人・高齢者の世話（介護）［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	345	307	235	13	12	190	51	652	25
		100.0	29.9	26.6	20.4	1.1	1.0	16.5	4.4	56.5	2.1
年齢別	女性:29歳以下	33	33.3	15.2	24.2	－	3.0	24.2	－	48.5	3.0
	女性:30歳代	33	27.3	30.3	15.2	－	－	27.3	－	57.6	－
	女性:40歳代	73	35.6	21.9	20.5	－	－	20.5	1.4	57.5	－
	女性:50歳代	81	38.3	25.9	22.2	－	－	12.3	1.2	64.2	－
	女性:60歳代	157	42.7	29.3	14.0	1.3	0.6	10.8	1.3	72.0	1.9
	女性:70歳以上	279	40.5	23.3	13.6	0.7	－	14.3	7.5	63.8	0.7
	男性:29歳以下	16	18.8	31.3	37.5	－	－	12.5	－	50.1	－
	男性:30歳代	24	12.5	8.3	33.3	4.2	4.2	33.3	4.2	20.8	8.4
	男性:40歳代	40	17.5	35.0	30.0	2.5	2.5	12.5	－	52.5	5.0
	男性:50歳代	51	7.8	23.5	43.1	－	－	17.6	7.8	31.3	－
	男性:60歳代	75	14.7	32.0	30.7	2.7	2.7	14.7	2.7	46.7	5.4
	男性:70歳以上	208	17.8	35.6	18.3	1.4	2.9	19.2	4.8	53.4	4.3
	回答しない・該当しない	21	23.8	23.8	19.0	4.8	－	23.8	4.8	47.6	4.8
	無回答	62	29.0	12.9	25.8	1.6	－	17.7	12.9	41.9	1.6
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	33.5	27.2	24.7	0.6	－	13.9	－	60.7	0.6
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	41.1	24.9	17.7	1.0	0.5	10.0	4.8	66.0	1.5
	女性:配偶者はいない（離別）	74	43.2	25.7	5.4	－	－	23.0	2.7	68.9	－
	女性:配偶者はいない（死別）	111	43.2	17.1	11.7	0.9	－	18.0	9.0	60.3	0.9
	女性:結婚していない	88	34.1	28.4	13.6	－	1.1	20.5	2.3	62.5	1.1
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	5.6	25.8	44.9	5.6	2.2	14.6	1.1	31.4	7.8
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	19.7	36.4	20.2	1.2	－	17.9	4.6	56.1	1.2
	男性:配偶者はいない（離別）	28	14.3	35.7	21.4	－	10.7	14.3	3.6	50.0	10.7
	男性:配偶者はいない（死別）	28	17.9	35.7	21.4	－	3.6	14.3	7.1	53.6	3.6
	男性:結婚していない	88	19.3	26.1	23.9	－	4.5	22.7	3.4	45.4	4.5
	回答しない・該当しない	21	23.8	23.8	19.0	4.8	－	23.8	4.8	47.6	4.8
	無回答	86	30.2	17.4	20.9	1.2	－	17.4	12.8	47.6	1.2

（キ）高額な商品や土地・家屋の購入

図表２－13　高額な商品や土地・家屋の購入［全体、性別］（前回調査比較）



「高額な商品や土地・家屋の購入」については「妻と夫が同程度」が 36.1％であるが、『主に夫』が 40.3％で、そのうち「主に夫が行っている」が 22.4％である。日常の家計の管理は 63.7％が妻中心であったが、高額なものの決定は男性が担っている場合が多い。

性別でみると、女性は『主に夫』が 42.2％と男性（37.5％）より 4.7 ポイント高い。一方、男性は「妻と夫が同程度」が 41.7％で女性（33.2％）より 8.5 ポイント高く、男性の方が高額商品の購入を同じ程度に分担していると認識している。

前回調査と比べると、男性で「妻と夫が同程度」が 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、女性の 40 歳代以下では『主に夫』が５割を超えて高くなっている。男性でも 30 歳代、40 歳代では『主に夫』が４割台で比較的高い。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合は「妻と夫が同程度」が約４割と同程度であるが、共働きでない場合には「妻と夫が同程度」が女性では 37.3％、男性では 46.8％で、男性に比べて女性は同程度に担っていないと認識している。

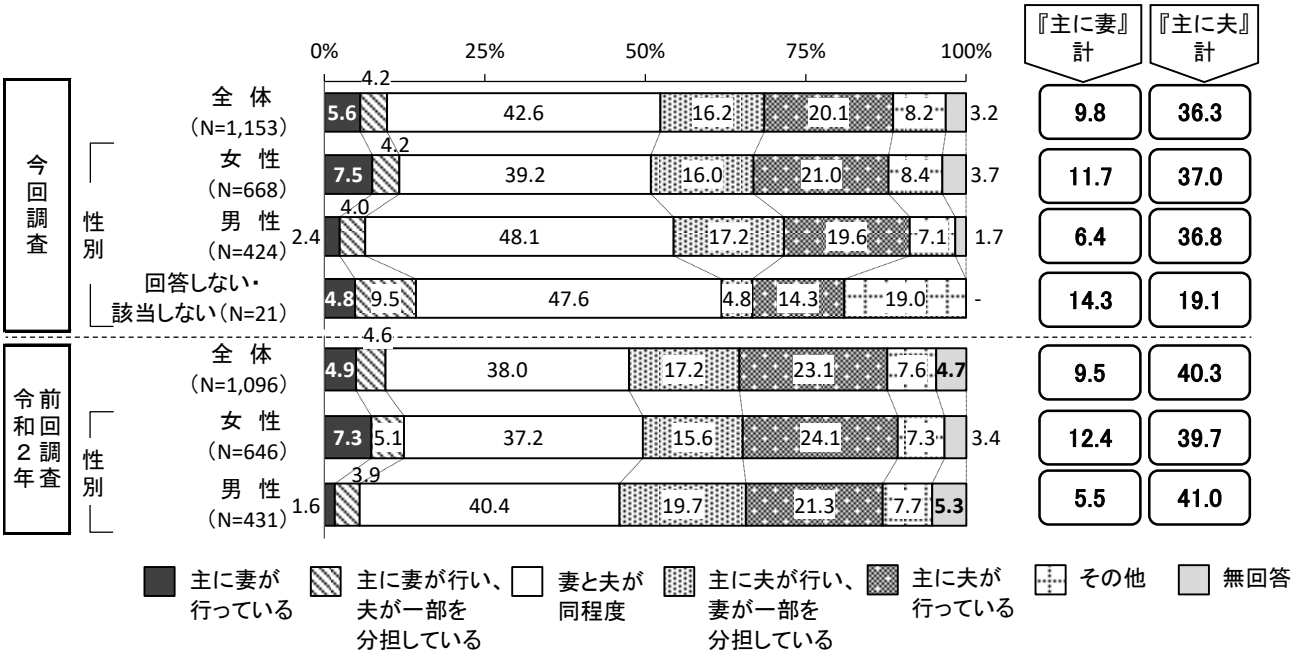
図表２－14　高額な商品や土地・家屋の購入［全体、年齢別、配偶関係別］

（％）

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	40	35	416	206	258	157	41	75	464
		100.0	3.5	3.0	36.1	17.9	22.4	13.6	3.6	6.5	40.3
年齢別	女性:29歳以下	33	3.0	－	30.3	12.1	42.4	12.1	－	3.0	54.5
	女性:30歳代	33	－	3.0	21.2	18.2	36.4	21.2	－	3.0	54.6
	女性:40歳代	73	5.5	－	30.1	23.3	27.4	12.3	1.4	5.5	50.7
	女性:50歳代	81	8.6	2.5	37.0	14.8	22.2	13.6	1.2	11.1	37.0
	女性:60歳代	157	2.5	5.1	38.2	18.5	22.9	10.2	2.5	7.6	41.4
	女性:70歳以上	279	5.4	2.9	32.3	15.8	22.9	13.6	7.2	8.3	38.7
	男性:29歳以下	16	－	－	56.3	12.5	18.8	12.5	－	－	31.3
	男性:30歳代	24	4.2	－	29.2	16.7	29.2	16.7	4.2	4.2	45.9
	男性:40歳代	40	2.5	2.5	50.0	20.0	22.5	2.5	－	5.0	42.5
	男性:50歳代	51	2.0	2.0	47.1	17.6	7.8	17.6	5.9	4.0	25.4
	男性:60歳代	75	－	8.0	42.7	21.3	16.0	12.0	－	8.0	37.3
	男性:70歳以上	208	1.9	2.4	39.4	18.3	20.2	14.4	3.4	4.3	38.5
	回答しない・該当しない	21	－	4.8	28.6	28.6	14.3	23.8	－	4.8	42.9
	無回答	62	3.2	3.2	27.4	17.7	22.6	19.4	6.5	6.4	40.3
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	158	1.9	3.8	39.9	21.5	23.4	9.5	－	5.7	44.9
	女性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	209	4.3	3.3	37.3	13.9	30.6	7.7	2.9	7.6	44.5
	女性:配偶者はいない（離別）	74	13.5	1.4	28.4	17.6	14.9	20.3	4.1	14.9	32.5
	女性:配偶者はいない（死別）	111	4.5	0.9	29.7	16.2	18.9	18.9	10.8	5.4	35.1
	女性:結婚していない	88	3.4	3.4	23.9	18.2	29.5	19.3	2.3	6.8	47.7
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きである）	89	1.1	6.7	40.4	25.8	18.0	7.9	－	7.8	43.8
	男性:配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	173	1.7	3.5	46.8	15.0	21.4	9.2	2.3	5.2	36.4
	男性:配偶者はいない（離別）	28	－	－	28.6	14.3	28.6	25.0	3.6	－	42.9
	男性:配偶者はいない（死別）	28	－	－	42.9	32.1	10.7	10.7	3.6	－	42.8
	男性:結婚していない	88	3.4	1.1	37.5	17.0	14.8	22.7	3.4	4.5	31.8
	回答しない・該当しない	21	－	4.8	28.6	28.6	14.3	23.8	－	4.8	42.9
	無回答	86	3.5	3.5	27.9	15.1	22.1	17.4	10.5	7.0	37.2

（ク）家庭の問題における最終決定

図表２－15　家庭の問題における最終決定［全体、性別］（前回調査比較）



「家庭の問題における最終決定」については「妻と夫が同程度」が 42.6%に上るが、『主に夫』も 36.3%となっており、妻と夫が同じ程度に決定している場合が多い一方、男性が担っている場合も多い。

性別でみると、男女とも『主に夫』の割合にはほぼ差はないが、「妻と夫が同程度」は女性が 39.2%、男性が 48.1%と、女性の方が 8.9 ポイント低く、『主に妻』が女性は 11.7%と男性（6.4%）より 5.3 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性で『主に夫』の割合が 4.2 ポイント減り、「妻と夫が同程度」が 7.7 ポイント増加している。

配偶関係別でみると、男性では共働き、共働きでないに関わらず「妻と夫が同程度」が約５割、『主に夫』が３割台半ばと同程度であるが、女性では『主に夫』が共働きで 33.5%、共働きでない場合は 43.6%と、共働きでない場合の方が 10.1 ポイント高くなっている。

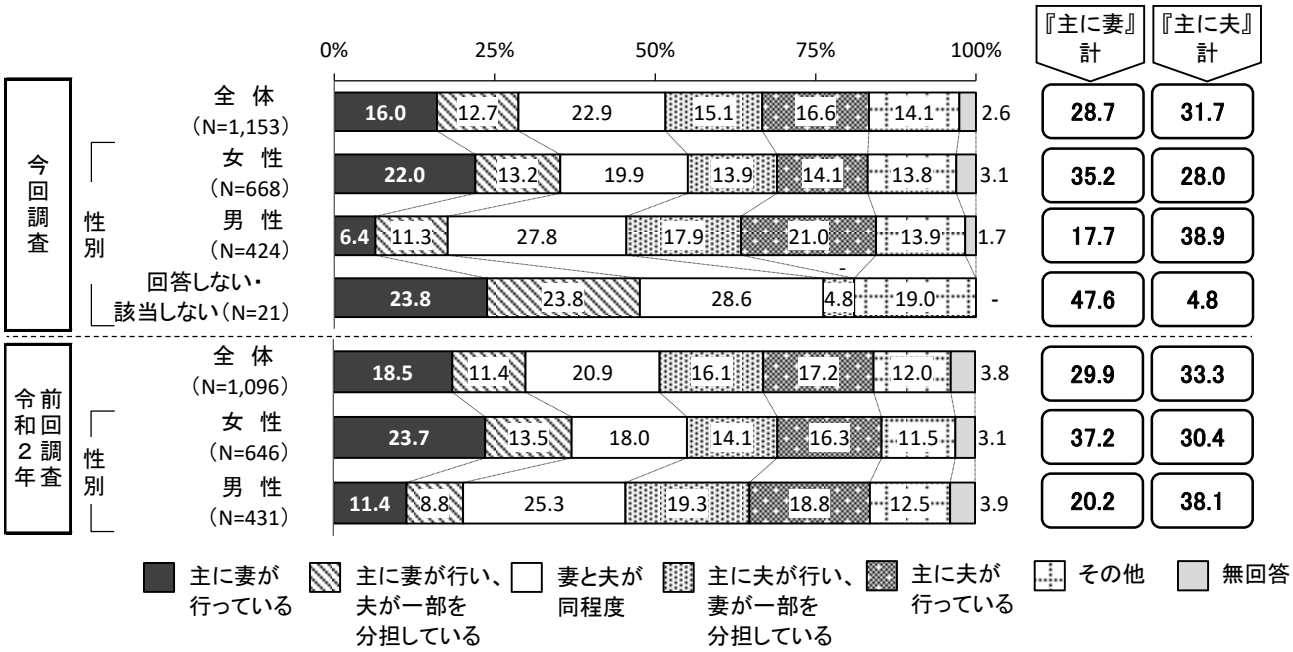
図表２－16　家庭の問題における最終決定［全体、配偶関係別］

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	64	48	491	187	232	94	37	112	419
		100.0	5.6	4.2	42.6	16.2	20.1	8.2	3.2	9.8	36.3
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	7.6	6.3	48.7	17.7	15.8	2.5	1.3	13.9	33.5
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	2.4	4.3	45.0	18.7	24.9	2.9	1.9	6.7	43.6
	女性:配偶者はいない(離別)	74	21.6	4.1	24.3	17.6	12.2	14.9	5.4	25.7	29.8
	女性:配偶者はいない(死別)	111	8.1	0.9	32.4	12.6	24.3	11.7	9.9	9.0	36.9
	女性:結婚していない	88	8.0	4.5	31.8	10.2	23.9	19.3	2.3	12.5	34.1
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	1.1	6.7	52.8	23.6	12.4	2.2	1.1	7.8	36.0
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	1.7	4.0	52.6	19.1	19.7	2.9	－	5.7	38.8
	男性:配偶者はいない(離別)	28	－	－	50.0	14.3	25.0	10.7	－	－	39.3
	男性:配偶者はいない(死別)	28	－	3.6	46.4	10.7	25.0	7.1	7.1	3.6	35.7
	男性:結婚していない	88	6.8	3.4	37.5	10.2	22.7	17.0	2.3	10.2	32.9
	回答しない・該当しない	21	4.8	9.5	47.6	4.8	14.3	19.0	－	14.3	19.1
	無回答	86	4.7	2.3	34.9	15.1	18.6	14.0	10.5	7.0	33.7

（ケ）行政区・隣組などの地域活動への参加

図表２－17　行政区・隣組などの地域活動への参加［全体、性別］（前回調査比較）



「行政区・隣組などの地域活動への参加」については『主に夫』が 31.7%、「妻と夫が同程度」が 22.9%、『主に妻』が 28.7%と、回答が分散している。

性別でみると、女性は『主に妻』が 35.2%、男性は『主に夫』が 38.9%となっており、男女とも自分が担っていると認識している傾向がみられる。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられない。

年齢別でみると、女性は 30 歳代以上のすべての年代で『主に妻』の割合が３割を超えている。男性は 30 歳代と 70 歳以上で『主に夫』が４割台半ばと高くなっている。

配偶関係別でみると、女性では共働き、共働きでないに関わらず「妻と夫が同程度」が２割台前半となっているが、男性では共働きでは 20.2%、共働きでない場合は 30.6%と 10.4 ポイントの差がある。

図表２－18　行政区・隣組などの地域活動への参加［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』計	『主に夫』計
全体		1,153	185	147	264	174	191	162	30	332	365
		100.0	16.0	12.7	22.9	15.1	16.6	14.1	2.6	28.7	31.7
年齢別	女性:29歳以下	33	18.2	3.0	24.2	3.0	12.1	36.4	3.0	21.2	15.1
	女性:30歳代	33	15.2	24.2	12.1	3.0	18.2	24.2	3.0	39.4	21.2
	女性:40歳代	73	20.5	11.0	24.7	11.0	15.1	16.4	1.4	31.5	26.1
	女性:50歳代	81	21.0	17.3	24.7	6.2	12.3	16.0	2.5	38.3	18.5
	女性:60歳代	157	22.3	12.7	22.9	16.6	13.4	8.3	3.8	35.0	30.0
	女性:70歳以上	279	23.7	12.9	15.8	18.3	14.7	11.1	3.6	36.6	33.0
	男性:29歳以下	16	6.3	12.5	31.3	6.3	25.0	18.8	－	18.8	31.3
	男性:30歳代	24	4.2	4.2	25.0	12.5	33.3	16.7	4.2	8.4	45.8
	男性:40歳代	40	2.5	10.0	42.5	12.5	20.0	12.5	－	12.5	32.5
	男性:50歳代	51	3.9	19.6	17.6	9.8	19.6	23.5	5.9	23.5	29.4
	男性:60歳代	75	5.3	12.0	32.0	21.3	14.7	13.3	1.3	17.3	36.0
	男性:70歳以上	208	8.7	10.6	26.0	21.6	22.6	9.6	1.0	19.3	44.2
	回答しない・該当しない	21	23.8	23.8	28.6	4.8	－	19.0	－	47.6	4.8
	無回答	62	14.5	11.3	21.0	9.7	16.1	24.2	3.2	25.8	25.8
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	20.9	13.9	22.8	13.3	16.5	11.4	1.3	34.8	29.8
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	18.2	12.4	23.4	16.7	19.6	9.1	0.5	30.6	36.3
	女性:配偶者はいない(離別)	74	35.1	18.9	6.8	8.1	6.8	18.9	5.4	54.0	14.9
	女性:配偶者はいない(死別)	111	26.1	12.6	15.3	16.2	8.1	12.6	9.0	38.7	24.3
	女性:結婚していない	88	17.0	11.4	23.9	10.2	10.2	23.9	3.4	28.4	20.4
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	3.4	15.7	20.2	15.7	32.6	12.4	－	19.1	48.3
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	7.5	9.8	30.6	25.4	19.1	6.9	0.6	17.3	44.5
	男性:配偶者はいない(離別)	28	－	17.9	25.0	17.9	25.0	14.3	－	17.9	42.9
	男性:配偶者はいない(死別)	28	10.7	14.3	32.1	17.9	7.1	14.3	3.6	25.0	25.0
	男性:結婚していない	88	9.1	9.1	29.5	6.8	15.9	25.0	4.5	18.2	22.7
	回答しない・該当しない	21	23.8	23.8	28.6	4.8	－	19.0	－	47.6	4.8
	無回答	86	14.0	9.3	19.8	11.6	18.6	22.1	4.7	23.3	30.2

２．子育てに関する考え方

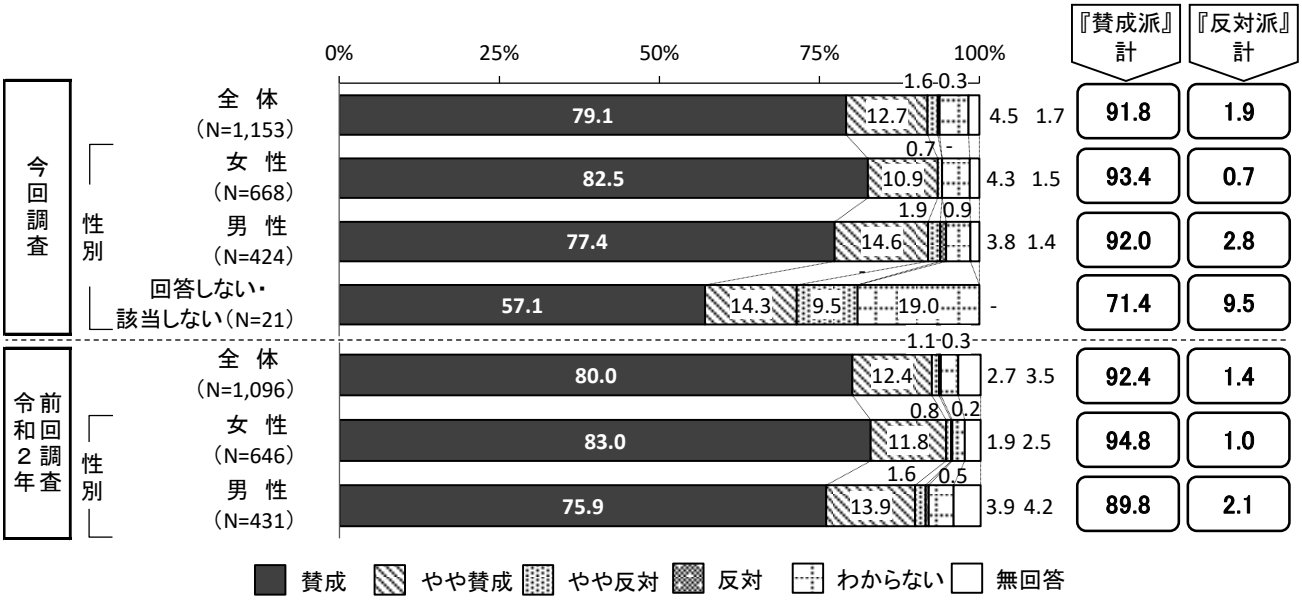
・「経済的に自立できるよう育てる」は積極的な「賛成」が約8割あるが、「生活技術を身につける」育て方は7割台半ばとやや低い。
・「3歳までは母親の手で育てる」は女性の『賛成派』が5割台半ば、『反対派』が2割台半ば。40歳代以下では男女とも『反対派』が『賛成派』を上回る。

問４　子どもを育てるうえで大切だと思うことについて、あなたはどうお考えですか。次の（ア）～（ウ）の各項目について、あなたの考え方に最も近いものをそれぞれ１つ選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。

子どもの育て方について４つの考え方について５段階でたずねた。
「賛成」と「やや賛成」の合計を『賛成派』、「反対」と「やや反対」の合計を『反対派』とする。

（ア）性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる

図表２－19　性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる
［全体、性別］（前回調査比較）



「性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる」という考え方については、「賛成」が79.1％と最も高く、これに「やや賛成」（12.7％）をあわせた『賛成派』は91.8％と９割を超えている。

性別でみると、『賛成派』（女性93.4％、男性92.0％）には大きな差はないが、そのうち積極的な「賛成」は女性が82.5％で男性（77.4％）を5.1ポイント上回っており、女性の方が積極的に賛成している。

前回調査と比べると、男女とも大きな変化はみられない。

年齢別でみると、女性では 70 歳以上を除くすべての年代で積極的な「賛成」が８割を超え、40 歳代では 91.8%と特に高い。男性は 29 歳以下と 40 歳代、50 歳代で８割を超えているが、その他の年代では７割台となっている。

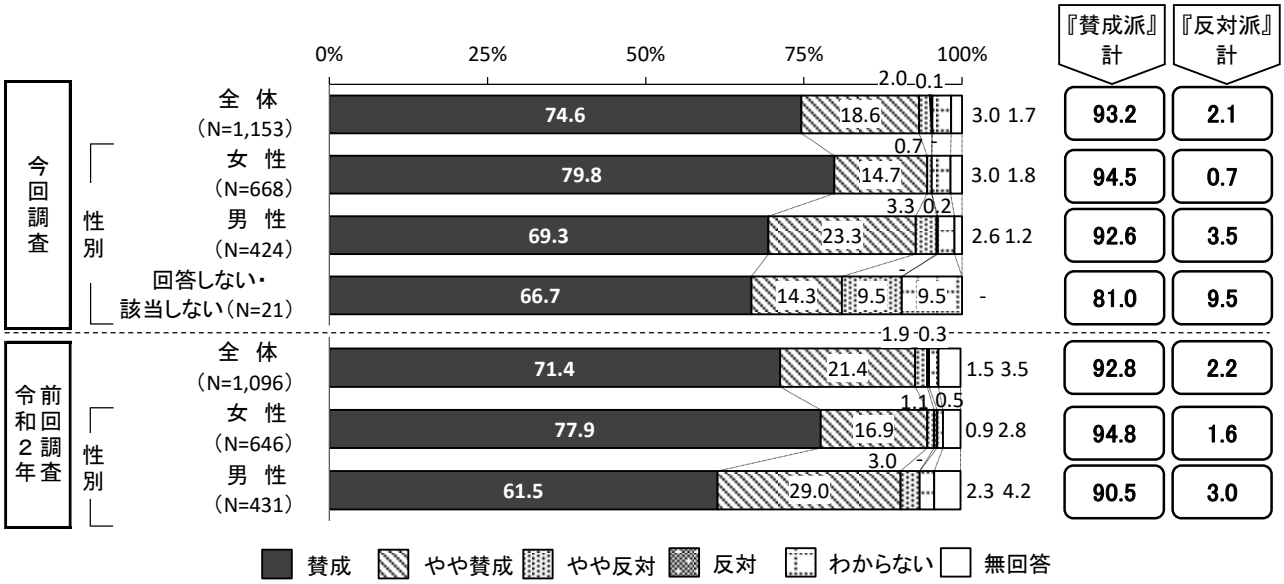
図表２－20　性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる［全体、年齢別］

（%）

		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	計『賛成派』	計『反対派』
全体		1,153	912	147	18	4	52	20	1,059	22
		100.0	79.1	12.7	1.6	0.3	4.5	1.7	91.8	1.9
年齢別	女性:29歳以下	33	81.8	9.1	3.0	－	6.1	－	90.9	3.0
	女性:30歳代	33	87.9	12.1	－	－	－	－	100.0	－
	女性:40歳代	73	91.8	4.1	－	－	4.1	－	95.9	－
	女性:50歳代	81	85.2	7.4	－	－	6.2	1.2	92.6	－
	女性:60歳代	157	87.3	10.2	1.3	－	1.3	－	97.5	1.3
	女性:70歳以上	279	77.4	13.3	0.4	－	5.7	3.2	90.7	0.4
	男性:29歳以下	16	87.5	6.3	6.3	－	－	－	93.8	6.3
	男性:30歳代	24	79.2	12.5	－	4.2	4.2	－	91.7	4.2
	男性:40歳代	40	82.5	12.5	2.5	－	2.5	－	95.0	2.5
	男性:50歳代	51	84.3	3.9	－	－	5.9	5.9	88.2	－
	男性:60歳代	75	70.7	22.7	1.3	－	5.3	－	93.4	1.3
	男性:70歳以上	208	76.4	14.9	2.4	1.4	3.4	1.4	91.3	3.8
	回答しない・該当しない	21	57.1	14.3	9.5	－	19.0	－	71.4	9.5
	無回答	62	54.8	25.8	6.5	－	6.5	6.5	80.6	6.5

（イ）性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい

図表２－21　性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい［全体、性別］（前回調査比較）



「性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」という考え方については『賛成派』が 93.2%と９割を超えているが、そのうち積極的な「賛成」は 74.6%と経済的な自立と比べて 4.5 ポイント低くなっている。

性別でみると、『賛成派』（女性 94.5%、男性 92.6%）の割合に差はないが、積極的な「賛成」は女性が 79.8%、男性は 69.3%と女性に比べて 10.5 ポイント低くなっており、男性はやや消極的な姿勢がうかがえる。

前回調査と比べると、男性で積極的な「賛成」が 7.8 ポイント増加しており、女性に比べるとやや消極的ではあるものの、生活自立に対して以前より肯定的になっていることがうかがえる。

年齢別でみると、積極的な「賛成」は女性の 70 歳以上で 72.8%、男性の 60 歳以上で６割台と他の年代比べて低いが、それでも男女ともすべての年代で『賛成派』が約９割かそれ以上に上っている。

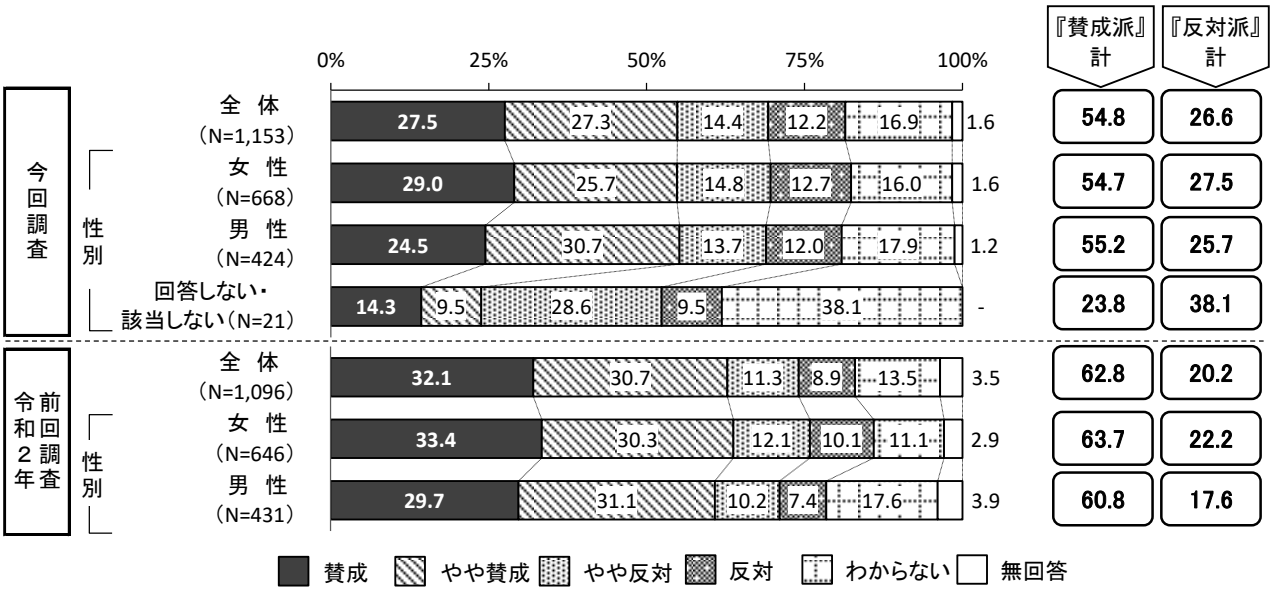
図表２－22　性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい
［全体、年齢別］

(%)

		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	計『賛成派』	計『反対派』
全体		1,153	860	214	23	1	35	20	1,074	24
		100.0	74.6	18.6	2.0	0.1	3.0	1.7	93.2	2.1
年齢別	女性:29歳以下	33	87.9	9.1	－	－	3.0	－	97.0	－
	女性:30歳代	33	81.8	12.1	－	－	－	6.1	93.9	－
	女性:40歳代	73	89.0	6.8	1.4	－	2.7	－	95.8	1.4
	女性:50歳代	81	82.7	9.9	－	－	6.2	1.2	92.6	－
	女性:60歳代	157	84.7	12.7	1.9	－	0.6	－	97.4	1.9
	女性:70歳以上	279	72.8	19.7	0.4	－	3.9	3.2	92.5	0.4
	男性:29歳以下	16	75.0	25.0	－	－	－	－	100.0	－
	男性:30歳代	24	87.5	8.3	－	－	4.2	－	95.8	－
	男性:40歳代	40	77.5	20.0	2.5	－	－	－	97.5	2.5
	男性:50歳代	51	82.4	7.8	－	－	3.9	5.9	90.2	－
	男性:60歳代	75	68.0	21.3	6.7	－	4.0	－	89.3	6.7
	男性:70歳以上	208	62.5	29.8	3.8	0.5	2.4	1.0	92.3	4.3
	回答しない・該当しない	21	66.7	14.3	9.5	－	9.5	－	81.0	9.5
	無回答	62	56.5	32.3	3.2	－	3.2	4.8	88.8	3.2

（ウ）３歳までは母親の手で育てる方がよい

図表２－23　３歳までは母親の手で育てる方がよい［全体、性別］（前回調査比較）



「３歳までは母親の手で育てる方がよい」という考え方については、「賛成」が 27.5%、「やや賛成」が 27.3%と『賛成派』は 54.8%である。一方、『反対派』は 26.6%となっている。

性別でみると、『賛成派』『反対派』の割合には大きな差はないが、積極的な「賛成」は女性が 29.0%と男性（24.5%）を 4.5 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成派』が 5.6～9.0 ポイント減少し、『反対派』が 5.3～8.1 ポイント増加している。

年齢別でみると、男女とも年齢が高い層で『賛成派』の割合が増え、年齢が低い層で『反対派』の割合が増える傾向がみられる。30 歳代以下では男女とも『反対派』が約４割から５割に上り『賛成派』を上回っているが、70 歳以上では男女とも『賛成派』が６割台と高く、世代による意識差が大きい。

同居家族別でみると、乳幼児（３歳未満）や未就学児が同居家族にいる場合、『反対派』は約５割から５割台半ばと高くなっている。小・中・義務教育学校の児童生徒や高校生、大学・短大生がいる人でも『反対派』は約４割と高い。

図表２－24　３歳までは母親の手で育てる方がよい［全体、年齢別、同居家族別］

（%）

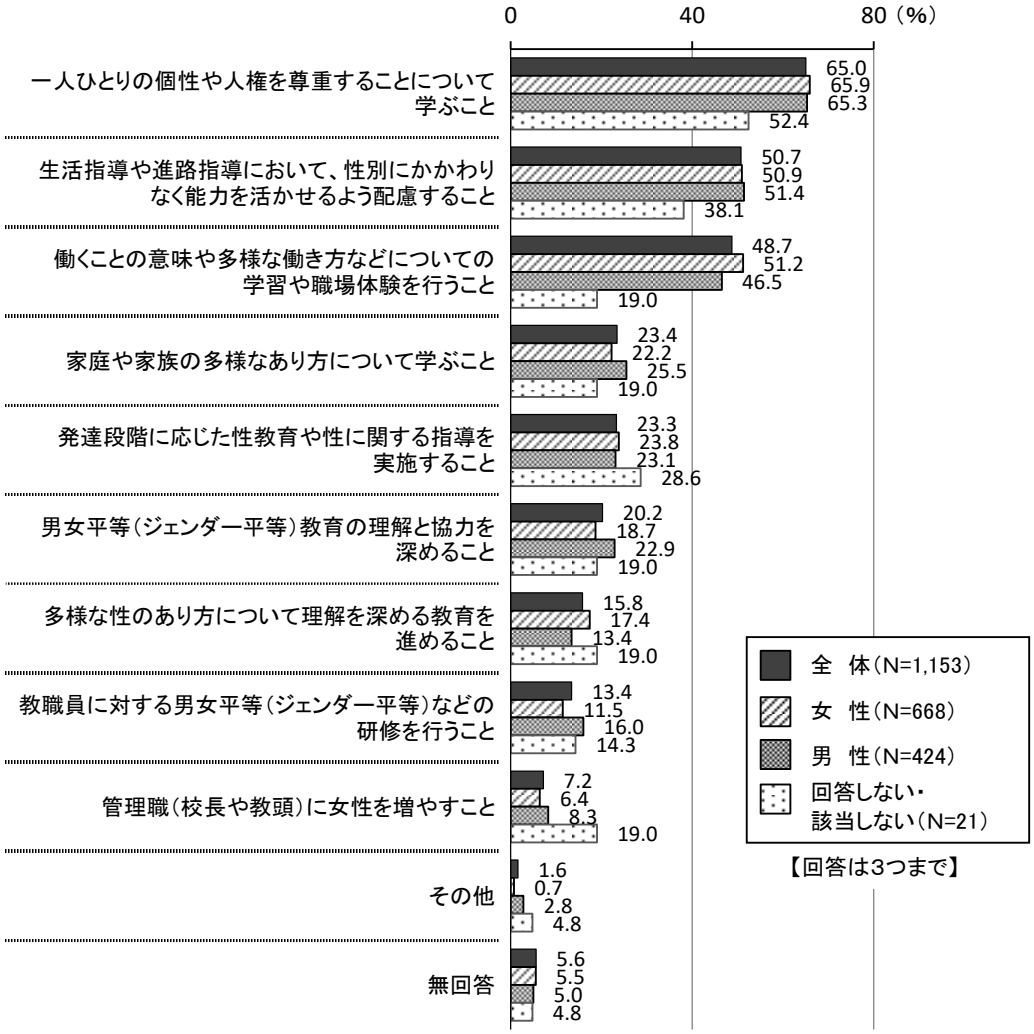
		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	計『賛成派』	計『反対派』
全体		1,153	317	315	166	141	195	19	632	307
		100.0	27.5	27.3	14.4	12.2	16.9	1.6	54.8	26.6
年齢別	女性:29歳以下	33	9.1	21.2	12.1	33.3	24.2	－	30.3	45.4
	女性:30歳代	33	9.1	15.2	18.2	33.3	24.2	－	24.3	51.5
	女性:40歳代	73	16.4	17.8	23.3	13.7	27.4	1.4	34.2	37.0
	女性:50歳代	81	22.2	22.2	19.8	11.1	23.5	1.2	44.4	30.9
	女性:60歳代	157	26.1	31.2	15.3	14.6	12.7	－	57.3	29.9
	女性:70歳以上	279	40.5	28.0	10.8	6.8	10.8	3.2	68.5	17.6
	男性:29歳以下	16	6.3	6.3	43.8	6.3	37.5	－	12.6	50.1
	男性:30歳代	24	8.3	29.2	16.7	25.0	20.8	－	37.5	41.7
	男性:40歳代	40	15.0	20.0	12.5	15.0	37.5	－	35.0	27.5
	男性:50歳代	51	9.8	29.4	13.7	15.7	25.5	5.9	39.2	29.4
	男性:60歳代	75	26.7	33.3	14.7	13.3	12.0	－	60.0	28.0
	男性:70歳以上	208	32.2	32.7	11.5	9.1	13.5	1.0	64.9	20.6
	回答しない・該当しない	21	14.3	9.5	28.6	9.5	38.1	－	23.8	38.1
	無回答	62	37.1	30.6	8.1	9.7	9.7	4.8	67.7	17.8
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	25	－	28.0	24.0	24.0	24.0	－	28.0	48.0
	未就学児	36	8.3	22.2	27.8	27.8	11.1	2.8	30.5	55.6
	小・中・義務教育学校の児童生徒	93	20.4	21.5	19.4	19.4	18.3	1.1	41.9	38.8
	高校生	58	19.0	19.0	27.6	12.1	22.4	－	38.0	39.7
	専門学校生	11	9.1	18.2	27.3	－	45.5	－	27.3	27.3
	大学・短大生	35	20.0	22.9	25.7	17.1	14.3	－	42.9	42.8
	65歳以上の人	726	30.6	29.6	12.5	11.3	14.3	1.7	60.2	23.8
	上記以外の人	598	22.4	24.1	17.1	13.9	21.4	1.2	46.5	31.0
	無回答	61	37.7	31.1	8.2	8.2	9.8	4.9	68.8	16.4

３．社会で男女共同参画を推進するために学校教育の場で力をいれるところ

・学校教育で力を入れるとよいと思うことは、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が第１位。
・乳幼児（3歳未満）や未就学児がいる人では「発達段階に応じた性教育の実施」や「多様な性のあり方について理解を深める教育」など性に関する教育が求められている。

問５　これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。３つまで選んでください。

図表２－25　社会で男女共同参画を推進するために学校教育の場で力をいれるところ［全体、性別］



男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れることを３つまでたずねた。「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が 65.0％と最も高く、次いで、「生活指導や進路指導において、性別にかかわりなく能力を活かせるよう配慮すること」が 50.7％、「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が 48.7％などとなっている。

性別でみると、女性は男性より「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」（女性 51.2％、男性 46.5％）が 4.7 ポイント、「多様な性のあり方について理解を深

める教育を進めること」（同 17.4%、13.4%）が 4.0 ポイント高く、男性は女性より「教職員に対する男女平等（ジェンダー平等）などの研修を行うこと」（同 11.5%、16.0%）が 4.5 ポイント、「男女平等（ジェンダー平等）教育の理解と協力を深めること」（同 18.7%、22.9%）が 4.2 ポイント高いなど、やや差がみられる項目はあるが、全体的な傾向としては大きな差はない。

年齢別でみると、女性の 30 歳代では「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」が 57.6%と目立って高い。また、女性の 29 歳以下では「多様な性のあり方について理解を深める教育を進めること」が 36.4%、「教職員に対する男女平等（ジェンダー平等）などの研修を行うこと」が 24.2%、「管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと」が 18.2%と他の年代に比べて高くなっている。

同居家族別でみると、乳幼児（３歳未満）や未就学児がいる人では「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」や「多様な性のあり方について理解を深める教育を進めること」が２割台半ばから４割と高く、小さい子どもと同居する人からは性に関する教育が求められている。小・中・義務教育学校の児童生徒、高校生、専門学校生、大学・短大生がいる人では「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」が３割台とやや高く、小・中・義務教育学校の児童生徒、高校生がいる人では「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」も５割台半ばと比較的高くなっている。

図表２－26　社会で男女共同参画を推進するために学校教育の場で力をいれること

［全体、年齢別、同居家族別］

（%）

		標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重することについて学ぶこと	発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	多様な性のあり方について理解を深める教育を進めること	生活指導や進路指導において、性別にかかわりなく能力を活かせるよう配慮すること	男女平等（ジェンダー平等）教育の理解と協力を深めること	働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと	管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと	教職員に対する男女平等（ジェンダー平等）などの研修を行うこと	その他	無回答
全体		1,153	750	269	270	182	585	233	562	83	155	19	65
		100.0	65.0	23.3	23.4	15.8	50.7	20.2	48.7	7.2	13.4	1.6	5.6
年齢別	女性:29歳以下	33	60.6	24.2	33.3	36.4	36.4	24.2	21.2	18.2	24.2	－	3.0
	女性:30歳代	33	75.8	57.6	9.1	21.2	30.3	21.2	48.5	15.2	9.1	－	－
	女性:40歳代	73	64.4	24.7	30.1	26.0	42.5	13.7	54.8	9.6	9.6	2.7	1.4
	女性:50歳代	81	69.1	14.8	28.4	18.5	49.4	25.9	53.1	6.2	12.3	－	2.5
	女性:60歳代	157	70.7	20.4	25.5	15.9	51.6	18.5	55.4	3.2	9.6	1.9	3.8
	女性:70歳以上	279	62.4	23.7	17.6	12.2	56.3	17.2	52.7	5.0	12.2	－	9.3
	男性:29歳以下	16	62.5	37.5	25.0	12.5	50.0	18.8	37.5	6.3	6.3	－	6.3
	男性:30歳代	24	62.5	37.5	25.0	8.3	54.2	12.5	33.3	8.3	20.8	12.5	4.2
	男性:40歳代	40	67.5	30.0	30.0	15.0	50.0	15.0	37.5	10.0	17.5	2.5	2.5
	男性:50歳代	51	51.0	15.7	35.3	17.6	41.2	25.5	51.0	5.9	7.8	7.8	7.8
	男性:60歳代	75	70.7	20.0	29.3	18.7	45.3	25.3	50.7	2.7	20.0	－	2.7
	男性:70歳以上	208	67.8	22.6	21.2	10.6	57.7	25.0	47.6	10.1	16.8	1.9	4.3
	回答しない・該当しない	21	52.4	28.6	19.0	19.0	38.1	19.0	19.0	19.0	14.3	4.8	4.8
	無回答	62	54.8	17.7	19.4	17.7	48.4	16.1	41.9	6.5	12.9	1.6	16.1
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	25	80.0	40.0	12.0	24.0	48.0	20.0	36.0	20.0	16.0	4.0	－
	未就学児	36	77.8	36.1	13.9	25.0	47.2	8.3	44.4	16.7	11.1	5.6	－
	小・中・義務教育学校の児童生徒	93	75.3	25.8	30.1	19.4	44.1	15.1	53.8	9.7	10.8	2.2	1.1
	高校生	58	70.7	24.1	31.0	17.2	41.4	25.9	56.9	5.2	13.8	1.7	－
	専門学校生	11	81.8	36.4	36.4	18.2	54.5	27.3	45.5	－	－	－	－
	大学・短大生	35	68.6	28.6	31.4	22.9	42.9	17.1	40.0	14.3	11.4	－	5.7
	65歳以上の人	726	64.9	22.3	20.8	13.2	54.1	20.4	51.9	7.0	12.5	1.5	6.2
	上記以外の人	598	67.2	24.6	26.6	18.2	47.0	20.2	48.3	7.7	13.0	2.5	3.2
	無回答	61	54.1	18.0	19.7	16.4	47.5	16.4	42.6	6.6	13.1	1.6	16.4

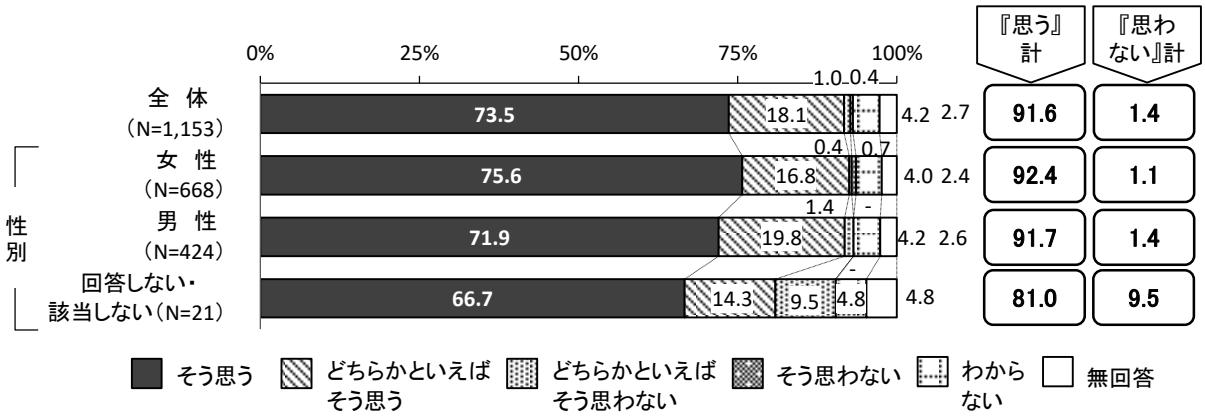
４．妊娠や性に関する考え方

・「妊娠や性に関して配偶者等の間で十分に話し合うべき」は『思う』が約9割、「妊娠や性に関して夫婦等の間で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」は約7割。
・「妊娠や性に関して配偶者等の間で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」の方が『思う』の割合が 18.5 ポイント低い。

問６　次の（ア）、（イ）の項目について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ１つ選んでください。

（ア）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである

図表２－27　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである
［全体、性別］



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方について、「そう思う」が 73.5％と最も高く、「どちらかといえばそう思う」が 18.1％でこれらをあわせた『思う』は 91.6％となっている。「そう思わない」（0.4％）と「どちらかといえばそう思う」（1.0％）をあわせた『思わない』は 1.4％とわずかである。

性別でみると、『思う』は女性が 92.4％、男性が 91.7％と差はないが、より積極的な「そう思う」（女性 75.6％、男性 71.9％）は女性が 3.7 ポイントとわずかに高くなっている。

年齢別でみると、積極的な「そう思う」は女性の 29 歳以下と男性の 30 歳代以下では９割を超えているが、50 歳代以上の男性では６割台と低くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも既婚で『思う』が９割台半ばと離・死別や未婚より高くなっている。

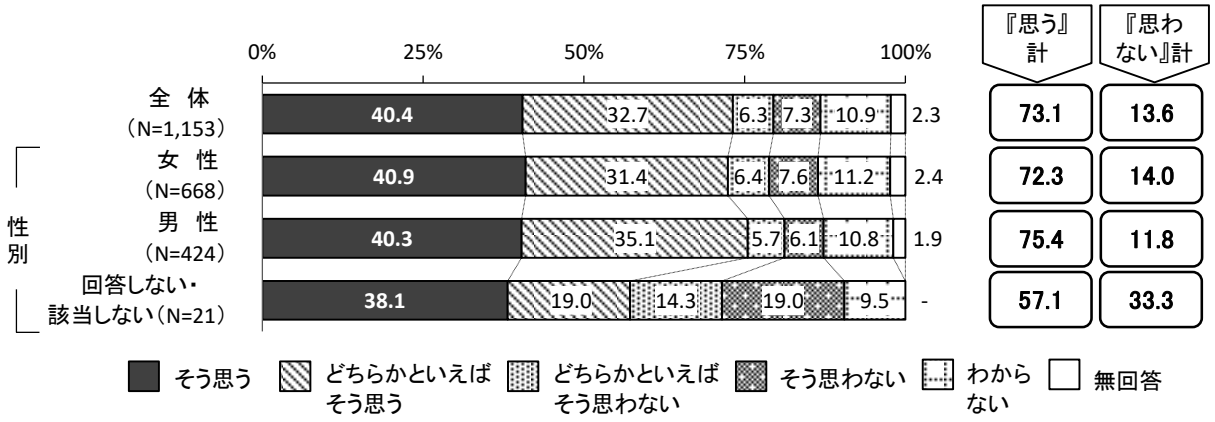
図表２－28　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである
［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	『思う』計	『思わない』計
全体		1,153	847	209	12	5	49	31	1,056	17
		100.0	73.5	18.1	1.0	0.4	4.2	2.7	91.6	1.4
年齢別	女性:29歳以下	33	93.9	－	－	－	3.0	3.0	93.9	－
	女性:30歳代	33	78.8	18.2	－	－	－	3.0	97.0	－
	女性:40歳代	73	79.5	15.1	1.4	－	2.7	1.4	94.6	1.4
	女性:50歳代	81	80.2	13.6	－	－	4.9	1.2	93.8	－
	女性:60歳代	157	73.9	20.4	0.6	0.6	3.2	1.3	94.3	1.2
	女性:70歳以上	279	71.7	17.9	0.4	1.4	5.4	3.2	89.6	1.8
	男性:29歳以下	16	93.8	6.3	－	－	－	－	100.1	－
	男性:30歳代	24	91.7	－	－	－	4.2	4.2	91.7	－
	男性:40歳代	40	85.0	15.0	－	－	－	－	100.0	－
	男性:50歳代	51	68.6	17.6	－	－	5.9	7.8	86.2	－
	男性:60歳代	75	66.7	26.7	2.7	－	2.7	1.3	93.4	2.7
	男性:70歳以上	208	67.8	22.1	1.9	－	5.8	2.4	89.9	1.9
	回答しない・該当しない	21	66.7	14.3	9.5	－	4.8	4.8	81.0	9.5
	無回答	62	64.5	22.6	1.6	－	4.8	6.5	87.1	1.6
配偶関係別	女性:既婚	367	76.8	17.4	0.3	0.5	3.5	1.4	94.2	0.8
	女性:離・死別	185	70.8	18.9	0.5	1.1	3.8	4.9	89.7	1.6
	女性:未婚	88	80.7	10.2	1.1	1.1	5.7	1.1	90.9	2.2
	男性:既婚	262	70.6	24.4	0.8	－	2.7	1.5	95.0	0.8
	男性:離・死別	56	80.4	8.9	3.6	－	5.4	1.8	89.3	3.6
	男性:未婚	88	70.5	14.8	2.3	－	8.0	4.5	85.3	2.3
	回答しない・該当しない	21	66.7	14.3	9.5	－	4.8	4.8	81.0	9.5
	無回答	86	66.3	18.6	1.2	－	7.0	7.0	84.9	1.2

（イ）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである

図表２－29　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである［全体、性別］



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」という考え方について、「そう思う」（40.4%）と「どちらかといえばそう思う」（32.7%）をあわせた『思う』は 73.1%、「そう思わない」（7.3%）、「どちらかといえばそう思わない」（6.3%）をあわせた『思わない』は 13.6%である。「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」に比べて『思う』の割合が 18.5 ポイント低くなっている。

性別でみると、あまり大きな差はない。

年齢別でみると、女性の 30 歳代、40 歳代と男性の 29 歳以下と 50 歳代で『思う』が５割台半ばから６割台半ばと低くなっている。また、男女とも 30 歳代で『思わない』が２割台半ばと比較的高い。一方、男性の 40 歳代では『思う』が 85.0％と高くなっている。

配偶関係別でみると、男性は既婚で『思う』が 83.2％と高い。また、男女の未婚と男性の離・死別で『思う』が６割台と低くなっている。

図表２－30　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	『思う』計	『思わない』計
全体		1,153	466	377	73	84	126	27	843	157
		100.0	40.4	32.7	6.3	7.3	10.9	2.3	73.1	13.6
年齢別	女性:29歳以下	33	42.4	33.3	15.2	3.0	3.0	3.0	75.7	18.2
	女性:30歳代	33	39.4	24.2	15.2	9.1	9.1	3.0	63.6	24.3
	女性:40歳代	73	41.1	24.7	5.5	12.3	15.1	1.4	65.8	17.8
	女性:50歳代	81	42.0	33.3	4.9	8.6	11.1	－	75.3	13.5
	女性:60歳代	157	40.1	33.8	6.4	8.3	10.2	1.3	73.9	14.7
	女性:70歳以上	279	40.5	32.3	5.4	6.5	11.8	3.6	72.8	11.9
	男性:29歳以下	16	43.8	18.8	6.3	12.5	18.8	－	62.6	18.8
	男性:30歳代	24	33.3	37.5	4.2	20.8	4.2	－	70.8	25.0
	男性:40歳代	40	45.0	40.0	5.0	2.5	7.5	－	85.0	7.5
	男性:50歳代	51	27.5	29.4	7.8	9.8	17.6	7.8	56.9	17.6
	男性:60歳代	75	38.7	44.0	5.3	5.3	6.7	－	82.7	10.6
	男性:70歳以上	208	44.2	32.7	5.8	3.4	12.0	1.9	76.9	9.2
	回答しない・該当しない	21	38.1	19.0	14.3	19.0	9.5	－	57.1	33.3
	無回答	62	37.1	35.5	4.8	8.1	8.1	6.5	72.6	12.9
配偶関係別	女性:既婚	367	41.7	32.4	5.7	9.3	10.4	0.5	74.1	15.0
	女性:離・死別	185	41.1	32.4	4.9	5.4	11.4	4.9	73.5	10.3
	女性:未婚	88	39.8	27.3	13.6	3.4	13.6	2.3	67.1	17.0
	男性:既婚	262	43.1	40.1	6.1	2.3	7.6	0.8	83.2	8.4
	男性:離・死別	56	39.3	26.8	7.1	12.5	12.5	1.8	66.1	19.6
	男性:未婚	88	35.2	26.1	4.5	11.4	19.3	3.4	61.3	15.9
	回答しない・該当しない	21	38.1	19.0	14.3	19.0	9.5	－	57.1	33.3
	無回答	86	32.6	31.4	4.7	11.6	10.5	9.3	64.0	16.3

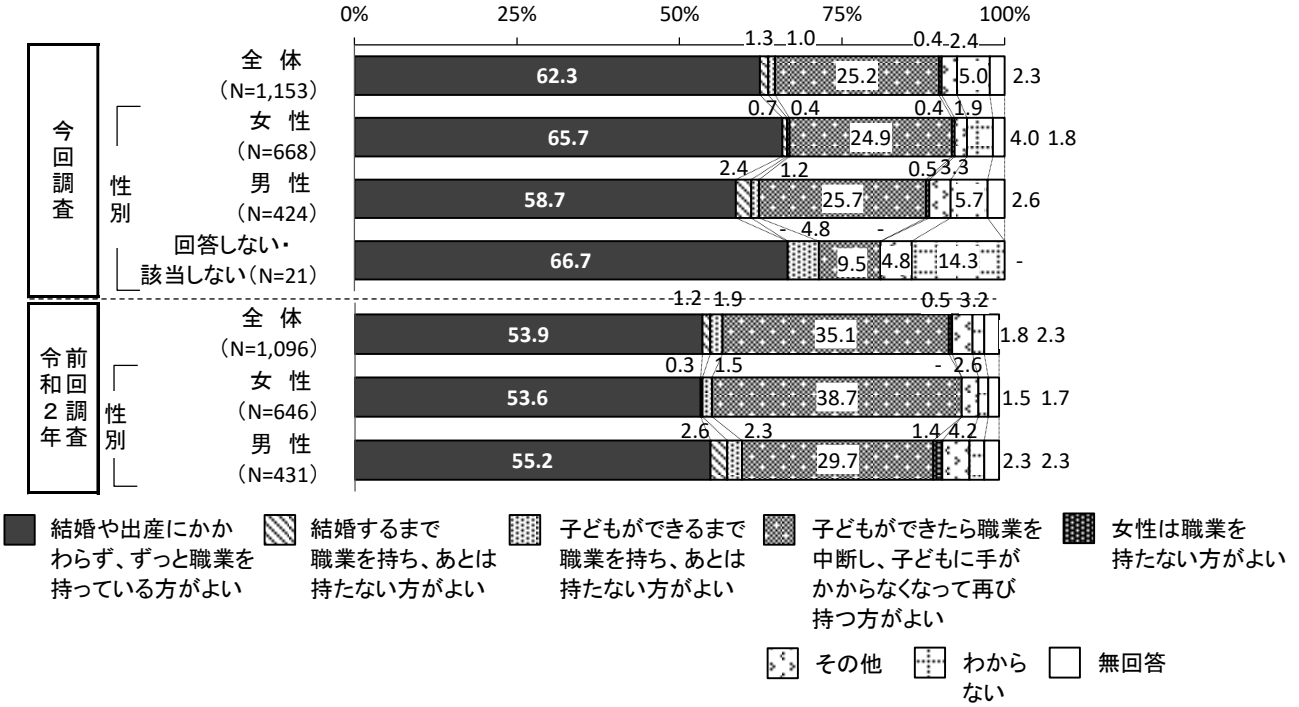
第３章　就労・働き方について

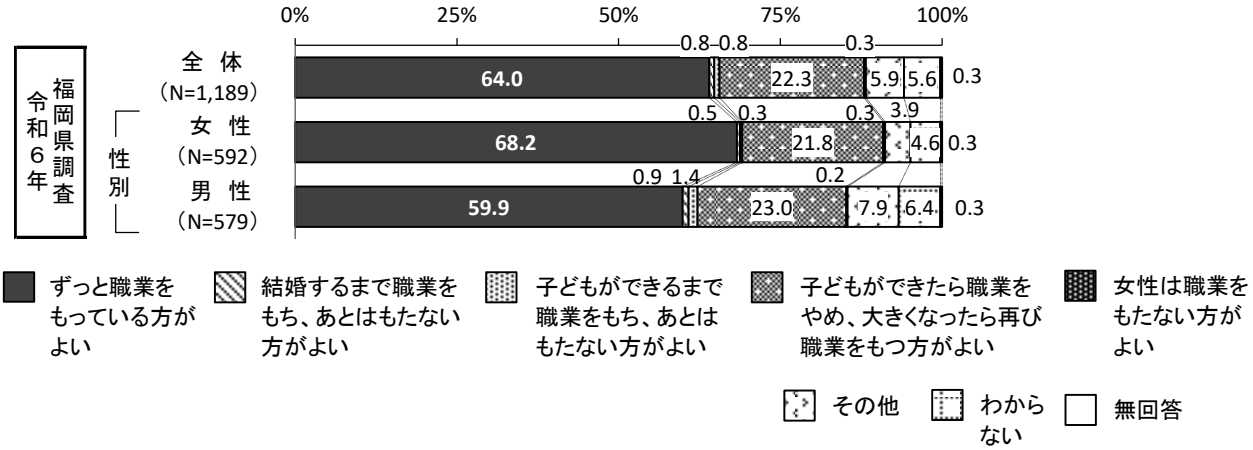
１．女性が職業を持つことについて

・「就労継続」が女性で6割台半ば、男性で約6割で、女性の就労継続に肯定的な人が多い。
・前回調査に比べ、「就労継続」が女性で約 12 ポイント、男性で約4ポイント増加。

問７　一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。１つ選んでください。

図表３－１　女性が職業を持つことについて［全体、性別］（前回・福岡県調査比較）





女性が職業を持つことについて「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が 62.3%で最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」という中断・再就職が 25.2%となっている。「結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.3%)、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.0%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.4%) という専業主婦志向は合計で 2.7%とわずかで、女性が職業を持つことに対して肯定的な人が大半である。

性別でみると、就労継続は女性が 65.7%、男性が 58.7%と、女性が男性より 7.0 ポイント高くなっている。中断・再就職は女性が 24.9%で男性 (25.7%) と差はない。

前回調査と比べると、就労継続が女性で 12.1 ポイント、男性で 3.5 ポイント増加しており、女性の方がより就労継続に肯定的になっている。一方、中断・再就職は女性で 13.8 ポイント、男性で 4.0 ポイント減少している。

福岡県調査と比べると、男女ともあまり大きな違いはみられない。

年齢別でみると、就労継続は女性の 30 歳代で 81.8％と非常に高い。中断・再就職は女性の 29 歳以下と 70 歳以上、男性の 70 歳以上で３割前後と比較的高い。

配偶関係別でみると、女性の離・死別は就労継続が 57.8％で既婚（69.5％）や未婚（72.7％）より低く、中断・再就職がやや高くなっている。

図表３－２　女性が職業を持つことについて［全体、年齢別、配偶関係別］

（％）

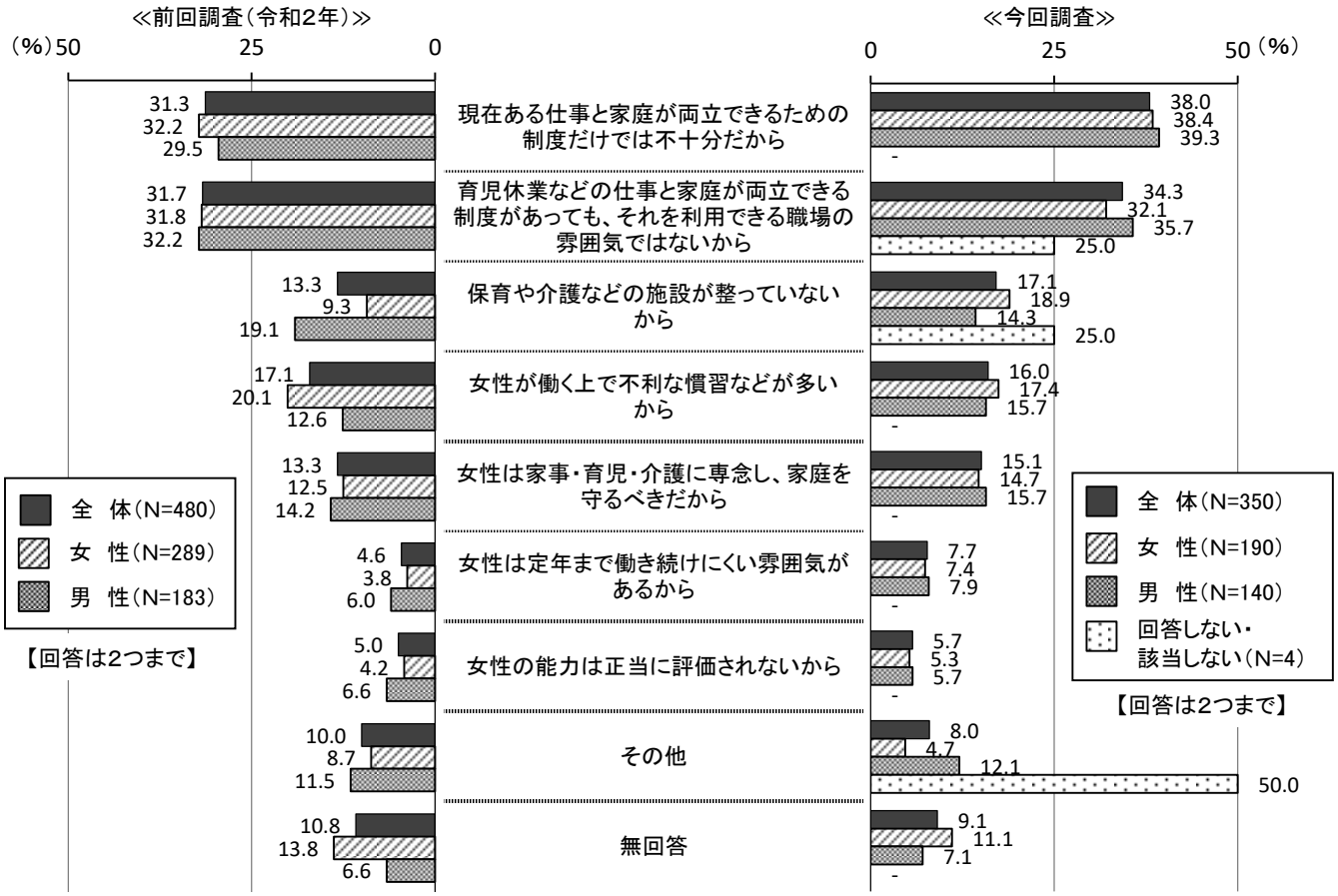
		標本数	結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい	結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい	女性は職業を持たない方がよい	その他	わからない	無回答
全体		1,153	718	15	11	291	5	28	58	27
		100.0	62.3	1.3	1.0	25.2	0.4	2.4	5.0	2.3
年齢別	女性:29歳以下	33	69.7	－	－	27.3	－	－	3.0	－
	女性:30歳代	33	81.8	－	－	12.1	－	6.1	－	－
	女性:40歳代	73	67.1	1.4	－	21.9	－	5.5	2.7	1.4
	女性:50歳代	81	76.5	1.2	－	14.8	－	1.2	4.9	1.2
	女性:60歳代	157	72.0	－	0.6	21.0	－	1.3	3.8	1.3
	女性:70歳以上	279	57.0	1.1	0.7	31.9	1.1	1.4	4.3	2.5
	男性:29歳以下	16	62.5	－	－	25.0	－	6.3	6.3	－
	男性:30歳代	24	70.8	－	－	25.0	－	－	4.2	－
	男性:40歳代	40	65.0	－	2.5	15.0	2.5	－	15.0	－
	男性:50歳代	51	56.9	－	－	17.6	－	11.8	7.8	5.9
	男性:60歳代	75	70.7	4.0	－	22.7	－	－	2.7	－
	男性:70歳以上	208	53.8	3.4	1.9	29.3	0.5	2.9	4.8	3.4
	回答しない･該当しない	21	66.7	－	4.8	9.5	－	4.8	14.3	－
	無回答	62	38.7	－	3.2	37.1	－	1.6	9.7	9.7
配偶関係別	女性:既婚	367	69.5	0.3	0.5	22.9	－	2.5	2.5	1.9
	女性:離･死別	185	57.8	1.6	0.5	30.3	1.1	2.2	4.3	2.2
	女性:未婚	88	72.7	－	－	20.5	－	－	6.8	－
	男性:既婚	262	59.9	2.7	1.5	26.3	0.4	2.7	5.0	1.5
	男性:離･死別	56	62.5	1.8	－	25.0	－	3.6	3.6	3.6
	男性:未婚	88	59.1	2.3	1.1	21.6	1.1	3.4	9.1	2.3
	回答しない･該当しない	21	66.7	－	4.8	9.5	－	4.8	14.3	－
	無回答	86	39.5	1.2	2.3	33.7	1.2	2.3	10.5	9.3

２．女性が職業を続けない方がよいと思う理由

女性が職業を続けない方がよいと思う理由は「現在ある制度だけでは不十分だから」「仕事と家庭の両立支援制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」が3割台で多い。

問７付問１【問７で「２.」～「６.」のいずれかに答えた方におたずねします】
あなたが、そう思う理由は何ですか。２つまで選んでください。

図表３－３　女性が職業を続けない方がよいと思う理由［全体、性別］（前回調査比較）



就労継続以外の回答をした人に、女性が職業を継続しない方がよいと考える理由をたずねた。「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」（38.0%）と「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」（34.3%）が３割台で上位にあげられている。次いで「保育や介護などの施設が整っていないから」が 17.1%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が 16.0%、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が 15.1%などとなっている。

性別でみると、「保育や介護などの施設が整っていないから」（女性 18.9%、男性 14.3%）は女性が男性よりも 4.6 ポイント高いが、全体としては大きな差はない。

前回調査と比べると、男女とも「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が 6.2～9.8 ポイント増加している。また、女性では「保育や介護などの施設が整っていないから」が 9.6 ポイント増加しているが、男性では 4.8 ポイント減少している。

年齢別でみると、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は女性の 30 歳代で 83.3％と高い。また、男性の 40 歳代でも 62.5％と高くなっている。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は男性の 30 歳代で 50.0％と高い。「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は女性の 29 歳以下で 33.3％と比較的高くなっている。

図表３－４　女性が職業を続けない方がよいと思う理由［全体、年齢別］

(%)

		標本数	女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから	女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから	女性の能力は正当に評価されないから	女性が働く上で不利な慣習などが多いから	育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから	現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから	保育や介護などの施設が整っていないから	その他	無回答
全体		350	53	27	20	56	120	133	60	28	32
		100.0	15.1	7.7	5.7	16.0	34.3	38.0	17.1	8.0	9.1
年齢別	女性:29歳以下	9	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3	55.6	－	－	－
	女性:30歳代	6	－	－	－	33.3	16.7	83.3	16.7	16.7	－
	女性:40歳代	21	19.0	－	4.8	4.8	28.6	47.6	9.5	19.0	4.8
	女性:50歳代	14	14.3	14.3	7.1	28.6	21.4	28.6	21.4	7.1	7.1
	女性:60歳代	36	8.3	5.6	－	13.9	27.8	47.2	36.1	5.6	8.3
	女性:70歳以上	101	15.8	8.9	6.9	18.8	37.6	29.7	16.8	1.0	14.9
	男性:29歳以下	5	20.0	20.0	－	－	40.0	40.0	40.0	－	－
	男性:30歳代	6	－	－	－	33.3	50.0	50.0	－	16.7	－
	男性:40歳代	8	12.5	－	－	12.5	12.5	62.5	12.5	25.0	－
	男性:50歳代	15	26.7	－	6.7	13.3	20.0	26.7	－	40.0	－
	男性:60歳代	20	5.0	25.0	5.0	30.0	30.0	55.0	15.0	－	5.0
	男性:70歳以上	79	16.5	6.3	6.3	13.9	39.2	35.4	16.5	8.9	10.1
	回答しない･該当しない	4	－	－	－	－	25.0	－	25.0	50.0	－
	無回答	26	19.2	7.7	11.5	7.7	46.2	34.6	15.4	3.8	11.5

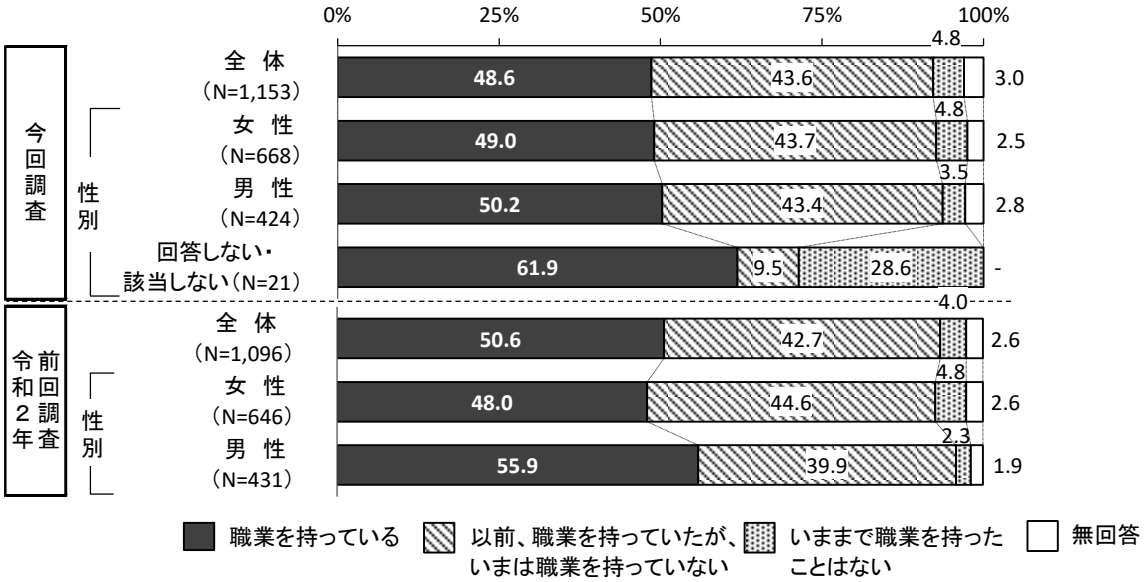
３．職業について

（１）職業の有無

女性で「職業を持っている」人は 49.0%で、特に 30 歳代から 50 歳代では8割台と高い。

問８　あなたは、いま職業（収入のある仕事）を持っていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。１つ選んでください。

図表３－５　職業の有無［全体、性別］（前回調査比較）



現在「職業を持っている」人は 48.6%、「以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない」が 43.6%である。

性別でみると、ほとんど差はみられない。

前回調査と比べると、男性で「職業を持っている」が 5.7 ポイント減少している。

年齢別でみると、女性の 30 歳代から 50 歳代では「職業を持っている」が８割台と高い。男性も 40 歳代以下では「職業を持っている」が約８割から９割に上る。

図表３－６　職業の有無［全体、年齢別］

(%)

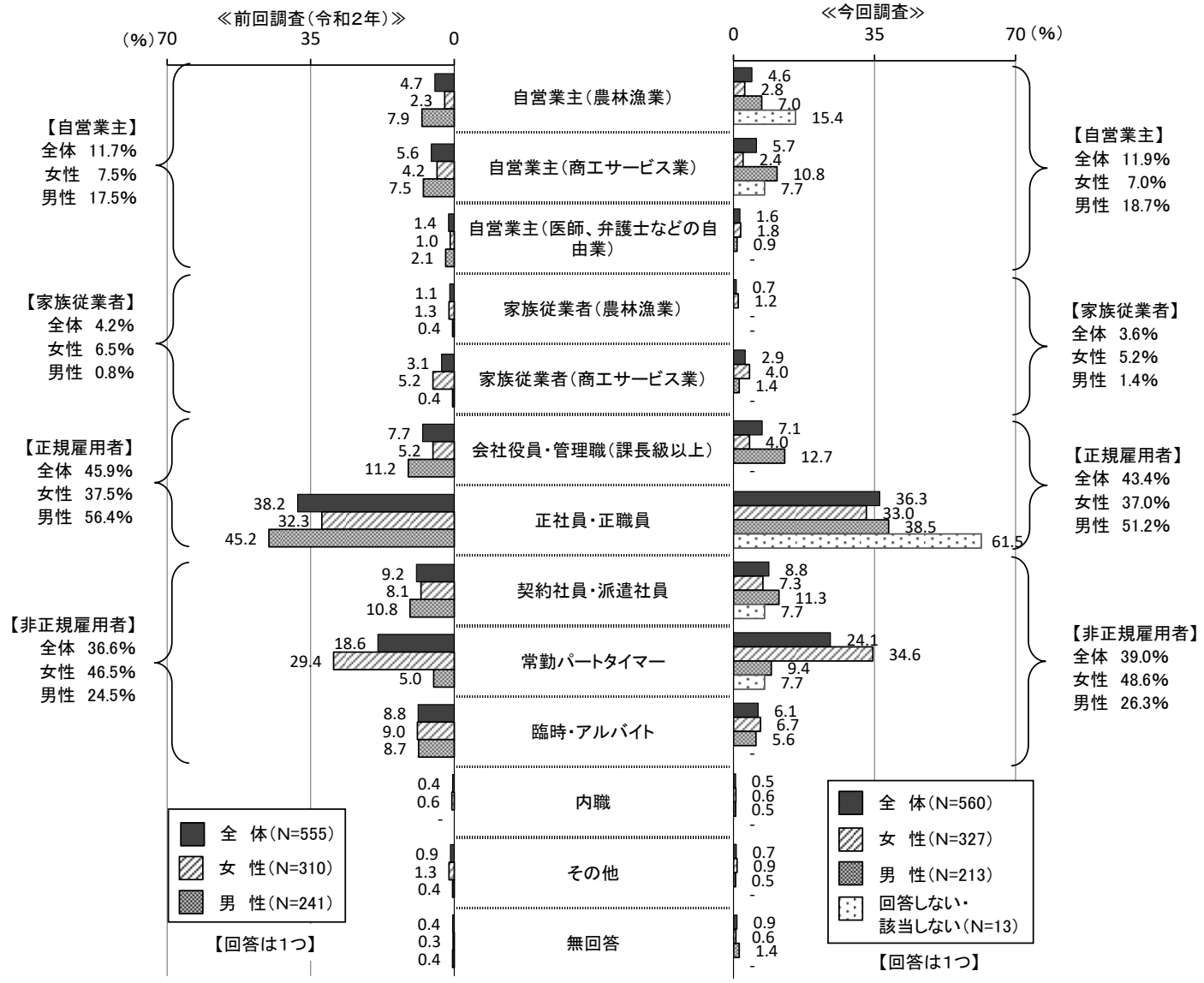
		標本数	職業を持っている	以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない	いままで職業を持ったことはない	無回答
全体		1,153 100.0	560 48.6	503 43.6	55 4.8	35 3.0
年齢別	女性:29歳以下	33	63.6	6.1	30.3	－
	女性:30歳代	33	81.8	15.2	3.0	－
	女性:40歳代	73	84.9	15.1	－	－
	女性:50歳代	81	84.0	14.8	－	1.2
	女性:60歳代	157	57.3	39.5	2.5	0.6
	女性:70歳以上	279	20.4	68.8	5.4	5.4
	男性:29歳以下	16	81.3	－	18.8	－
	男性:30歳代	24	91.7	8.3	－	－
	男性:40歳代	40	82.5	12.5	5.0	－
	男性:50歳代	51	76.5	11.8	2.0	9.8
	男性:60歳代	75	72.0	25.3	2.7	－
	男性:70歳以上	208	23.6	70.7	3.4	2.4
	回答しない・該当しない	21	61.9	9.5	28.6	－
	無回答	62	19.4	61.3	6.5	12.9

（２）就労形態

・男性は『正規雇用者』が5割超、女性は『非正規雇用者』が約5割。
・前回調査に比べ、男女とも「常勤パートタイマー」の割合が増加している。

問８付問１ **【問８で「１．職業を持っている」と答えた方におたずねします】**
あなたの職業は次のどれですか。１つ選んでください。

図表３－７　就労形態［全体、性別］（前回調査比較）



「職業を持っている」人の就労形態は、雇用者が 82.4％で最も多く、その内訳は『正規雇用者』が 43.4％で、『非正規雇用者』が 39.0％である。自営業は 15.5％でそのうち『自営業主』が 11.9％、『家族従業者』が 3.6％となっている。

性別でみると、女性は『非正規雇用者』の割合が 48.6%で男性（26.3%）よりも高く、非正規雇用の中でも「常勤パートタイマー」が 34.6%と男性の 9.4%より 25.2 ポイントも高い。男性は『正規雇用者』の割合が 51.2%で女性（37.0%）より高く、そのうち「正社員、正職員」（女性 33.0%、男性 38.5%）は 5.5 ポイント、「会社役員・管理職（課長級以上）」（同 4.0%、12.7%）は 8.7 ポイント男性の方が高い。また、『自営業主』（同 7.0%、18.7%）も男性の方が 11.7 ポイント高く、『家族従業者』（同 5.2%、1.4%）は女性の方が 3.8 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性の『正規雇用者』が 5.2 ポイント減っており、そのなかでも「正社員・正職員」が 6.7 ポイント減少している。「常勤パートタイマー」は女性で 5.2 ポイント、男性で 4.4 ポイント増加している。

年齢別でみると、「正社員・正職員」は女性では 29 歳以下で 71.4%と高くなっている。30 歳代から 50 歳代でも４割台と比較的高い。女性の 60 歳以上では『非正規雇用者』が約５割から６割台半ばと高い。男性でも 60 歳代以上で『非正規雇用』が４割台と高く、29 歳以下でも 30.8%と比較的高い。『自営業主』は男女とも 70 歳以上で高い。

図表３－８　就労形態［全体、年齢別］

（%）

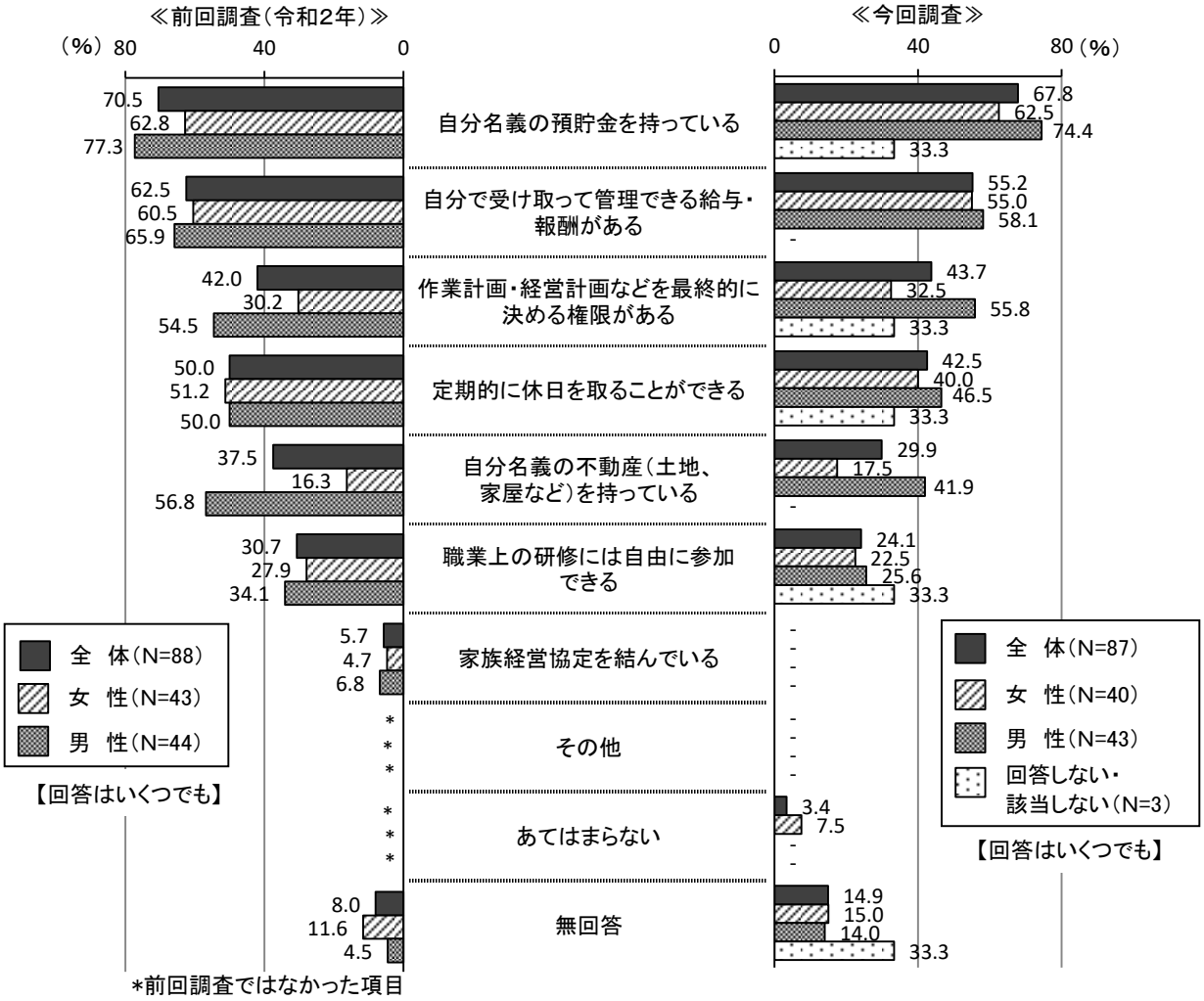
		標本数	自営業主（農林漁業）	自営業主（商工サービス業）	自営業主（医師、弁護士などの自由業）	家族従業者（農林漁業）	家族従業者（商工サービス業）	会社役員・管理職（課長級以上）	正社員・正職員	契約社員・派遣社員	常勤パートタイマー	臨時・アルバイト	内職	その他	無回答	『自営業主』	『家族従業者』	『正規雇用者』	『非正規雇用者』
全体		560	26	32	9	4	16	40	203	49	135	34	3	4	5	67	20	243	218
		100.0	4.6	5.7	1.6	0.7	2.9	7.1	36.3	8.8	24.1	6.1	0.5	0.7	0.9	11.9	3.6	43.4	39.0
年齢別	女性:29歳以下	21	9.5	－	－	－	－	－	71.4	4.8	14.3	－	－	－	－	9.5	－	71.4	19.1
	女性:30歳代	27	7.4	3.7	－	－	3.7	－	48.1	3.7	33.3	－	－	－	－	11.1	3.7	48.1	37.0
	女性:40歳代	62	1.6	1.6	－	－	1.6	4.8	46.8	8.1	30.6	4.8	－	－	－	3.2	1.6	51.6	43.5
	女性:50歳代	68	1.5	1.5	－	2.9	5.9	2.9	42.6	7.4	33.8	－	－	1.5	－	3.0	8.8	45.5	41.2
	女性:60歳代	90	1.1	3.3	1.1	2.2	3.3	3.3	14.4	12.2	41.1	13.3	1.1	2.2	1.1	5.5	5.5	17.7	66.6
	女性:70歳以上	57	3.5	3.5	8.8	－	7.0	8.8	14.0	1.8	36.8	12.3	1.8	－	1.8	15.8	7.0	22.8	50.9
	男性:29歳以下	13	7.7	－	－	－	－	－	61.5	7.7	7.7	15.4	－	－	－	7.7	－	61.5	30.8
	男性:30歳代	22	4.5	－	－	－	－	9.1	72.7	9.1	－	4.5	－	－	－	4.5	－	81.8	13.6
	男性:40歳代	33	3.0	15.2	3.0	－	3.0	12.1	51.5	6.1	6.1	－	－	－	－	21.2	3.0	63.6	12.2
	男性:50歳代	39	－	12.8	－	－	－	25.6	56.4	－	－	－	－	－	5.1	12.8	－	82.0	－
	男性:60歳代	54	5.6	11.1	－	－	－	13.0	24.1	24.1	13.0	7.4	－	－	1.9	16.7	－	37.1	44.5
	男性:70歳以上	49	14.3	12.2	2.0	－	4.1	8.2	12.2	12.2	20.4	10.2	2.0	2.0	－	28.5	4.1	20.4	42.8
	回答しない・該当しない	13	15.4	7.7	－	－	－	－	61.5	7.7	7.7	－	－	－	－	23.1	－	61.5	15.4
	無回答	12	16.7	8.3	8.3	－	－	－	50.0	－	16.7	－	－	－	－	33.3	－	50.0	16.7

（３）自営業者の就労状況

・「自分名義の不動産を持っている」「作業や経営計画を最終的に決める権限がある」「自分名義の預貯金を持っている」などは男性の方が女性より約 12～24 ポイント高い。
・前回調査に比べ、男女とも「給与・報酬がある」「定期的に休日が取れる」「研修に自由に参加できる」が減少。男性では「自分名義の不動産を持っている」が約 15 ポイント減少している。

問８付付問１ **【問８付問１で「１.」～「５.」のいずれかに答えた方におたずねします】**
あなたの就労状況としては、次のどれにあてはまりますか。いくつでも選んでください。

図表３－９　自営業者の就労状況［全体、性別］（前回調査比較）



自営業に従事する人の就労状況は「自分名義の預貯金を持っている」が 67.8%、「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が 55.2%、「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」が 43.7%、「定期的に休日を取ることができる」が 42.5%などとなっている。

性別でみると、すべての項目で男性の割合が女性に比べて高く、特に「自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている」（女性 17.5%、男性 41.9%）は 24.4 ポイント、「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」（同 32.5%、55.8%）は 23.3 ポイント、「自分名義の預貯金を持っている」（同 62.5%、74.4%）は 11.9 ポイント男性の方が高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が 5.5～7.8 ポイント、「定期的に休日を取ることができる」が 3.5～11.2 ポイント、「職業上の研修には自由に参加できる」が 5.4～8.5 ポイント減少している。また男性では「自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている」が 14.9 ポイントと大きく減少している。

就労形態別でみると、女性の家族従業者では「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」「自分名義の預貯金を持っている」「自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている」の割合が男女の自営業主に比べて低い。一方、女性の自営業主では「定期的に休日を取ることができる」が女性の家族従業者や男性の自営業主より低く、また「自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」が男性の自営業主に比べて低い。

図表３－10　自営業者の就労状況［全体、就労形態別］

（%）

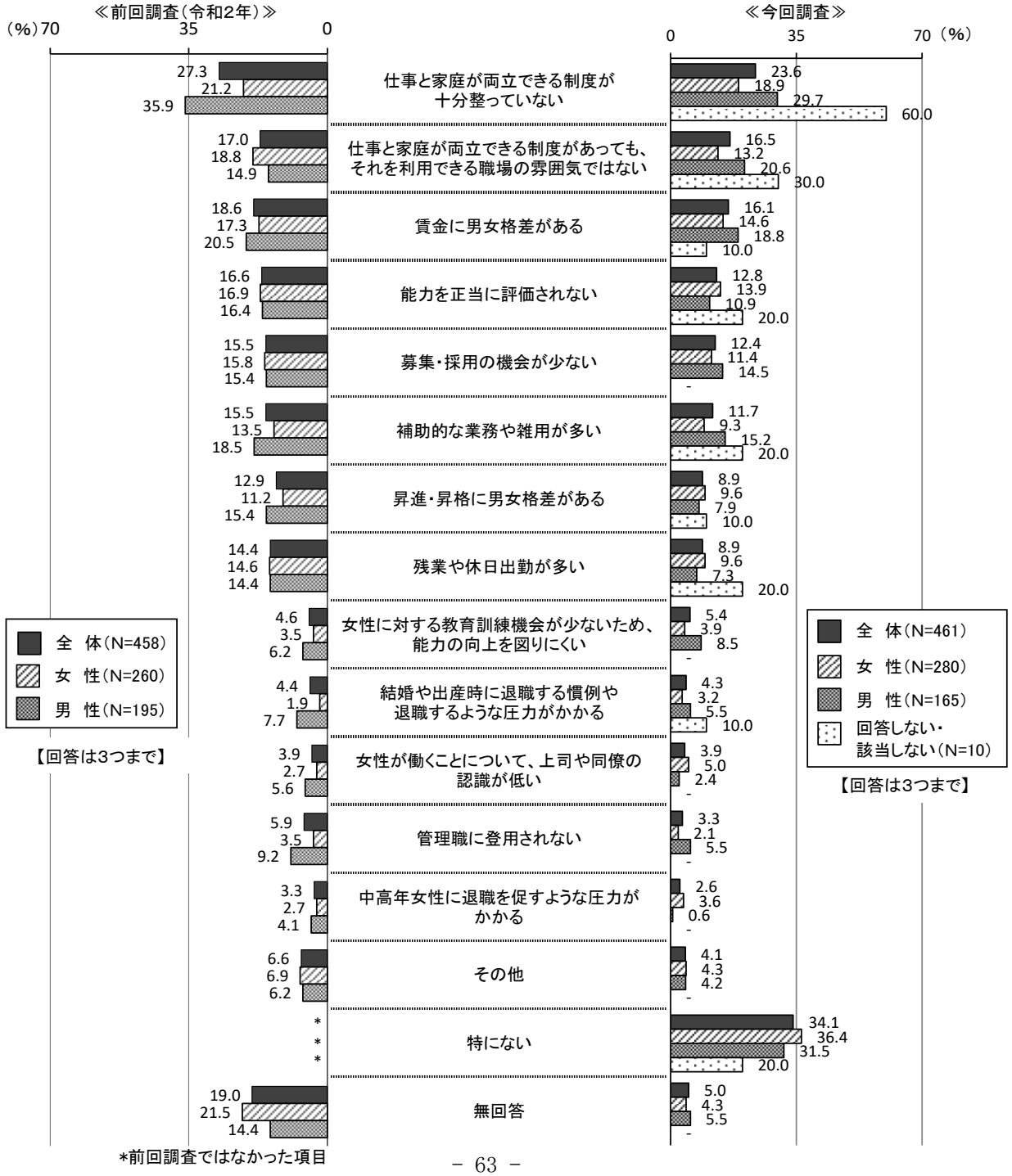
		標本数	自分で受け取って管理できる給与・報酬がある	定期的に休日を取ることができる	職業上の研修には自由に参加できる	作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある	自分名義の預貯金を持っている	自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている	家族経営協定を結んでいる	その他	あてはまらない	無回答
全体		87	48	37	21	38	59	26	－	－	3	13
		100.0	55.2	42.5	24.1	43.7	67.8	29.9	－	－	3.4	14.9
就労形態別	女性:自営業主(農林漁業・商工サービス業・自由業)	23	65.2	34.8	21.7	43.5	69.6	26.1	－	－	－	21.7
	女性:家族従業者(農林漁業・商工サービス業)	17	41.2	47.1	23.5	17.6	52.9	5.9	－	－	17.6	5.9
	男性:家族従業者(農林漁業・商工サービス業)	40	60.0	45.0	27.5	57.5	72.5	45.0	－	－	－	15.0
	男性:家族従業者(農林漁業・商工サービス業)	3	33.3	66.7	－	33.3	100.0	－	－	－	－	－
	回答しない・該当しない	3	－	33.3	33.3	33.3	33.3	－	－	－	－	33.3
	無回答	1	100.0	－	－	－	100.0	100.0	－	－	－	－

（４）雇用者の職場環境

現在の職場で女性にとって働きにくい点は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」「賃金に男女格差がある」が上位3位。

問８付付問２【問８付問１で「６.」～「10.」のいずれかに答えた方におたずねします】
今の職場で女性にとって働きにくい点はどのようなことだと思いますか。３つまで選んでください。

図表３－11　雇用者の職場環境［全体、性別］（前回調査比較）



雇用者に対して、今の職場が女性にとって働きにくい点をたずねた。「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が 23.6%で最も高く、次いで「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」（16.5%）、「賃金に男女格差がある」（16.1%）が１割台半ば、「能力を正当に評価されない」（12.8%）、「募集・採用の機会が少ない」（12.4%）、「補助的な業務や雑用が多い」（11.7%）が１割を超えている。

性別でみると、男性で「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」（女性 18.9%、男性 29.7%）が 10.8 ポイント、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」（同 13.2%、20.6%）が 7.4 ポイント、「補助的な業務や雑用が多い」（同 9.3%、15.2%）が 5.9 ポイント女性より高くなっている。「特にない」（同 36.4%、31.5%）は女性の方が 4.9 ポイント高い。

前回調査と比較すると、「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」は男女とも減少し、特に男性では 6.2 ポイント減少している。また、「残業や休日出勤が多い」も男女とも 5.0～7.1 ポイント減っている。

就労形態別でみると、女性の会社役員・管理職では「募集・採用の機会が少ない」「賃金に男女格差がある」「能力を正当に評価されない」「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」などが高くなっている。男性の会社役員・管理職でも「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が比較的高い。また、男女とも正社員・正職員で「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が他の就労形態に比べて高くなっている。

図表３－12　雇用者の職場環境［全体、就労形態別］

(%)

		標本数	募集・採用の機会が少ない	賃金に男女格差がある	補助的な業務や雑用が多い	能力を正当に評価されない	昇進・昇格に男女格差がある	管理職に登用されない	結婚や出産時に退職する慣例や退職するような圧力がかかる	中高年女性に退職を促すような圧力がかかる	女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい	仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない	残業や休日出勤が多い	仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではない	女性が働くことについて、上司や同僚の認識が低い	その他	特にない	無回答
全体		461	57	74	54	59	41	15	20	12	25	109	41	76	18	19	157	23
		100.0	12.4	16.1	11.7	12.8	8.9	3.3	4.3	2.6	5.4	23.6	8.9	16.5	3.9	4.1	34.1	5.0
就労形態別	女性:会社役員・管理職	13	30.8	38.5	－	23.1	7.7	－	－	－	－	46.2	7.7	7.7	－	－	38.5	－
	女性:正社員・正職員	108	5.6	13.9	11.1	11.1	15.7	3.7	3.7	1.9	4.6	20.4	13.0	19.4	3.7	7.4	32.4	3.7
	女性:非正規	159	13.8	13.2	8.8	15.1	5.7	1.3	3.1	5.0	3.8	15.7	7.5	9.4	6.3	2.5	39.0	5.0
	男性:会社役員・管理職	27	22.2	14.8	18.5	11.1	11.1	－	－	3.7	3.7	37.0	14.8	11.1	－	7.4	33.3	－
	男性:正社員・正職員	82	12.2	22.0	11.0	8.5	3.7	4.9	4.9	－	6.1	30.5	7.3	25.6	4.9	3.7	31.7	4.9
	男性:非正規	56	14.3	16.1	19.6	14.3	12.5	8.9	8.9	－	14.3	25.0	3.6	17.9	－	3.6	30.4	8.9
	回答しない・該当しない	10	－	10.0	20.0	20.0	10.0	－	10.0	－	－	60.0	20.0	30.0	－	－	20.0	－
	無回答	6	16.7	16.7	16.7	－	－	－	16.7	16.7	－	16.7	－	33.3	－	－	16.7	33.3

４．育児休業・介護休業制度について

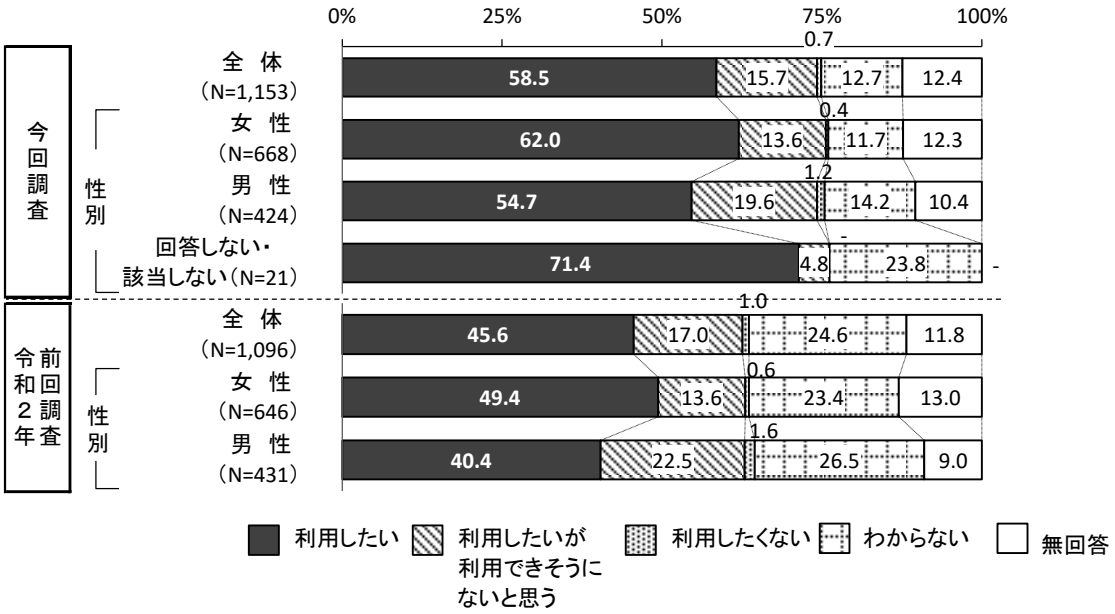
（１）育児休業・介護休業制度の利用意向

「育児休業制度」「介護休業制度」については女性の約6割、男性の5割台半ばが「利用したい」。前回調査に比べ男女とも利用意向が高まっている。

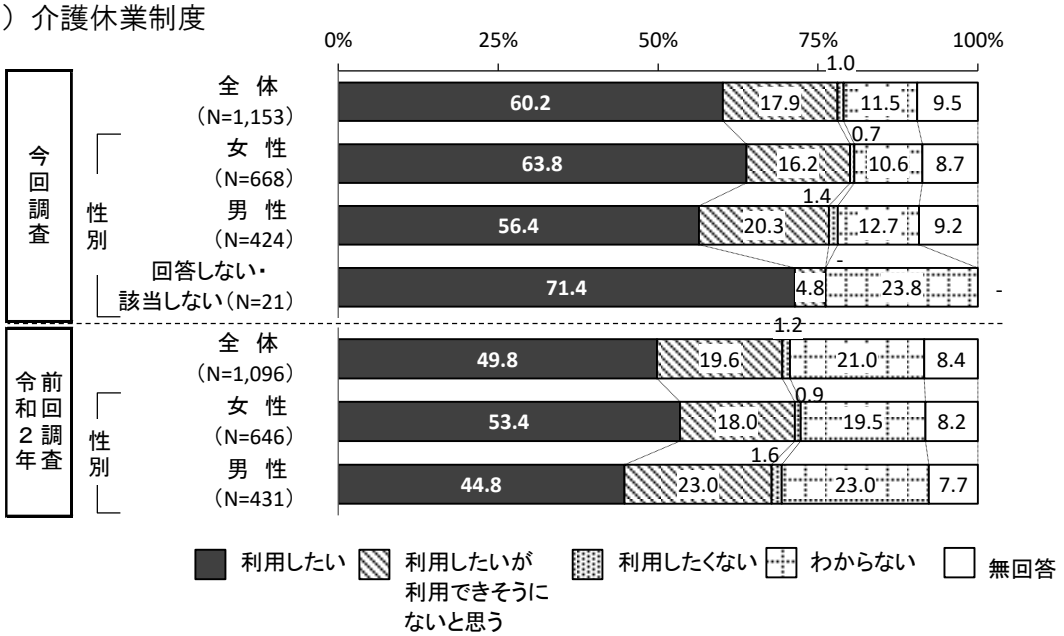
問９　育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。それぞれ１つ選んでください。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。

図表３－13　育児休業・介護休業制度の利用意向［全体、性別］（前回調査比較）

（ア）育児休業制度



（イ）介護休業制度



育児休業制度、介護休業制度の利用意向についてたずねたところ、両制度とも「利用したい」が約６割に上っている。「利用したいが利用できそうにないと思う」は両制度とも１割台半ばで、「利用したくない」はわずかである。

性別でみると、女性は「利用したい」が両制度とも６割を超えているが、男性は５割台半ばで女性に比べてやや低い。男性は「利用したいが利用できそうにないと思う」が約２割と女性よりも 4.1～6.0 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「利用したい」が育児休業制度で 12.6～14.3 ポイント、介護休業制度で 10.4～11.6 ポイント増加しており、男女とも育児・介護休業制度の利用意向が高まっている。

年齢別でみると、男女とも 29 歳以下では「利用したい」が育児休業制度で女性 87.9%、男性 75.0%、介護休業制度で女性 72.7%、男性 75.0%と利用意向が高い。また、育児休業制度については女性の 30 歳代と 40 歳代でも「利用したい」が７割台半ばと高い。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は両制度とも女性の 30 歳代、男性の 40 歳代で２割台半ばから約３割と高くなっている。

就労形態別でみると、「利用したい」は女性の正社員・正職員と女性の自営業主で両制度とも７割を超えている。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は女性の家族従業者と男性の自営業主で３割台半ばから４割と高くなっている。

図表３－14　育児休業・介護休業制度の利用意向［全体、年齢別、就労形態別］

(%)　　(%)

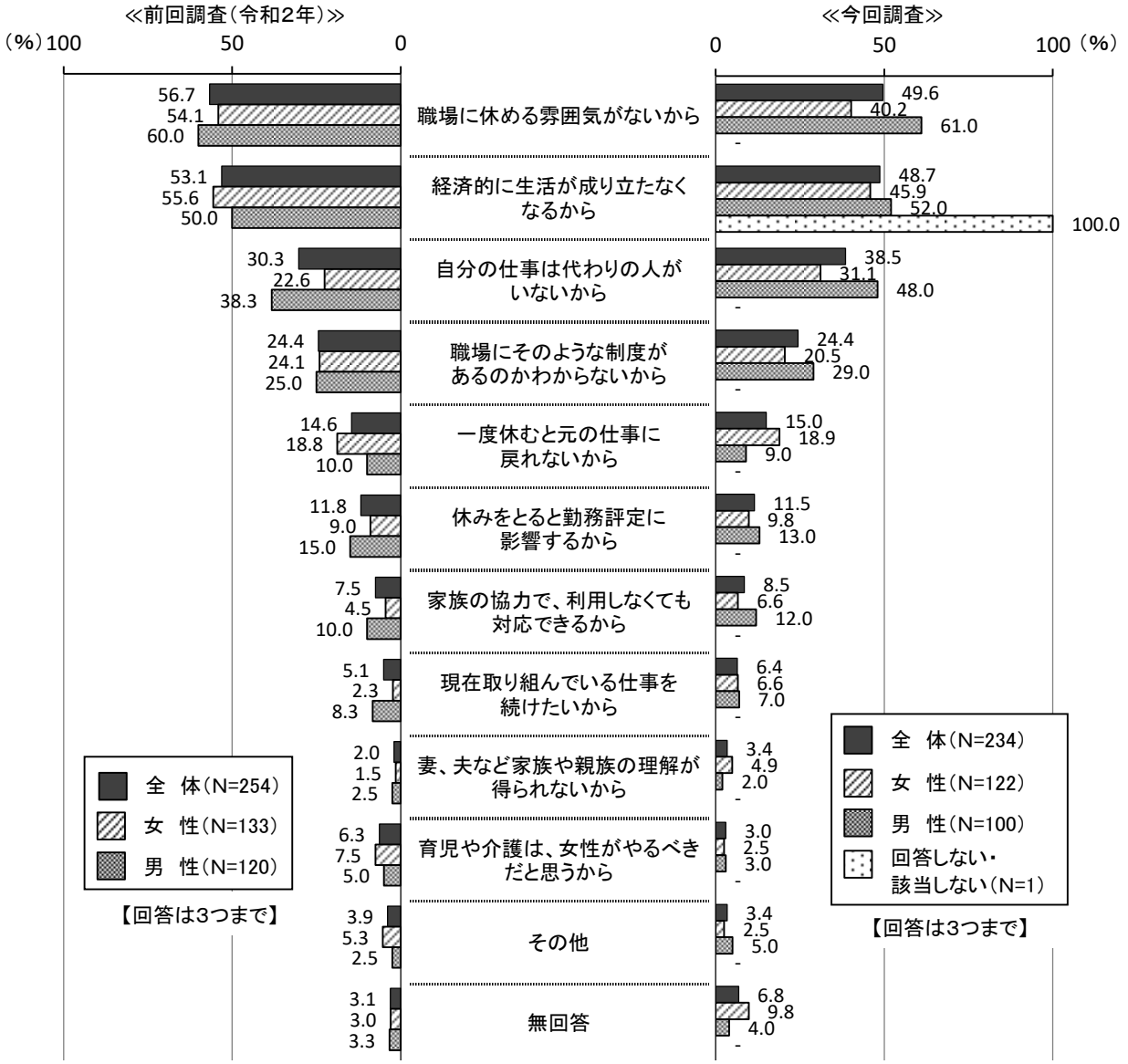
		標本数	(ア)育児休業制度 利用したい	利用したいが利用できそうにないと思う	利用したくない	わからない	無回答	(イ)介護休業制度 利用したい	利用したいが利用できそうにないと思う	利用したくない	わからない	無回答
全体		1,153	675	181	8	146	143	694	206	11	133	109
		100.0	58.5	15.7	0.7	12.7	12.4	60.2	17.9	1.0	11.5	9.5
年齢別	女性:29歳以下	33	87.9	6.1	－	6.1	－	72.7	9.1	－	15.2	3.0
	女性:30歳代	33	75.8	24.2	－	－	－	66.7	30.3	－	3.0	－
	女性:40歳代	73	74.0	17.8	－	5.5	2.7	67.1	27.4	－	2.7	2.7
	女性:50歳代	81	64.2	18.5	－	16.0	1.2	61.7	22.2	－	14.8	1.2
	女性:60歳代	157	65.0	14.6	1.3	10.8	8.3	70.1	15.9	1.3	7.6	5.1
	女性:70歳以上	279	52.7	10.4	0.4	13.6	22.9	59.1	11.1	1.1	12.9	15.8
	男性:29歳以下	16	75.0	12.5	－	12.5	－	75.0	18.8	－	6.3	－
	男性:30歳代	24	58.3	25.0	－	16.7	－	50.0	25.0	4.2	16.7	4.2
	男性:40歳代	40	52.5	30.0	－	10.0	7.5	50.0	32.5	－	10.0	7.5
	男性:50歳代	51	49.0	27.5	－	11.8	11.8	49.0	25.5	－	11.8	13.7
	男性:60歳代	75	52.0	24.0	2.7	17.3	4.0	58.7	22.7	2.7	14.7	1.3
	男性:70歳以上	208	57.2	14.4	1.4	14.4	12.5	59.1	15.9	1.4	13.0	10.6
	回答しない・該当しない	21	71.4	4.8	－	23.8	－	71.4	4.8	－	23.8	－
	無回答	62	33.9	12.9	－	12.9	40.3	37.1	21.0	－	11.3	30.6
就労形態別	女性:自営業主	23	78.3	21.7	－	－	－	78.3	17.4	－	－	4.3
	女性:家族従業者	17	47.1	35.3	－	17.6	－	52.9	35.3	－	11.8	－
	女性:会社役員・管理職	13	53.8	23.1	－	15.4	7.7	69.2	23.1	－	7.7	－
	女性:正社員・正職員	108	76.9	10.2	－	10.2	2.8	72.2	16.7	－	9.3	1.9
	女性:非正規雇用者	159	65.4	15.7	0.6	8.8	9.4	65.4	20.1	0.6	8.2	5.7
	女性:内職・その他	5	40.0	－	－	40.0	20.0	40.0	－	－	40.0	20.0
	男性:自営業主	40	35.0	40.0	5.0	10.0	10.0	42.5	35.0	5.0	7.5	10.0
	男性:家族従業者	3	33.3	33.3	－	33.3	－	66.7	33.3	－	－	－
	男性:会社役員・管理職	27	66.7	25.9	－	7.4	－	63.0	25.9	－	11.1	－
	男性:正社員・正職員	82	63.4	25.6	－	6.1	4.9	62.2	26.8	－	4.9	6.1
	男性:非正規雇用者	56	53.6	14.3	1.8	23.2	7.1	58.9	17.9	1.8	17.9	3.6
	男性:内職・その他	2	100.0	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	回答しない・該当しない	21	71.4	4.8	－	23.8	－	71.4	4.8	－	23.8	－
	無回答	597	53.8	12.9	0.7	14.1	18.6	56.4	14.7	1.2	13.4	14.2

（２）育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由

育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、したくない理由の第１位は、女性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」（45.9%）、男性は「職場に休める雰囲気がないから」（61.0%）。

問９付問１【問９のいずれかで「２.」または「３.」と答えた方におたずねします】
あなたがそう思う理由は何ですか。３つまで選んでください。

図表３－15　育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由
［全体、性別］（前回調査比較）



「育児休業制度」「介護休業制度」を「利用したいが利用できそうにないと思う」「利用したくない」と思う理由は、「職場に休める雰囲気がないから」が 49.6%、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 48.7%と高くなっている。以下、「自分の仕事は代わりの人がいないから」（38.5%）、「職場にそのような制度があるのかわからないから」（24.4%）などが続く。

性別でみると、女性では「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 45.9%、男性は「職場に休める雰囲気がないから」が 61.0%で第１位となっている。回答率を比較すると、「職場に休める雰囲気がないから」(女性 40.2%、男性 61.0%)、「経済的に生活が成り立たなくなるから」(同 45.9%、52.0%)、「自分の仕事は代わりの人がいないから」（同 31.1%、48.0%）、「職場にそのような制度があるのかわからないから」（同 20.5%、29.0%）など、男性の割合が高い項目が多い。女性の方が高いのは「一度休むと元の仕事に戻れないから」（同 18.9%、9.0%）である。

前回調査と比べると、女性では「職場に休める雰囲気がないから」が 13.9 ポイント、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 9.7 ポイント減っているが、男性ではほぼ変化がない。「自分の仕事は代わりの人がいないから」は男女とも 8.5～9.7 ポイント増加している。

年齢別でみると、「経済的に生活が成り立たなくなるから」は男女とも 40 歳代で約７割と高くなっている。男性の 30 歳代では「職場に休める雰囲気がないから」「自分の仕事は代わりの人がいないから」「職場にそのような制度があるのかわからないから」が約７割と高い。また、女性の 60 歳代では「自分の仕事は代わりの人がいないから」が４割台半ばと比較的高くなっている。

就労形態別でみると、男性の正社員・正職員、非正規雇用者では「職場に休める雰囲気がないから」が７割台半ばと高い。「経済的に生活が成り立たなくなるから」は男性の自営業主と正社員・正職員、女性の正社員・正職員などで高くなっている。

図表３－16　育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由

［全体、年齢別、就労形態別］

(%)

		標本数	経済的に生活が成り立たなくなるから	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると勤務評定に影響するから	自分の仕事は代わりの人がいないから	一度休むと元の仕事に戻れないから	現在取り組んでいる仕事を続けたいから	妻、夫など家族や親族の理解が得られないから	家族の協力で、利用しなくても対応できるから	職場にそのような制度があるのかわからないから	育児や介護は、女性がやるべきだと思うから	その他	無回答
全体		234	114	116	27	90	35	15	8	20	57	7	8	16
		100.0	48.7	49.6	11.5	38.5	15.0	6.4	3.4	8.5	24.4	3.0	3.4	6.8
年齢別	女性:29歳以下	3	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	－	－	－	33.3	－	33.3	－
	女性:30歳代	10	50.0	30.0	30.0	20.0	20.0	－	10.0	－	20.0	－	－	－
	女性:40歳代	20	70.0	45.0	10.0	20.0	15.0	5.0	5.0	－	30.0	－	5.0	－
	女性:50歳代	19	52.6	42.1	15.8	21.1	10.5	－	－	5.3	15.8	－	－	10.5
	女性:60歳代	29	44.8	41.4	6.9	44.8	24.1	13.8	－	13.8	13.8	－	－	3.4
	女性:70歳以上	40	32.5	37.5	－	35.0	20.0	7.5	10.0	7.5	22.5	7.5	2.5	20.0
	男性:29歳以下	3	66.7	66.7	－	66.7	－	－	－	－	33.3	－	－	－
	男性:30歳代	7	28.6	71.4	－	71.4	－	14.3	－	14.3	71.4	14.3	－	－
	男性:40歳代	14	71.4	64.3	28.6	28.6	7.1	7.1	－	7.1	35.7	－	－	7.1
	男性:50歳代	15	60.0	60.0	20.0	53.3	－	－	6.7	6.7	13.3	－	－	－
	男性:60歳代	21	66.7	57.1	9.5	57.1	19.0	4.8	－	4.8	4.8	－	14.3	4.8
	男性:70歳以上	39	35.9	61.5	10.3	41.0	10.3	10.3	2.6	17.9	38.5	5.1	5.1	5.1
	回答しない・該当しない	1	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	13	46.2	46.2	15.4	38.5	23.1	－	－	7.7	23.1	7.7	－	7.7
就労形態別	女性:自営業主	5	18.2	－	－	27.3	－	－	－	－	18.2	－	9.1	－
	女性:家族従業者	6	33.3	50.0	16.7	66.7	－	－	－	33.3	－	－	－	－
	女性:会社役員・管理職	3	33.3	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	33.3	－
	女性:正社員・正職員	18	61.1	50.0	11.1	27.8	－	5.6	5.6	－	22.2	－	－	5.6
	女性:非正規雇用者	35	51.4	34.3	17.1	25.7	25.7	11.4	2.9	2.9	20.0	－	－	－
	女性:内職・その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	男性:自営業主	18	83.3	27.8	5.6	77.8	16.7	5.6	5.6	16.7	－	－	5.6	－
	男性:家族従業者	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－
	男性:会社役員・管理職	8	12.5	37.5	12.5	50.0	－	12.5	－	25.0	25.0	－	－	12.5
	男性:正社員・正職員	24	66.7	75.0	16.7	54.2	－	8.3	－	8.3	41.7	－	－	－
	男性:非正規雇用者	12	33.3	75.0	16.7	41.7	25.0	8.3	－	8.3	8.3	8.3	16.7	－
	男性:内職・その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	回答しない・該当しない	1	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	103	40.8	54.4	9.7	29.1	19.4	4.9	4.9	8.7	29.1	5.8	2.9	13.6

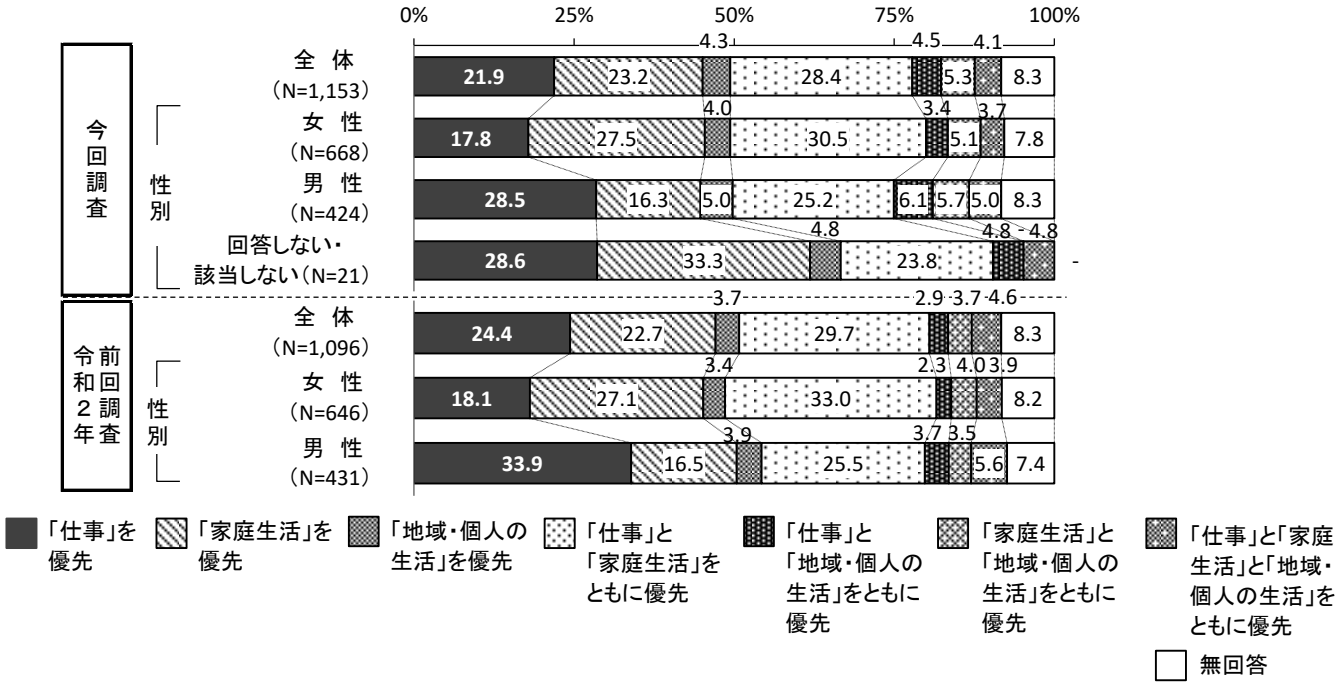
５．「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は理想では 26.3%だが、実際の生活では 4.1%、「仕事を優先」の理想は 2.1%に対し、実際は 21.9%と理想と実際の差が大きい。

問 10　あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。（ア）実際の生活、（イ）理想の生活のそれぞれについて１つ選んでください。

（ア）実際の生活

図表３－17　実際の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度［全体、性別］（前回調査比較）



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について実際と理想のそれぞれについてたずねた。

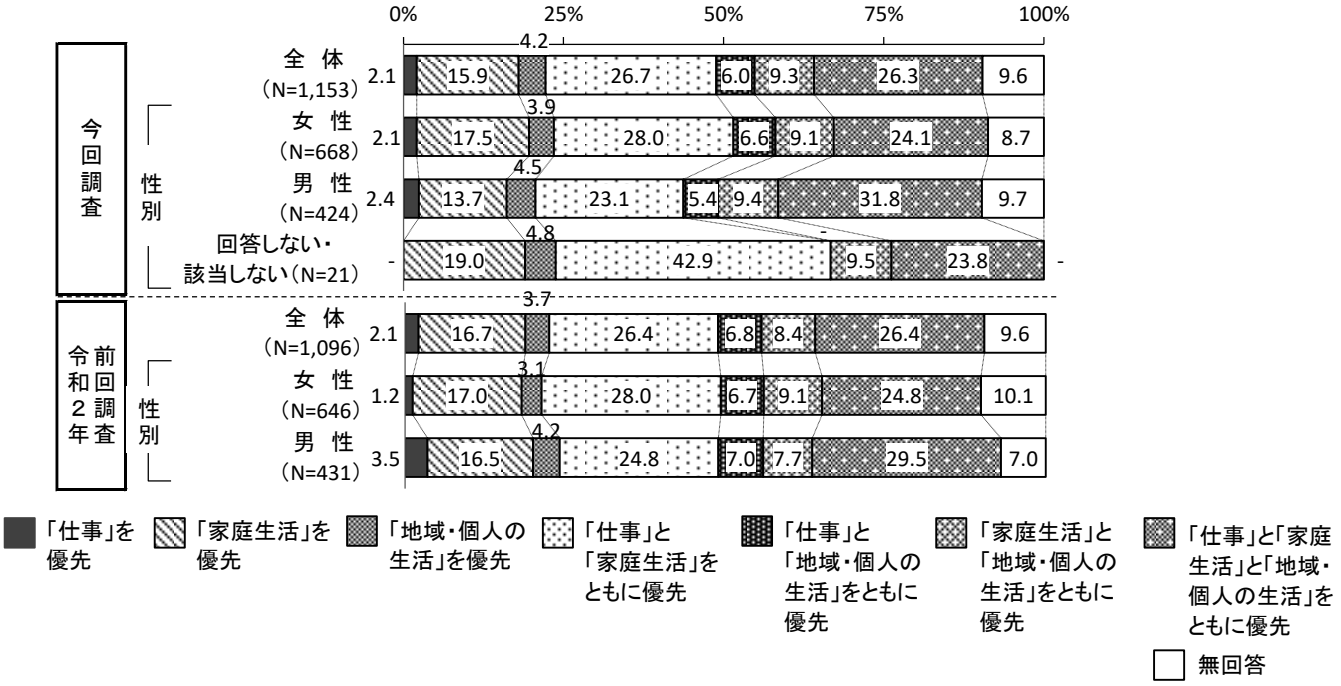
実際の生活では、「仕事と家庭生活をともに優先」が 28.4%、「家庭生活を優先」が 23.2%、「仕事を優先」が 21.9%などとなっている。「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は 4.1%とわずかである。

性別でみると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」（女性 30.5%、男性 25.2%）や「家庭生活を優先」（同 27.5%、16.3%）などが男性よりも 5.3～11.2 ポイント高く、男性は「仕事を優先」（同 17.8%、28.5%）が女性より 10.7 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性で「仕事を優先」が 5.4 ポイント減少している。

（イ）理想の生活

図表３－18　理想の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度［全体、性別］（前回調査比較）



一方、理想の生活では「仕事と家庭生活をともに優先」が 26.7%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 26.3%、「家庭生活を優先」が 15.9%で、仕事以外の生活を優先したいとの回答が多くなっており、「仕事を優先」は 2.1%にとどまる。

性別でみると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」（女性 28.0%、男性 23.1%）が男性より 4.9 ポイント高く、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（同 24.1%、31.8%）が女性より 7.7 ポイント高い。

前回調査と比べ、男女とも大きな変化はみられない。

年齢別でみると、実際の生活については男性の 30 歳代から 50 歳代で「仕事を優先」が約４割から５割と高くなっている。女性の 30 歳代では「家庭生活を優先」が 45.5％と高い。

理想の生活については、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は女性の 29 歳以下と男性の 30 歳代で４割台と高い。女性の 30 歳代と 40 歳代では「家庭生活を優先」が約３割と比較的高く、また 30 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先」も 39.4％と高くなっている。

配偶関係別でみると、実際の生活については共働きの女性では「仕事と家庭生活をともに優先」が 48.1％と最も高いが、男性は「仕事を優先」が 39.3％で最も高い。理想の生活については、女性の共働きでは「仕事と家庭生活をともに優先」（32.3％）、「家庭生活を優先」（28.5％）が、男性では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（33.7％）、「仕事と家庭生活をともに優先」（32.6％）がそれぞれ約３割と高くなっている。

図表３－19　「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

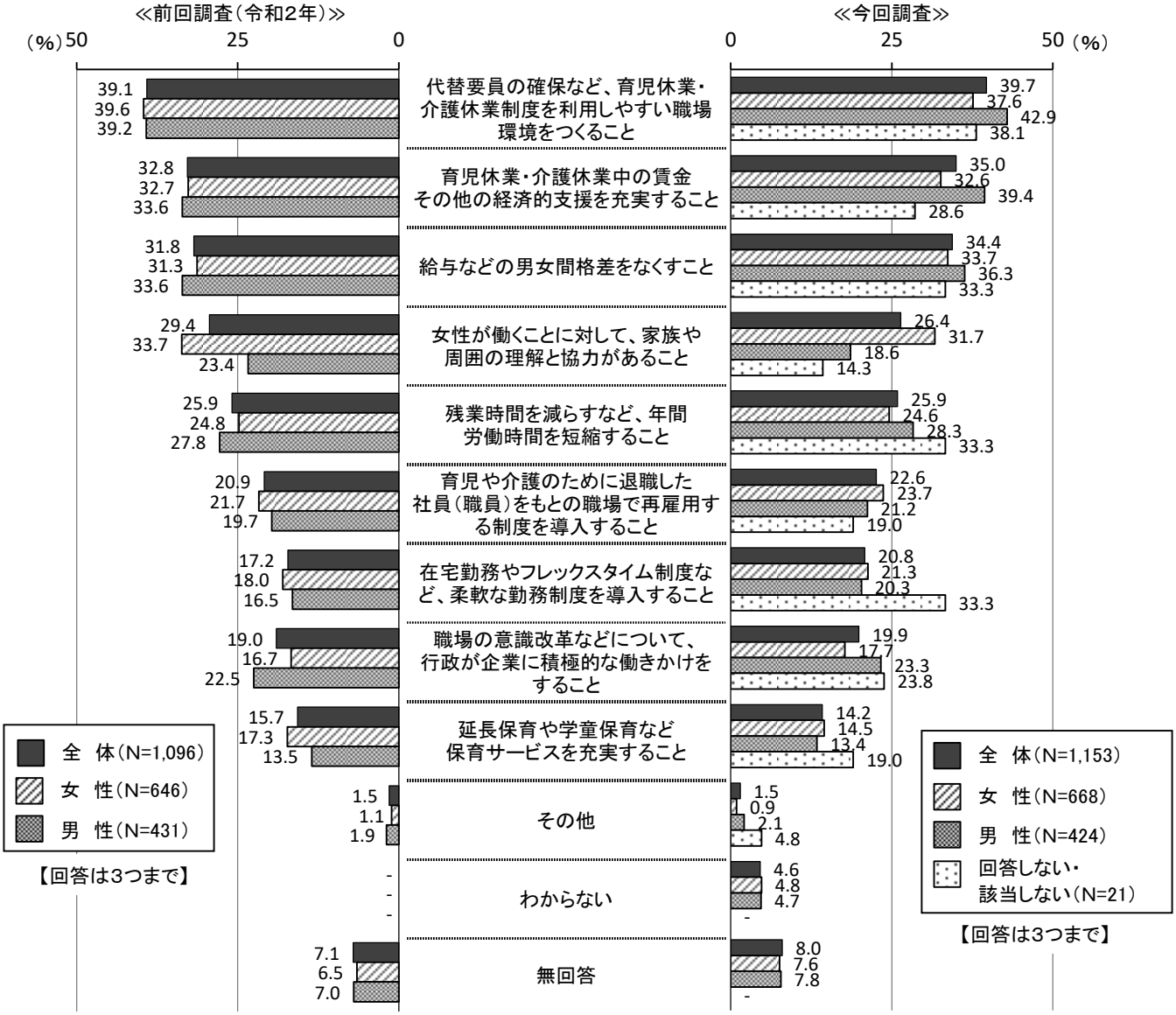
		標本数	(ア)実際の生活								(イ)理想の生活							
			仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	無回答	仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	無回答
全体		1,153	252	268	50	327	52	61	47	96	24	183	48	308	69	107	303	111
		100.0	21.9	23.2	4.3	28.4	4.5	5.3	4.1	8.3	2.1	15.9	4.2	26.7	6.0	9.3	26.3	9.6
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	30.3	9.1	30.3	6.1	－	6.1	3.0	3.0	12.1	3.0	24.2	9.1	6.1	42.4	－
	女性:30歳代	33	18.2	45.5	－	33.3	3.0	－	－	－	－	30.3	－	39.4	3.0	9.1	18.2	－
	女性:40歳代	73	26.0	26.0	1.4	39.7	1.4	1.4	1.4	2.7	－	31.5	2.7	32.9	2.7	1.4	24.7	4.1
	女性:50歳代	81	29.6	24.7	－	35.8	1.2	2.5	3.7	2.5	11.1	16.0	1.2	39.5	4.9	4.9	19.8	2.5
	女性:60歳代	157	15.9	25.5	3.8	35.7	5.1	5.1	5.1	3.8	1.3	19.1	4.5	29.3	7.6	7.6	26.8	3.8
	女性:70歳以上	279	13.6	28.0	6.1	24.0	3.6	7.2	3.6	14.0	0.7	12.2	4.7	22.6	7.9	14.0	22.2	15.8
	男性:29歳以下	16	31.3	12.5	18.8	18.8	12.5	6.3	－	－	－	18.8	6.3	25.0	－	18.8	31.3	－
	男性:30歳代	24	50.0	4.2	－	37.5	4.2	4.2	－	－	4.2	16.7	4.2	25.0	－	4.2	45.8	－
	男性:40歳代	40	37.5	15.0	7.5	22.5	12.5	5.0	－	－	2.5	20.0	5.0	32.5	2.5	5.0	30.0	2.5
	男性:50歳代	51	39.2	3.9	－	31.4	2.0	－	7.8	15.7	2.0	11.8	3.9	25.5	3.9	5.9	31.4	15.7
	男性:60歳代	75	24.0	18.7	4.0	34.7	8.0	－	6.7	4.0	1.3	14.7	4.0	25.3	6.7	9.3	34.7	4.0
	男性:70歳以上	208	24.0	21.2	5.3	19.7	4.8	9.6	5.8	9.6	2.9	12.0	4.8	20.2	6.7	11.5	30.3	11.5
	回答しない・該当しない	21	28.6	33.3	4.8	23.8	4.8	－	4.8	－	－	19.0	4.8	42.9	－	9.5	23.8	－
	無回答	62	14.5	16.1	3.2	25.8	4.8	9.7	1.6	24.2	－	12.9	6.5	25.8	4.8	6.5	11.3	32.3
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	14.6	24.1	1.3	48.1	1.9	1.3	5.7	3.2	0.6	28.5	1.3	32.3	4.4	5.1	22.2	5.7
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	16.7	38.3	3.8	20.1	2.9	8.6	2.9	6.7	1.9	13.9	4.8	28.2	6.7	14.4	23.0	7.2
	女性:配偶者はいない(離別)	74	25.7	16.2	2.7	40.5	5.4	1.4	5.4	2.7	1.4	23.0	2.7	31.1	9.5	4.1	23.0	5.4
	女性:配偶者はいない(死別)	111	9.0	27.0	6.3	23.4	6.3	7.2	2.7	18.0	0.9	10.8	5.4	18.9	6.3	13.5	26.1	18.0
	女性:結婚していない	88	31.8	21.6	8.0	27.3	2.3	1.1	2.3	5.7	8.0	9.1	5.7	31.8	9.1	4.5	28.4	3.4
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	39.3	10.1	－	37.1	3.4	2.2	4.5	3.4	2.2	16.9	－	32.6	3.4	6.7	33.7	4.5
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	23.7	20.2	5.8	22.0	5.8	9.8	5.8	6.9	4.0	15.0	5.8	21.4	5.2	10.4	30.1	8.1
	男性:配偶者はいない(離別)	28	32.1	17.9	3.6	21.4	21.4	－	－	3.6	－	14.3	3.6	25.0	10.7	10.7	32.1	3.6
	男性:配偶者はいない(死別)	28	7.1	28.6	10.7	25.0	3.6	3.6	10.7	10.7	－	3.6	14.3	10.7	－	14.3	42.9	14.3
	男性:結婚していない	88	35.2	12.5	6.8	20.5	5.7	4.5	4.5	10.2	1.1	11.4	4.5	22.7	6.8	10.2	33.0	10.2
	回答しない・該当しない	21	28.6	33.3	4.8	23.8	4.8	－	4.8	－	－	19.0	4.8	42.9	－	9.5	23.8	－
	無回答	86	15.1	16.3	3.5	25.6	4.7	8.1	1.2	25.6	－	14.0	3.5	24.4	5.8	5.8	14.0	32.6

６．ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するための条件整備

ワーク･ライフ･バランスのための条件整備の第１位は｢育児休業･介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること｣が約4割、第2位は｢育児休業･介護休業中の経済的支援の充実｣、第3位は｢給与などの男女間格差をなくすこと｣がそれぞれ3割台半ば。

問 11　性別にかかわりなく「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させる「ワーク･ライフ･バランス」（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか。３つまで選んでください。

図表３－20　ワーク・ライフ・バランスのための条件整備［全体、性別］（前回調査比較）



男女がともに「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させるため必要な条件整備としては、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が39.7％で最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が35.0％、「給与などの男女間格差をなくすこと」が34.4％、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が26.4％、「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」が25.9％などとなっている。

性別でみると、女性は「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」（女性31.7％、男性18.6％）が男性より13.1ポイント高くなっている。男性は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」（同37.6％、42.9％）、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」（同32.6％、39.4％）、「職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること」（同17.7％、23.3％）が女性よりも5.3～6.8ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性はあまり変化がないが、男性で「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が5.8ポイント増加した一方、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が4.8ポイント減少している。

年齢別でみると、男性の 29 歳以下では「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が 75.0%と目立って高い。女性の 29 歳以下では「給与などの男女間格差をなくすこと」が 51.5%と高い。女性の 30 歳代では「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」(45.5%) や「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(39.4%) が約４割から４割台半ばと高く、「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」(36.4%) や「育児や介護のために退職した社員（職員）をもとの職場で再雇用する制度を導入すること」(33.3%) も比較的高い。女性の 40 歳代では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が 45.2%と高く、60 歳以上の女性では「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が３割台半ばと高くなっている。

配偶関係別でみると、男性の共働きでは「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が 49.4%と高くなっている。共働きでない場合、男性は「給与などの男女間格差をなくすこと」(42.8%) が、女性は「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」(34.9%) が比較的高くなっている。

図表３－21　ワーク・ライフ・バランスのための条件整備［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	給与などの男女間格差をなくすこと	残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること	育児や介護のために退職した社員（職員）をもとの職場で再雇用する制度を導入すること	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること	延長保育や学童保育など保育サービスを充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること	その他	わからない	無回答
全体		1,153	397	299	458	261	403	164	240	304	230	17	53	92
		100.0	34.4	25.9	39.7	22.6	35.0	14.2	20.8	26.4	19.9	1.5	4.6	8.0
年齢別	女性:29歳以下	33	51.5	27.3	24.2	15.2	39.4	21.2	36.4	21.2	18.2	－	6.1	－
	女性:30歳代	33	27.3	36.4	39.4	33.3	45.5	6.1	39.4	24.2	30.3	－	3.0	－
	女性:40歳代	73	24.7	28.8	45.2	24.7	32.9	8.2	28.8	23.3	11.0	2.7	5.5	2.7
	女性:50歳代	81	35.8	21.0	39.5	19.8	32.1	17.3	27.2	23.5	19.8	4.9	4.9	3.7
	女性:60歳代	157	36.3	24.8	38.9	24.8	36.3	15.9	19.7	36.3	20.4	－	4.5	3.8
	女性:70歳以上	279	31.9	22.9	35.5	24.0	28.7	15.1	15.4	36.6	16.1	－	4.7	13.3
	男性:29歳以下	16	43.8	31.3	37.5	12.5	75.0	12.5	43.8	6.3	31.3	－	－	－
	男性:30歳代	24	25.0	16.7	54.2	16.7	54.2	25.0	8.3	20.8	25.0	4.2	8.3	－
	男性:40歳代	40	35.0	35.0	40.0	20.0	35.0	17.5	22.5	12.5	32.5	2.5	2.5	2.5
	男性:50歳代	51	27.5	33.3	47.1	19.6	21.6	11.8	37.3	7.8	17.6	5.9	3.9	9.8
	男性:60歳代	75	41.3	38.7	45.3	25.3	46.7	14.7	22.7	12.0	24.0	－	2.7	1.3
	男性:70歳以上	208	38.9	24.0	41.8	22.6	38.5	12.0	15.4	24.5	23.1	1.9	6.3	9.6
	回答しない・該当しない	21	33.3	33.3	38.1	19.0	28.6	19.0	33.3	14.3	23.8	4.8	－	－
	無回答	62	29.0	17.7	38.7	17.7	27.4	11.3	8.1	25.8	14.5	1.6	3.2	27.4
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	158	30.4	22.2	42.4	18.4	39.2	14.6	22.2	28.5	15.2	2.5	4.4	4.4
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	209	34.9	29.2	40.2	27.3	33.0	16.3	23.4	34.9	15.3	0.5	2.4	7.7
	女性:配偶者はいない(離別)	74	36.5	20.3	41.9	27.0	36.5	10.8	25.7	25.7	31.1	1.4	1.4	4.1
	女性:配偶者はいない(死別)	111	29.7	20.7	29.7	27.9	26.1	12.6	13.5	41.4	13.5	－	4.5	14.4
	女性:結婚していない	88	39.8	25.0	31.8	19.3	28.4	15.9	27.3	25.0	22.7	－	11.4	4.5
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	89	38.2	29.2	49.4	23.6	37.1	20.2	25.8	12.4	20.2	3.4	3.4	2.2
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	173	42.8	28.9	46.2	23.1	41.0	9.8	17.9	21.4	22.5	2.3	3.5	7.5
	男性:配偶者はいない(離別)	28	21.4	25.0	46.4	28.6	57.1	25.0	17.9	21.4	35.7	－	－	－
	男性:配偶者はいない(死別)	28	35.7	10.7	32.1	21.4	32.1	14.3	17.9	35.7	35.7	－	7.1	10.7
	男性:結婚していない	88	30.7	36.4	36.4	15.9	38.6	11.4	25.0	11.4	22.7	2.3	6.8	9.1
	回答しない・該当しない	21	33.3	33.3	38.1	19.0	28.6	19.0	33.3	14.3	23.8	4.8	－	－
	無回答	86	26.7	20.9	33.7	16.3	25.6	12.8	5.8	25.6	16.3	1.2	9.3	23.3

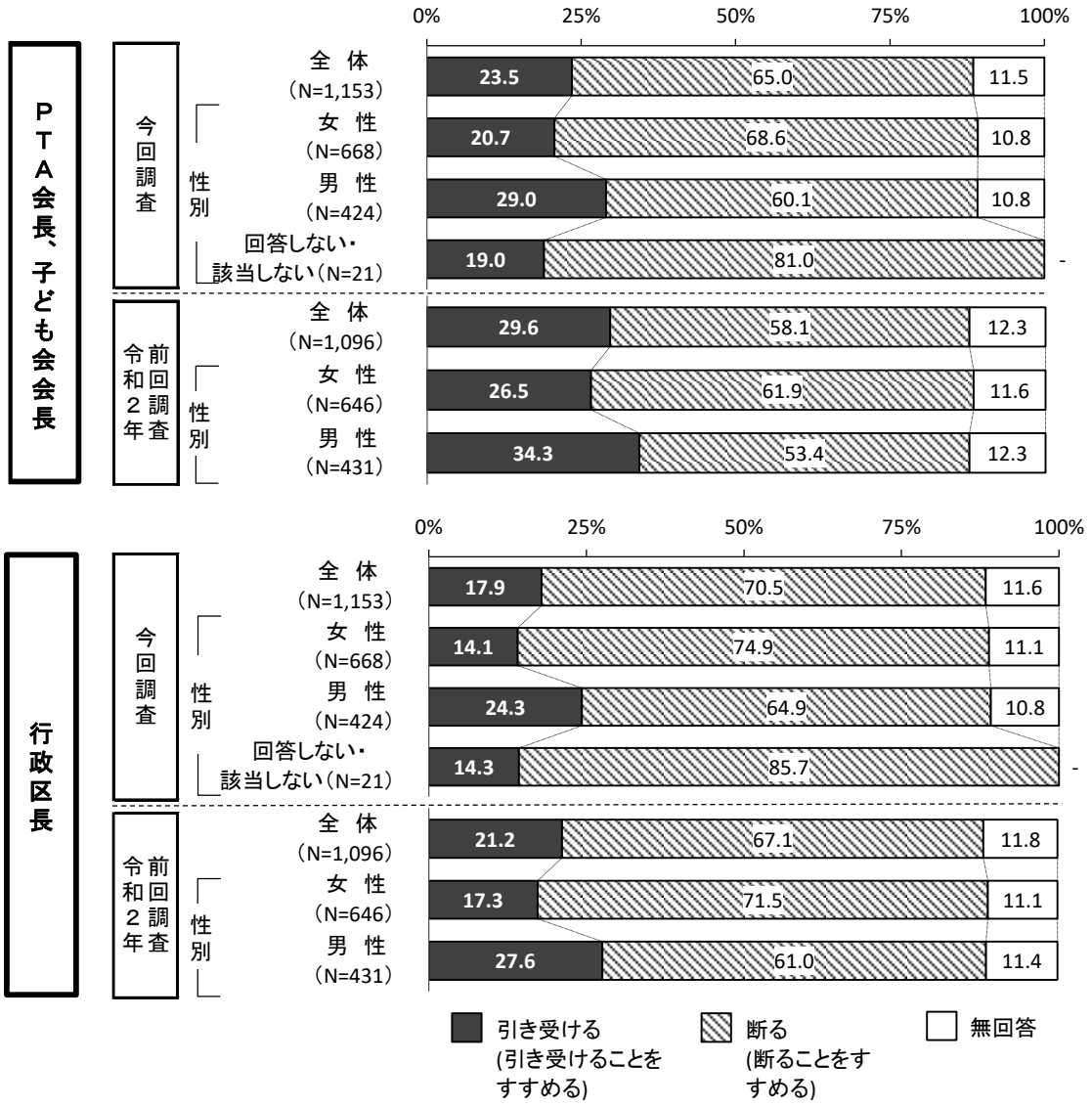
第４章　地域活動について

１．地域の役職に推薦された場合の対処

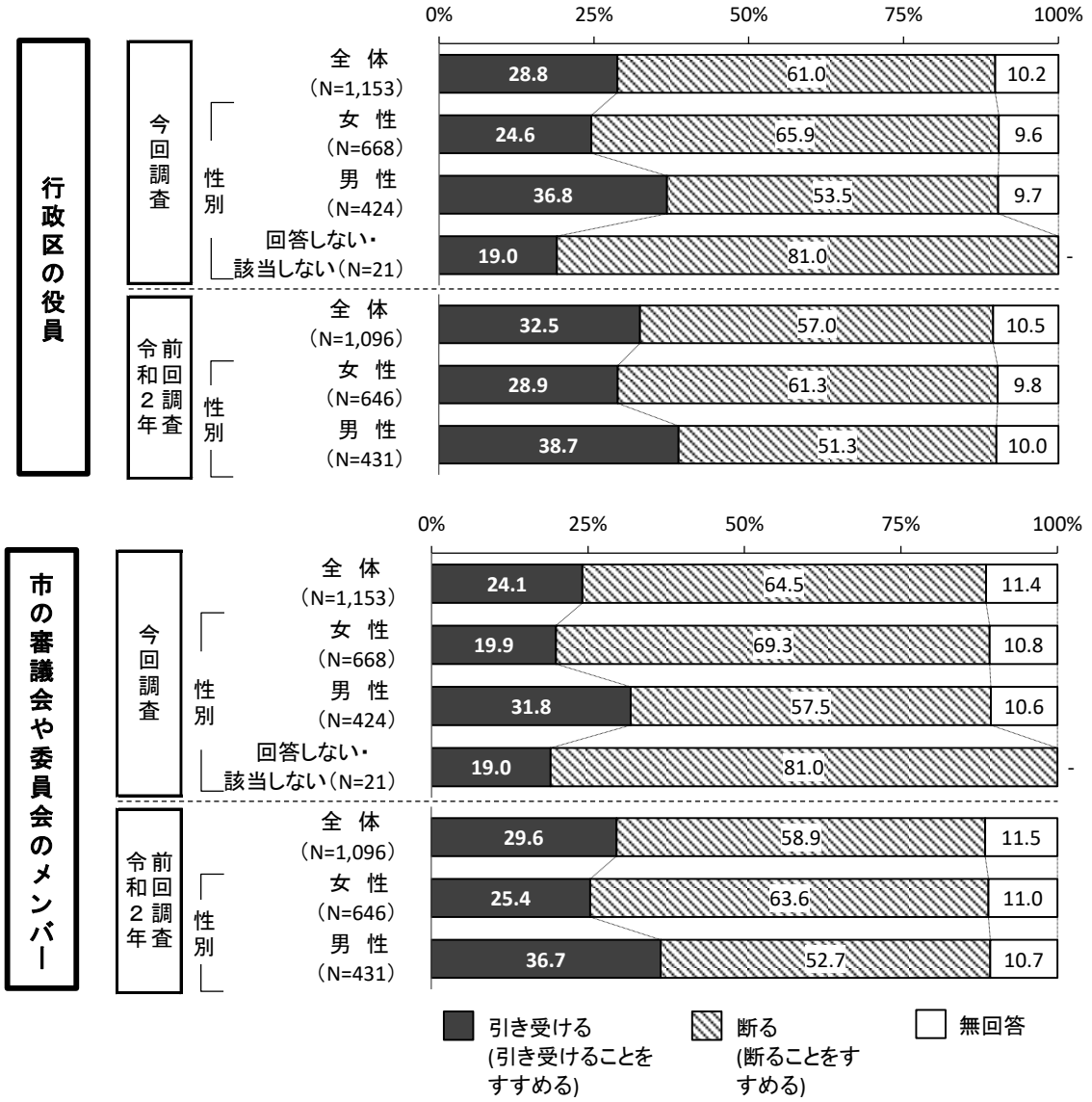
地域の役職に推薦された場合、女性の「引き受ける」は1割台半ばから2割台半ばと男性の「引き受けることをすすめる」よりも低い。前回調査に比べ、男女とも「引き受ける（「引き受けることをすすめる」）がやや減少している。

問 12　次の（ア）～（エ）の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどう思いますか。それぞれ１つ選んでください。

図表４－１（１）　地域の役職に女性が推薦された場合の対処［全体、性別］（前回調査比較）



図表４－１（２）　地域の役職に女性が推薦された場合の対処［全体、性別］（前回調査比較）



地域の役職に推薦された場合（男性は妻など身近な女性が推薦された場合）の対処について、「ＰＴＡ会長、子ども会会長」「行政区長」「行政区の役員」「市の審議会や委員会のメンバー」についてたずねた。

「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が高い順に、「行政区の役員」が 28.8%、「市の審議会や委員会のメンバー」が 24.1%、「ＰＴＡ会長、子ども会会長」が 23.5%、「行政区長」が 17.9%となっている。いずれの役職も「断る（断ることをすすめる）」が約６割から７割に上っている。

性別でみると、「ＰＴＡ会長、子ども会会長」（女性 20.7%、男性 29.0%）、「行政区長」（同 14.1%、24.3%）、「行政区の役員」（同 24.6%、36.8%）、「市の審議会や委員会のメンバー」（同 19.9%、31.8%）のいずれの役職についても「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は男性の方が女性より 8.3～12.2 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、いずれの役職についても男女とも「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が減少しており、特に「市の審議会や委員会のメンバー」は 4.9～5.5 ポイント減っている。

年齢別で「引き受ける（引き受けることをすすめる）」の割合をみると、「ＰＴＡ会長、子ども会会長」は女性では 29 歳以下で 33.3％、男性でも 29 歳以下で 56.3％と高い。「行政区長」は女性では 60 歳以上で１割台半ば、男性では 29 歳以下で 43.8％となっている。「行政区の役員」は女性の 60 歳以上で約３割、男性の 29 歳以下と 60 歳以上で約４割に上る。「市の審議会や委員会のメンバー」は女性の 29 歳以下と 60 歳以上で２割台、男性では 29 歳以下で 43.8％と高く、それ以外の年代でも約３割となっている。

図表４－２　地域の役職に推薦された場合の対処［全体、年齢別］

（%）

		標本数	PTA会長、子ども会会長			行政区長		
			引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）	無回答	引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）	無回答
全体		1,153	271	749	133	206	813	134
		100.0	23.5	65.0	11.5	17.9	70.5	11.6
年齢別	女性:29歳以下	33	33.3	66.7	－	12.1	87.9	－
	女性:30歳代	33	12.1	84.8	3.0	6.1	90.9	3.0
	女性:40歳代	73	19.2	79.5	1.4	12.3	84.9	2.7
	女性:50歳代	81	14.8	79.0	6.2	7.4	87.7	4.9
	女性:60歳代	157	24.8	70.1	5.1	17.8	76.4	5.7
	女性:70歳以上	279	20.8	59.9	19.4	15.8	64.5	19.7
	男性:29歳以下	16	56.3	43.8	－	43.8	56.3	－
	男性:30歳代	24	29.2	70.8	－	25.0	75.0	－
	男性:40歳代	40	27.5	70.0	2.5	25.0	72.5	2.5
	男性:50歳代	51	29.4	56.9	13.7	21.6	64.7	13.7
	男性:60歳代	75	26.7	69.3	4.0	25.3	69.3	5.3
	男性:70歳以上	208	29.3	55.8	14.9	24.0	61.5	14.4
	回答しない・該当しない	21	19.0	81.0	－	14.3	85.7	－
	無回答	62	9.7	54.8	35.5	11.3	54.8	33.9

		標本数	行政区の役員			市の審議会や委員会のメンバー		
			引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）	無回答	引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）	無回答
全体		1,153	332	703	118	278	744	131
		100.0	28.8	61.0	10.2	24.1	64.5	11.4
年齢別	女性:29歳以下	33	18.2	81.8	－	24.2	75.8	－
	女性:30歳代	33	6.1	90.9	3.0	12.1	84.8	3.0
	女性:40歳代	73	17.8	79.5	2.7	17.8	79.5	2.7
	女性:50歳代	81	16.0	79.0	4.9	18.5	75.3	6.2
	女性:60歳代	157	30.6	64.3	5.1	21.0	72.6	6.4
	女性:70歳以上	279	28.7	54.5	16.8	21.5	60.2	18.3
	男性:29歳以下	16	43.8	56.3	－	43.8	56.3	－
	男性:30歳代	24	29.2	70.8	－	29.2	70.8	－
	男性:40歳代	40	32.5	65.0	2.5	32.5	65.0	2.5
	男性:50歳代	51	31.4	54.9	13.7	29.4	56.9	13.7
	男性:60歳代	75	37.3	58.7	4.0	33.3	61.3	5.3
	男性:70歳以上	208	40.9	46.6	12.5	32.7	53.4	13.9
	回答しない・該当しない	21	19.0	81.0	－	19.0	81.0	－
	無回答	62	16.1	53.2	30.6	9.7	56.5	33.9

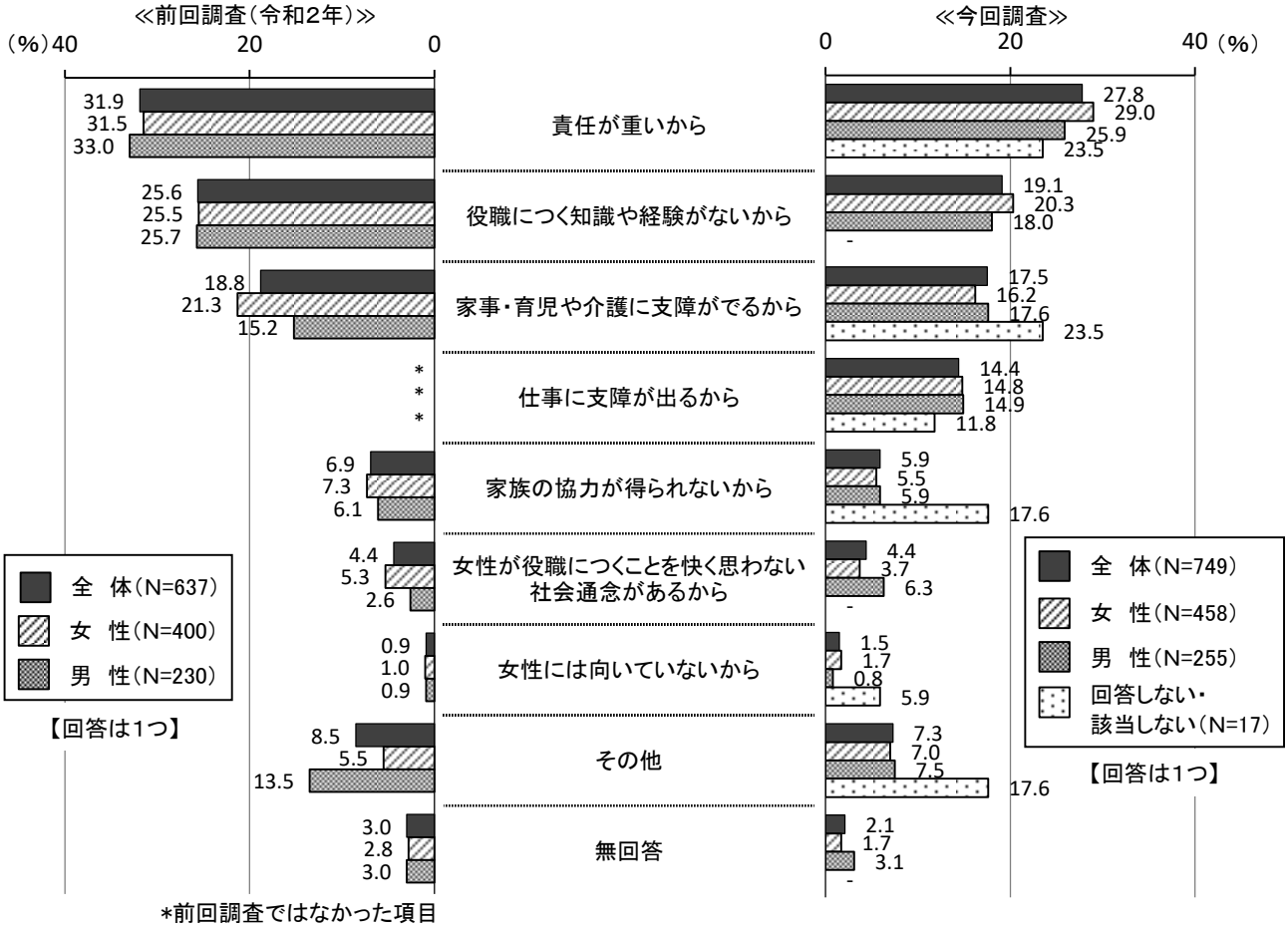
２．地域の役職を断る理由

地域の役職を断る理由は「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」が上位。「PTA会長、子ども会会長」「行政区長」は「責任が重いから」、「行政区の役員」「市の審議会や委員会のメンバー」は「役職につく知識や経験がないから」が第１位の理由。

問 12　また、「２．断る（断ることをすすめる）」を選んだ方はその理由についてもご記入ください。（下記【断る理由】の中から１つ選び、番号を記入してください）

（ア）ＰＴＡ会長、子ども会会長

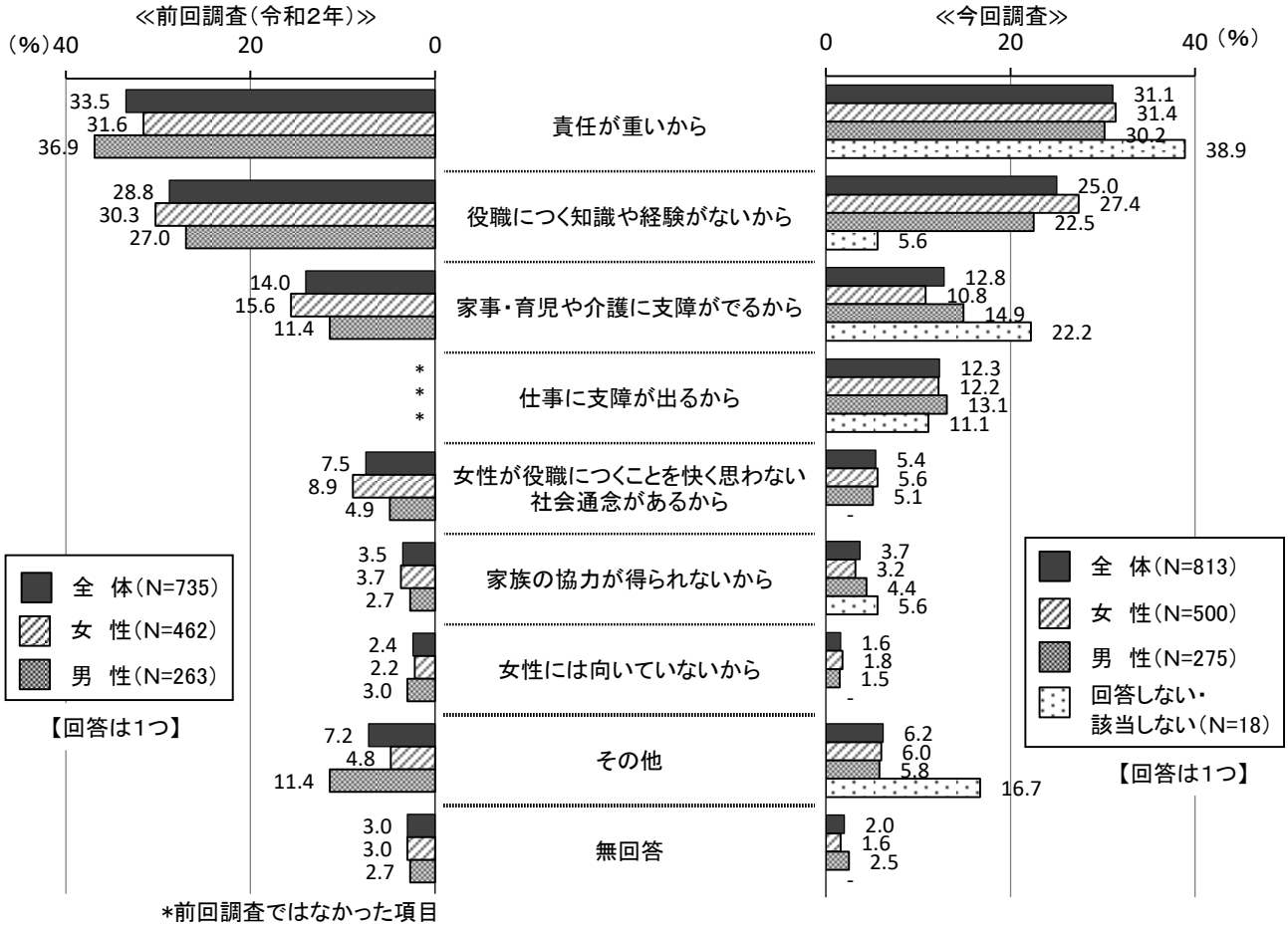
図表４－３　ＰＴＡ会長、子ども会会長の役職を断る理由［全体、性別］（前回調査比較）



*前回調査ではなかった項目

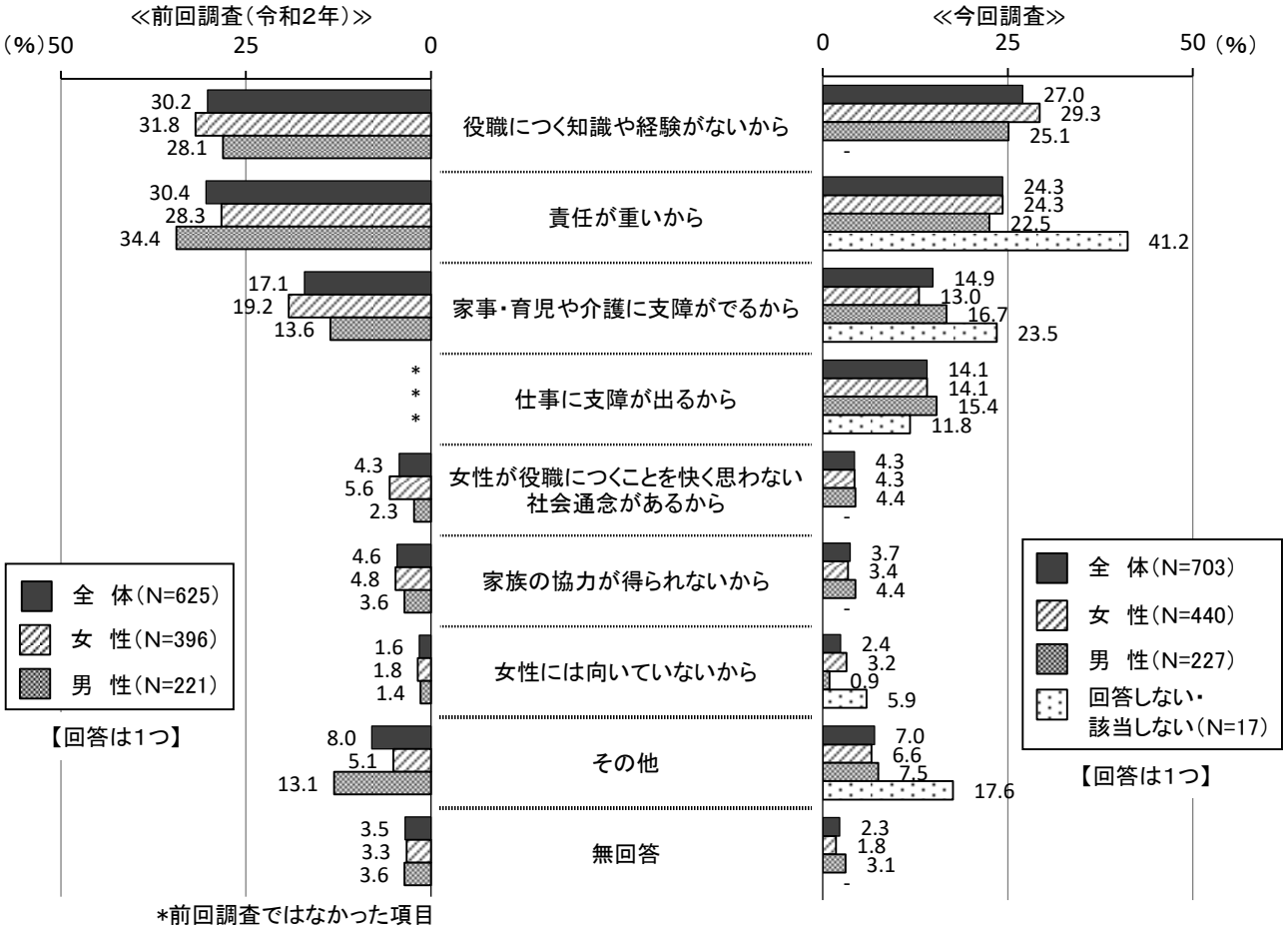
（イ）行政区長

図表４－４　行政区長の役職を断る理由［全体、性別］（前回調査比較）



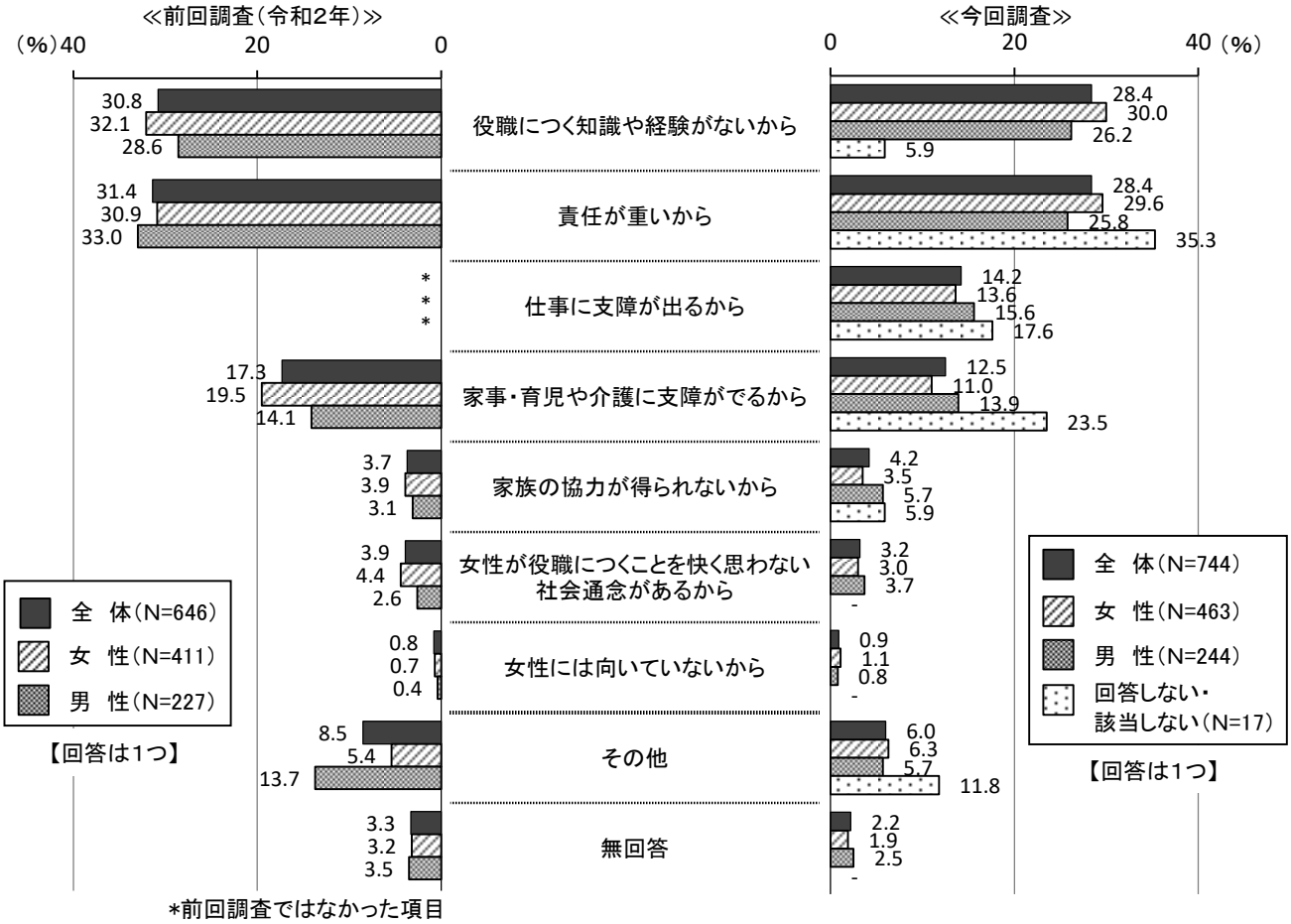
（ウ）行政区の役員

図表４－５　行政区の役員の役職を断る理由［全体、性別］（前回調査比較）



（エ）市の審議会や委員会のメンバー

図表４－６　市の審議会や委員会のメンバーの役職を断る理由［全体、性別］（前回調査比較）



地域の役職に推薦された場合「断る（断ることをすすめる）」と回答した人にその理由をたずねた。いずれの役職についても、「責任が重いから」と「役職につく知識や経験がないから」が約２割から３割で第１位、第２位の理由となっているが、「責任が重いから」は「ＰＴＡ会長、子ども会会長」「行政区長」という「長」がつく役職で第１位となっており、「長」がつかない「行政区の役員」「市の審議会や委員会のメンバー」では「役職につく知識や経験がないから」が第１位となっている。

性別でみると、女性はいずれの役職も「役職につく知識や経験がないから」が男性より高く、男性は「家事や育児に支障がでるから」の理由が女性より高い。

前回調査と比べると、今回調査では「仕事に支障が出るから」という選択肢を新たに設けたため厳密な比較はできないが、全体的な傾向としては男女ともあまり大きな変化はみられない。

年齢別でみると、いずれの役職でも「責任が重いから」は女性の 29 歳以下で、「役職につく知識や経験がないから」は女性の 29 歳以下と 70 歳以上で、「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の 30 歳代と男性の 29 歳以下で高い傾向がみられる。

配偶関係別では、男性の共働きで「仕事に支障が出るから」がやや高い傾向がみられる。また、女性の共働きでは「家事・育児や介護に支障がでるから」が共働きでない場合に比べて高くなっている。

図表４－７　地域の役職を断る理由［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		PTA会長、子ども会会長									行政区長								
		標本数	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	仕事に支障が出るから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	責任が重いから	その他	無回答	標本数	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	仕事に支障が出るから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	責任が重いから	その他	無回答
全体		749	44	33	131	108	143	11	208	55	16	813	30	44	104	100	203	13	253	50	16
		100.0	5.9	4.4	17.5	14.4	19.1	1.5	27.8	7.3	2.1	100.0	3.7	5.4	12.8	12.3	25.0	1.6	31.1	6.2	2.0
年齢別	女性:29歳以下	22	4.5	－	18.2	9.1	22.7	－	40.9	4.5	－	29	－	3.4	3.4	10.3	27.6	－	55.2	－	－
	女性:30歳代	28	－	－	35.7	28.6	10.7	3.6	10.7	10.7	－	30	－	－	26.7	26.7	23.3	3.3	13.3	6.7	－
	女性:40歳代	58	3.4	5.2	25.9	27.6	10.3	－	20.7	6.9	－	62	－	4.8	22.6	24.2	17.7	3.2	22.6	4.8	－
	女性:50歳代	64	7.8	－	10.9	18.8	12.5	1.6	39.1	9.4	－	71	4.2	2.8	11.3	16.9	21.1	1.4	35.2	7.0	－
	女性:60歳代	110	6.4	2.7	14.5	14.5	20.0	1.8	33.6	4.5	1.8	120	5.8	4.2	5.8	11.7	24.2	1.7	40.0	5.0	1.7
	女性:70歳以上	167	5.4	6.0	13.2	7.8	28.1	2.4	25.7	7.8	3.6	180	2.8	8.9	8.9	4.4	35.0	1.7	27.2	7.8	3.3
	男性:29歳以下	7	－	－	42.9	－	14.3	－	42.9	－	－	9	－	－	33.3	22.2	11.1	－	33.3	－	－
	男性:30歳代	17	5.9	－	23.5	17.6	5.9	－	35.3	11.8	－	18	5.6	5.6	16.7	5.6	22.2	－	33.3	11.1	－
	男性:40歳代	28	－	3.6	28.6	21.4	17.9	3.6	14.3	10.7	－	29	－	3.4	20.7	17.2	31.0	3.4	17.2	6.9	－
	男性:50歳代	29	6.9	－	20.7	13.8	20.7	－	24.1	10.3	3.4	33	9.1	－	12.1	15.2	27.3	－	24.2	9.1	3.0
	男性:60歳代	52	3.8	7.7	11.5	19.2	17.3	－	30.8	5.8	3.8	52	1.9	5.8	7.7	21.2	15.4	3.8	34.6	5.8	3.8
	男性:70歳以上	116	6.9	9.5	14.7	11.2	20.7	0.9	25.9	6.9	3.4	128	3.9	7.0	16.4	8.6	22.7	0.8	33.6	4.7	2.3
	回答しない・該当しない	17	17.6	－	23.5	11.8	－	5.9	23.5	17.6	－	18	5.6	－	22.2	11.1	5.6	－	38.9	16.7	－
	無回答	34	11.8	2.9	26.5	8.8	17.6	－	26.5	2.9	2.9	34	11.8	8.8	14.7	8.8	26.5	－	20.6	2.9	5.9
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	116	4.3	2.6	21.6	19.0	12.1	0.9	32.8	5.2	1.7	129	3.9	3.9	17.8	19.4	18.6	1.6	29.5	3.9	1.6
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	144	5.6	4.2	14.6	7.6	25.0	0.7	31.3	11.1	－	159	1.3	10.1	8.2	4.4	32.1	2.5	32.1	9.4	－
	女性:配偶者はいない(離別)	51	7.8	3.9	23.5	25.5	13.7	2.0	23.5	－	－	59	5.1	3.4	16.9	18.6	22.0	1.7	30.5	1.7	－
	女性:配偶者はいない(死別)	61	4.9	4.9	9.8	9.8	32.8	3.3	23.0	3.3	8.2	62	6.5	3.2	6.5	6.5	37.1	－	29.0	3.2	8.1
	女性:結婚していない	69	7.2	1.4	11.6	18.8	18.8	4.3	27.5	10.1	－	75	2.7	2.7	2.7	16.0	26.7	2.7	38.7	8.0	－
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	56	5.4	－	19.6	26.8	12.5	－	21.4	12.5	1.8	62	3.2	1.6	16.1	25.8	21.0	－	21.0	9.7	1.6
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	103	4.9	8.7	16.5	12.6	22.3	－	24.3	7.8	2.9	112	4.5	7.1	17.9	8.0	24.1	0.9	30.4	5.4	1.8
	男性:配偶者はいない(離別)	17	5.9	11.8	5.9	23.5	17.6	5.9	29.4	－	－	16	－	6.3	6.3	12.5	37.5	－	37.5	－	－
	男性:配偶者はいない(死別)	15	－	6.7	6.7	6.7	20.0	－	46.7	6.7	6.7	19	－	5.3	10.5	－	26.3	－	47.4	5.3	5.3
	男性:結婚していない	55	7.3	7.3	25.5	5.5	16.4	1.8	30.9	3.6	1.8	57	5.3	5.3	14.0	14.0	14.0	5.3	36.8	3.5	1.8
	回答しない・該当しない	17	17.6	－	23.5	11.8	－	5.9	23.5	17.6	－	18	5.6	－	22.2	11.1	5.6	－	38.9	16.7	－
	無回答	45	6.7	4.4	24.4	11.1	17.8	－	22.2	6.7	6.7	45	6.7	6.7	15.6	8.9	26.7	－	20.0	6.7	8.9

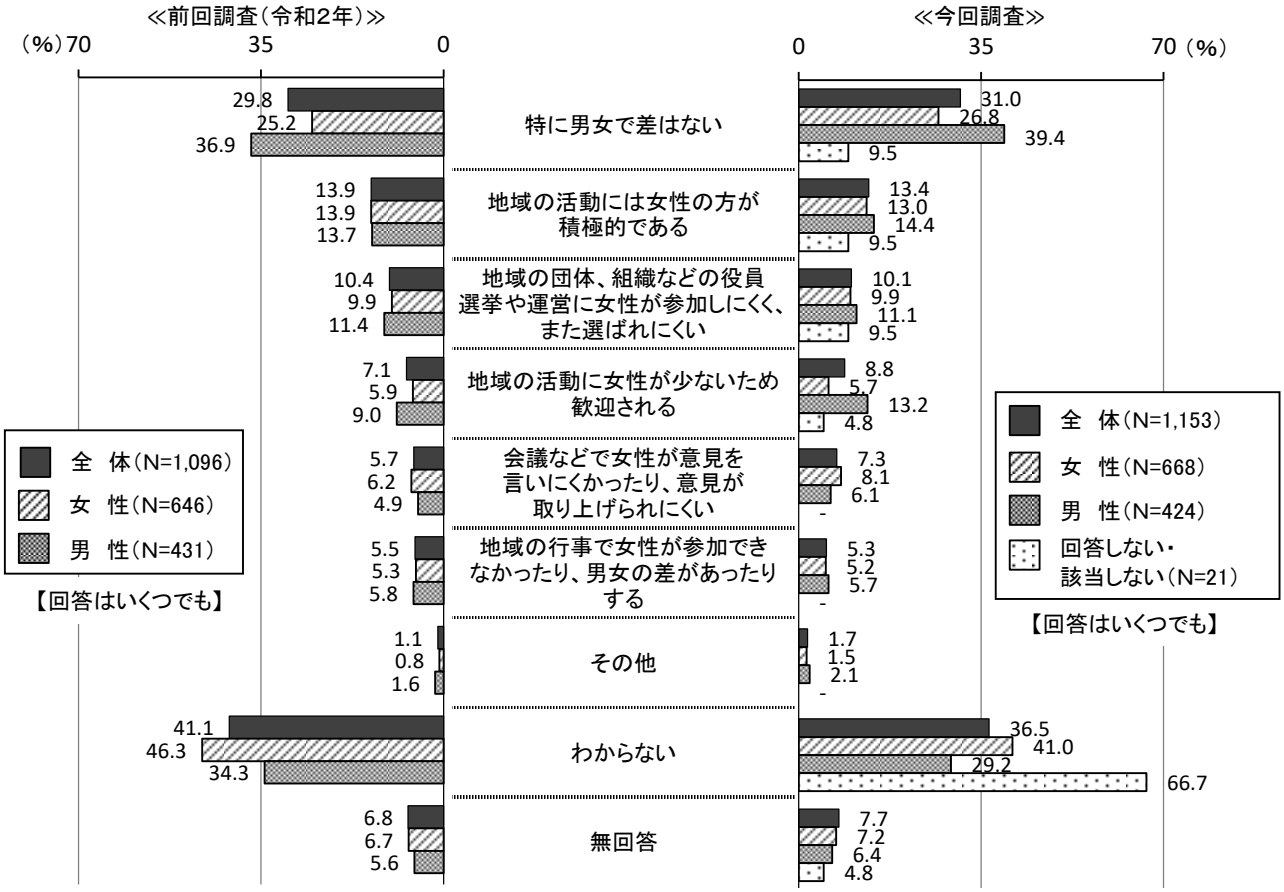
		行政区の役員									市の審議会や委員会のメンバー								
		標本数	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	仕事に支障が出るから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	責任が重いから	その他	無回答	標本数	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	仕事に支障が出るから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	責任が重いから	その他	無回答
全体		703	26	30	105	99	190	17	171	49	16	744	31	24	93	106	211	7	211	45	16
		100.0	3.7	4.3	14.9	14.1	27.0	2.4	24.3	7.0	2.3	100.0	4.2	3.2	12.5	14.2	28.4	0.9	28.4	6.0	2.2
年齢別	女性:29歳以下	27	－	－	3.7	14.8	29.6	3.7	48.1	－	－	25	－	－	4.0	16.0	20.0	－	60.0	－	－
	女性:30歳代	30	－	－	33.3	20.0	20.0	6.7	10.0	10.0	－	28	3.6	－	28.6	21.4	14.3	3.6	21.4	7.1	－
	女性:40歳代	58	－	5.2	24.1	25.9	19.0	5.2	15.5	5.2	－	58	－	5.2	17.2	27.6	24.1	－	20.7	5.2	－
	女性:50歳代	64	4.7	1.6	10.9	21.9	17.2	1.6	35.9	6.3	－	61	3.3	－	9.8	18.0	24.6	1.6	36.1	6.6	－
	女性:60歳代	101	5.9	6.9	7.9	15.8	27.7	1.0	28.7	4.0	2.0	114	4.4	2.6	7.9	15.8	29.8	－	33.3	4.4	1.8
	女性:70歳以上	152	3.3	4.6	11.2	3.9	40.1	3.9	19.7	9.2	3.9	168	4.2	4.2	10.1	4.2	38.7	1.8	24.4	8.3	4.2
	男性:29歳以下	9	－	－	33.3	22.2	22.2	－	22.2	－	－	9	－	－	44.4	22.2	11.1	－	22.2	－	－
	男性:30歳代	17	5.9	－	11.8	5.9	23.5	－	41.2	11.8	－	17	11.8	－	11.8	11.8	17.6	5.9	29.4	11.8	－
	男性:40歳代	26	－	3.8	26.9	19.2	19.2	3.8	19.2	7.7	－	26	－	3.8	23.1	15.4	23.1	－	26.9	7.7	－
	男性:50歳代	28	10.7	3.6	14.3	10.7	28.6	－	17.9	10.7	3.6	29	10.3	3.4	10.3	17.2	37.9	－	10.3	6.9	3.4
	男性:60歳代	44	2.3	－	11.4	22.7	22.7	2.3	27.3	6.8	4.5	46	2.2	－	4.3	28.3	23.9	－	32.6	4.3	4.3
	男性:70歳以上	97	3.1	8.2	17.5	12.4	27.8	－	20.6	7.2	3.1	111	5.4	6.3	15.3	9.0	27.9	0.9	27.9	5.4	1.8
	回答しない・該当しない	17	－	－	23.5	11.8	－	5.9	41.2	17.6	－	17	5.9	－	23.5	17.6	5.9	－	35.3	11.8	－
	無回答	33	12.1	6.1	18.2	9.1	27.3	－	18.2	3.0	6.1	35	8.6	5.7	11.4	14.3	28.6	－	22.9	2.9	5.7
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	117	4.3	6.0	21.4	21.4	20.5	0.9	21.4	2.6	1.7	118	2.5	3.4	18.6	21.2	24.6	－	25.4	2.5	1.7
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	138	1.4	5.8	10.9	5.8	38.4	2.2	23.9	10.9	0.7	145	2.1	4.8	9.7	6.2	39.3	0.7	25.5	10.3	1.4
	女性:配偶者はいない(離別)	49	6.1	2.0	18.4	20.4	18.4	4.1	28.6	2.0	－	53	5.7	1.9	11.3	20.8	20.8	1.9	35.8	1.9	－
	女性:配偶者はいない(死別)	48	6.3	2.1	12.5	6.3	35.4	6.3	18.8	4.2	8.3	60	6.7	－	6.7	6.7	38.3	1.7	30.0	3.3	6.7
	女性:結婚していない	72	2.8	1.4	－	19.4	30.6	5.6	31.9	8.3	－	70	4.3	1.4	1.4	17.1	24.3	2.9	40.0	8.6	－
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	51	3.9	2.0	17.6	31.4	19.6	－	11.8	11.8	2.0	56	7.1	1.8	12.5	26.8	26.8	－	16.1	7.1	1.8
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	90	2.2	6.7	18.9	10.0	27.8	1.1	22.2	7.8	3.3	101	5.0	5.9	12.9	9.9	27.7	1.0	29.7	5.9	2.0
	男性:配偶者はいない(離別)	10	－	－	10.0	30.0	40.0	－	20.0	－	－	11	－	－	9.1	27.3	45.5	－	18.2	－	－
	男性:配偶者はいない(死別)	14	－	7.1	7.1	－	35.7	－	35.7	7.1	7.1	14	－	－	14.3	7.1	35.7	－	28.6	7.1	7.1
	男性:結婚していない	54	7.4	3.7	18.5	9.3	20.4	1.9	33.3	3.7	1.9	54	5.6	3.7	20.4	13.0	16.7	1.9	33.3	3.7	1.9
	回答しない・該当しない	17	－	－	23.5	11.8	－	5.9	41.2	17.6	－	17	5.9	－	23.5	17.6	5.9	－	35.3	11.8	－
	無回答	43	7.0	4.7	18.6	9.3	23.3	2.3	20.9	7.0	7.0	45	4.4	4.4	17.8	13.3	24.4	－	22.2	6.7	6.7

３．地域で感じる男女の差

・地域で感じる男女の差について、「特に男女で差はない」「地域活動には女性の方が積極的」など女性が参画しにくい状況がないとの回答が多い。一方で、割合は小さいが女性が参画しづらい状況もうかがえる。

問 13 あなたが住んでいる地域で、現在次のようなことがありますか。いくつでも選んでください。

図表４－８　地域で感じる男女の差［全体、性別］（前回調査比較）



住んでいる地域で活動や行事などを通じて男女の差を感じるかどうかたずねたところ、「わからない」が 36.5％で最も高くなっている。次いで、「特に男女で差はない」が 31.0％、「地域の活動には女性の方が積極的である」が 13.4％となっており、地域活動において、女性が参画しにくい状況がないとの回答が多くなっている。一方で、「地域の団体、組織などの役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」（10.1％）、「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい」（7.3％）、「地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする」（5.3％）など、女性が参画しづらい状況がある様子もうかがえる。

性別でみると、女性は「わからない」が 41.0％と男性（29.2％）より 11.8 ポイント高く、男性は「特に男女で差はない」が 39.4％で女性（26.8％）より 12.6 ポイント高い。また、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」（女性 5.7％、男性 13.2％）は男性の方が 7.5 ポイント高い。

前回調査と比べると、「わからない」が男女とも 5.1～5.3 ポイント減少し、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」が男性で 4.2 ポイント増加しているほかは大きな変化はない。

年齢別でみると、男女とも年齢の低い層では「わからない」が高くなる傾向がみられ、29 歳以下では約６割から７割を超えている。「特に男女で差はない」は男性の 40 歳代と 70 歳以上で４割を超えて高く、女性では 60 歳以上で３割を超えて比較的高い。「地域の団体、組織などの役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」は女性の 70 歳以上と男性の 60 歳以上で、「地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする」は男性の 30 歳代で、「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい」は女性の 70 歳以上で１割を超えており、比較的高くなっている。

居住地区別でみると、稲築地区で「わからない」が 46.3%と最も高い。「特に男女で差はない」は山田地区と嘉穂地区で３割台半ばと高くなっている。「地域の団体、組織などの役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい」「地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする」は嘉穂地区でやや高いが、これは嘉穂地区では「わからない」が 23.4%と特に低く、地域活動に参加している人が多いことも影響していると思われる。

図表４－９　地域で感じる男女の差［全体、年齢別、居住地区別］

(%)

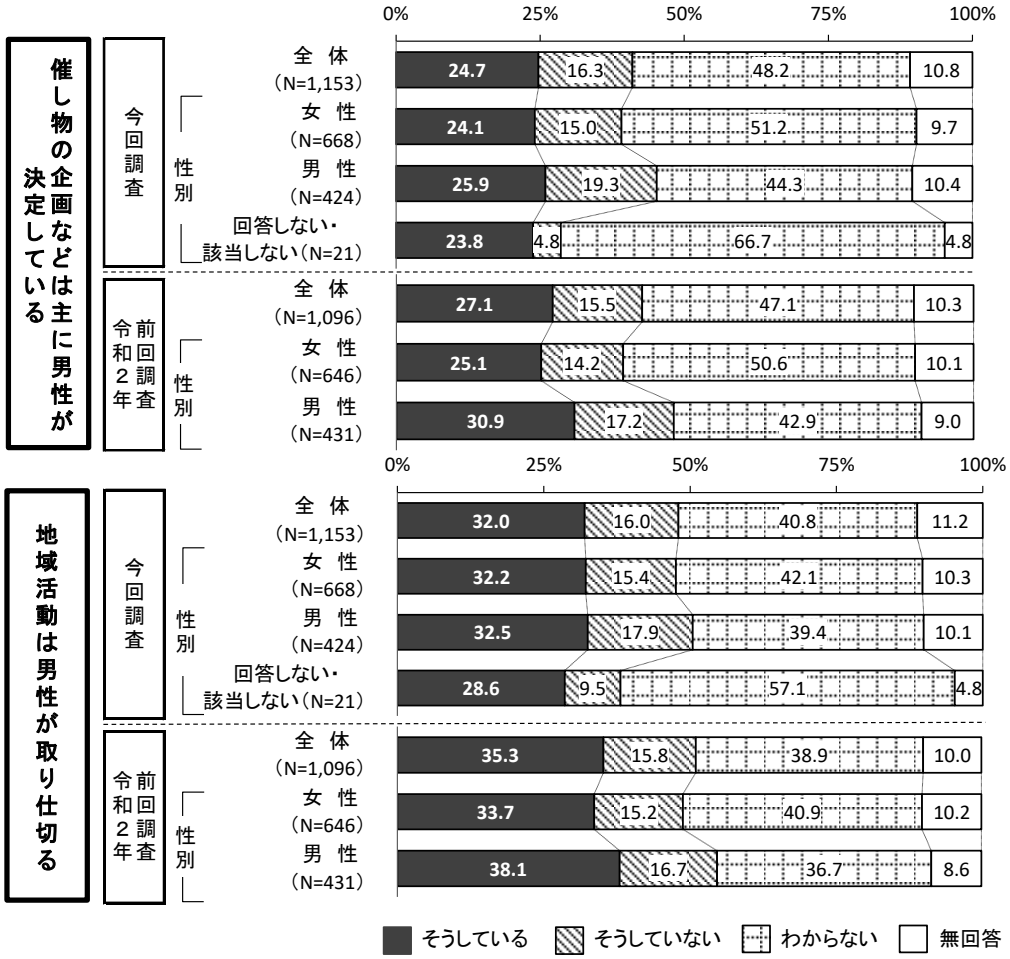
		標本数	地域の団体、組織などの役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい	地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする	会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい	地域の活動に女性が少ないため歓迎される	地域の活動には女性の方が積極的である	特に男女で差はない	その他	わからない	無回答
全体		1,153	117	61	84	102	154	357	20	421	89
		100.0	10.1	5.3	7.3	8.8	13.4	31.0	1.7	36.5	7.7
年齢別	女性:29歳以下	33	9.1	6.1	6.1	3.0	－	12.1	－	72.7	－
	女性:30歳代	33	3.0	3.0	6.1	3.0	6.1	27.3	3.0	54.5	3.0
	女性:40歳代	73	6.8	6.8	5.5	1.4	11.0	16.4	1.4	56.2	1.4
	女性:50歳代	81	7.4	3.7	6.2	1.2	7.4	18.5	2.5	61.7	1.2
	女性:60歳代	157	8.3	3.2	7.0	8.9	14.0	31.2	1.3	35.7	5.7
	女性:70歳以上	279	12.9	6.8	10.8	6.8	17.2	30.1	1.4	29.7	12.5
	男性:29歳以下	16	－	6.3	－	6.3	－	31.3	－	62.5	－
	男性:30歳代	24	8.3	12.5	8.3	8.3	4.2	12.5	－	54.2	－
	男性:40歳代	40	2.5	－	2.5	10.0	22.5	42.5	－	35.0	－
	男性:50歳代	51	5.9	3.9	5.9	7.8	3.9	31.4	－	41.2	9.8
	男性:60歳代	75	17.3	6.7	6.7	13.3	14.7	36.0	－	30.7	4.0
	男性:70歳以上	208	13.0	5.8	6.7	16.3	17.8	46.2	4.3	20.7	7.2
	回答しない･該当しない	21	9.5	－	－	4.8	9.5	9.5	－	66.7	4.8
	無回答	62	8.1	4.8	8.1	14.5	9.7	29.0	1.6	17.7	29.0
居住地区別	山田地区	216	6.5	4.6	3.7	8.8	15.7	35.6	1.4	34.7	7.9
	稲築地区	451	9.8	4.0	6.7	6.4	14.2	26.2	2.0	46.3	4.9
	碓井地区	172	11.6	4.7	7.6	6.4	12.2	30.2	1.7	35.5	7.0
	嘉穂地区	239	14.6	9.2	11.3	13.8	12.1	37.2	1.7	23.4	7.9
	わからない	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	無回答	74	5.4	4.1	8.1	13.5	8.1	28.4	1.4	25.7	25.7

４．地域活動での男女の役割分担

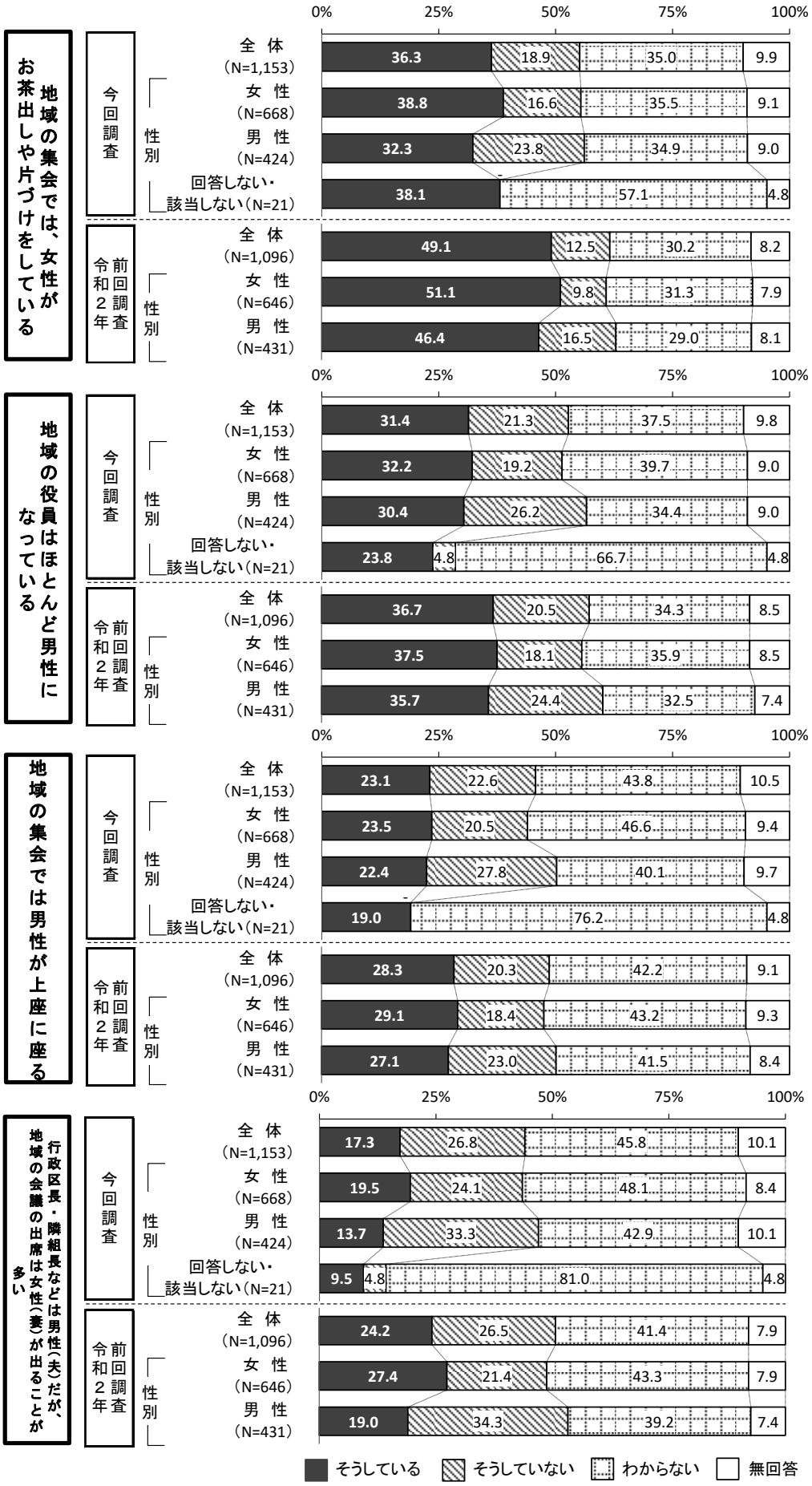
・地域活動での男女の役割分担の現状について「わからない」が3割台半ばから約5割と高い。
・「そうしている」が多い項目は「女性がお茶出しや片づけをする」が3割台半ば、「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」が約3割。
・前回調査に比べ、ほとんどの項目で「そうしている」が男女とも減少している。

問 14　地域活動での男女の役割分担についておたずねします。
（１）現状：あなたが参加している地域活動の現状について（ア）～（カ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

図表４－10（１）　【現状】地域活動での男女の役割分担［全体、性別］（前回調査比較）



図表４－10（２）　【現状】地域活動での男女の役割分担［全体、性別］（前回調査比較）



地域活動での男女の役割分担の現状を６つの項目でたずねた。すべての項目で「わからない」が３割台半ばから約５割と高くなっているが、これは地域活動に参加していない人が多いためと思われる。

「そうしている」との回答が最も多かったのは「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」で 36.3％と３割台半ばに上る。次いで「地域活動は男性が取り仕切る」（32.0％）、「地域の役員はほとんど男性になっている」（31.4％）が約３割、「催し物の企画などは主に男性が決定している」（24.7％）、「地域の集会では男性が上座に座る」（23.1％）が２割台半ば、「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」（17.3％）が約２割となっている。

性別でみると、女性は「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」と「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」の「そうしている」が男性よりも 5.8～6.5 ポイント高い。それ以外の項目では「そうしている」の割合には大きな差はないが、「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域の役員はほとんど男性になっている」「地域の集会では男性が上座に座る」「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」については男性の「そうしていない」が女性より約７～９ポイント高くなっており、性別で認識に差がみられる。

前回調査と比べると、ほとんどの項目で「そうしている」の割合が減っており、特に「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は男女とも 12.3～14.1 ポイントと大きく減少している。また、「地域の役員はほとんど男性になっている」「地域の集会では男性が上座に座る」「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」も「そうしている」が男女とも 4.7～7.9 ポイント減少している。「催し物の企画などは主に男性が決定している」「地域活動は男性が取り仕切る」は男性では「そうしている」が 5.0～5.6 ポイント減少しているが、女性では大きな変化はみられない。

地域活動で役割分担がなされている場合、いずれの項目も「改善すべき」の割合が約5割から6割と高い。「催し物の企画などは主に男性が決定している」「地域活動は男性が取り仕切る」は「現状のままでいい」も約3割と比較的高い。

問 14　地域活動での男女の役割分担についておたずねします。

（２）意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。（ア）～（カ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

図表４－11　【意識】地域活動での男女の役割分担［全体、現状別］

（%）

			標本数	【意識】催し物の企画などは主に男性が決定している			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	240	293	430	190
			100.0	20.8	25.4	37.3	16.5
現状別	催し物の企画などは主に男性が決定している	そうしている	285	31.6	49.8	10.9	7.7
		そうしていない	188	60.1	18.6	8.0	13.3
		わからない	556	6.3	19.6	67.6	6.5
		無回答	124	1.6	5.6	6.5	86.3

			標本数	【意識】地域活動は男性が取り仕切る			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	242	311	407	193
			100.0	21.0	27.0	35.3	16.7
現状別	地域活動は男性が取り仕切る	そうしている	369	30.9	47.4	13.0	8.7
		そうしていない	185	56.8	22.7	10.8	9.7
		わからない	470	4.3	18.9	70.2	6.6
		無回答	129	2.3	3.9	7.0	86.8

			標本数	【意識】地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	239	358	362	194
			100.0	20.7	31.0	31.4	16.8
現状別	地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	そうしている	418	19.6	57.7	12.2	10.5
		そうしていない	218	64.2	14.7	9.2	11.9
		わからない	403	4.0	20.1	71.0	5.0
		無回答	114	0.9	3.5	4.4	91.2

			標本数	【意識】地域の役員はほとんど男性になっている			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	248	322	395	188
			100.0	21.5	27.9	34.3	16.3
現状別	地域の役員はほとんど男性になっている	そうしている	362	24.9	54.4	12.4	8.3
		そうしていない	246	56.5	20.3	11.0	12.2
		わからない	432	3.0	16.7	73.8	6.5
		無回答	113	5.3	2.7	3.5	88.5

			標本数	【意識】地域の集会では男性が上座に座る			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	233	294	423	203
			100.0	20.2	25.5	36.7	17.6
現状別	地域の集会では男性が上座に座る	そうしている	266	21.4	56.4	12.8	9.4
		そうしていない	261	60.2	18.4	8.8	12.6
		わからない	505	3.2	18.6	72.1	6.1
		無回答	121	2.5	1.7	1.7	94.2

			標本数	【意識】行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い			
				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体			1,153	231	283	450	189
			100.0	20.0	24.5	39.0	16.4
現状別	行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い	そうしている	199	21.6	57.3	10.1	11.1
		そうしていない	309	52.8	22.3	15.2	9.7
		わからない	528	4.2	18.4	71.4	6.1
		無回答	117	2.6	2.6	5.1	89.7

地域活動での男女の役割分担の現状をふまえ、今後どうすべきと思うか回答をしてもらった。いずれの項目についても現状で「そうしている」場合、「改善すべき」との回答が約５割から６割弱に上っており、「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」（57.7%）、「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」（57.3%）、「地域の集会では男性が上座に座る」（56.4%）などで５割を超えて高い。

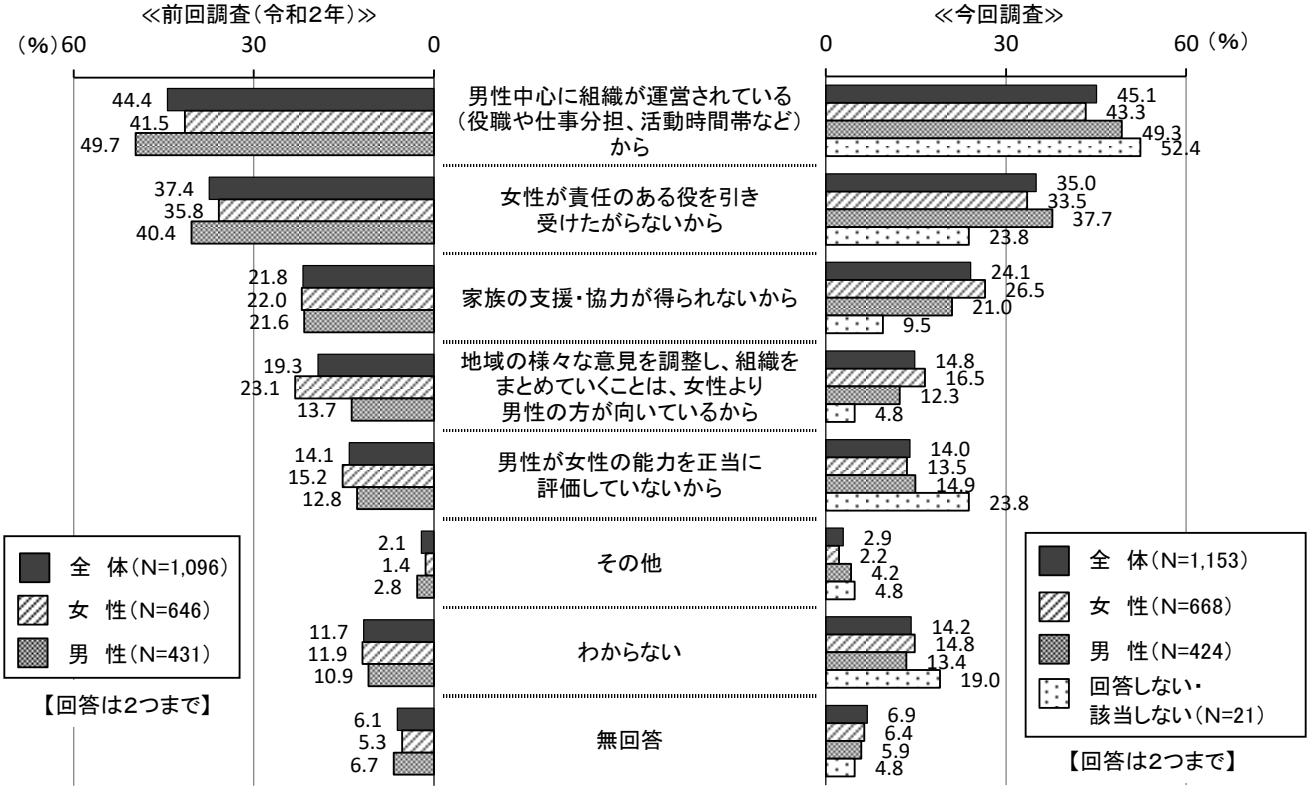
一方、「そうしている」場合に「現状のままでいい」とする回答は、すべての項目で約２割から３割となっており、「催し物の企画などは主に男性が決定している」（31.6%）、「地域活動は男性が取り仕切る」（30.9%）で３割を超えている。

５．地域の長に女性が就くことが少ない理由

地域の長に女性が就くことが少ない理由は「男性中心に組織が運営されているから」が4割台半ば、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が3割台半ば。

問 15　内閣府調査（令和６年４月１日現在）によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では 10.9%（嘉麻市 12.7%）でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状ですが、その理由は何だと思いますか。２つまで選んでください。

図表４－12　地域の長に女性が就くことが少ない理由［全体、性別］（前回調査比較）



行政区長や隣組長などの役職に女性が就くことが少ない理由をたずねたところ、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が 45.1%、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が 35.0%で上位となっている。以下、「家族の支援・協力が得られないから」が 24.1%、「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」が 14.8%、「男性が女性の能力を正当に評価していないから」が 14.0%となっている。

性別でみると、女性は「家族の支援・協力が得られないから」が 26.5%で男性（21.0%）より 5.5 ポイント高い。一方、男性は「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」（女性 43.3%、男性 49.3%）が女性より 6.0 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性で「家族の支援・協力が得られないから」が 4.5 ポイント増加し、「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」が 6.6 ポイント減少している。

年齢別でみると、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」は女性の 30 歳代と男性 60 歳代で約６割と高くなっている。「家族の支援・協力が得られないから」は女性の 30 歳代で 39.4％と高い。「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」は男性の 29 歳以下と男女の 70 歳以上で約４割と高くなっている。「男性が女性の能力を正当に評価していないから」は男女とも 29 歳以下で約３割と高い。「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」は男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。

居住地区別でみると、嘉穂地区で「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が 47.3％と他の地区に比べて高い。

図表４－13　地域の長に女性が就くことが少ない理由［全体、年齢別、居住地区別］

（%）

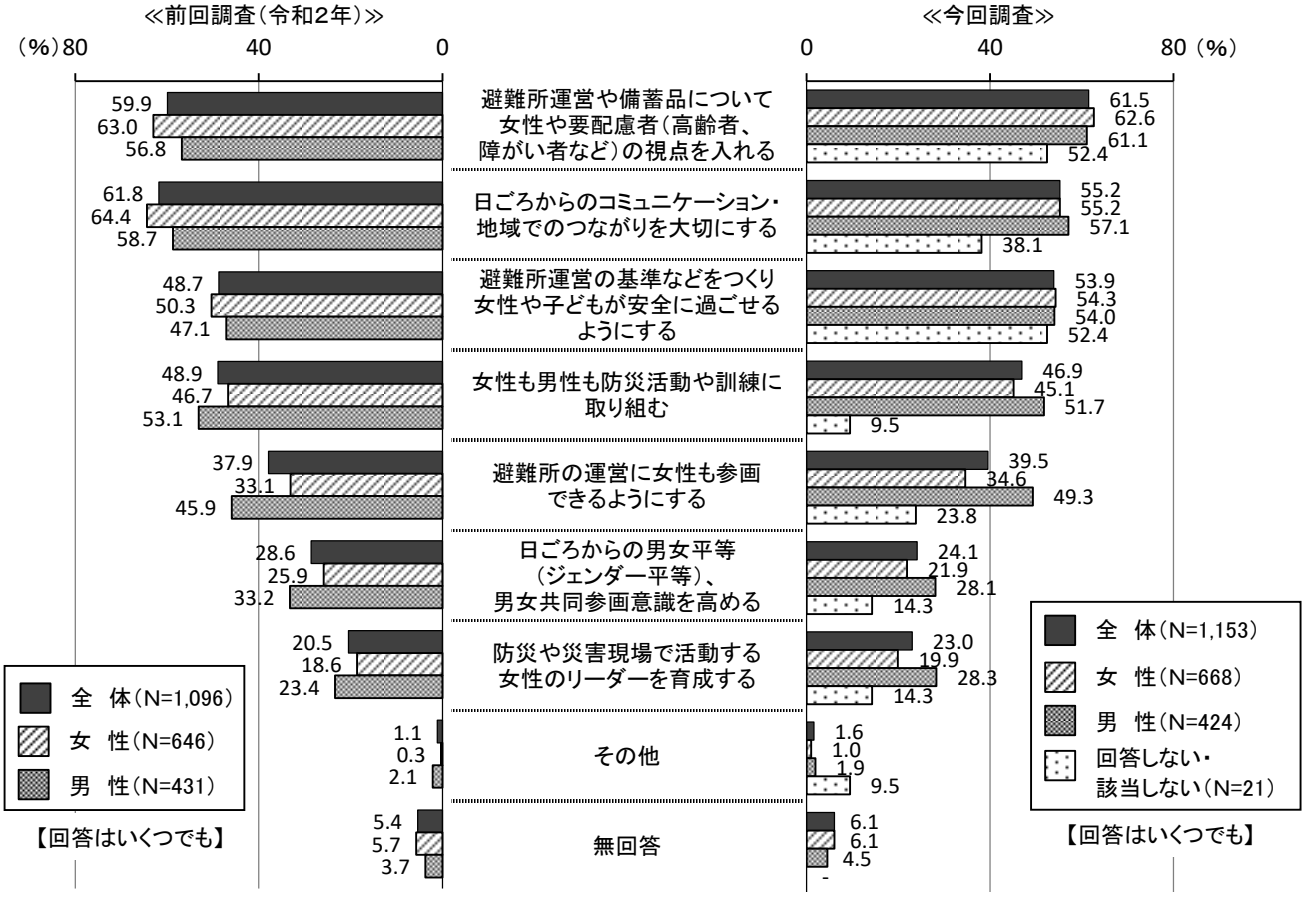
		標本数	男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から	男性が女性の能力を正当に評価していないから	家族の支援・協力が得られないから	女性が責任のある役を引き受けたがらないから	地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性より男性の方が向いているから	その他	わからない	無回答
全体		1,153	520	161	278	403	171	34	164	80
		100.0	45.1	14.0	24.1	35.0	14.8	2.9	14.2	6.9
年齢別	女性:29歳以下	33	54.5	33.3	27.3	33.3	6.1	－	15.2	－
	女性:30歳代	33	57.6	18.2	39.4	27.3	3.0	3.0	9.1	3.0
	女性:40歳代	73	46.6	9.6	20.5	24.7	9.6	5.5	28.8	－
	女性:50歳代	81	48.1	22.2	25.9	23.5	9.9	2.5	16.0	2.5
	女性:60歳代	157	43.9	13.4	24.8	33.1	17.8	3.8	16.6	3.8
	女性:70歳以上	279	38.4	9.7	28.0	39.4	22.6	0.7	10.4	11.1
	男性:29歳以下	16	56.3	31.3	－	43.8	－	－	18.8	－
	男性:30歳代	24	54.2	20.8	25.0	25.0	12.5	8.3	12.5	－
	男性:40歳代	40	45.0	15.0	30.0	35.0	10.0	7.5	15.0	－
	男性:50歳代	51	54.9	5.9	23.5	35.3	3.9	5.9	15.7	7.8
	男性:60歳代	75	61.3	18.7	24.0	36.0	9.3	－	10.7	4.0
	男性:70歳以上	208	43.8	13.9	19.2	40.4	16.3	4.8	13.5	7.7
	回答しない・該当しない	21	52.4	23.8	9.5	23.8	4.8	4.8	19.0	4.8
	無回答	62	29.0	6.5	21.0	37.1	17.7	－	11.3	25.8
居住地区別	山田地区	216	50.0	9.3	28.2	36.1	15.7	2.8	12.0	6.9
	稲築地区	451	45.9	18.2	25.7	27.5	14.2	3.1	16.2	5.3
	碓井地区	172	43.0	14.5	19.8	36.6	9.9	4.1	17.4	6.4
	嘉穂地区	239	46.0	11.3	22.2	47.3	18.8	2.5	10.0	5.0
	わからない	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	74	27.0	8.1	18.9	33.8	14.9	1.4	14.9	24.3

６．災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

災害に備えるために必要なことは、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者の視点を入れる」「コミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」「避難所運営基準をつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が5割台半ばから約6割と高い。

問 16　これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点からの対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。いくつでも選んでください。

図表４－14　災害に備えるために必要な男女共同参画の視点［全体、性別］（前回調査比較）



災害に備えるために男女共同参画の視点から必要だと思うことをたずねたところ、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる」が 61.5％で最も高く、次いで「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が 55.2％、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が 53.9％、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が 46.9％、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」が 39.5％などとなっている。

性別でみると、上位３項目に男女で大きな差はみられない。「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(女性 34.6%、男性 49.3%)、「防災や災害現場で活躍する女性のリーダーを育成する」（同 19.9%、28.3%)、「日ごろからの男女平等（ジェンダー平等)、男女共同参画意識を高める」（同 21.9%、28.1%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（同 45.1%、51.7%）などは、男性が女性に比べて 6.2～14.7 ポイント高い。

前回調査と比べると、前回第１位であった「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が女性で 9.2 ポイント減少し、全体でも第２位となっている。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」は男女とも 4.0～6.9 ポイント増加しており、実際に災害が起きた場合の対応がより重視されるようになっているようである。

年齢別でみると、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる」は女性の 30 歳代と 50 歳代で約７割と高くなっている。「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は女性の 60 歳代と男性の 40 歳代で６割を超えて高い。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」は女性の 30 歳代以下で７割台、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」は女性の 30 歳代と男性の 30 歳代、60 歳代以上で５割台と高くなっている。

図表４－15　災害に備えるために必要な男女共同参画の視点［全体、年齢別］

(%)

		標本数	避難所の運営に女性も参画できるようにする	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる	避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする	防災や災害現場で活躍する女性のリーダーを育成する	日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする	日ごろからの男女平等（ジェンダー平等）、男女共同参画意識を高める	その他	無回答
全体		1,153	456	541	709	621	265	637	278	18	70
		100.0	39.5	46.9	61.5	53.9	23.0	55.2	24.1	1.6	6.1
年齢別	女性:29歳以下	33	39.4	30.3	63.6	72.7	18.2	30.3	33.3	－	－
	女性:30歳代	33	57.6	51.5	69.7	78.8	27.3	36.4	21.2	3.0	－
	女性:40歳代	73	27.4	43.8	56.2	57.5	15.1	56.2	21.9	1.4	－
	女性:50歳代	81	35.8	37.0	67.9	60.5	24.7	51.9	24.7	2.5	－
	女性:60歳代	157	32.5	49.0	65.6	50.3	17.8	61.8	19.1	－	3.8
	女性:70歳以上	279	33.0	46.2	59.1	48.4	19.4	57.3	20.8	1.1	12.2
	男性:29歳以下	16	43.8	50.0	62.5	56.3	18.8	50.0	25.0	－	－
	男性:30歳代	24	50.0	37.5	58.3	58.3	29.2	58.3	25.0	4.2	－
	男性:40歳代	40	30.0	47.5	70.0	50.0	17.5	65.0	17.5	－	－
	男性:50歳代	51	31.4	43.1	60.8	60.8	29.4	52.9	25.5	3.9	9.8
	男性:60歳代	75	57.3	48.0	64.0	58.7	34.7	52.0	32.0	1.3	1.3
	男性:70歳以上	208	54.8	57.7	59.6	51.0	28.4	59.1	29.8	1.9	5.3
	回答しない・該当しない	21	23.8	9.5	52.4	52.4	14.3	38.1	14.3	9.5	－
	無回答	62	37.1	48.4	56.5	50.0	27.4	48.4	27.4	1.6	21.0

第５章　暴力などの人権侵害について

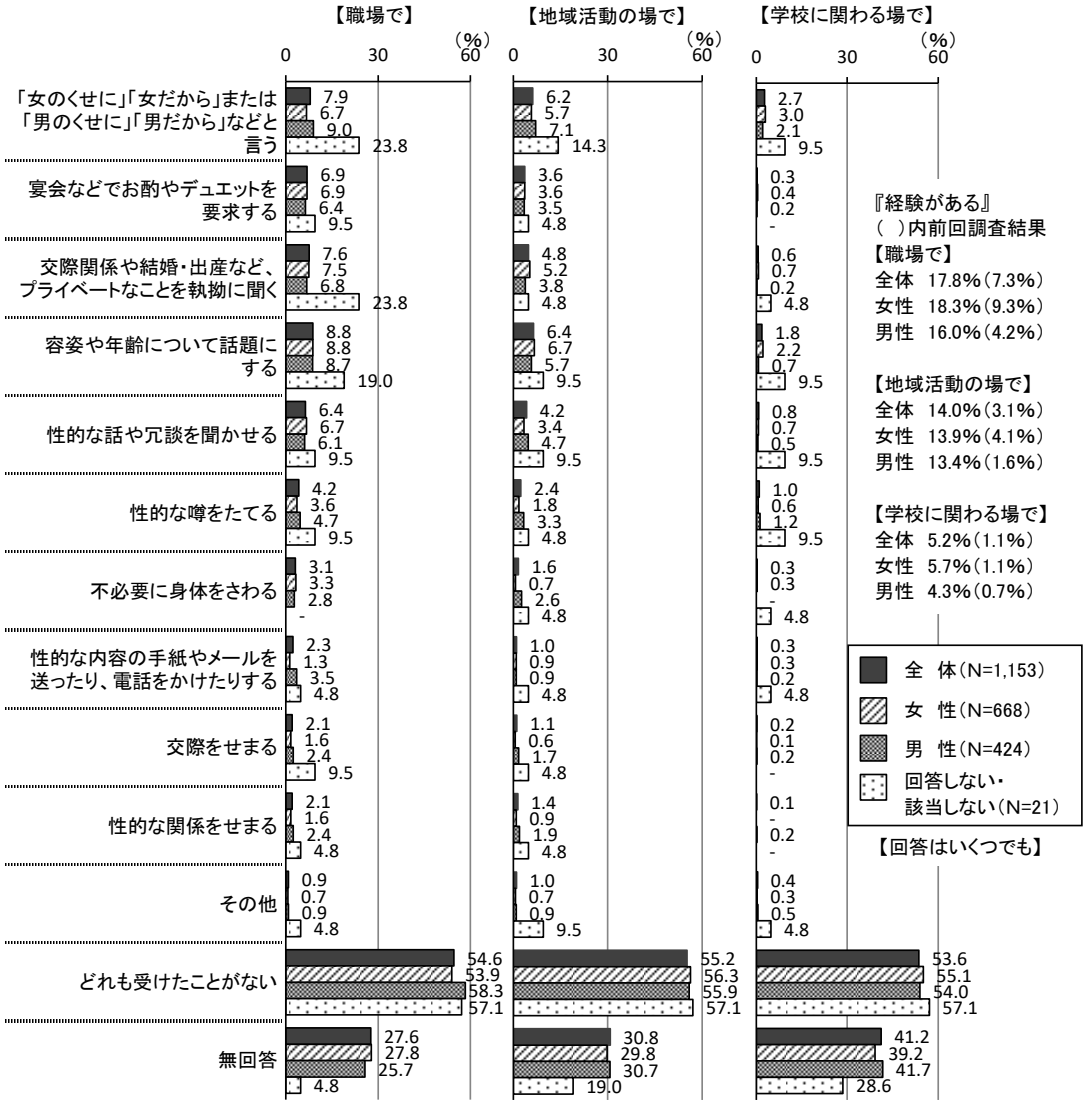
１．セクシュアル・ハラスメントについて

（１）セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

・セクハラ被害の経験は「職場」が女性 18.3%、男性 16.0%。「地域活動の場」が女性 13.9%、男性 13.4%、「学校に関わる場」が女性 5.7%、男性 4.3%。前回調査よりも被害の経験は高い。
・「職場」は女性の 40 歳以下と男性の 30・40 歳代、60 歳代で2割以上がセクハラ被害を経験。「地域活動の場」では女性の 30 歳代以下、男性の 60 歳代以上、「学校に関わる場」では女性の 29 歳以下の被害が多い。

問 17　あなたは過去３年ぐらいの間に「Ａ 職場」「Ｂ 地域活動の場」「Ｃ 学校に関わる場」で次のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。Ａ、Ｂ、Ｃのそれぞれについて受けたことがあるものすべてを選んでください。

図表５－１　セクシュアル・ハラスメントを受けた経験［全体、性別］（前回調査比較）



ここ３年ぐらいの間に「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」でセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）」を受けたことがあるかどうかたずねた。

「職場」では「どれも受けたことがない」が 54.6%で、これと無回答を除く 17.8%の人がセクハラを受けた経験がある。女性の経験者は 18.3%、男性は 16.0%となっている。具体的には「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」は男性の被害がやや多いが、他の項目は男女とも同程度の割合となっている。

年齢別にみると、どれかひとつでも受けた経験があると回答した人の割合は、女性はいずれの年代も１割を超えており、特に 29 歳以下で 27.2%、30 歳代で 39.4%、40 歳代で 21.9%と高い。男性は 29 歳以下と 50 歳代を除く年代で１割を超えており、30 歳代で 33.3%、40 歳代で 20.0%、60 歳代で 21.3%と高い。具体的な被害は、男女の 30 歳代で「容姿や年齢について話題にする」「性的な話や冗談を聞かせる」、女性の 30 歳代以下で「交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く」「宴会などでお酌やデュエットを要求する」「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」などの割合が高い。

「地域活動の場」では「受けたことがない」が 55.2%で、これと無回答を除く 14.0%の人がセクハラを受けた経験があり、女性は 13.9%、男性は 13.4%となっている。職場に比べると、地域活動の場でのセクハラの被害経験はやや少ないものの男女とも「容姿や年齢について話題にする」「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」などの被害が多い。

年齢別でみると、女性の 29 歳以下と 30 歳代で受けた経験があるが同率の 18.2%と高く、内容として「容姿や年齢について話題にする」が 29 歳以下で 12.1%、「交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く」が 30 歳代で 12.1%となっている。また、男性の 60 歳代でも「容姿や年齢について話題にする」は 10.7%と高く、「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」は男性の 70 歳以上で 11.1%となっている。

「学校に関わる場」で「受けたことがない」が 53.6%で、これと無回答を除く 5.2%の人がセクハラを受けた経験があり、女性は 5.7%、男性は 4.3%となっている。職場や地域活動の場に比べてセクハラの被害経験は少ないが女性の 29 歳以下では 30.3%と高く、具体的な内容は「容姿や年齢について話題にする」が 18.2%、「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」が 12.1%となっている。

図表５－２　セクシュアル・ハラスメントを受けた経験［全体、年齢別］

（%）

		標本数	職場で													
			「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う	宴会などでお酌やデュエットを要求する	交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く	容姿や年齢について話題にする	性的な話や冗談を聞かせる	性的な噂をたてる	不必要に身体をさわる	性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけたりする	交際をせまる	性的な関係をせまる	その他	どれも受けたことがない	無回答	『経験がある』
全体		1,153	91	80	88	102	74	48	36	26	24	24	10	630	318	17.8
		100.0	7.9	6.9	7.6	8.8	6.4	4.2	3.1	2.3	2.1	2.1	0.9	54.6	27.6	
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	12.1	21.2	15.2	9.1	6.1	9.1	3.0	3.0	3.0	－	57.6	15.2	27.2
	女性:30歳代	33	12.1	12.1	21.2	30.3	18.2	6.1	3.0	－	6.1	3.0	－	54.5	6.1	39.4
	女性:40歳代	73	11.0	6.8	8.2	12.3	8.2	5.5	5.5	2.7	2.7	1.4	1.4	67.1	11.0	21.9
	女性:50歳代	81	3.7	4.9	6.2	8.6	7.4	2.5	3.7	1.2	－	6.2	－	66.7	17.3	16.0
	女性:60歳代	157	7.0	7.0	6.4	10.2	5.1	3.8	2.5	1.9	1.3	－	1.3	58.6	22.3	19.1
	女性:70歳以上	279	4.7	6.1	5.0	3.6	5.4	2.9	2.5	0.7	1.4	1.1	0.7	44.1	41.9	14.0
	男性:29歳以下	16	－	6.3	6.3	6.3	6.3	－	－	－	－	－	－	75.0	18.8	6.2
	男性:30歳代	24	12.5	12.5	12.5	33.3	20.8	8.3	－	－	－	－	－	54.2	12.5	33.3
	男性:40歳代	40	10.0	5.0	10.0	15.0	5.0	5.0	7.5	5.0	5.0	5.0	－	62.5	17.5	20.0
	男性:50歳代	51	5.9	－	－	3.9	3.9	2.0	－	－	－	－	－	78.4	13.7	7.9
	男性:60歳代	75	12.0	8.0	10.7	12.0	5.3	8.0	4.0	6.7	4.0	4.0	1.3	66.7	12.0	21.3
	男性:70歳以上	208	8.7	7.2	5.8	5.3	5.8	4.3	2.9	3.8	2.4	2.4	1.4	51.0	35.1	13.9
	回答しない・該当しない	21	23.8	9.5	23.8	19.0	9.5	9.5	－	4.8	9.5	4.8	4.8	57.1	4.8	38.1
	無回答	62	8.1	9.7	9.7	6.5	3.2	3.2	3.2	1.6	1.6	3.2	－	27.4	54.8	17.8

		標本数	地域活動の場で													
			「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う	宴会などでお酌やデュエットを要求する	交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く	容姿や年齢について話題にする	性的な話や冗談を聞かせる	性的な噂をたてる	不必要に身体をさわる	性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけたりする	交際をせまる	性的な関係をせまる	その他	どれも受けたことがない	無回答	『経験がある』
全体		1,153	72	41	55	74	48	28	18	12	13	16	12	636	355	14.0
		100.0	6.2	3.6	4.8	6.4	4.2	2.4	1.6	1.0	1.1	1.4	1.0	55.2	30.8	
年齢別	女性:29歳以下	33	9.1	6.1	9.1	12.1	6.1	3.0	－	－	－	－	－	57.6	24.2	18.2
	女性:30歳代	33	6.1	－	12.1	3.0	3.0	－	－	3.0	3.0	3.0	－	63.6	18.2	18.2
	女性:40歳代	73	9.6	2.7	5.5	5.5	1.4	1.4	－	－	－	－	－	67.1	17.8	15.1
	女性:50歳代	81	3.7	1.2	2.5	2.5	2.5	1.2	－	1.2	－	－	－	70.4	22.2	7.4
	女性:60歳代	157	3.8	1.9	4.5	7.0	2.5	－	1.3	0.6	－	1.3	1.9	60.5	26.1	13.4
	女性:70歳以上	279	5.7	5.7	5.0	7.9	4.3	2.9	1.1	0.7	0.7	0.7	0.4	46.6	39.1	14.3
	男性:29歳以下	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	75.0	25.0	－
	男性:30歳代	24	4.2	4.2	8.3	－	－	－	4.2	－	－	－	－	50.0	33.3	16.7
	男性:40歳代	40	－	－	2.5	5.0	2.5	2.5	－	－	－	－	－	65.0	30.0	5.0
	男性:50歳代	51	－	－	2.0	3.9	－	－	－	－	－	2.0	－	68.6	25.5	5.9
	男性:60歳代	75	6.7	5.3	9.3	10.7	9.3	9.3	6.7	2.7	4.0	4.0	1.3	58.7	22.7	18.6
	男性:70歳以上	208	11.1	4.3	2.4	5.3	5.3	2.4	1.9	1.0	1.4	1.4	1.4	51.4	33.2	15.4
	回答しない・該当しない	21	14.3	4.8	4.8	9.5	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	9.5	57.1	19.0	23.9
	無回答	62	4.8	3.2	6.5	8.1	8.1	4.8	3.2	3.2	4.8	4.8	3.2	27.4	53.2	19.4

		標本数	学校に関わる場で													
			「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う	宴会などでお酌やデュエットを要求する	交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く	容姿や年齢について話題にする	性的な話や冗談を聞かせる	性的な噂をたてる	不必要に身体をさわる	性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけたりする	交際をせまる	性的な関係をせまる	その他	どれも受けたことがない	無回答	『経験がある』
全体		1,153	31	4	7	21	9	11	3	4	2	1	5	618	475	5.2
		100.0	2.7	0.3	0.6	1.8	0.8	1.0	0.3	0.3	0.2	0.1	0.4	53.6	41.2	
年齢別	女性:29歳以下	33	12.1	6.1	3.0	18.2	6.1	6.1	－	3.0	－	－	－	57.6	12.1	30.3
	女性:30歳代	33	9.1	－	3.0	9.1	3.0	－	3.0	3.0	－	－	－	60.6	21.2	18.2
	女性:40歳代	73	1.4	－	1.4	2.7	1.4	1.4	－	－	－	－	－	68.5	28.8	2.7
	女性:50歳代	81	1.2	－	2.5	1.2	－	－	－	－	－	－	－	70.4	27.2	2.4
	女性:60歳代	157	1.9	0.6	－	1.3	0.6	－	－	－	0.6	－	0.6	61.8	33.1	5.1
	女性:70歳以上	279	2.2	－	－	0.4	－	0.4	－	－	－	－	0.4	43.0	54.1	2.9
	男性:29歳以下	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	81.3	18.8	－
	男性:30歳代	24	4.2	－	－	4.2	－	4.2	－	－	－	－	－	50.0	37.5	12.5
	男性:40歳代	40	2.5	2.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	62.5	32.5	5.0
	男性:50歳代	51	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	70.6	29.4	－
	男性:60歳代	75	1.3	－	－	1.3	1.3	1.3	－	－	1.3	1.3	1.3	53.3	42.7	4.0
	男性:70歳以上	208	1.9	－	0.5	0.5	0.5	1.4	－	－	－	－	0.5	49.0	47.1	3.9
	回答しない・該当しない	21	9.5	－	4.8	9.5	9.5	9.5	4.8	4.8	－	－	4.8	57.1	28.6	14.3
	無回答	62	6.5	－	－	1.6	－	－	1.6	1.6	－	－	－	24.2	67.7	8.1

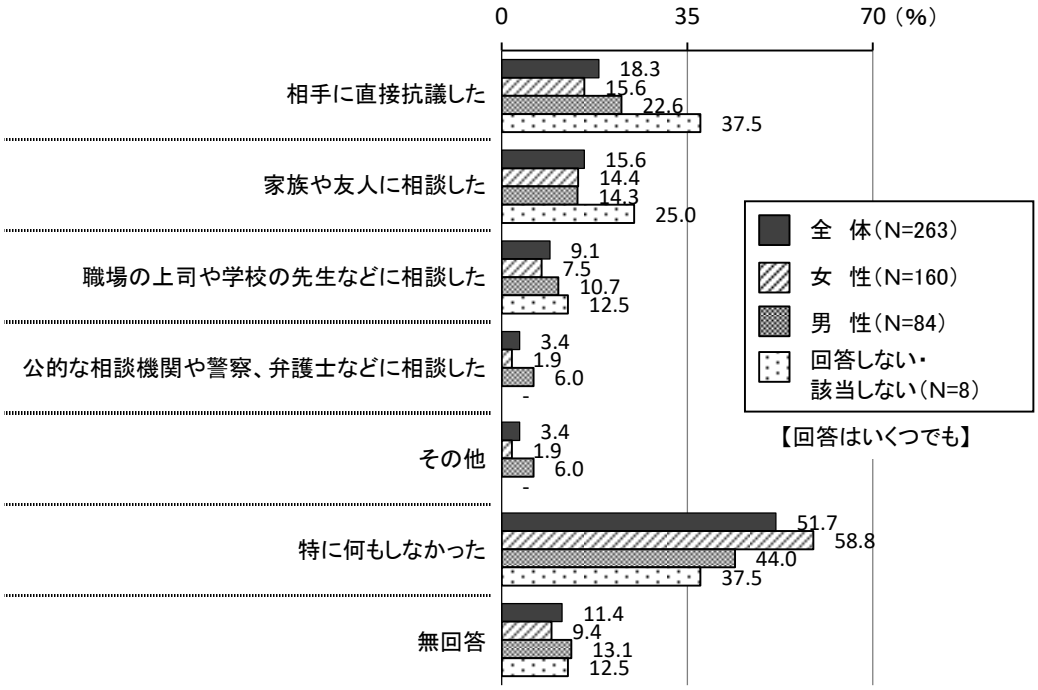
（２）セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動

・セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動は、女性の約6割、男性の4割台半ばが「特に何もしなかった」、男女とも年齢の低い層での割合が高い。

問 17 付問１ **【問 17 で「A 職場」「B 地域活動の場」「C 学校に関わる場」でひとつでも「１.」～「11.」に答えた方におたずねします】**

その後、あなたはどのような行動をとりましたか。いくつでも選んでください。

図表５－３　セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動［全体、性別］



セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動は、「特に何もしなかった」が 51.7%と最も高い。具体的な行動としては「相手に直接抗議した」が 18.3%、「家族や友人に相談した」が 15.6%、「職場の上司や学校の先生などに相談した」が 9.1%となっている。

性別でみると、女性は「特に何もしなかった」が 58.8%、男性は 44.0%と女性の方が 14.8 ポイント高い。「家族や友人に相談した」は男女とも１割台半ばで同程度であるが、「相手に直接抗議した」は女性 15.6%、男性 22.6%と男性が 7.0 ポイント高く、その他の具体的行動も男性の方が割合は高い。

年齢別でみると、女性は年齢が低い層で「特に何もしなかった」の割合が高く、いずれの場面でも被害経験が高かった 30 歳代以下では７割台となっている。男性も年齢が低い層で「特に何もしなかった」の割合が高い傾向がみられ、「相手に直接抗議した」は男女とも年齢の高い層で割合が高い。「職場の上司や学校の先生などに相談した」は女性の 30 歳代と 50 歳代で２割台と比較的高い。

図表５－４　セクシュアル・ハラスメントを受けた後の行動［全体、年齢別］

(%)

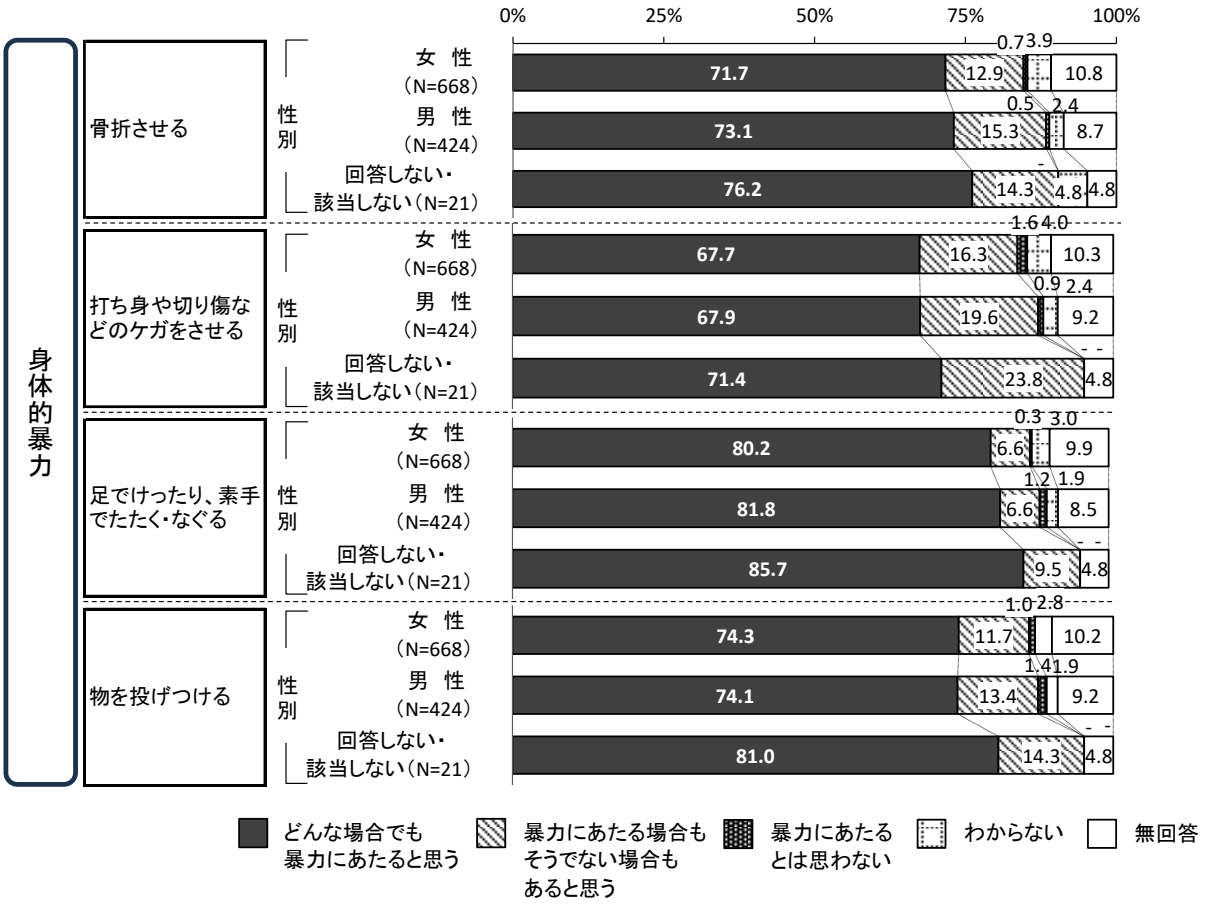
		標本数	相手に直接抗議した	職場の上司や学校の先生などに相談した	家族や友人に相談した	公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した	その他	特に何もしなかった	無回答
全体		263	48	24	41	9	9	136	30
		100.0	18.3	9.1	15.6	3.4	3.4	51.7	11.4
年齢別	女性:29歳以下	14	7.1	14.3	7.1	7.1	－	78.6	－
	女性:30歳代	15	6.7	26.7	20.0	－	－	73.3	－
	女性:40歳代	21	14.3	－	19.0	－	4.8	61.9	4.8
	女性:50歳代	17	11.8	23.5	29.4	－	－	52.9	－
	女性:60歳代	36	22.2	2.8	11.1	2.8	2.8	55.6	11.1
	女性:70歳以上	54	18.5	1.9	11.1	1.9	1.9	51.9	16.7
	男性:29歳以下	1	－	－	－	－	－	100.0	－
	男性:30歳代	9	33.3	－	－	－	11.1	44.4	11.1
	男性:40歳代	8	－	12.5	12.5	12.5	－	75.0	12.5
	男性:50歳代	6	16.7	16.7	－	－	16.7	50.0	16.7
	男性:60歳代	18	27.8	11.1	11.1	－	－	44.4	11.1
	男性:70歳以上	40	22.5	12.5	20.0	10.0	7.5	37.5	12.5
	回答しない･該当しない	8	37.5	12.5	25.0	－	－	37.5	12.5
	無回答	16	12.5	12.5	31.3	6.3	6.3	25.0	31.3

２．暴力だと思うもの

・身体的暴力の認知は男女とも同程度、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力は男性の方が認知は低い傾向。

問 18　次のことが配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む)や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

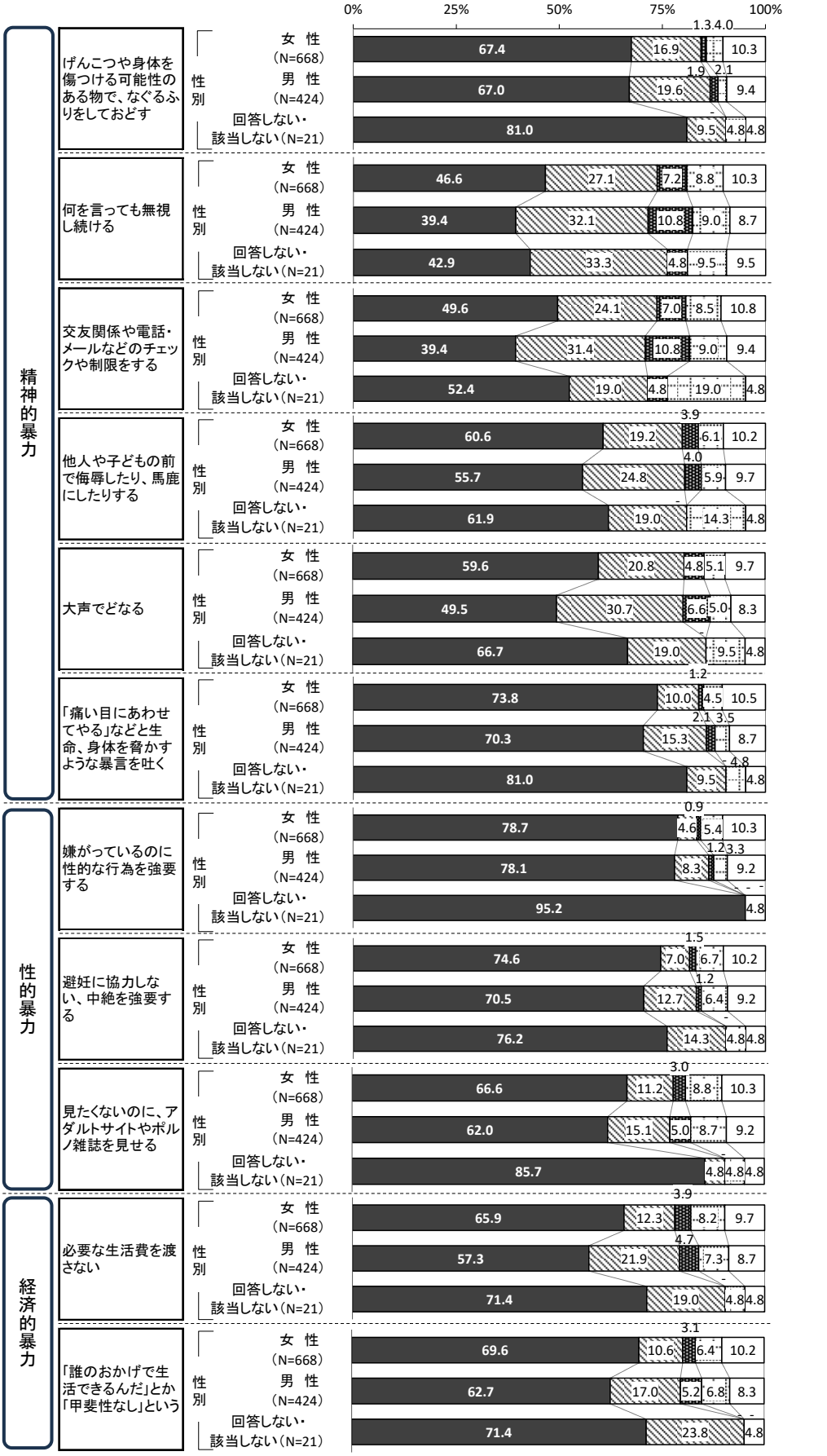
図表５－５（１）　暴力だと思うもの［性別］



身体的、精神的、性的、経済的な暴力を 15 項目あげ、どんな場合も暴力にあたるかどうかたずねた。

身体的暴力で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合をみると「足でけったり、素手でたたく・なぐる」が男女とも８割台、「骨折させる」「物を投げつける」が７割台であるが、「打ち身や切り傷などのケガをさせる」は６割台で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が１割台半ばから約２割となっている。身体的暴力の認知は、男女とも同程度である。

図表５－５（２）　暴力だと思うもの［性別］



精神的暴力で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合をみると「「痛い目にあわせてやる」などと生命、身体を脅かすような暴言を吐く」で男女とも７割台、「げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどす」は６割台である。「他人や子どもの前で侮辱したり、馬鹿にしたりする」（女性 60.6%、男性 55.7%）、「大声でどなる」（同 59.6%、49.5%）、「交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をする」（同 49.6%、39.4%）、「何を言っても無視し続ける」（同 46.6%、39.4%）などは暴力であるとの認知は低くなり、特に男性の方が低い。

性的暴力で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合をみると「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は女性 78.7%、男性 78.1%と同程度である。「避妊に協力しない、中絶を強要する」（女性 74.6%、男性 70.5%）や「見たくないのに、アダルトサイトやポルノ雑誌を見せる」（同 66.6%、62.0%）などは男性の方が認知は低い。

経済的暴力で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合をみると「必要な生活費を渡さない」は女性 65.9%、男性 57.3%、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」という」は女性 69.6%、男性 62.7%と男性の方が認知は低い。

年齢別でみると、身体的暴力のうち「骨折させる」は男性の 29 歳以下と 30 歳代、「打ち身や切り傷などのケガをさせる」は男性の 29 歳以下で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が約３割から４割と高い。また、「打ち身や切り傷などのケガをさせる」は女性の 30 歳代と 40 歳代、男性の 30 歳代、50 歳代、60 歳代でも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が２割台と比較的高い。

精神的暴力のうち「交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をする」は男性の 29 歳以下で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が 50.0%と最も高い。「何を言っても無視し続ける」は男性の 50 歳代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 41.2%と高く、女性の 30 歳代と 40 歳代、男性の 60 歳代でも約４割と高い。その他の精神的暴力は男性の年齢が高い層で暴力との認知が低い傾向がみられる。

性的暴力の認知は男女とも 70 歳以上、経済的暴力は女性の 70 歳以上、男性の 50 歳代と 70 歳以上での認知が低い。

図表５－６（１）　暴力だと思うもの［全体、年齢別］

（%）

		標本数	骨折させる					打ち身や切り傷などのケガをさせる				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	824	157	8	41	123	771	204	16	41	121
		100.0	71.5	13.6	0.7	3.6	10.7	66.9	17.7	1.4	3.6	10.5
年齢別	女性:29歳以下	33	84.8	12.1	－	3.0	－	78.8	15.2	－	3.0	3.0
	女性:30歳代	33	78.8	18.2	－	3.0	－	72.7	27.3	－	－	－
	女性:40歳代	73	79.5	17.8	－	－	2.7	72.6	21.9	1.4	－	4.1
	女性:50歳代	81	84.0	6.2	1.2	2.5	6.2	79.0	9.9	2.5	2.5	6.2
	女性:60歳代	157	77.7	14.6	0.6	1.3	5.7	73.9	17.2	1.3	1.9	5.7
	女性:70歳以上	279	60.2	12.5	1.1	7.2	19.0	57.3	15.4	2.2	7.5	17.6
	男性:29歳以下	16	62.5	31.3	－	－	6.3	50.0	43.8	－	－	6.3
	男性:30歳代	24	70.8	29.2	－	－	－	70.8	25.0	4.2	－	－
	男性:40歳代	40	80.0	10.0	－	2.5	7.5	72.5	17.5	－	2.5	7.5
	男性:50歳代	51	74.5	13.7	－	3.9	7.8	62.7	21.6	－	3.9	11.8
	男性:60歳代	75	76.0	17.3	－	2.7	4.0	68.0	26.7	－	1.3	4.0
	男性:70歳以上	208	72.1	13.5	1.0	2.4	11.1	70.7	14.4	1.4	2.4	11.1
	回答しない・該当しない	21	76.2	14.3	－	4.8	4.8	71.4	23.8	－	－	4.8
	無回答	62	54.8	6.5	1.6	6.5	30.6	46.8	16.1	1.6	8.1	27.4

		標本数	足でけったり、素手でたたく・なぐる					物を投げつける				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	922	76	8	31	116	843	146	14	30	120
		100.0	80.0	6.6	0.7	2.7	10.1	73.1	12.7	1.2	2.6	10.4
年齢別	女性:29歳以下	33	93.9	3.0	－	3.0	－	87.9	6.1	－	3.0	3.0
	女性:30歳代	33	87.9	12.1	－	－	－	84.8	15.2	－	－	－
	女性:40歳代	73	82.2	13.7	－	－	4.1	79.5	16.4	－	－	4.1
	女性:50歳代	81	87.7	2.5	－	2.5	7.4	76.5	12.3	1.2	2.5	7.4
	女性:60歳代	157	89.8	3.2	－	1.3	5.7	80.3	11.5	1.9	1.3	5.1
	女性:70歳以上	279	69.9	7.5	0.7	5.4	16.5	65.9	10.8	1.1	5.0	17.2
	男性:29歳以下	16	100.0	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	男性:30歳代	24	83.3	12.5	4.2	－	－	70.8	20.8	4.2	－	4.2
	男性:40歳代	40	82.5	5.0	－	2.5	10.0	75.0	15.0	－	2.5	7.5
	男性:50歳代	51	78.4	7.8	－	3.9	9.8	70.6	13.7	－	3.9	11.8
	男性:60歳代	75	89.3	6.7	1.3	－	2.7	81.3	14.7	－	－	4.0
	男性:70歳以上	208	79.3	6.7	1.0	2.4	10.6	71.2	13.5	2.4	2.4	10.6
	回答しない・該当しない	21	85.7	9.5	－	－	4.8	81.0	14.3	－	－	4.8
	無回答	62	58.1	4.8	3.2	4.8	29.0	50.0	14.5	1.6	4.8	29.0

		標本数	げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどす					何を言っても無視し続ける				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	765	207	18	40	123	495	331	101	105	121
		100.0	66.3	18.0	1.6	3.5	10.7	42.9	28.7	8.8	9.1	10.5
年齢別	女性:29歳以下	33	87.9	9.1	－	3.0	－	66.7	18.2	3.0	6.1	6.1
	女性:30歳代	33	78.8	15.2	－	－	6.1	54.5	36.4	3.0	3.0	3.0
	女性:40歳代	73	78.1	17.8	－	－	4.1	49.3	37.0	6.8	4.1	2.7
	女性:50歳代	81	71.6	18.5	－	3.7	6.2	55.6	24.7	8.6	6.2	4.9
	女性:60歳代	157	73.2	17.2	1.3	2.5	5.7	54.1	27.4	6.4	7.0	5.1
	女性:70歳以上	279	57.0	16.8	2.2	6.8	17.2	36.9	23.7	8.6	13.3	17.6
	男性:29歳以下	16	87.5	6.3	－	－	6.3	75.0	25.0	－	－	－
	男性:30歳代	24	79.2	16.7	4.2	－	－	54.2	33.3	12.5	－	－
	男性:40歳代	40	77.5	10.0	－	－	12.5	55.0	27.5	7.5	2.5	7.5
	男性:50歳代	51	58.8	25.5	－	3.9	11.8	35.3	41.2	5.9	7.8	9.8
	男性:60歳代	75	76.0	20.0	1.3	－	2.7	46.7	37.3	8.0	4.0	4.0
	男性:70歳以上	208	62.5	20.7	2.9	3.4	10.6	31.7	29.8	13.5	13.9	11.1
	回答しない・該当しない	21	81.0	9.5	－	4.8	4.8	42.9	33.3	4.8	9.5	9.5
	無回答	62	37.1	24.2	3.2	4.8	30.6	17.7	25.8	14.5	11.3	30.6

図表５－６（２）　暴力だと思うもの［全体、年齢別］

（%）

		標本数	交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をする					他人や子どもの前で侮辱したり、馬鹿にしたりする				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	515	307	99	106	126	665	246	46	73	123
		100.0	44.7	26.6	8.6	9.2	10.9	57.7	21.3	4.0	6.3	10.7
年齢別	女性:29歳以下	33	57.6	36.4	－	6.1	－	84.8	9.1	－	6.1	－
	女性:30歳代	33	57.6	39.4	－	－	3.0	78.8	18.2	－	3.0	－
	女性:40歳代	73	54.8	32.9	8.2	1.4	2.7	65.8	24.7	5.5	1.4	2.7
	女性:50歳代	81	60.5	21.0	8.6	3.7	6.2	67.9	17.3	3.7	6.2	4.9
	女性:60歳代	157	54.8	23.6	6.4	8.9	6.4	65.6	19.7	3.8	5.1	5.7
	女性:70歳以上	279	41.9	17.9	8.6	13.3	18.3	49.8	19.0	4.7	8.6	17.9
	男性:29歳以下	16	43.8	50.0	－	－	6.3	93.8	6.3	－	－	－
	男性:30歳代	24	62.5	20.8	16.7	－	－	66.7	12.5	8.3	8.3	4.2
	男性:40歳代	40	42.5	32.5	7.5	7.5	10.0	67.5	15.0	2.5	5.0	10.0
	男性:50歳代	51	33.3	39.2	7.8	9.8	9.8	56.9	25.5	－	7.8	9.8
	男性:60歳代	75	41.3	41.3	9.3	4.0	4.0	57.3	32.0	2.7	4.0	4.0
	男性:70歳以上	208	37.0	26.9	13.0	12.0	11.1	49.0	27.4	5.3	6.7	11.5
	回答しない・該当しない	21	52.4	19.0	4.8	19.0	4.8	61.9	19.0	－	14.3	4.8
	無回答	62	16.1	27.4	9.7	14.5	32.3	33.9	21.0	6.5	6.5	32.3

		標本数	大声でどなる					「痛い目にあわせてやる」などと生命、身体を脅かすような暴言を吐く				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	631	284	64	60	114	821	143	18	49	122
		100.0	54.7	24.6	5.6	5.2	9.9	71.2	12.4	1.6	4.2	10.6
年齢別	女性:29歳以下	33	72.7	21.2	－	6.1	－	81.8	9.1	－	3.0	6.1
	女性:30歳代	33	84.8	15.2	－	－	－	90.9	6.1	－	－	3.0
	女性:40歳代	73	68.5	23.3	2.7	1.4	4.1	84.9	11.0	－	1.4	2.7
	女性:50歳代	81	72.8	16.0	3.7	2.5	4.9	84.0	3.7	3.7	3.7	4.9
	女性:60歳代	157	62.4	22.3	3.2	5.1	7.0	79.0	11.5	0.6	2.5	6.4
	女性:70歳以上	279	48.4	20.4	7.9	7.5	15.8	62.7	11.1	1.4	7.5	17.2
	男性:29歳以下	16	68.8	31.3	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	男性:30歳代	24	66.7	20.8	12.5	－	－	75.0	16.7	8.3	－	－
	男性:40歳代	40	62.5	22.5	2.5	5.0	7.5	75.0	10.0	－	5.0	10.0
	男性:50歳代	51	43.1	37.3	3.9	5.9	9.8	70.6	15.7	－	3.9	9.8
	男性:60歳代	75	54.7	33.3	6.7	1.3	4.0	77.3	17.3	－	1.3	4.0
	男性:70歳以上	208	44.2	31.7	6.7	7.2	10.1	64.9	17.3	3.4	4.3	10.1
	回答しない・該当しない	21	66.7	19.0	－	9.5	4.8	81.0	9.5	－	4.8	4.8
	無回答	62	25.8	27.4	11.3	4.8	30.6	40.3	17.7	1.6	6.5	33.9

		標本数	嫌がっているのに性的な行為を強要する					避妊に協力しない、中絶を強要する				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでないと思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	896	72	11	53	121	832	107	16	77	121
		100.0	77.7	6.2	1.0	4.6	10.5	72.2	9.3	1.4	6.7	10.5
年齢別	女性:29歳以下	33	93.9	3.0	－	3.0	－	84.8	9.1	－	3.0	3.0
	女性:30歳代	33	97.0	－	－	－	3.0	97.0	－	－	－	3.0
	女性:40歳代	73	89.0	5.5	－	1.4	4.1	91.8	4.1	－	1.4	2.7
	女性:50歳代	81	85.2	1.2	1.2	6.2	6.2	84.0	6.2	－	4.9	4.9
	女性:60歳代	157	85.4	6.4	0.6	2.5	5.1	78.3	7.6	1.9	6.4	5.7
	女性:70歳以上	279	67.0	4.7	1.4	9.0	17.9	61.6	7.9	2.5	10.4	17.6
	男性:29歳以下	16	100.0	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	男性:30歳代	24	83.3	8.3	4.2	－	4.2	83.3	12.5	－	4.2	－
	男性:40歳代	40	82.5	5.0	－	2.5	10.0	82.5	5.0	－	5.0	7.5
	男性:50歳代	51	80.4	2.0	－	7.8	9.8	74.5	5.9	2.0	5.9	11.8
	男性:60歳代	75	84.0	12.0	－	－	4.0	77.3	17.3	－	－	5.3
	男性:70歳以上	208	74.0	9.1	1.9	4.3	10.6	63.0	15.4	1.9	8.7	11.1
	回答しない・該当しない	21	95.2	－	－	－	4.8	76.2	14.3	－	4.8	4.8
	無回答	62	50.0	16.1	－	4.8	29.0	48.4	9.7	1.6	11.3	29.0

図表５－６（３）　暴力だと思うもの［全体、年齢別］

（%）

		標本数	見たくないのに、アダルトサイトやポルノ雑誌を見せる					必要な生活費を渡さない				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	739	145	45	102	122	713	183	48	93	116
		100.0	64.1	12.6	3.9	8.8	10.6	61.8	15.9	4.2	8.1	10.1
年齢別	女性:29歳以下	33	87.9	3.0	－	6.1	3.0	78.8	15.2	－	6.1	－
	女性:30歳代	33	97.0	3.0	－	－	－	84.8	12.1	－	－	3.0
	女性:40歳代	73	83.6	12.3	1.4	－	2.7	76.7	16.4	2.7	1.4	2.7
	女性:50歳代	81	69.1	16.0	2.5	7.4	4.9	75.3	7.4	4.9	6.2	6.2
	女性:60歳代	157	72.6	10.8	3.8	6.4	6.4	72.6	10.2	3.2	8.3	5.7
	女性:70歳以上	279	52.0	11.5	3.9	14.7	17.9	53.0	12.9	5.4	12.2	16.5
	男性:29歳以下	16	87.5	6.3	－	－	6.3	87.5	12.5	－	－	－
	男性:30歳代	24	79.2	12.5	4.2	4.2	－	70.8	29.2	－	－	－
	男性:40歳代	40	72.5	7.5	2.5	7.5	10.0	72.5	15.0	－	5.0	7.5
	男性:50歳代	51	64.7	11.8	2.0	11.8	9.8	51.0	23.5	2.0	13.7	9.8
	男性:60歳代	75	69.3	24.0	1.3	－	5.3	61.3	29.3	2.7	2.7	4.0
	男性:70歳以上	208	54.3	15.9	7.7	11.5	10.6	51.4	20.7	7.7	9.1	11.1
	回答しない・該当しない	21	85.7	4.8	－	4.8	4.8	71.4	19.0	－	4.8	4.8
	無回答	62	38.7	11.3	8.1	12.9	29.0	41.9	12.9	4.8	11.3	29.0

		標本数	「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」という				
			どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		1,153	760	155	43	78	117
		100.0	65.9	13.4	3.7	6.8	10.1
年齢別	女性:29歳以下	33	90.9	3.0	－	3.0	3.0
	女性:30歳代	33	93.9	6.1	－	－	－
	女性:40歳代	73	78.1	11.0	2.7	2.7	5.5
	女性:50歳代	81	75.3	7.4	3.7	6.2	7.4
	女性:60歳代	157	75.8	10.2	2.5	5.7	5.7
	女性:70歳以上	279	57.0	12.9	4.3	9.3	16.5
	男性:29歳以下	16	81.3	18.8	－	－	－
	男性:30歳代	24	83.3	12.5	4.2	－	－
	男性:40歳代	40	75.0	10.0	2.5	5.0	7.5
	男性:50歳代	51	56.9	23.5	－	9.8	9.8
	男性:60歳代	75	72.0	18.7	2.7	2.7	4.0
	男性:70歳以上	208	55.8	17.3	8.2	8.7	10.1
	回答しない・該当しない	21	71.4	23.8	－	－	4.8
	無回答	62	41.9	14.5	1.6	12.9	29.0

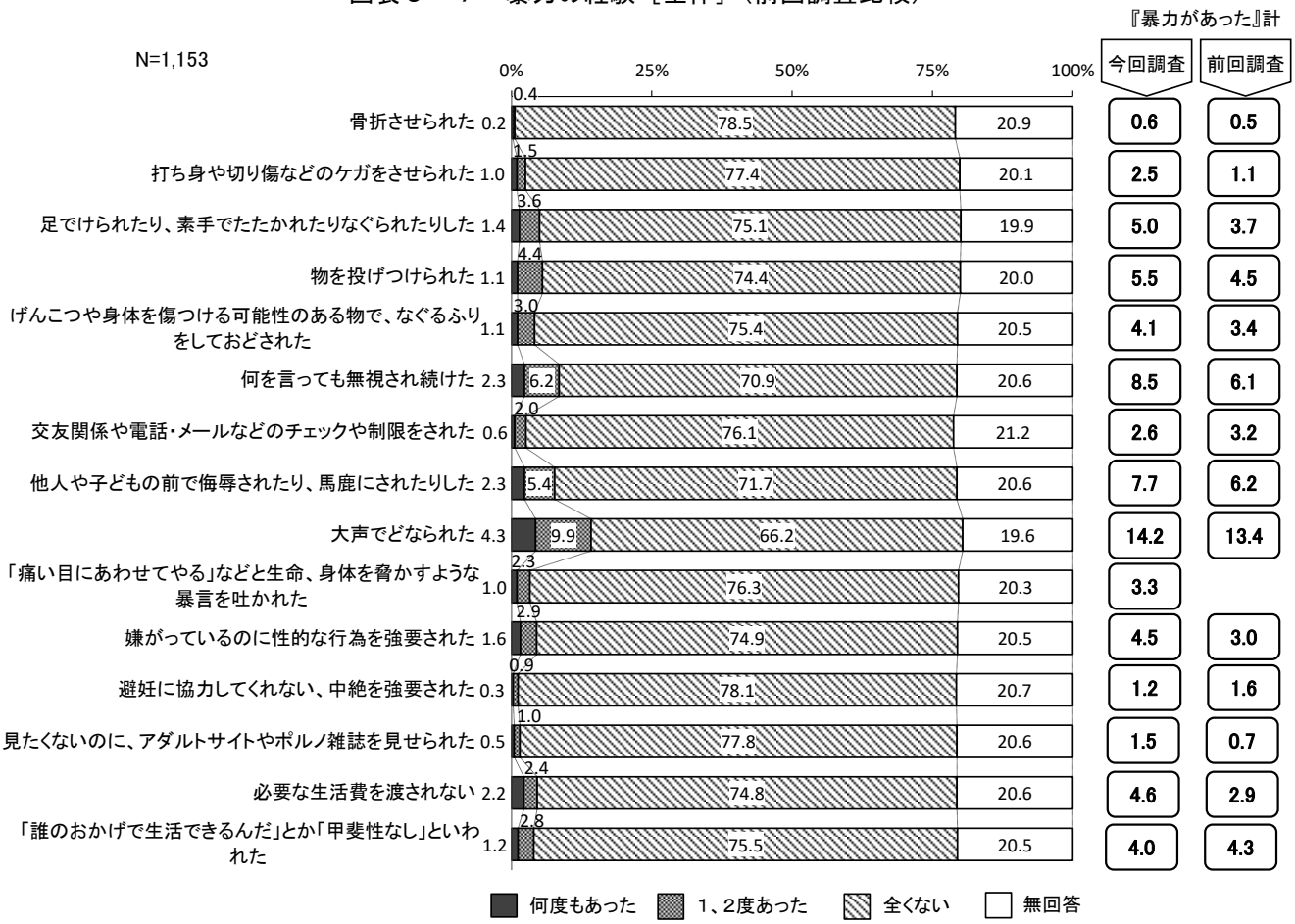
３．暴力について

（１）暴力の経験

・ここ3年ぐらいの間に暴力を受けた人は、『身体的暴力』『性的暴力』『経済的暴力』では女性が多い。『精神的暴力』のうち「無視され続ける」「交友関係やメールなどのチェックや制限」は男性、その他は女性の経験が多い。
・15 項目の暴力を一つでも受けたことがあると回答した人は、女性2割台半ば、男性約2割。

問 19 **【配偶者や交際相手が現在いる方、これまで配偶者や交際相手がいた方におたずねします】**あなたは、ここ３年ぐらいの間にあなたの配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

図表５－７　暴力の経験［全体］（前回調査比較）

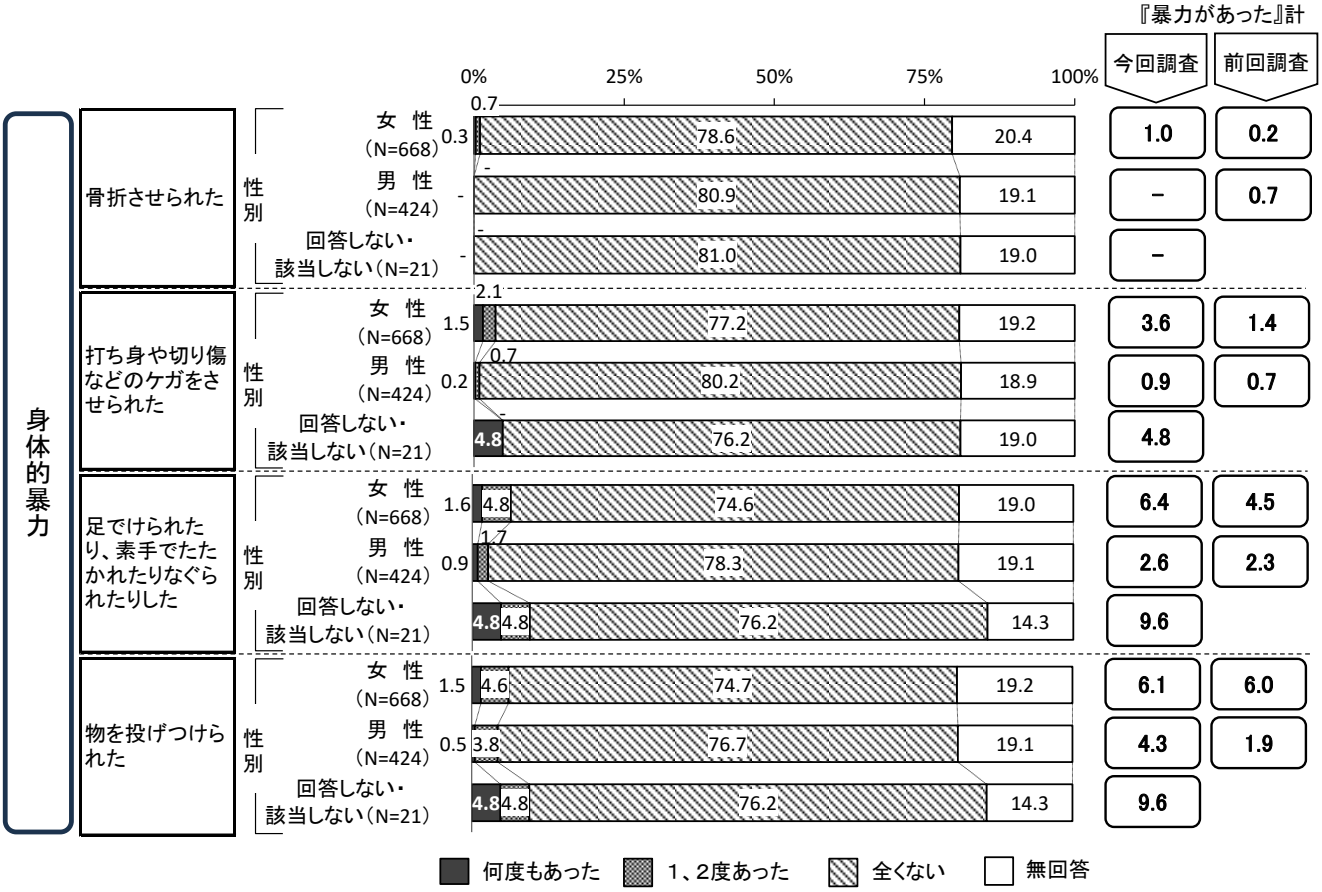


ここ３年ぐらいの間に配偶者や交際相手から身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力である 15 項目の暴力があったかどうかたずねた。「何度もあった」と「１、２度あった」をあわせた『暴力があった』人の割合をみると、「大声でどなられた」（14.2%）や「何を言っても無視され続けた」（8.5%）、「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」（7.7%）など精神的暴力の被害経験が高い。また、「足でけられたり、素手でたたかれたりなぐられたりした」（5.0%）、「物を投げつけられた」（5.5%）の身体的暴力の経験もみられる。

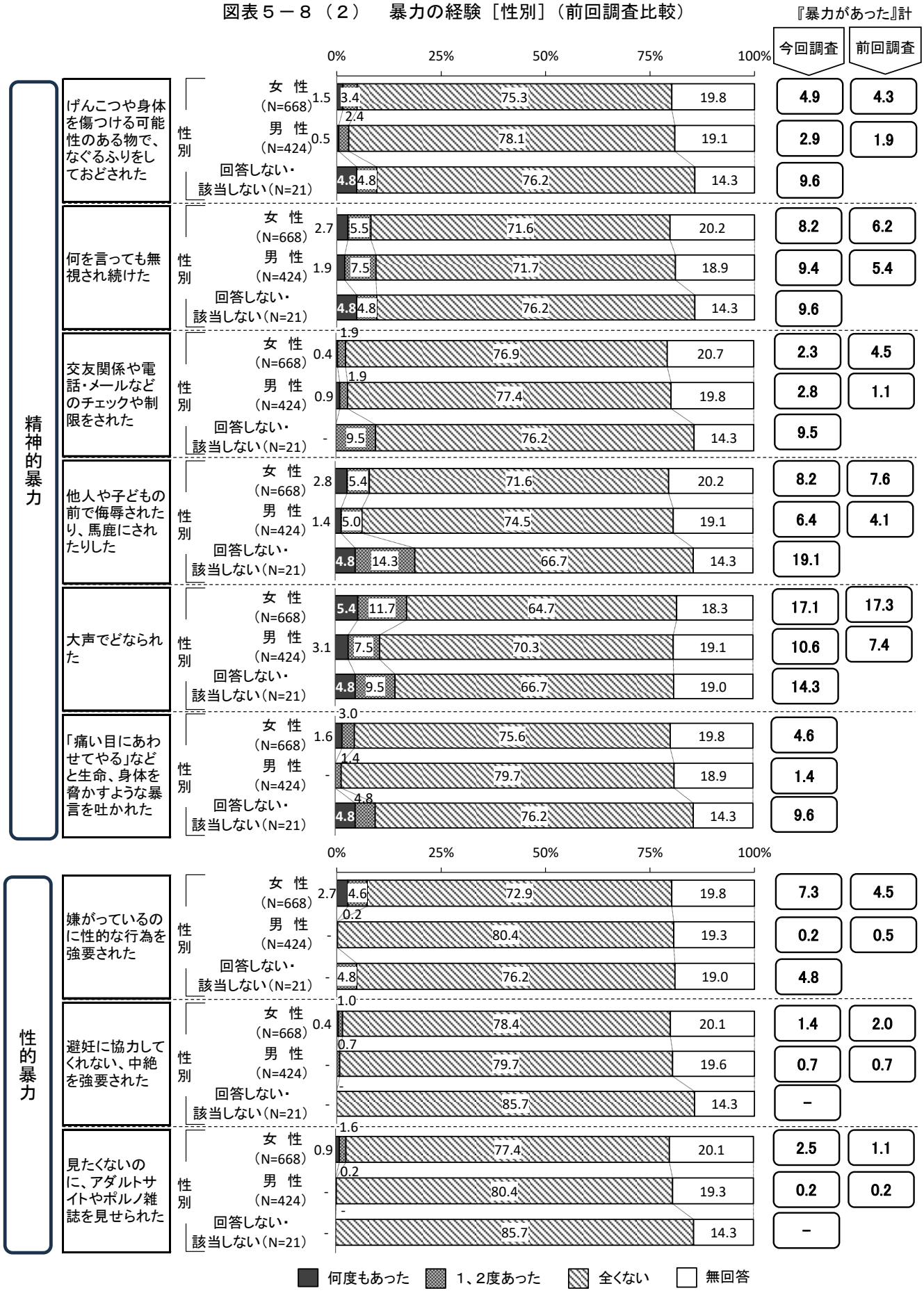
性別でみると、身体的暴力で『暴力があった』とする割合はいずれも女性の方が男性よりも高い。精神的暴力では「何を言っても無視され続けた」「交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をされた」は男性が高いが、その他については女性の方が割合は高い。性的暴力、経済的暴力はいずれも女性の方が割合は高い。

前回調査と比べると、身体的暴力では女性の『暴力があった』がやや増えている。精神的暴力では「げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどされた」「何を言っても無視され続けた」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」が男女ともやや増えている。性的暴力では「避妊に協力してくれない、中絶を強要された」を除く暴力で女性の割合が増え、経済的暴力は「必要な生活費を渡されない」が男女でやや増えている。

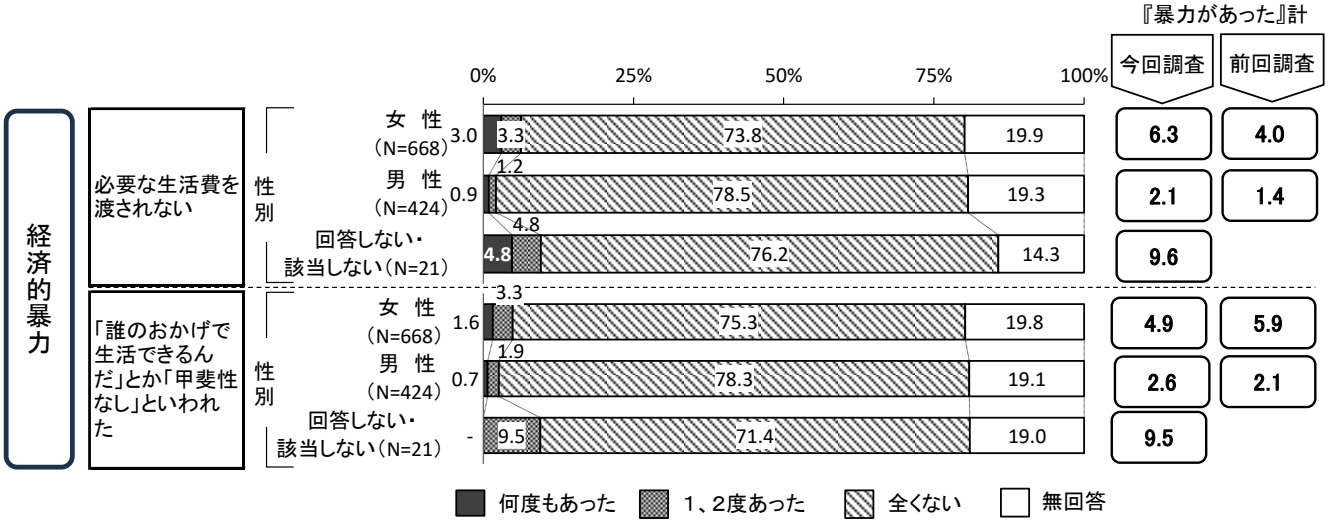
図表５－８（１）　暴力の経験［性別］（前回調査比較）



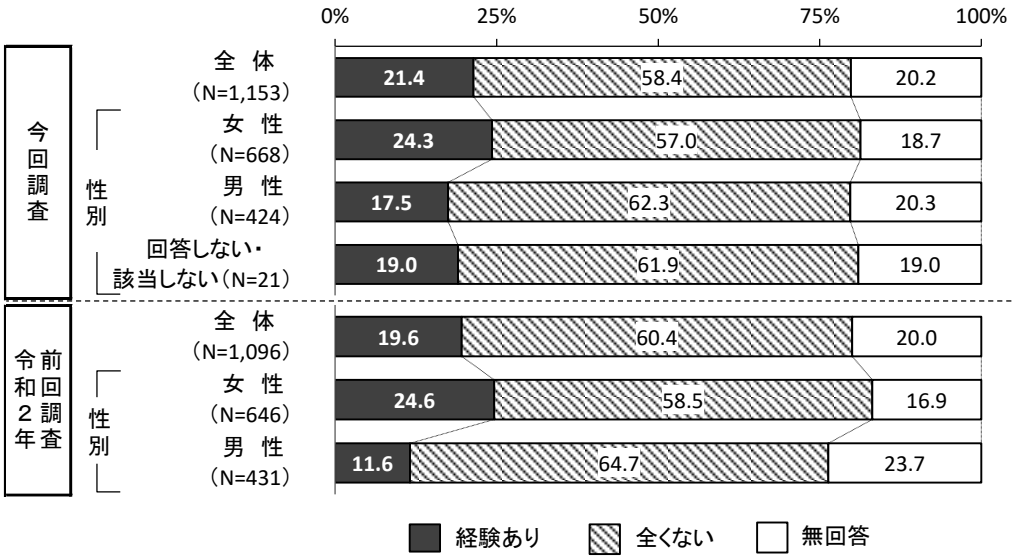
図表５－８（２）　暴力の経験［性別］（前回調査比較）



図表５－８（３）　暴力の経験［性別］（前回調査比較）



図表５－９　【まとめ】暴力の経験［全体、性別］（前回調査比較）



15 項目の暴力について、「何度もあった」と「１、２度あった」のいずれかに一つでも回答した人は全体で 21.4%、女性は 24.3%、男性は 17.5%となっており、嘉麻市においても少なくない数の人が配偶者、交際相手からの暴力を経験していることがわかる。

前回調査と比べると、「何度もあった」と「１、２度あった」のいずれかに一つでも回答した人の割合は女性はあまり変わらないが、男性は 5.9 ポイント増えている。

年齢別でみると、女性の 30 歳代で「経験あり」は 33.3％と３割を超え、40 歳代で 26.0％、70 歳以上で 27.6％と２割を超えて高い。男性は 30 歳代で 25.0％、60 歳代で 20.0％となっている。

配偶関係別でみると、女性の離別で暴力の経験が 37.8％と高く、また、共働きでない配偶者・パートナーがいる人でも 28.7％と男性よりも高い。

図表５－10　【まとめ】暴力の経験［全体、年齢別、配偶関係別］

（％）

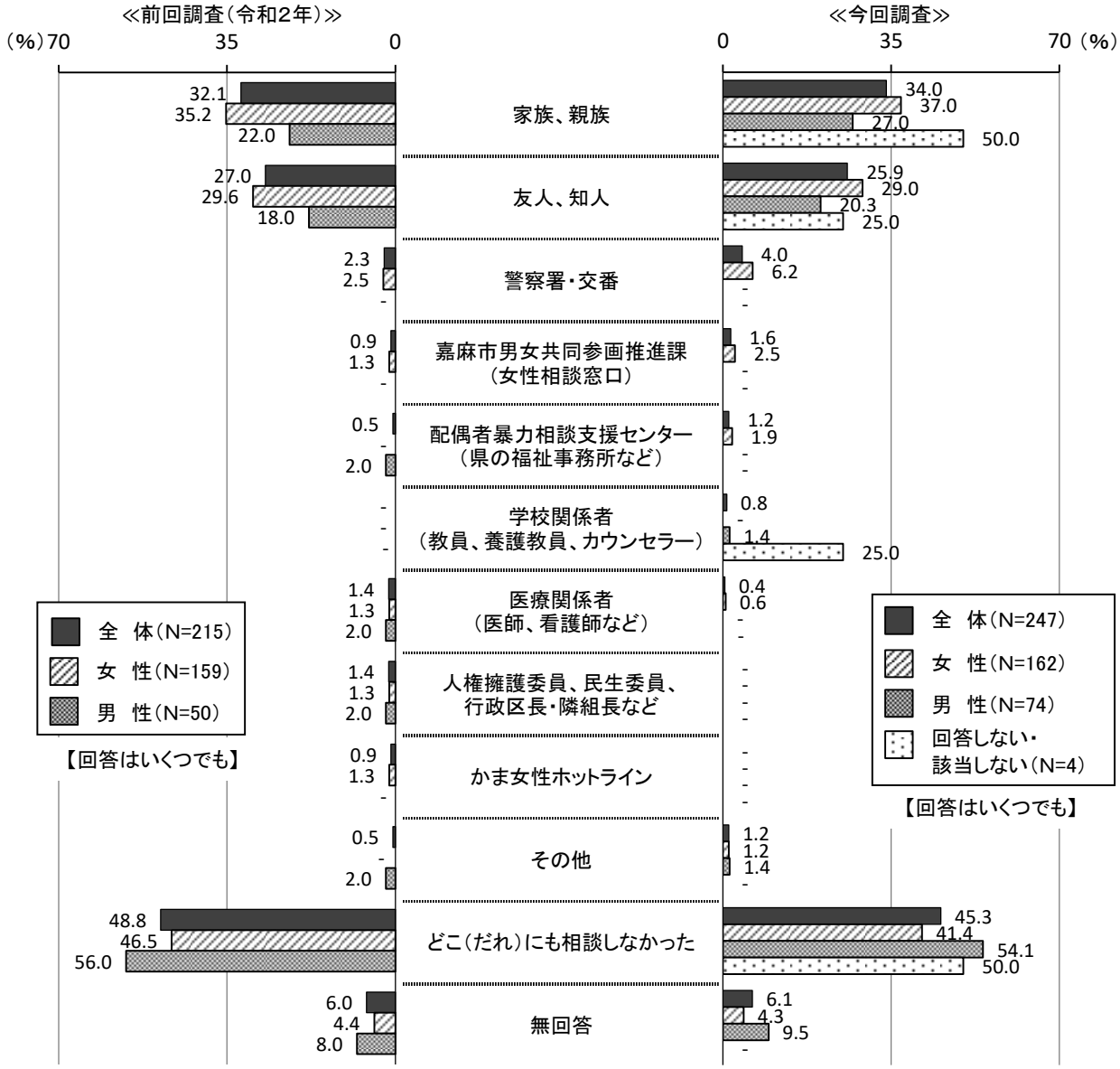
		標本数	経験あり	全くない	無回答
全 体		1,153 100.0	247 21.4	673 58.4	233 20.2
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	57.6	27.3
	女性:30歳代	33	33.3	54.5	12.1
	女性:40歳代	73	26.0	63.0	11.0
	女性:50歳代	81	18.5	67.9	13.6
	女性:60歳代	157	19.7	69.4	10.8
	女性:70歳以上	279	27.6	45.9	26.5
	男性:29歳以下	16	12.5	43.8	43.8
	男性:30歳代	24	25.0	54.2	20.8
	男性:40歳代	40	15.0	65.0	20.0
	男性:50歳代	51	17.6	51.0	31.4
	男性:60歳代	75	20.0	69.3	10.7
	男性:70歳以上	208	17.3	64.9	17.8
	回答しない･該当しない	21	19.0	61.9	19.0
	無回答	62	17.7	41.9	40.3
配偶関係別	女性:配偶者･パートナーがいる（共働きである）	158	21.5	67.1	11.4
	女性:配偶者･パートナーがいる（共働きでない）	209	28.7	62.7	8.6
	女性:配偶者はいない(離別)	74	37.8	44.6	17.6
	女性:配偶者はいない(死別)	111	22.5	41.4	36.0
	女性:結婚していない	88	10.2	60.2	29.5
	男性:配偶者･パートナーがいる（共働きである）	89	21.3	68.5	10.1
	男性:配偶者･パートナーがいる（共働きでない）	173	22.0	69.9	8.1
	男性:配偶者はいない(離別)	28	25.0	50.0	25.0
	男性:配偶者はいない(死別)	28	14.3	60.7	25.0
	男性:結婚していない	88	5.7	47.7	46.6
	回答しない･該当しない	21	19.0	61.9	19.0
	無回答	86	16.3	41.9	41.9

（２）相談の有無

暴力を受けたことについての相談は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が4割台半ば。相談先は「家族、親族」が3割台半ば、「友人・知人」が2割台半ばと身近な人への相談が主である。

問 19 付問１ **【問 19 のいずれかで「１.何度もあった」または「２.１、２度あった」と答えた方におたずねします】**あなたはこれまでに、問 19 であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。いくつでも選んでください。

図表５－11　相談の有無［全体、性別］（前回調査比較）



ここ３年ぐらいの間に配偶者、恋人からの暴力を経験した人に、そのことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしたかたずねたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は 45.3％である。相談先としては「家族、親族」が 34.0％と最も高く、次いで「友人、知人」が 25.9％となっているが、その他の「警察署・交番」や「嘉麻市男女共同参画推進課(女性相談窓口)」「配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など)」「学校関係者」「医療関係者」の利用は１％から４％程度にとどまっている。

性別でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性が 54.1％で女性（41.4％）よりも 12.7 ポイント高く、男性の暴力経験者のうち半数以上の人はどこ（だれ）にも相談していない。女性は「家族」（女性 37.0％、男性 27.0％）と「友人、知人」（同 29.0％、20.3％）への相談が男性よりも 8.7～10.0 ポイント高く、また割合はわずかではあるが「警察署・交番」「嘉麻市男女共同参画推進課(女性相談窓口)」「配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など)」「医療関係者」など公的機関の利用もみられる。

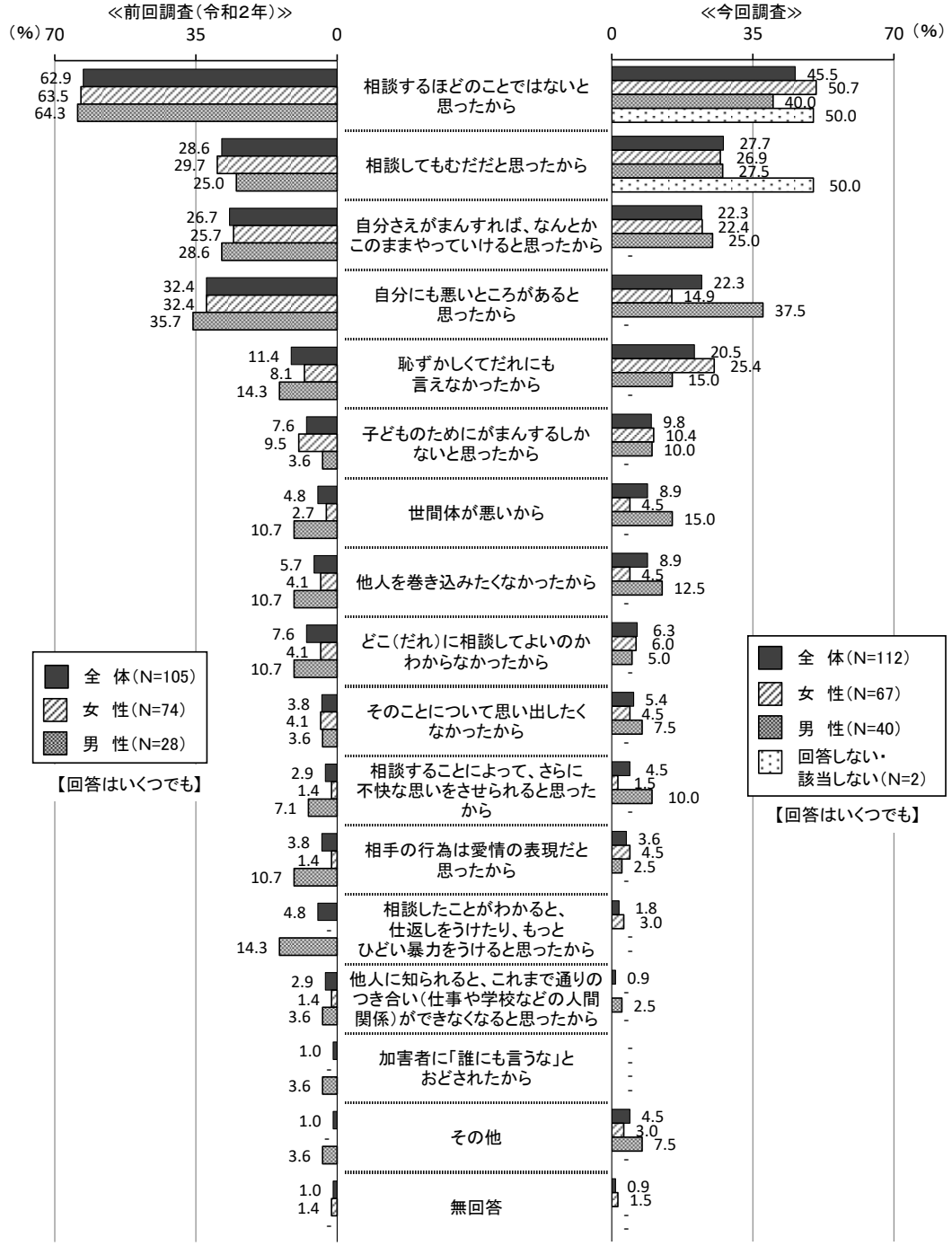
前回調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が女性で 5.1 ポイント減っている。相談先では男性は「家族、親族」への相談が 5.0 ポイント増え、女性は「警察署・交番」への相談がやや増えている。

（３）相談しなかった理由

相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が4割台半ば、「相談してもむだだと思ったから」が約3割、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が約2割。

問 19 付付問 1 **【問 19 付問 1 で「11. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします】**どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。いくつでも選んでください。

図表５－12　相談しなかった理由［全体、性別］（前回調査比較）



自分が受けた暴力の被害について「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人に対して、その理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 45.5%と最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」が 27.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」が同率 22.3%であげられている。

性別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 50.7%、男性 40.0%）が 10.7 ポイント、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（同 25.4%、15.0%）が 10.4 ポイント男性より高い。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（同 14.9%、37.5%）が 22.6 ポイント、「世間体が悪い」（同 4.5%、15.0%）、「他人を巻き込みたくなかったから」（同 4.5%、12.5%）、「相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから」（同 1.5%、10.0%）などが 8.0～10.5 ポイント女性よりも高い。

前回調査と比べると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が 12.8～24.3 ポイント減り、女性で「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 17.3 ポイント、男性で「子どものために我慢するしかないと思ったから」が 6.4 ポイント増えている。

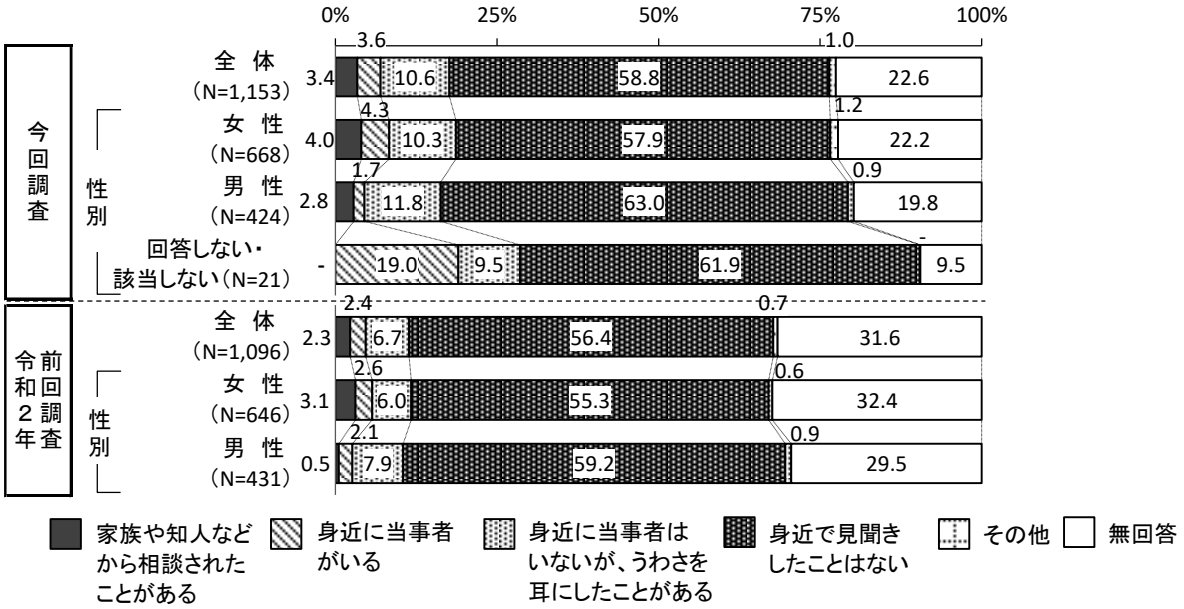
４．身近で見聞きした暴力について

（１）身近で見聞きした暴力の有無

うわさ程度でも暴力を見聞きした人は全体の 17.6%、前回調査よりも男女とも増加。男女とも比較的年齢が低い層で見聞きする割合が高くなっている。

問 20　配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。１つ選んでください。

図表５－13　身近で見聞きした暴力の有無［全体、性別］（前回調査比較）



配偶者や交際相手からの暴力の見聞きについては「身近で見聞きしたことはない」が 58.8%、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が 10.6%、「身近に当事者がいる」が 3.6%、「家族や知人などから相談されたことがある」が 3.4%となっており、うわさ程度でも暴力の見聞きがある人は全体の 17.6%となっている。

性別でみると、暴力の見聞きは女性の方がやや多い。

前回調査と比べると、男女とも暴力の見聞きは前回調査よりも 5.8～6.9 ポイント増えている。

年齢別でみると、男性の 30 歳代と 50 歳代で「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が約２割、また、女性の 30 歳代以下と男性の 40 歳代で１割台半ばである。女性の 30 歳代では「身近に当事者がいる」が 12.1%、男性の 30 歳代では「家族や知人などから相談されたことがある」が 12.5%と比較的年齢の低い層での割合が高くなっている。

図表５－14　身近で見聞きした暴力の有無［全体、年齢別］

(%)

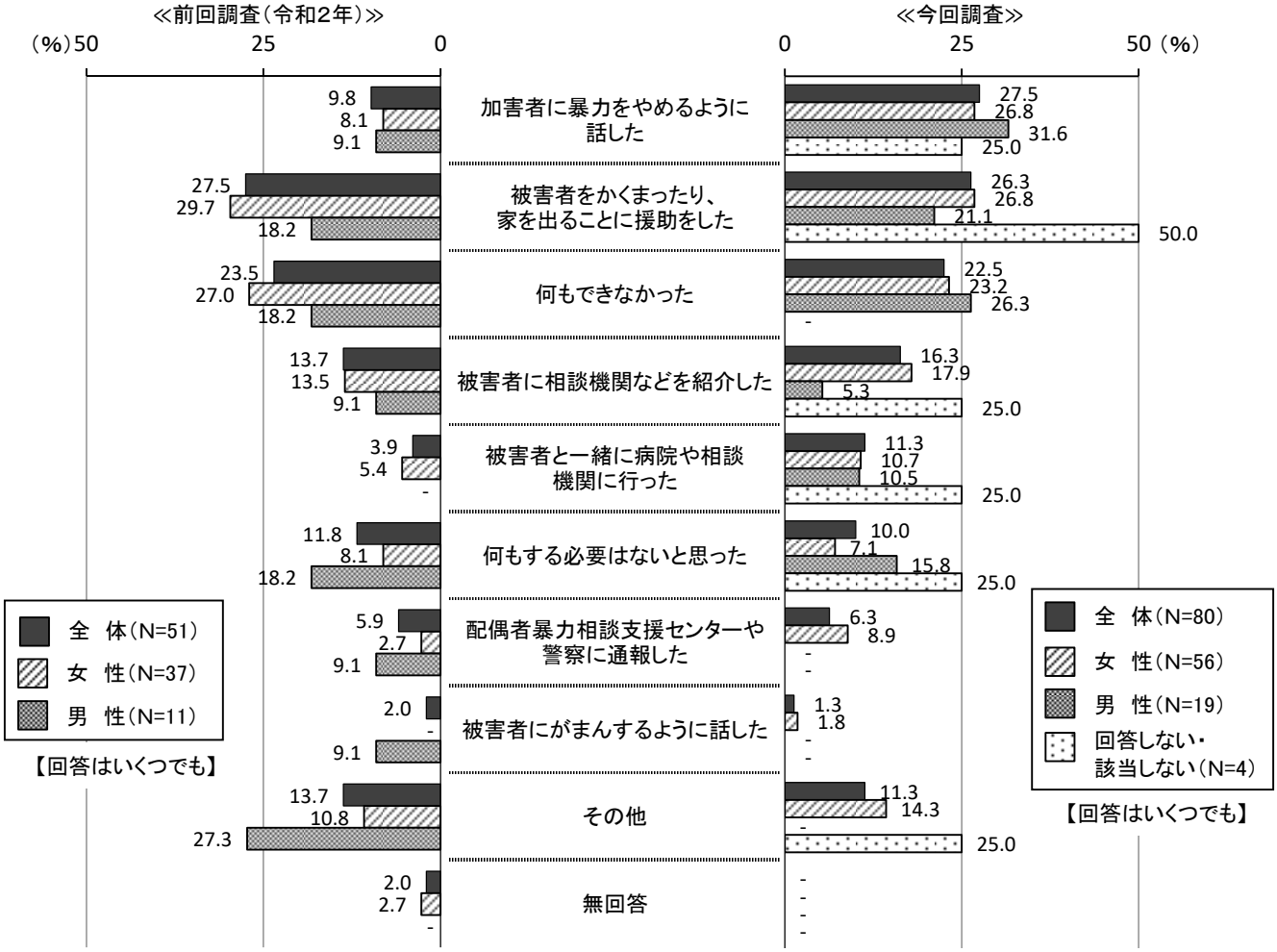
		標本数	家族や知人などから相談されたことがある	身近に当事者がいる	身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある	身近で見聞きしたことはない	その他	無回答
全体		1,153	39	41	122	678	12	261
		100.0	3.4	3.6	10.6	58.8	1.0	22.6
年齢別	女性:29歳以下	33	－	9.1	15.2	69.7	3.0	3.0
	女性:30歳代	33	9.1	12.1	15.2	54.5	－	9.1
	女性:40歳代	73	6.8	8.2	5.5	67.1	1.4	11.0
	女性:50歳代	81	3.7	4.9	12.3	64.2	1.2	13.6
	女性:60歳代	157	5.1	3.2	10.8	67.5	0.6	12.7
	女性:70歳以上	279	2.5	2.5	10.0	47.3	1.1	36.6
	男性:29歳以下	16	6.3	－	－	81.3	－	12.5
	男性:30歳代	24	12.5	－	20.8	62.5	－	4.2
	男性:40歳代	40	5.0	2.5	15.0	62.5	2.5	12.5
	男性:50歳代	51	－	7.8	19.6	51.0	2.0	19.6
	男性:60歳代	75	4.0	1.3	12.0	69.3	－	13.3
	男性:70歳以上	208	1.0	0.5	9.1	63.5	1.0	25.0
	回答しない・該当しない	21	－	19.0	9.5	61.9	－	9.5
	無回答	62	3.2	1.6	3.2	35.5	1.6	54.8

（２）身近で見聞きした暴力への対処

身近で見聞きした暴力への対処の第１位は、「加害者に暴力をやめるように話した」が約3割、次いで「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」が2割台半ば。

問 20 付問１ **【問 20 で「１．家族や知人などから相談されたことがある」または「２．身近に当事者がいる」と答えた方におたずねします】**あなたは、そのことを知ってどうしましたか。いくつでも選んでください。

図表５－15　身近で見聞きした暴力への対処［全体、性別］（前回調査比較）



暴力について相談されたことがある人や身近に当事者がいると回答した人に対して、どのような行動をとったかたずねた。「加害者に暴力をやめるように話した」が 27.5%、「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」が 26.3%、「何もできなかった」が 22.5%、「被害者に相談機関などを紹介した」が 16.3%となっている。

性別でみると、女性は「被害者に相談機関などを紹介した」（女性 17.9%、男性 5.3%）が 12.6 ポイント高く、「配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した」（同 8.9%、0.0%）や「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」（同 26.8%、21.1%）が 5.7～8.9 ポイント高い。男性は「何もする必要はないと思った」（同 7.1%、15.8%）が 8.7 ポイント高い。

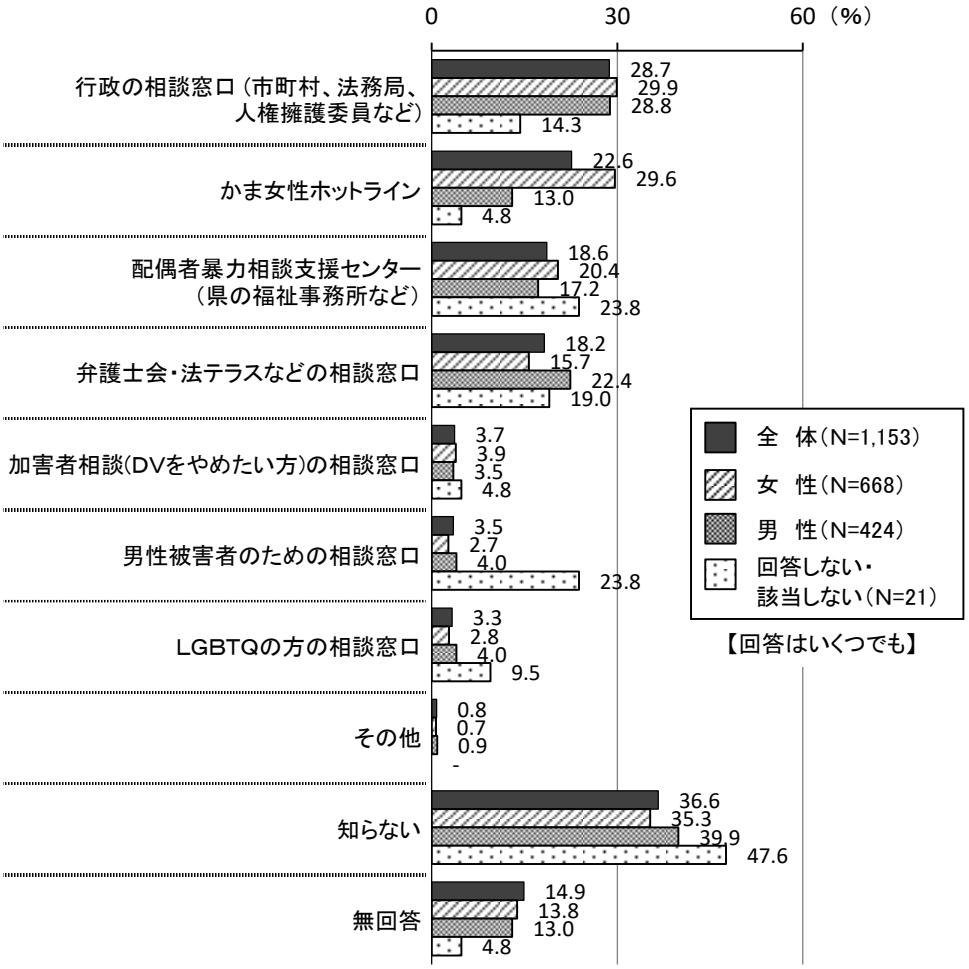
前回調査と比べると、男女とも「加害者に暴力をやめるように話した」が 18.7～22.5 ポイント、「被害者と一緒に病院や相談機関に行った」が 5.3～10.5 ポイント増え、また、女性は「配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した」が 6.2 ポイント増えている。

５．暴力についての相談窓口の認知

・暴力についての相談窓口の認知は「行政の相談窓口」が約3割、「かま女性ホットライン」「配偶者暴力相談支援センター」「弁護士会・法テラスなどの相談窓口」が約2割。「知らない」は3割台半ば。
・女性の 30 歳代から 60 歳代で相談窓口の認知が高い。

問 21　あなたは、ＤＶ(配偶者からの暴力)について相談できる窓口があることを知っていますか。知っている相談窓口をいくつでも選んでください。

図表５－16　暴力についての相談窓口の認知［全体、性別］



ＤＶについての相談窓口で知っているものをあげてもらった。「行政の相談窓口」が 28.7%と最も高く、次いで「かま女性ホットライン」が 22.6%、「配偶者暴力相談支援センター」が 18.6%、「弁護士会・法テラスなどの相談窓口」が 18.2%である。「知らない」は 36.6%である。

性別でみると、「行政の相談窓口」の認知は男女とも同程度で、「かま女性ホットライン」は女性が 29.6%、男性が 13.0%と女性が 16.6 ポイント高い。「弁護士会・法テラスなどの相談窓口」（女性 15.7%、男性 22.4%）は男性が 6.7 ポイント高い。

年齢別でみると、女性の 30 歳代は「知らない」が 21.2%と他の年代に比べて低く、「かま女性ホットライン」（45.5%）や「行政の相談窓口」（42.4%）の割合が高く、また「ＬＧＢＴＱの方の相談窓口」（15.2%）、「男性被害者のための相談窓口」（12.1%）などの認知も１割台となっている。「かま女性ホットライン」や「行政の相談窓口」「配偶者暴力相談支援センター」「弁護士会・法テラスなどの相談窓口」などは女性の 30 歳代から 60 歳代での割合が高い。

図表５－17　暴力についての相談窓口の認知［全体、年齢別］

（%）

		標本数	配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など）	男性被害者のための相談窓口	ＬＧＢＴＱの方の相談窓口	行政の相談窓口（市町村、法務局、人権擁護委員など）	弁護士会・法テラスなどの相談窓口	加害者相談（ＤＶをやめたい方）の相談窓口	かま女性ホットライン	その他	知らない	無回答
全体		1,153	215	40	38	331	210	43	261	9	422	172
		100.0	18.6	3.5	3.3	28.7	18.2	3.7	22.6	0.8	36.6	14.9
年齢別	女性:29歳以下	33	18.2	－	－	15.2	9.1	－	21.2	－	57.6	－
	女性:30歳代	33	33.3	12.1	15.2	42.4	21.2	6.1	45.5	－	21.2	－
	女性:40歳代	73	28.8	4.1	2.7	34.2	19.2	5.5	43.8	－	32.9	4.1
	女性:50歳代	81	37.0	－	－	30.9	29.6	6.2	34.6	1.2	30.9	6.2
	女性:60歳代	157	23.6	5.7	5.7	35.0	19.1	7.6	36.9	1.3	40.1	3.2
	女性:70歳以上	279	10.8	0.7	0.7	25.8	9.0	0.7	19.7	0.7	34.1	26.9
	男性:29歳以下	16	12.5	－	6.3	12.5	18.8	－	18.8	－	43.8	12.5
	男性:30歳代	24	20.8	16.7	4.2	12.5	20.8	8.3	16.7	－	50.0	8.3
	男性:40歳代	40	22.5	10.0	10.0	25.0	27.5	7.5	22.5	－	37.5	7.5
	男性:50歳代	51	9.8	5.9	2.0	23.5	27.5	3.9	13.7	5.9	47.1	7.8
	男性:60歳代	75	24.0	1.3	5.3	34.7	25.3	2.7	8.0	－	40.0	6.7
	男性:70歳以上	208	15.9	2.4	2.9	31.7	20.2	2.9	12.0	0.5	37.0	17.3
	回答しない・該当しない	21	23.8	23.8	9.5	14.3	19.0	4.8	4.8	－	47.6	4.8
	無回答	62	4.8	－	1.6	21.0	14.5	3.2	17.7	－	22.6	50.0

第６章　悩みや困りごとについて

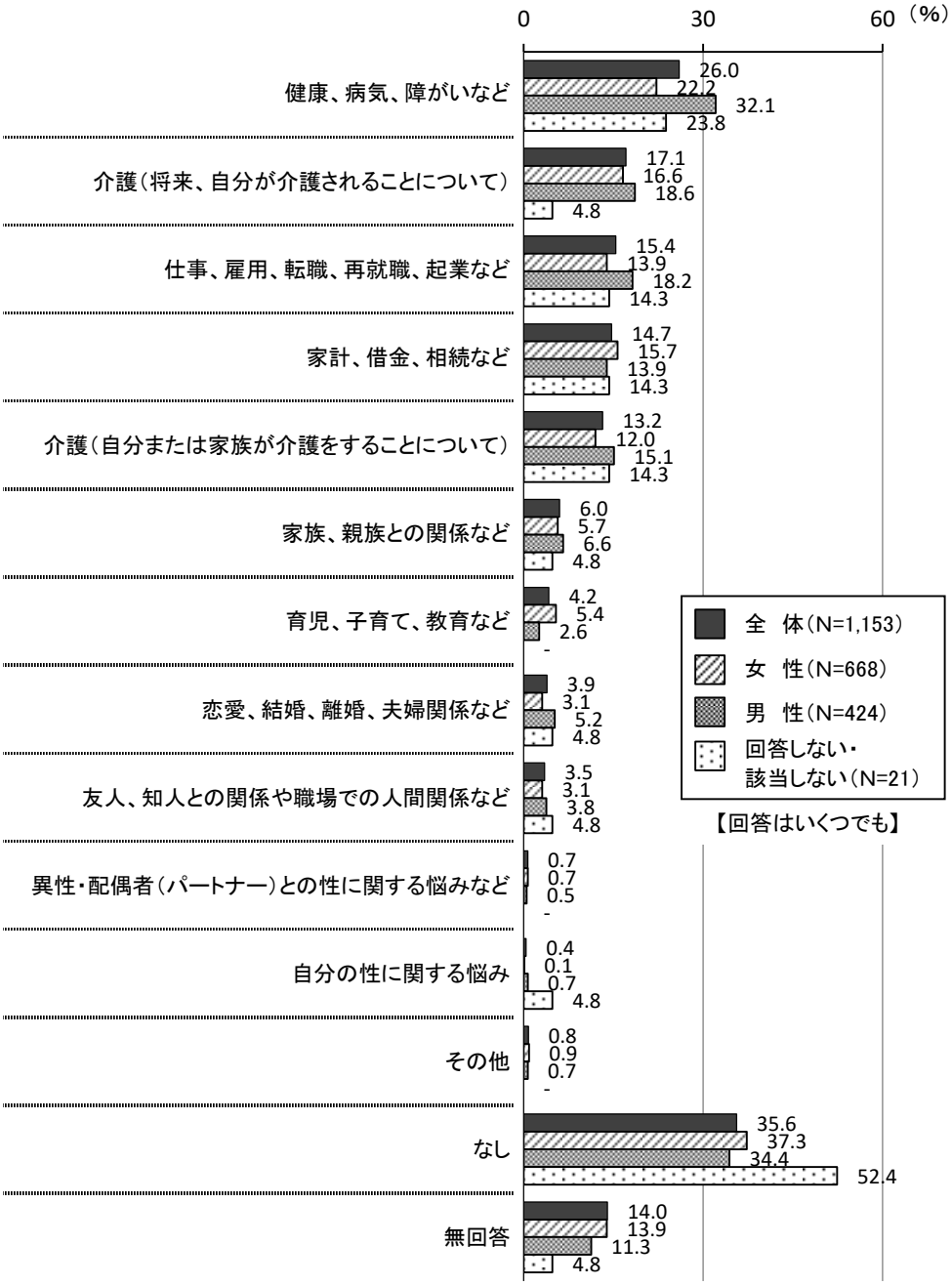
１．悩みや困りごとについて

（１）悩みや困りごとの有無

・現在、悩みや困りごとを抱えている女性は 48.8%、男性は 54.3%。
・女性は 30 歳代、男性は 29 歳以下と 40 歳代で悩みや困りごとを抱えている人が多い。

問 22　あなたは、現在、次のような悩みや困りごとがありますか。いくつでも選んでください。

図表６－１　悩みや困りごとの有無［全体、性別］



現在の悩みや困りごとをたずねたところ、「健康、病気、障がいなど」が 26.0%で最も高い。次いで「介護（将来、自分が介護されることについて)」が 17.1%、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が 15.4%、「家計、借金、相続など」が 14.7%、「介護（自分または家族が介護をすることについて)」が 13.2%となっている。「なし」は 35.6%で、これと無回答を除く 50.4%の人が悩みや困りごとを抱えている。

性別でみると、「なし」は女性 37.3%、男性 34.4%でこれと無回答を除いた女性 48.8%、男性 54.3%が悩みや困りごとを抱えている。女性は「育児、子育て、教育など」が男性よりやや高いが、その他の項目は男性の割合が高いか同程度となっている。「健康、病気、障がいなど」「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」などは男性の方が 4.3～9.9 ポイント女性より高い。

年齢別でみると、女性の 30 歳代は「なし」が 15.2%と他の年代に比べて低く、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が 51.5%、「健康、病気、障がいなど」が 42.4%、「家計、借金、相続など」が 39.4%、「育児、子育て、教育など」が 36.4%、「恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など」が 27.3%と高い。男性は 29 歳以下と 40 歳代で「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が約５割、40 歳代で「健康、病気、障がいなど」が 45.0%、30 歳代と 40 歳代で「家計、借金、相続など」が２割台半ば、男性の 29 歳以下で「恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など」が 25.0%、「家族、親族との関係など」が 18.8%と他の年代に比べて高い。

図表６－２　悩みや困りごとの有無［全体、年齢別］

(%)

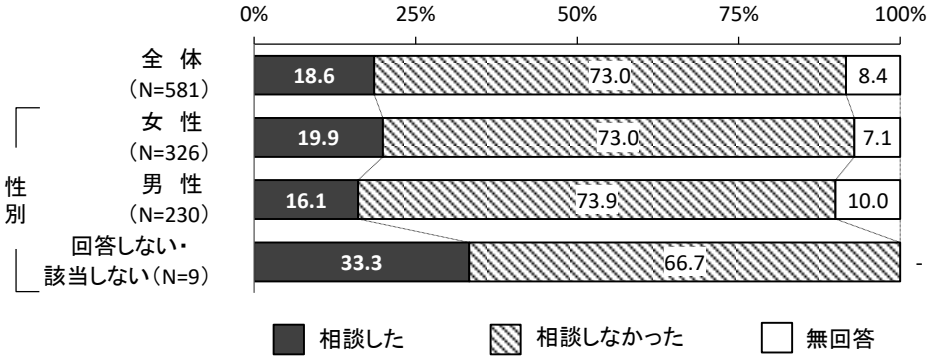
		標本数	仕事、雇用、転職、再就職、起業など	健康、病気、障がいなど	家計、借金、相続など	友人、知人との関係や職場での人間関係など	恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など	家族、親族との関係など	育児、子育て、教育など	介護（自分または家族が介護をすることについて）	介護（将来、自分が介護されることについて）	異性・配偶者（パートナー）との性に関する悩みなど	自分の性に関する悩み	その他	なし	無回答
全体		1,153	177	300	169	40	45	69	48	152	197	8	5	9	411	161
		100.0	15.4	26.0	14.7	3.5	3.9	6.0	4.2	13.2	17.1	0.7	0.4	0.8	35.6	14.0
年齢別	女性:29歳以下	33	24.2	6.1	15.2	6.1	9.1	－	－	9.1	－	－	－	3.0	51.5	3.0
	女性:30歳代	33	51.5	42.4	39.4	12.1	27.3	15.2	36.4	9.1	9.1	3.0	3.0	3.0	15.2	3.0
	女性:40歳代	73	30.1	26.0	26.0	5.5	6.8	13.7	21.9	16.4	6.8	1.4	－	1.4	32.9	1.4
	女性:50歳代	81	28.4	17.3	14.8	8.6	2.5	4.9	3.7	17.3	12.3	2.5	－	－	44.4	3.7
	女性:60歳代	157	12.7	21.7	19.1	1.3	0.6	6.4	1.3	16.6	14.0	－	－	1.3	46.5	8.3
	女性:70歳以上	279	0.7	22.9	7.9	0.7	0.4	3.2	0.7	7.9	24.7	0.4	－	0.4	32.3	25.1
	男性:29歳以下	16	50.0	12.5	12.5	－	25.0	18.8	6.3	6.3	6.3	－	－	－	25.0	6.3
	男性:30歳代	24	33.3	20.8	25.0	－	16.7	8.3	16.7	4.2	8.3	－	－	－	45.8	－
	男性:40歳代	40	47.5	45.0	27.5	10.0	17.5	10.0	10.0	17.5	20.0	2.5	－	－	25.0	2.5
	男性:50歳代	51	33.3	23.5	17.6	7.8	3.9	11.8	3.9	27.5	17.6	－	－	－	31.4	13.7
	男性:60歳代	75	26.7	30.7	21.3	5.3	－	4.0	－	16.0	14.7	1.3	－	－	41.3	2.7
	男性:70歳以上	208	2.4	35.1	7.2	1.9	2.4	4.8	－	13.9	22.6	－	1.4	1.4	34.6	15.9
	回答しない･該当しない	21	14.3	23.8	14.3	4.8	4.8	4.8	－	14.3	4.8	－	4.8	－	52.4	4.8
	無回答	62	8.1	24.2	9.7	3.2	1.6	3.2	3.2	8.1	14.5	1.6	－	－	17.7	43.5

（２）相談の有無

・悩みや困りごとについて、公的機関へ「相談した」は女性で 19.9%、男性で 16.1%。
・女性は年齢が高い層で、男性は 30 歳代で相談した割合が高い。

問 22 付問１**【問 22 で「１.」～「12.」のいずれかに答えた方におたずねします】**あなたは、悩みや困りごとについて、相談機関や公的機関に相談したことがありますか。１つ選んでください。

図表６－３　悩みや困りごとの相談の有無［全体、性別］



悩みや困りごとを抱えている人に、そのことについて公的な相談機関に相談したかどうかたずねた。「相談した」が 18.6%、「相談しなかった」が 73.0%と約４分の３の人は相談していない。

性別でみると、「相談した」は女性が 19.9%、男性が 16.1%と女性の方が相談している割合がやや高い。

年齢別でみると、女性は年齢が高い層で「相談した」割合が高くなる傾向がみられる。男性は30歳代で「相談した」が30.8％と最も高い。

配偶関係別でみると、女性は離・死別の配偶者はいない人や共働きでない配偶者・パートナーがいる人で「相談した」が２割台半ばから約３割と高い。

図表６－４　悩みや困りごとの相談の有無［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

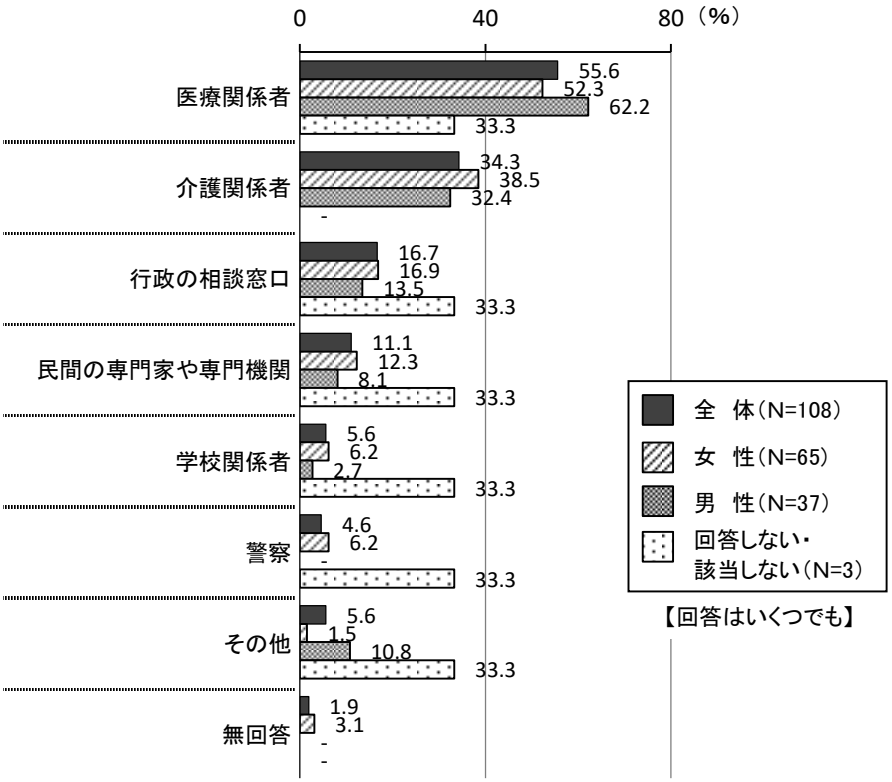
		標本数	相談した	相談しなかった	無回答
全体		581	108	424	49
		100.0	18.6	73.0	8.4
年齢別	女性:29歳以下	15	6.7	93.3	－
	女性:30歳代	27	14.8	85.2	－
	女性:40歳代	48	10.4	87.5	2.1
	女性:50歳代	42	21.4	78.6	－
	女性:60歳代	71	22.5	69.0	8.5
	女性:70歳以上	119	25.2	62.2	12.6
	男性:29歳以下	11	9.1	90.9	－
	男性:30歳代	13	30.8	69.2	－
	男性:40歳代	29	10.3	72.4	17.2
	男性:50歳代	28	14.3	85.7	－
	男性:60歳代	42	4.8	88.1	7.1
	男性:70歳以上	103	21.4	65.0	13.6
	回答しない・該当しない	9	33.3	66.7	－
	無回答	24	16.7	62.5	20.8
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	83	12.0	85.5	2.4
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	86	24.4	64.0	11.6
	女性:配偶者はいない(離別)	47	29.8	66.0	4.3
	女性:配偶者はいない(死別)	53	26.4	60.4	13.2
	女性:結婚していない	48	10.4	87.5	2.1
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	49	18.4	77.6	4.1
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	88	17.0	70.5	12.5
	男性:配偶者はいない(離別)	22	9.1	77.3	13.6
	男性:配偶者はいない(死別)	14	14.3	78.6	7.1
	男性:結婚していない	50	14.0	76.0	10.0
	回答しない・該当しない	9	33.3	66.7	－
	無回答	32	18.8	65.6	15.6

（３）相談した機関

・悩みや困りごとについて相談した機関は「医療関係者」が5割台半ば、次いで「介護関係者」が3割台半ば。

問 22 付付問１ **【問 22 付問１で「１.相談した」と答えた方におたずねします】**相談した機関はどこですか。いくつでも選んでください。

図表６－５　悩みや困りごとについて相談した機関［全体、性別］



悩みや困りごとについて相談した機関は「医療関係者」が 55.6%と最も多く、次いで「介護関係者」が 34.3%と高い。

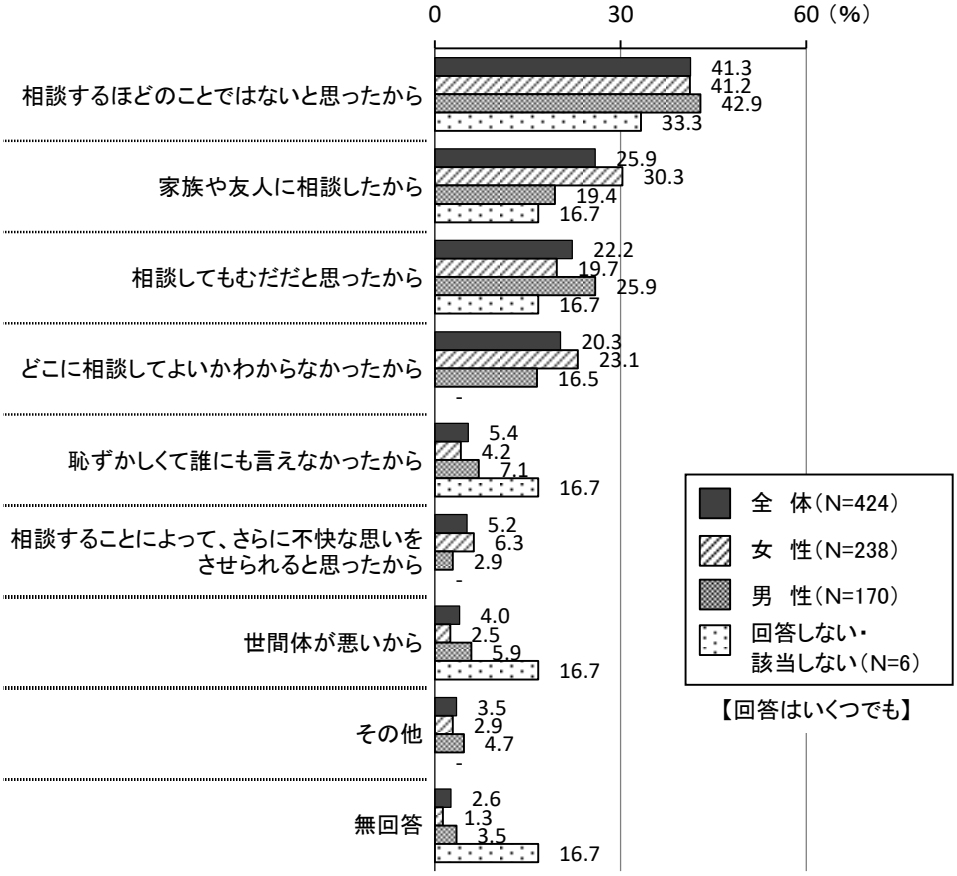
性別でみると、男性は「医療関係者」（女性 52.3%、男性 62.2%）が女性より 9.9 ポイント高く、その他の機関は女性の割合が高い。

（４）相談しなかった理由

・悩みや困りごとについて相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が約4割で最も高い。

問 22 付付問２**【問 22 付問１で「２.相談しなかった」と答えた方におたずねします】**相談しなかった、できなかった理由は何ですか。いくつでも選んでください。

図表６－６　悩みや困りごとについて相談しなった理由［全体、性別］



悩みや困りごとについて相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が 41.3％と最も高く、次いで「家族や友人に相談したから」が 25.9％、「相談してもむだだと思ったから」が 22.2％、「どこに相談してよいかわからなかったから」が 20.3％である。

年齢別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は女性の 29 歳以下と男性の 40 歳代で５割台、「家族や友人に相談したから」は男性の 29 歳以下と女性の 50 歳代で４割台と高い。「どこに相談してよいかわからなかったから」は女性の 30 歳代で 34.8％と高く、29 歳以下でも 28.6％ある。また、30 歳代以下では「相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから」が１割台と他の年代に比べて比較的高い。

図表６－７　悩みや困りごとについて相談しなった理由［全体、年齢別］

（%）

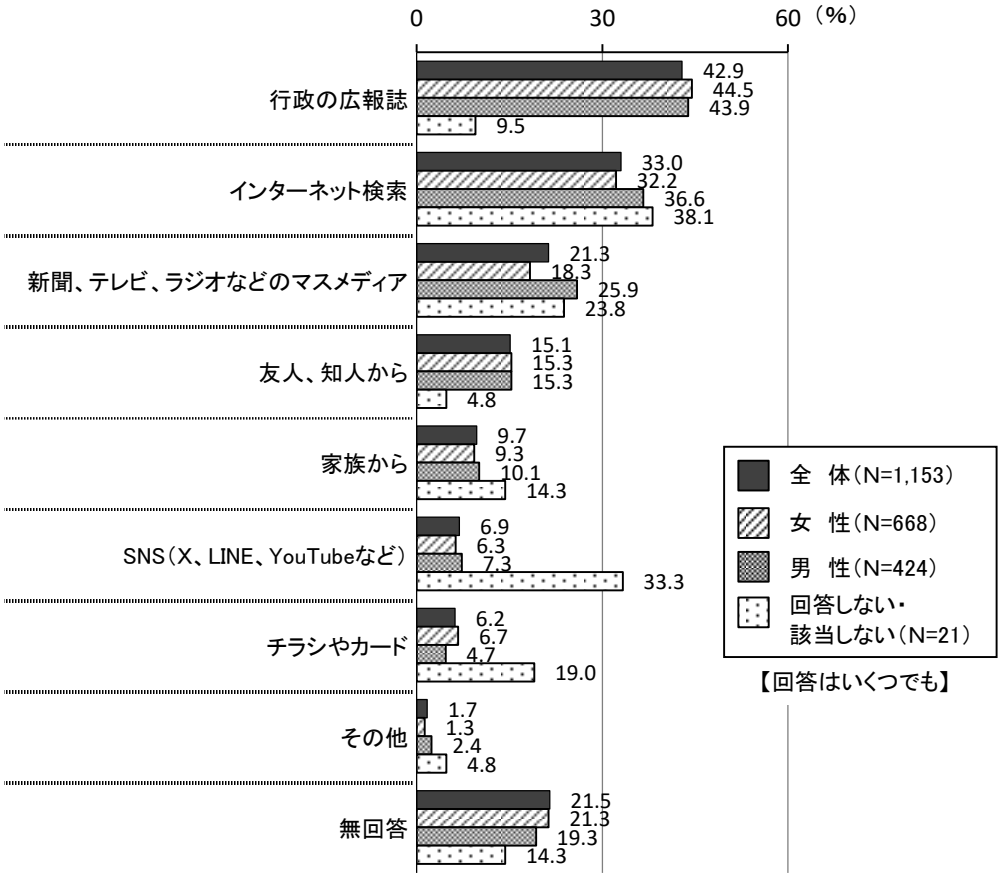
		標本数	どこに相談してよいかわからなかったから	家族や友人に相談したから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体		424	86	110	23	94	22	175	17	15	11
		100.0	20.3	25.9	5.4	22.2	5.2	41.3	4.0	3.5	2.6
年齢別	女性:29歳以下	14	28.6	7.1	－	21.4	14.3	57.1	7.1	－	－
	女性:30歳代	23	34.8	21.7	－	21.7	13.0	43.5	4.3	4.3	－
	女性:40歳代	42	23.8	35.7	－	19.0	4.8	38.1	－	2.4	－
	女性:50歳代	33	15.2	42.4	9.1	24.2	6.1	36.4	6.1	6.1	－
	女性:60歳代	49	20.4	34.7	4.1	20.4	8.2	42.9	2.0	2.0	－
	女性:70歳以上	74	23.0	25.7	5.4	16.2	2.7	41.9	1.4	2.7	4.1
	男性:29歳以下	10	20.0	40.0	－	10.0	－	40.0	－	－	－
	男性:30歳代	9	11.1	22.2	33.3	22.2	－	33.3	－	－	－
	男性:40歳代	21	14.3	19.0	9.5	38.1	9.5	52.4	4.8	4.8	－
	男性:50歳代	24	12.5	29.2	8.3	25.0	4.2	33.3	8.3	12.5	－
	男性:60歳代	37	8.1	24.3	5.4	32.4	2.7	40.5	10.8	2.7	2.7
	男性:70歳以上	67	22.4	10.4	3.0	19.4	1.5	47.8	4.5	4.5	7.5
	回答しない・該当しない	6	－	16.7	16.7	16.7	－	33.3	16.7	－	16.7
	無回答	15	33.3	33.3	13.3	33.3	13.3	13.3	－	－	6.7

２．相談窓口の情報の入手方法

・相談窓口の情報の入手方法は、男女とも年齢の高い層では「行政の広報誌」や「新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア」、年齢の低い層では「インターネット検索」や「SNS（X、LINE、YouTubeなど）」。

問 23　相談窓口の情報をどのように入手していますか。いくつでも選んでください。

図表６－８　悩みや困りごとについての相談窓口の情報の入手方法［全体、性別］



相談窓口の情報の入手方法は「行政の広報誌」が 42.9%と最も高く、次いで「インターネット検索」が 33.3%、「新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア」が 21.3%、「友人、知人から」が 15.1%となっている。

性別でみると、「インターネット検索」（女性 32.2%、男性 36.6%）や「新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア」（同 18.3%、25.9%）などは男性の方が 4.4～7.6 ポイント高い。その他の項目は男女とも同程度である。

年齢別でみると、「行政の広報誌」や「新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア」は男女とも年齢の高い層での割合が高く、「インターネット検索」や「SNS（X、LINE、YouTube など)」は男女とも年齢の低い層での割合が高い。

図表６－９　悩みや困りごとについての相談窓口の情報の入手方法［全体、年齢別］

(%)

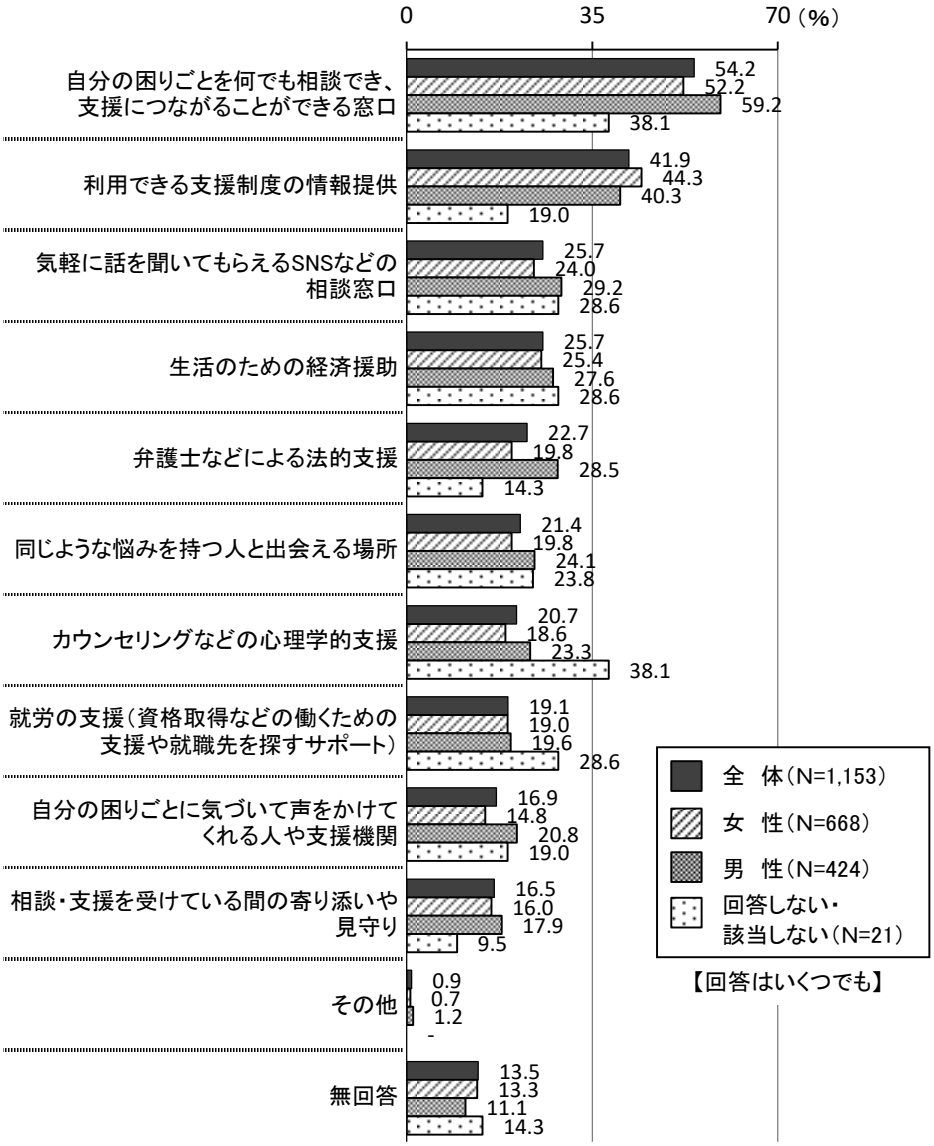
		標本数	インターネット検索	SNS（X、LINE、YouTube など）	チラシやカード	行政の広報誌	新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア	家族から	友人、知人から	その他	無回答
全体		1,153	380	80	71	495	246	112	174	20	248
		100.0	33.0	6.9	6.2	42.9	21.3	9.7	15.1	1.7	21.5
年齢別	女性:29歳以下	33	51.5	24.2	6.1	21.2	6.1	9.1	3.0	6.1	3.0
	女性:30歳代	33	66.7	27.3	18.2	36.4	9.1	12.1	18.2	－	6.1
	女性:40歳代	73	58.9	16.4	11.0	34.2	8.2	6.8	8.2	－	16.4
	女性:50歳代	81	53.1	8.6	11.1	46.9	17.3	6.2	12.3	2.5	11.1
	女性:60歳代	157	37.6	2.5	7.6	44.6	23.6	8.3	24.8	0.6	15.9
	女性:70歳以上	279	10.0	0.7	2.5	50.9	20.8	11.5	14.3	1.4	31.2
	男性:29歳以下	16	62.5	43.8	12.5	25.0	6.3	12.5	6.3	－	6.3
	男性:30歳代	24	79.2	29.2	－	25.0	12.5	8.3	20.8	－	8.3
	男性:40歳代	40	65.0	15.0	7.5	37.5	12.5	5.0	7.5	5.0	15.0
	男性:50歳代	51	62.7	9.8	5.9	27.5	19.6	17.6	23.5	2.0	17.6
	男性:60歳代	75	46.7	4.0	4.0	42.7	25.3	5.3	13.3	2.7	12.0
	男性:70歳以上	208	15.9	1.4	4.3	53.4	32.7	11.1	15.9	2.4	24.5
	回答しない・該当しない	21	38.1	33.3	19.0	9.5	23.8	14.3	4.8	4.8	14.3
	無回答	62	8.1	－	4.8	27.4	24.2	8.1	11.3	－	50.0

３．困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するための環境や支援

・困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために必要な環境や支援は「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」「利用できる支援制度の情報提供」「気軽に話を聞いてくれるSNSなどの相談窓口」「生活のための経済援助」が上位。

問 24　困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。いくつでも選んでください。

図表６－10　困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するための環境や支援［全体、性別］



困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するためにどのような環境や支援があるといいかをたずねた。「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」が 54.2%と最も高く、次いで「利用できる支援制度の情報提供」が 41.9%、「気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口」と「生活のための経済援助」が同率の 25.7%、「弁護士などによる法的支援」が 22.7%、「同じような悩みを持つ人と出会える場所」が 21.4%、「カウンセリングなどの心理学的支援」が 20.7%など多岐にわたってあげられている。

年齢別でみると、女性の 60 歳代と男性の 29 歳以下、50 歳代、60 歳代で「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」が６割台、「利用できる支援制度の情報提供」は女性の 30 歳代と 50 歳代、60 歳代で５割台と高い。「気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口」は女性の 29 歳以下と男性の 29 歳以下、30 歳代、50 歳代で５割台、「生活のための経済援助」は女性の 29 歳以下と 30 歳代で５割台と年齢の低い層で割合が高い。

図表６－11　困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するための環境や支援［全体、年齢別］

（%）

		標本数	気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口	自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口	利用できる支援制度の情報提供	同じような悩みを持つ人と出会える場所	相談・支援を受けている間の寄り添いや見守り	自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関	生活のための経済援助	就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）	カウンセリングなどの心理学的支援	弁護士などによる法的支援	その他	無回答
全体		1,153	296	625	483	247	190	195	296	220	239	262	10	156
		100.0	25.7	54.2	41.9	21.4	16.5	16.9	25.7	19.1	20.7	22.7	0.9	13.5
年齢別	女性:29歳以下	33	57.6	42.4	39.4	33.3	27.3	30.3	51.5	33.3	33.3	27.3	－	3.0
	女性:30歳代	33	45.5	42.4	51.5	33.3	21.2	21.2	54.5	39.4	36.4	21.2	－	－
	女性:40歳代	73	37.0	43.8	39.7	27.4	17.8	15.1	30.1	15.1	28.8	28.8	1.4	2.7
	女性:50歳代	81	33.3	58.0	53.1	22.2	16.0	14.8	33.3	30.9	19.8	34.6	1.2	4.9
	女性:60歳代	157	22.3	63.7	53.5	17.8	12.7	12.7	22.3	24.2	14.0	18.5	1.3	7.0
	女性:70歳以上	279	12.9	49.1	36.9	15.4	14.7	13.6	16.8	9.7	14.0	13.3	0.4	24.4
	男性:29歳以下	16	50.0	68.8	37.5	25.0	12.5	31.3	43.8	31.3	31.3	43.8	－	－
	男性:30歳代	24	54.2	54.2	25.0	41.7	25.0	29.2	33.3	4.2	12.5	16.7	－	－
	男性:40歳代	40	35.0	55.0	42.5	40.0	20.0	22.5	27.5	20.0	25.0	40.0	－	10.0
	男性:50歳代	51	51.0	60.8	39.2	31.4	25.5	21.6	37.3	31.4	37.3	37.3	3.9	11.8
	男性:60歳代	75	34.7	65.3	38.7	21.3	14.7	17.3	30.7	29.3	24.0	28.0	－	1.3
	男性:70歳以上	208	17.3	58.2	43.8	17.8	16.3	19.2	22.6	13.9	20.2	25.5	1.4	15.4
	回答しない･該当しない	21	28.6	38.1	19.0	23.8	9.5	19.0	28.6	28.6	38.1	14.3	－	14.3
	無回答	62	12.9	41.9	33.9	19.4	17.7	12.9	14.5	12.9	21.0	12.9	－	38.7

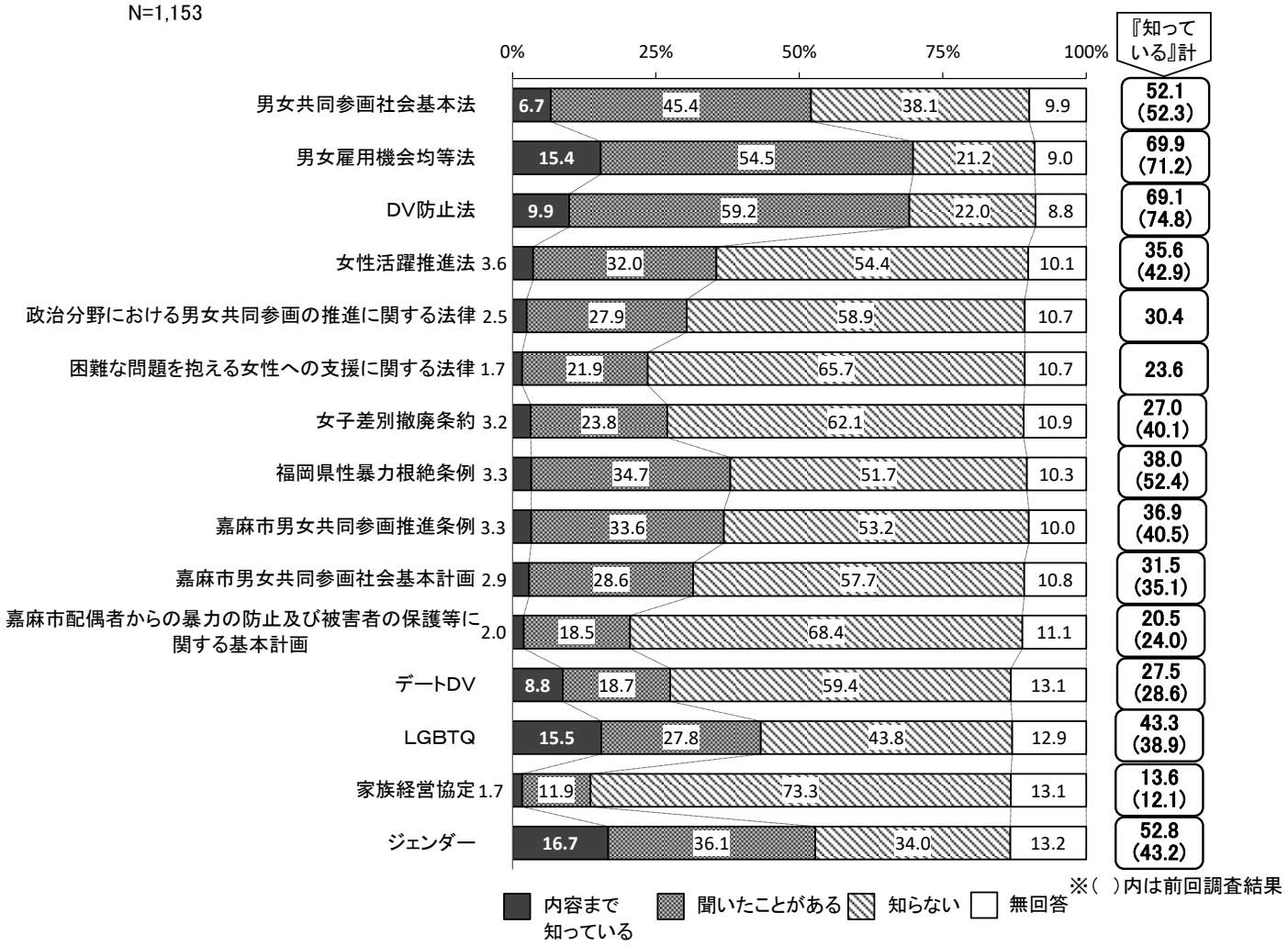
第７章　男女共同参画社会の実現について

１．男女共同参画に関する法令・制度、用語などの認知

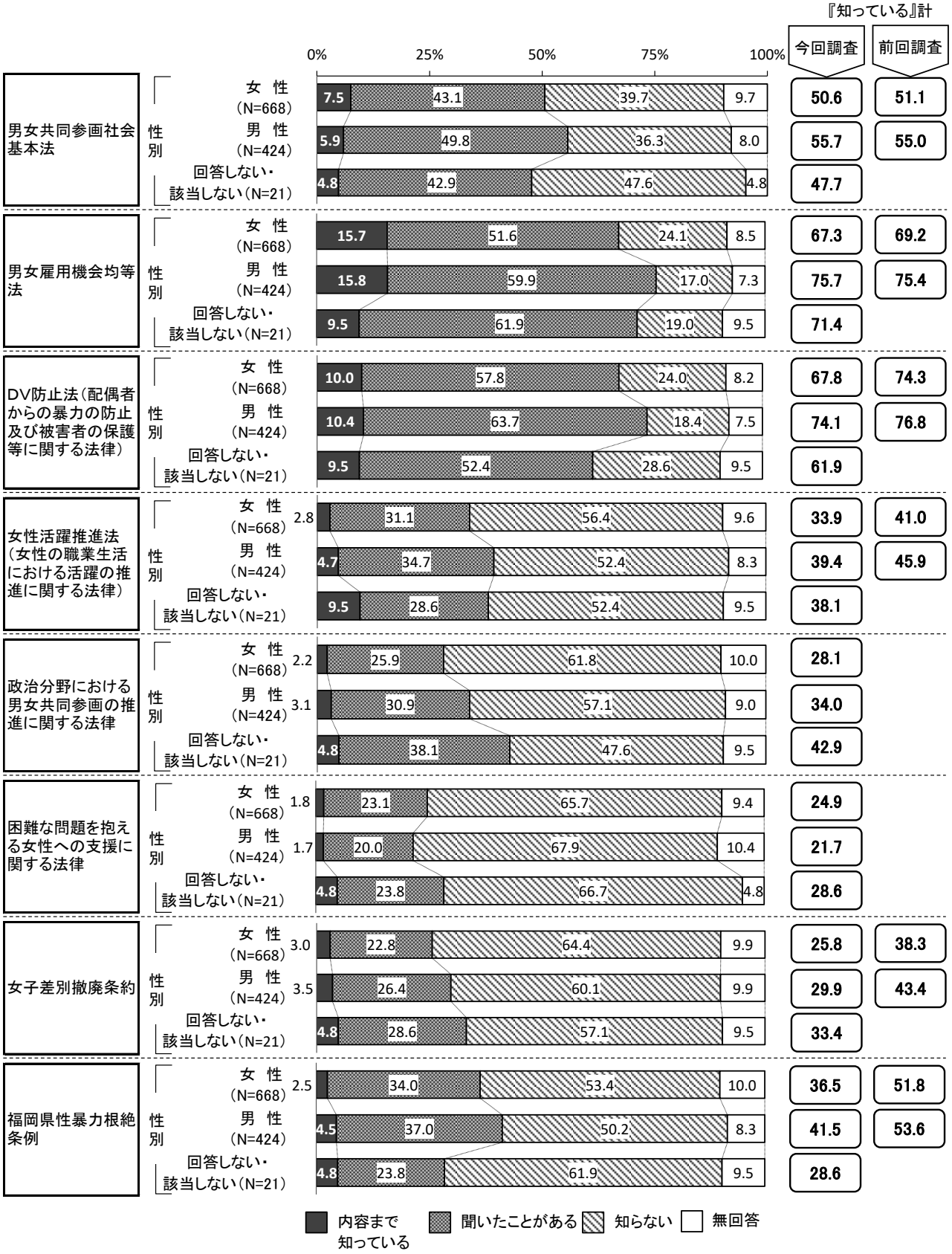
・男女共同参画に関する法令・制度の認知度は「男女雇用機会均等法」「DV防止法」が約7割。
・「ジェンダー」「LGBTQ」は男女とも認知は上がっている。

問 25　次の（ア）～（ソ）のことがらで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

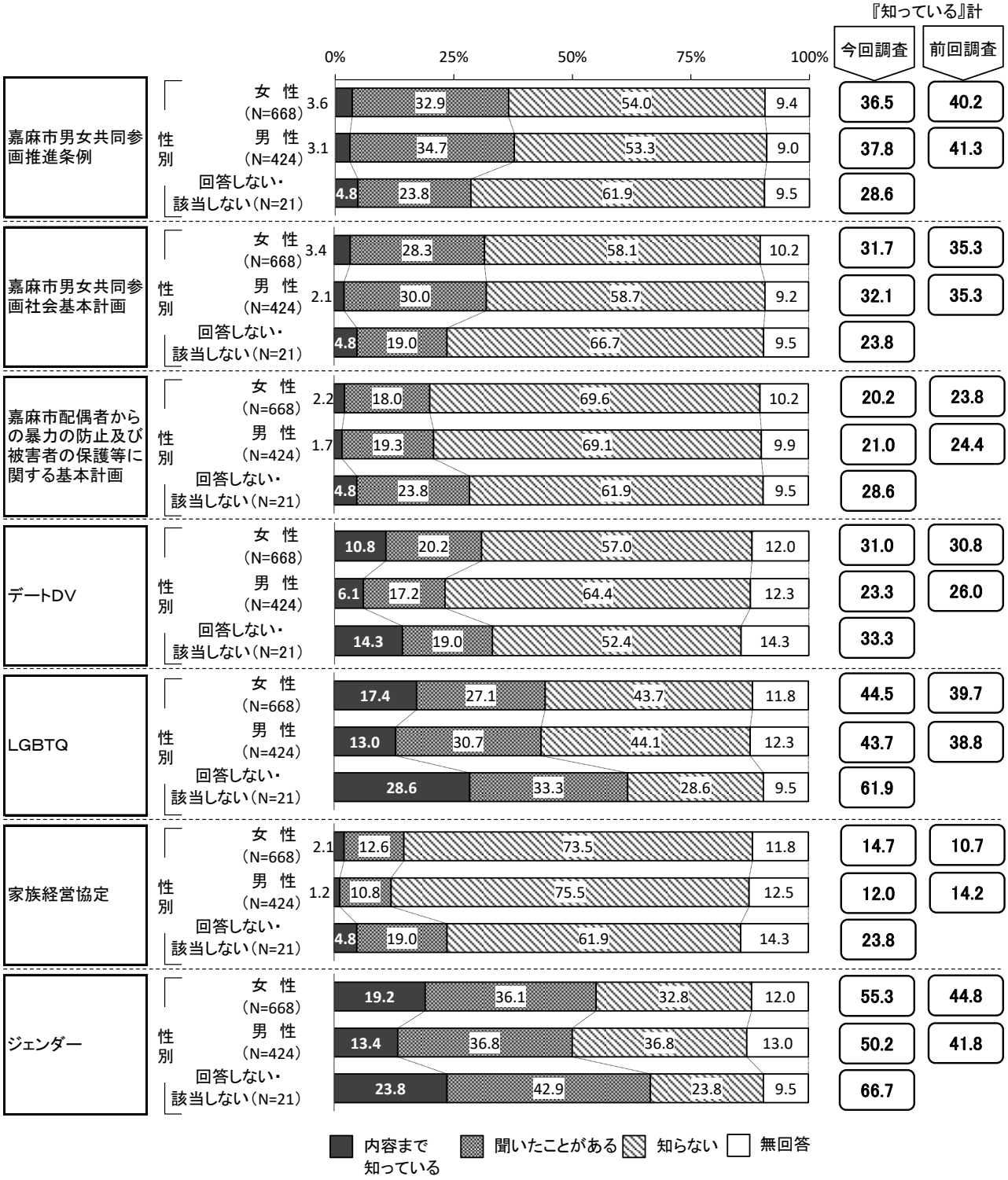
図表７－１　男女共同参画に関する法令・制度、用語の認知［全体］（前回調査比較）



図表７－２（１）　男女共同参画に関する法令・制度、用語の認知［性別］（前回調査比較）



図表７－２（２）　男女共同参画に関する法令・制度、用語の認知［性別］（前回調査比較）



男女共同参画に関する法令や制度、言葉についての認知をたずねた。「内容まで知っている」「聞いたことがある」を合計した認知度が高いのは「男女雇用機会均等法」（69.9%）、「ＤＶ防止法」（69.1%）などが約７割、「男女共同参画社会基本法」（52.1%）、「ジェンダー」（52.8%）が５割を超えている。「嘉麻市男女共同参画推進条例」は 36.9%、「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」は 31.5%、「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」は 20.5%である。

性別でみると、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（女性 24.9%、男性 21.7%）や「デートＤＶ」（同 31.0%、23.3%）、「ジェンダー」（同 55.3%、50.2%）などの認知は女性の方が高くなっている。「ＬＧＢＴＱ」（同 44.5%、43.7%）や「嘉麻市男女共同参画推進条例」（同 36.5%、37.8%）、「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」（同 31.7%、32.1%）、「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」（同 20.2%、21.0%）、「家族経営協定」（同 14.7%、12.0%）などは男女同程度の認知である。その他の項目は男性の認知が高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「福岡県性暴力根絶条例」で 12.1～15.3 ポイント、「女子差別撤廃条約」で 12.5～13.5 ポイント、「女性活躍推進法」で 6.5～7.1 ポイント減るなど、認知が低くなっている項目が多いが、「ジェンダー」は男女とも 8.4～10.5 ポイント、「ＬＧＢＴＱ」は 4.8～4.9 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「ＤＶ防止法」「女性活躍推進法」「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」「女子差別撤廃条約」などは男性の 29 歳以下や 30 歳代での認知が高い傾向がみられる。「福岡県性暴力根絶条例」は女性の 60 歳代と男性の 60 歳代以上での認知が高い。「嘉麻市男女共同参画推進条例」「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」は女性の 60 歳代と男性の 70 歳以上で、「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」は女性の 50 歳代と男性の 70 歳以上での認知が高い。「デートＤＶ」「ＬＧＢＴＱ」「ジェンダー」は男女とも 29 歳以下、「家族経営協定」は女性の 30 歳代と 50 歳代、男性の 29 歳以下での認知が他の年代に比べて高い。

図表７－３（１）　男女共同参画に関する法令・制度、用語の認知［全体、年齢別］

（%）

		標本数	男女共同参画社会基本法					男女雇用機会均等法					DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	77	523	439	114	**600**	177	628	244	104	**805**	114	683	254	102	**797**
		100.0	6.7	45.4	38.1	9.9	**52.1**	15.4	54.5	21.2	9.0	**69.9**	9.9	59.2	22.0	8.8	**69.1**
年齢別	女性:29歳以下	33	39.4	24.2	33.3	3.0	**63.6**	45.5	24.2	30.3	－	**69.7**	27.3	42.4	27.3	3.0	**69.7**
	女性:30歳代	33	9.1	39.4	48.5	3.0	**48.5**	18.2	42.4	39.4	－	**60.6**	15.2	54.5	30.3	－	**69.7**
	女性:40歳代	73	6.8	43.8	47.9	1.4	**50.6**	19.2	56.2	23.3	1.4	**75.4**	13.7	54.8	30.1	1.4	**68.5**
	女性:50歳代	81	9.9	42.0	44.4	3.7	**51.9**	30.9	42.0	19.8	7.4	**72.9**	18.5	56.8	21.0	3.7	**75.3**
	女性:60歳代	157	5.1	47.8	43.3	3.8	**52.9**	11.5	63.1	22.9	2.5	**74.6**	7.6	69.4	20.4	2.5	**77.0**
	女性:70歳以上	279	4.7	42.7	35.1	17.6	**47.4**	9.3	50.9	24.7	15.1	**60.2**	5.4	54.8	24.4	15.4	**60.2**
	男性:29歳以下	16	18.8	62.5	18.8	－	**81.3**	18.8	75.0	6.3	－	**93.8**	6.3	75.0	18.8	－	**81.3**
	男性:30歳代	24	4.2	54.2	41.7	－	**58.4**	4.2	70.8	25.0	－	**75.0**	12.5	70.8	16.7	－	**83.3**
	男性:40歳代	40	5.0	52.5	32.5	10.0	**57.5**	15.0	62.5	12.5	10.0	**77.5**	7.5	70.0	12.5	10.0	**77.5**
	男性:50歳代	51	13.7	31.4	39.2	15.7	**45.1**	25.5	45.1	13.7	15.7	**70.6**	19.6	49.0	15.7	15.7	**68.6**
	男性:60歳代	75	4.0	48.0	44.0	4.0	**52.0**	18.7	54.7	22.7	4.0	**73.4**	10.7	69.3	16.0	4.0	**80.0**
	男性:70歳以上	208	4.3	52.9	34.6	8.2	**57.2**	13.9	63.5	15.9	6.7	**77.4**	9.1	62.0	21.6	7.2	**71.1**
	回答しない・該当しない	21	4.8	42.9	47.6	4.8	**47.7**	9.5	61.9	19.0	9.5	**71.4**	9.5	52.4	28.6	9.5	**61.9**
	無回答	62	1.6	43.5	22.6	32.3	**45.1**	8.1	43.5	16.1	32.3	**51.6**	3.2	46.8	21.0	29.0	**50.0**

		標本数	女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）					政治分野における男女共同参画の推進に関する法律					困難な問題を抱える女性への支援に関する法律				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	41	369	627	116	**410**	29	322	679	123	**351**	20	253	757	123	**273**
		100.0	3.6	32.0	54.4	10.1	**35.6**	2.5	27.9	58.9	10.7	**30.4**	1.7	21.9	65.7	10.7	**23.6**
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	24.2	54.5	6.1	**39.4**	9.1	24.2	57.6	9.1	**33.3**	3.0	15.2	81.8	－	**18.2**
	女性:30歳代	33	6.1	45.5	48.5	－	**51.6**	－	24.2	69.7	6.1	**24.2**	－	15.2	84.8	－	**15.2**
	女性:40歳代	73	－	43.8	54.8	1.4	**43.8**	－	37.0	61.6	1.4	**37.0**	1.4	20.5	75.3	2.7	**21.9**
	女性:50歳代	81	4.9	32.1	58.0	4.9	**37.0**	4.9	18.5	71.6	4.9	**23.4**	2.5	21.0	72.8	3.7	**23.5**
	女性:60歳代	157	3.2	31.2	63.1	2.5	**34.4**	3.2	24.2	70.1	2.5	**27.4**	3.2	24.2	70.1	2.5	**27.4**
	女性:70歳以上	279	1.1	26.9	54.5	17.6	**28.0**	1.1	26.9	54.5	17.6	**28.0**	1.1	26.2	55.2	17.6	**27.3**
	男性:29歳以下	16	6.3	62.5	31.3	－	**68.8**	6.3	31.3	56.3	6.3	**37.6**	－	31.3	56.3	12.5	**31.3**
	男性:30歳代	24	8.3	45.8	45.8	－	**54.1**	4.2	33.3	62.5	－	**37.5**	4.2	25.0	70.8	－	**29.2**
	男性:40歳代	40	5.0	35.0	52.5	7.5	**40.0**	－	20.0	72.5	7.5	**20.0**	2.5	17.5	70.0	10.0	**20.0**
	男性:50歳代	51	11.8	27.5	45.1	15.7	**39.3**	5.9	29.4	47.1	17.6	**35.3**	－	21.6	60.8	17.6	**21.6**
	男性:60歳代	75	1.3	36.0	58.7	4.0	**37.3**	1.3	32.0	60.0	6.7	**33.3**	－	18.7	76.0	5.3	**18.7**
	男性:70歳以上	208	3.8	33.2	53.8	9.1	**37.0**	3.4	32.7	55.3	8.7	**36.1**	1.9	19.2	68.3	10.6	**21.1**
	回答しない・該当しない	21	9.5	28.6	52.4	9.5	**38.1**	4.8	38.1	47.6	9.5	**42.9**	4.8	23.8	66.7	4.8	**28.6**
	無回答	62	－	21.0	45.2	33.9	**21.0**	－	24.2	40.3	35.5	**24.2**	1.6	19.4	41.9	37.1	**21.0**

		標本数	女子差別撤廃条約					福岡県性暴力根絶条例				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	37	274	716	126	**311**	38	400	596	119	**438**
		100.0	3.2	23.8	62.1	10.9	**27.0**	3.3	34.7	51.7	10.3	**38.0**
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	18.2	63.6	3.0	**33.4**	3.0	12.1	84.8	－	**15.1**
	女性:30歳代	33	－	30.3	66.7	3.0	**30.3**	3.0	36.4	60.6	－	**39.4**
	女性:40歳代	73	2.7	31.5	64.4	1.4	**34.2**	2.7	31.5	63.0	2.7	**34.2**
	女性:50歳代	81	3.7	19.8	70.4	6.2	**23.5**	3.7	35.8	54.3	6.2	**39.5**
	女性:60歳代	157	1.9	24.2	70.7	3.2	**26.1**	3.8	40.1	53.5	2.5	**43.9**
	女性:70歳以上	279	2.5	20.8	59.1	17.6	**23.3**	1.4	32.6	47.3	18.6	**34.0**
	男性:29歳以下	16	6.3	43.8	50.0	－	**50.1**	6.3	31.3	62.5	－	**37.6**
	男性:30歳代	24	8.3	16.7	75.0	－	**25.0**	4.2	37.5	58.3	－	**41.7**
	男性:40歳代	40	2.5	27.5	60.0	10.0	**30.0**	5.0	37.5	50.0	7.5	**42.5**
	男性:50歳代	51	2.0	13.7	64.7	19.6	**15.7**	3.9	27.5	51.0	17.6	**31.4**
	男性:60歳代	75	－	34.7	60.0	5.3	**34.7**	2.7	41.3	52.0	4.0	**44.0**
	男性:70歳以上	208	4.8	25.5	59.1	10.6	**30.3**	5.3	38.0	47.6	9.1	**43.3**
	回答しない・該当しない	21	4.8	28.6	57.1	9.5	**33.4**	4.8	23.8	61.9	9.5	**28.6**
	無回答	62	1.6	14.5	48.4	35.5	**16.1**	1.6	32.3	33.9	32.3	**33.9**

図表７－３（２）　男女共同参画に関する法令・制度、用語の認知［全体、年齢別］

（%）

		標本数	嘉麻市男女共同参画推進条例					嘉麻市男女共同参画社会基本計画					嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	38	387	613	115	**425**	33	330	665	125	**363**	23	213	789	128	**236**
		100.0	3.3	33.6	53.2	10.0	**36.9**	2.9	28.6	57.7	10.8	**31.5**	2.0	18.5	68.4	11.1	**20.5**
年齢別	女性:29歳以下	33	3.0	9.1	87.9	－	**12.1**	3.0	9.1	84.8	3.0	**12.1**	6.1	－	93.9	－	**6.1**
	女性:30歳代	33	－	30.3	69.7	－	**30.3**	－	27.3	72.7	－	**27.3**	－	24.2	75.8	－	**24.2**
	女性:40歳代	73	2.7	30.1	63.0	4.1	**32.8**	2.7	30.1	63.0	4.1	**32.8**	1.4	21.9	74.0	2.7	**23.3**
	女性:50歳代	81	3.7	28.4	60.5	7.4	**32.1**	2.5	23.5	67.9	6.2	**26.0**	4.9	22.2	67.9	4.9	**27.1**
	女性:60歳代	157	5.1	40.1	52.9	1.9	**45.2**	5.1	34.4	56.7	3.8	**39.5**	3.2	16.6	77.1	3.2	**19.8**
	女性:70歳以上	279	3.6	34.4	45.2	16.8	**38.0**	3.6	28.3	50.5	17.6	**31.9**	1.1	17.9	62.4	18.6	**19.0**
	男性:29歳以下	16	－	25.0	68.8	6.3	**25.0**	－	25.0	75.0	－	**25.0**	－	12.5	81.3	6.3	**12.5**
	男性:30歳代	24	－	37.5	62.5	－	**37.5**	－	33.3	66.7	－	**33.3**	－	20.8	79.2	－	**20.8**
	男性:40歳代	40	5.0	25.0	60.0	10.0	**30.0**	5.0	20.0	67.5	7.5	**25.0**	2.5	17.5	67.5	12.5	**20.0**
	男性:50歳代	51	3.9	17.6	60.8	17.6	**21.5**	3.9	15.7	64.7	15.7	**19.6**	3.9	7.8	70.6	17.6	**11.7**
	男性:60歳代	75	1.3	33.3	60.0	5.3	**34.6**	－	29.3	65.3	5.3	**29.3**	－	18.7	74.7	6.7	**18.7**
	男性:70歳以上	208	3.8	40.9	46.6	8.7	**44.7**	2.4	36.1	51.4	10.1	**38.5**	1.9	23.6	64.9	9.6	**25.5**
	回答しない・該当しない	21	4.8	23.8	61.9	9.5	**28.6**	4.8	19.0	66.7	9.5	**23.8**	4.8	23.8	61.9	9.5	**28.6**
	無回答	62	－	37.1	33.9	29.0	**37.1**	－	24.2	38.7	37.1	**24.2**	－	14.5	48.4	37.1	**14.5**

		標本数	デートDV					LGBTQ					家族経営協定				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	101	216	685	151	**317**	179	320	505	149	**499**	20	137	845	151	**157**
		100.0	8.8	18.7	59.4	13.1	**27.5**	15.5	27.8	43.8	12.9	**43.3**	1.7	11.9	73.3	13.1	**13.6**
年齢別	女性:29歳以下	33	36.4	12.1	51.5	－	**48.5**	57.6	18.2	21.2	3.0	**75.8**	6.1	9.1	84.8	－	**15.2**
	女性:30歳代	33	24.2	15.2	60.6	－	**39.4**	42.4	30.3	27.3	－	**72.7**	9.1	12.1	78.8	－	**21.2**
	女性:40歳代	73	15.1	23.3	58.9	2.7	**38.4**	27.4	37.0	32.9	2.7	**64.4**	2.7	12.3	83.6	1.4	**15.0**
	女性:50歳代	81	21.0	23.5	49.4	6.2	**44.5**	25.9	38.3	30.9	4.9	**64.2**	3.7	18.5	71.6	6.2	**22.2**
	女性:60歳代	157	8.3	24.8	63.1	3.8	**33.1**	12.7	34.4	49.7	3.2	**47.1**	0.6	14.6	81.5	3.2	**15.2**
	女性:70歳以上	279	3.9	16.5	57.0	22.6	**20.4**	6.8	17.9	53.0	22.2	**24.7**	1.1	10.4	65.9	22.6	**11.5**
	男性:29歳以下	16	18.8	31.3	50.0	－	**50.1**	50.0	43.8	6.3	－	**93.8**	－	31.3	62.5	6.3	**31.3**
	男性:30歳代	24	－	20.8	79.2	－	**20.8**	16.7	37.5	41.7	4.2	**54.2**	4.2	8.3	87.5	－	**12.5**
	男性:40歳代	40	5.0	22.5	60.0	12.5	**27.5**	17.5	52.5	20.0	10.0	**70.0**	－	12.5	77.5	10.0	**12.5**
	男性:50歳代	51	19.6	15.7	49.0	15.7	**35.3**	29.4	27.5	27.5	15.7	**56.9**	3.9	7.8	72.5	15.7	**11.7**
	男性:60歳代	75	8.0	25.3	61.3	5.3	**33.3**	9.3	41.3	44.0	5.3	**50.6**	－	10.7	82.7	6.7	**10.7**
	男性:70歳以上	208	2.4	13.0	68.8	15.9	**15.4**	6.3	22.6	55.3	15.9	**28.9**	1.0	10.1	73.1	15.9	**11.1**
	回答しない・該当しない	21	14.3	19.0	52.4	14.3	**33.3**	28.6	33.3	28.6	9.5	**61.9**	4.8	19.0	61.9	14.3	**23.8**
	無回答	62	－	14.5	50.0	35.5	**14.5**	9.7	9.7	43.5	37.1	**19.4**	－	8.1	54.8	37.1	**8.1**

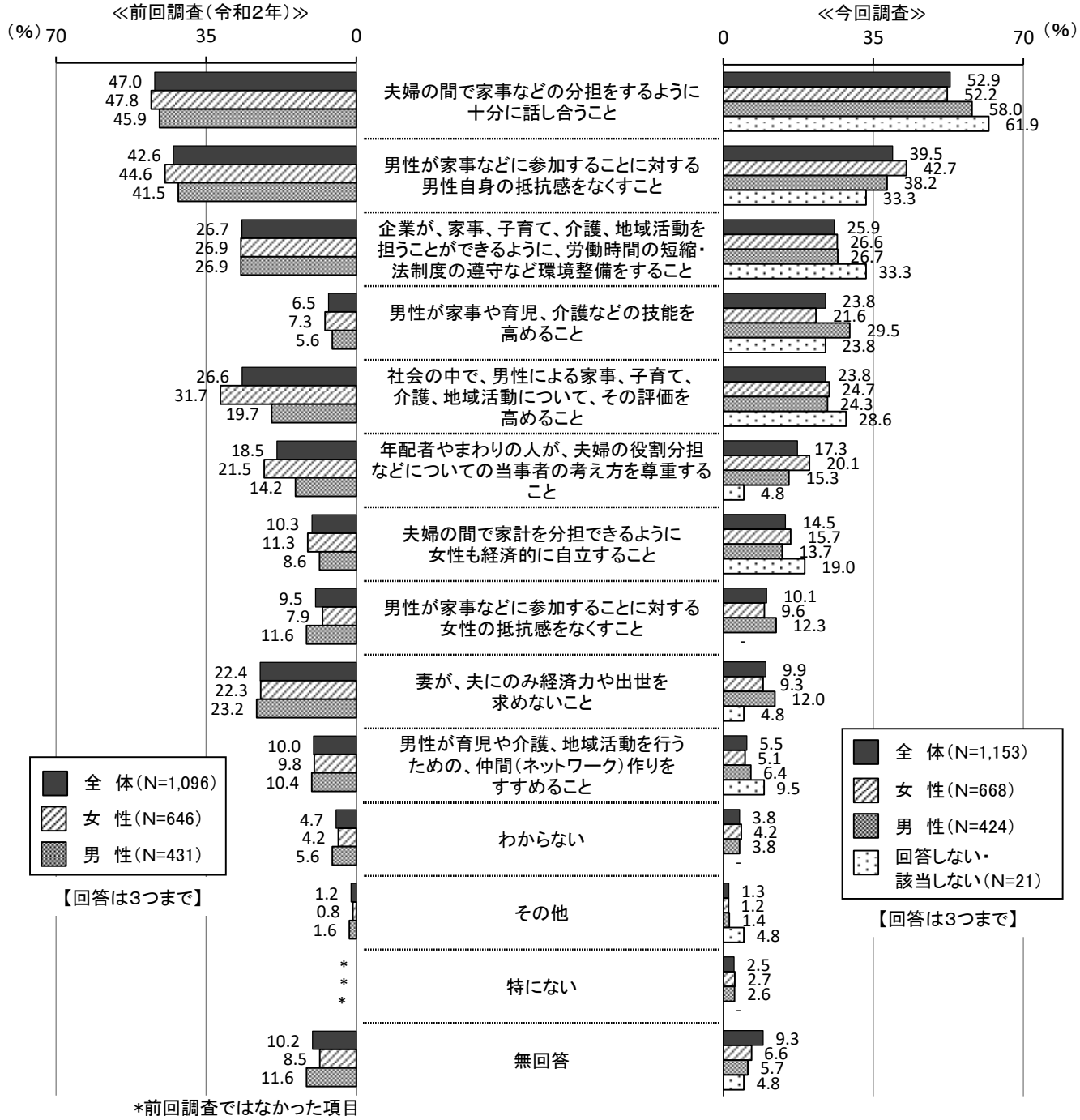
		標本数	ジェンダー				
			内容まで知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	『知っている』計
全体		1,153	193	416	392	152	**609**
		100.0	16.7	36.1	34.0	13.2	**52.8**
年齢別	女性:29歳以下	33	60.6	27.3	12.1	－	**87.9**
	女性:30歳代	33	42.4	33.3	24.2	－	**75.7**
	女性:40歳代	73	28.8	50.7	19.2	1.4	**79.5**
	女性:50歳代	81	24.7	49.4	19.8	6.2	**74.1**
	女性:60歳代	157	17.8	41.4	37.6	3.2	**59.2**
	女性:70歳以上	279	8.2	26.5	41.9	23.3	**34.7**
	男性:29歳以下	16	31.3	50.0	6.3	12.5	**81.3**
	男性:30歳代	24	29.2	41.7	29.2	－	**70.9**
	男性:40歳代	40	22.5	52.5	15.0	10.0	**75.0**
	男性:50歳代	51	25.5	35.3	21.6	17.6	**60.8**
	男性:60歳代	75	12.0	45.3	37.3	5.3	**57.3**
	男性:70歳以上	208	6.3	30.3	47.1	16.3	**36.6**
	回答しない・該当しない	21	23.8	42.9	23.8	9.5	**66.7**
	無回答	62	9.7	27.4	29.0	33.9	**37.1**

２．男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

・男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは「夫婦の間で家事分担を十分に話し合う」が約5割、「男性の家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」が約4割。

問 26　男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。３つまで選んでください。

図表７－４　男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
［全体、性別］（前回調査比較）



男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこととして「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が 52.9%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 39.5%、「企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること」が 25.9%、「男性が家事や育児、介護などの技能を高めること」と「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」が同率 23.8%となっている。

性別でみると、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性 42.7%、男性 38.2%）が 4.5 ポイント、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（同 20.1%、15.3%）が 4.8 ポイント男性よりも高い。男性は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」（同 52.2%、58.0%）が 5.8 ポイント、「男性が家事や育児、介護などの技能を高めること」（同 21.6%、29.5%）が 7.9 ポイント女性より高い。

前回調査と比べると、男女とも「男性が家事や育児、介護などの技能を高めること」が 14.3～23.9 ポイント増え、また「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が 4.4～12.1 ポイント、「夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること」が 4.4～5.1 ポイント増えている。

年齢別でみると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は男性の 40 歳代で 77.5%と最も高く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は男女の 29 歳以下で約６割と高い。「企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること」は女性の 30 歳代以下と男性の 60 歳代で３割台、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」は女性の 70 歳以上と男性の 60 歳代で約３割と高い。「夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること」は男性の 30 歳で 29.2%と高いのが目立つ。

図表７－５　男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
［全体、年齢別］

(%)

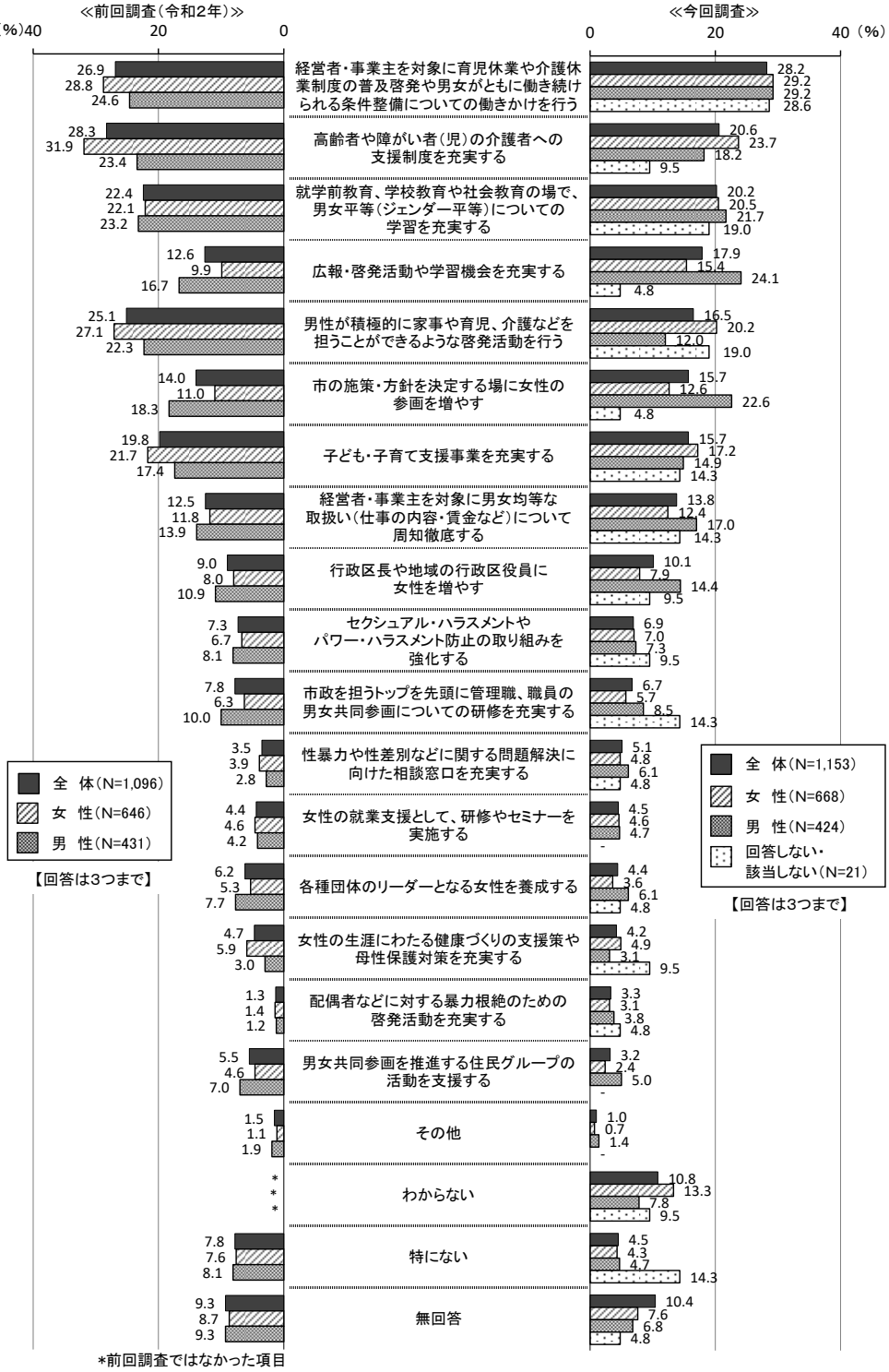
		標本数	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること	男性が家事や育児、介護などの技能を高めること	妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと	男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守など環境整備をすること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること	わからない	その他	特にない	無回答
全体		1,153	455	116	610	200	167	274	114	63	299	274	44	15	29	107
		100.0	39.5	10.1	52.9	17.3	14.5	23.8	9.9	5.5	25.9	23.8	3.8	1.3	2.5	9.3
年齢別	女性:29歳以下	33	60.6	3.0	60.6	18.2	15.2	27.3	15.2	3.0	33.3	18.2	6.1	－	3.0	－
	女性:30歳代	33	48.5	9.1	51.5	21.2	15.2	21.2	15.2	3.0	33.3	15.2	－	－	9.1	－
	女性:40歳代	73	52.1	15.1	61.6	16.4	12.3	17.8	6.8	5.5	23.3	20.5	2.7	5.5	1.4	－
	女性:50歳代	81	46.9	9.9	51.9	24.7	18.5	30.9	7.4	3.7	25.9	23.5	3.7	2.5	3.7	2.5
	女性:60歳代	157	47.8	9.6	58.6	20.4	16.6	21.7	8.9	5.7	26.1	26.1	3.2	－	3.2	2.5
	女性:70歳以上	279	35.1	9.3	47.0	20.4	15.8	20.1	9.7	5.7	27.2	28.3	5.7	0.7	1.8	10.0
	男性:29歳以下	16	62.5	25.0	68.8	12.5	12.5	31.3	25.0	6.3	18.8	25.0	－	－	－	－
	男性:30歳代	24	41.7	16.7	66.7	16.7	29.2	8.3	16.7	－	12.5	25.0	－	12.5	－	－
	男性:40歳代	40	30.0	20.0	77.5	15.0	7.5	30.0	20.0	2.5	27.5	22.5	5.0	5.0	－	－
	男性:50歳代	51	39.2	5.9	60.8	9.8	11.8	31.4	19.6	3.9	19.6	17.6	7.8	2.0	3.9	7.8
	男性:60歳代	75	40.0	16.0	52.0	18.7	10.7	37.3	10.7	6.7	36.0	30.7	1.3	－	1.3	1.3
	男性:70歳以上	208	38.5	10.1	56.3	16.3	15.4	29.8	7.7	8.7	28.4	24.5	4.3	－	3.8	4.8
	回答しない・該当しない	21	33.3	－	61.9	4.8	19.0	23.8	4.8	9.5	33.3	28.6	－	4.8	－	4.8
	無回答	62	1.6	－	8.1	－	1.6	－	1.6	－	3.2	1.6	－	－	－	91.9

３．「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること

・「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れることは「男女がともに働き続けられる条件整備の働きかけ」「高齢者・障がい者（児）の介護者への支援制度の充実」「男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する」が上位3位。

問２０　「男女共同参画社会」の実現のために、あなたは、嘉麻市では今後どのようなことに力を入れていったら良いと思いますか。（○印は３つまで）

図表７－６　「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること［全体、性別］（前回調査比較）



「男女共同参画社会」の実現のために今後行政が力をいれることは「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」が 28.2%で最も高くなっている。次いで、「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」が 20.6%、「就学前教育、学校教育や社会教育の場で、男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する」が 20.2%で上位３位となっている。

性別でみると、女性は「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」（女性 23.7%、男性 18.2%）が 5.5 ポイント、「男性が積極的に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」（同 20.2%、12.0%）が 8.2 ポイント男性より高い。男性は「市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」（同 12.6%、22.6%）が 10.0 ポイント、「広報・啓発活動や学習機会を充実する」（同 15.4%、24.1%）が 8.7 ポイント、「行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす」（同 7.9%、14.4%）が 6.5 ポイント女性より高い。

前回調査と比べると、「広報・啓発活動や学習機会を充実する」が男女とも 5.5～7.4 ポイント増え、「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」が男性で 4.6 ポイント増えている。

年齢別でみると、女性の 29 歳以下で「就学前教育、学校教育や社会教育の場で、男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する」が 51.5%と高く、また「男性が積極的に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が 27.3%、男性の 30 歳代でも 20.8%と他の年代に比べて高い。女性の 30 歳代は「子ども・子育て支援事業を充実する」が 51.5%と高く、「セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の取り組みを強化する」は女性の 29 歳以下と男性の 30 歳代以下での割合が高い。男性の 29 歳以下では「広報・啓発活動や学習機会を充実する」（31.3%）や「行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす」（25.0%）などの割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表７－７　「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること［全体、年齢別］

（%）

		標本数	広報・啓発活動や学習機会を充実する	市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす	行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす	就学前教育、学校教育や社会教育の場で、男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する	経営者・事業主を対象に男女均等な取扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底する	経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う	男性が積極的に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	女性の生涯にわたる健康づくりの支援策や母性保護対策を充実する	性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する	配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
全体		1,153	206	181	116	233	159	325	190	52	48	59	38
		100.0	17.9	15.7	10.1	20.2	13.8	28.2	16.5	4.5	4.2	5.1	3.3
年齢別	女性:29歳以下	33	6.1	9.1	6.1	51.5	12.1	30.3	27.3	3.0	6.1	9.1	3.0
	女性:30歳代	33	6.1	15.2	3.0	18.2	6.1	24.2	18.2	－	6.1	3.0	9.1
	女性:40歳代	73	9.6	6.8	6.8	17.8	8.2	23.3	19.2	8.2	4.1	8.2	4.1
	女性:50歳代	81	14.8	18.5	6.2	16.0	19.8	32.1	21.0	6.2	2.5	3.7	2.5
	女性:60歳代	157	15.9	10.8	8.9	19.1	14.6	32.5	22.3	6.4	6.4	3.2	3.2
	女性:70歳以上	279	19.7	14.0	9.0	20.8	11.1	29.4	19.4	3.2	5.0	5.0	2.5
	男性:29歳以下	16	31.3	18.8	25.0	25.0	12.5	18.8	12.5	－	－	－	12.5
	男性:30歳代	24	20.8	16.7	16.7	25.0	12.5	16.7	20.8	－	－	4.2	－
	男性:40歳代	40	15.0	15.0	7.5	17.5	12.5	30.0	15.0	5.0	－	12.5	5.0
	男性:50歳代	51	23.5	17.6	15.7	23.5	9.8	23.5	9.8	2.0	3.9	－	2.0
	男性:60歳代	75	21.3	25.3	10.7	22.7	21.3	40.0	8.0	6.7	4.0	4.0	6.7
	男性:70歳以上	208	27.9	26.4	16.3	22.1	19.2	29.8	12.5	5.8	3.8	8.2	2.9
	回答しない・該当しない	21	4.8	4.8	9.5	19.0	14.3	28.6	19.0	－	9.5	4.8	4.8
	無回答	62	－	－	1.6	－	4.8	3.2	1.6	1.6	－	－	－

		標本数	セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の取り組みを強化する	各種団体のリーダーとなる女性を養成する	男女共同参画を推進する住民グループの活動を支援する	子ども・子育て支援事業を充実する	高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する	市政を担うトップを先頭に管理職、職員の男女共同参画についての研修を充実する	その他	わからない	特にない	無回答
全体		1,153	80	51	37	181	237	77	11	124	52	120
		100.0	6.9	4.4	3.2	15.7	20.6	6.7	1.0	10.8	4.5	10.4
年齢別	女性:29歳以下	33	15.2	3.0	－	33.3	9.1	6.1	－	15.2	－	－
	女性:30歳代	33	9.1	－	－	51.5	18.2	6.1	－	12.1	3.0	－
	女性:40歳代	73	5.5	6.8	1.4	28.8	13.7	1.4	2.7	20.5	8.2	－
	女性:50歳代	81	9.9	2.5	1.2	13.6	24.7	1.2	2.5	16.0	2.5	4.9
	女性:60歳代	157	8.9	1.9	1.3	15.3	22.3	7.6	－	15.3	5.1	3.2
	女性:70歳以上	279	4.7	4.7	4.3	11.1	30.1	7.2	0.4	10.0	3.9	11.5
	男性:29歳以下	16	12.5	－	6.3	31.3	6.3	6.3	－	18.8	6.3	－
	男性:30歳代	24	16.7	8.3	－	33.3	12.5	8.3	4.2	12.5	8.3	－
	男性:40歳代	40	7.5	5.0	2.5	27.5	15.0	7.5	5.0	12.5	2.5	5.0
	男性:50歳代	51	7.8	2.0	2.0	9.8	13.7	2.0	3.9	11.8	9.8	5.9
	男性:60歳代	75	8.0	9.3	1.3	16.0	25.3	6.7	－	5.3	4.0	4.0
	男性:70歳以上	208	5.8	6.7	8.2	10.6	19.7	11.5	0.5	5.8	3.8	5.8
	回答しない・該当しない	21	9.5	4.8	－	14.3	9.5	14.3	－	9.5	14.3	4.8
	無回答	62	－	－	－	－	－	－	－	－	1.6	93.5

Ⅲ　調査結果のまとめと今後の課題

Ⅲ　調査結果のまとめと今後の課題

嘉麻市では、令和４年に令和８年度までを計画期間とする「第３次嘉麻市男女共同参画社会基本計画」および「第２次嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」を策定し、男女共同参画に関する施策の推進にあたっている。

本調査は、次期計画の策定に向け、これまでの嘉麻市の取組みの成果を検証し、また、今後の男女共同参画を推進するうえでの課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

１．男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方について

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識に『同感しない』人は、女性では約７割、男性も６割台半ばに上っている。また、男女とも『同感しない』が約５ポイント増加しており、性別役割分担を容認しない傾向がより強まっている。年齢別では、女性の 40 歳代、男性の 50 歳代、男女の 70 歳以上で『同感しない』がやや低いが、それでも５割台半ばから６割台半ばが『同感しない』と回答しておりすべての年代で『同感しない』が多数派となっている。

社会の様々な分野における平等感については、唯一「学校教育の場」で「平等である」が約５割と最も高くなっているが、それ以外の分野については『男性優遇』と考える人の割合が最も高く、特に「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では６割台半ばから７割と高くなっている。また、多くの分野で女性の方が男性より『男性優遇』の割合が高いか、「平等である」の割合が低いなど、女性の方が不平等感は強い。また、前回調査と比べると、『男性優遇』が減少した分野もあるが、その分「平等である」が増加するというわけではなく、特に女性では前回調査から大きな変化がみられない傾向がある。ただし、これについては、ジェンダー平等は実現されるべきものとの認識が強まっているために、現状に対する見方がより厳しくなっている可能性もある。

以上のことから、嘉麻市において性別役割分担意識はかなりの程度解消されつつあるものの、様々な分野における不平等感は根強く残っていることがうかがえる。特に、多くの分野について女性は男性よりも『男性優遇』であると感じており、前回調査と比較しても社会における不平等が改善しているとは認識されていないようである。その一方で、29 歳以下の女性や 30 歳代以下の男性では「家庭生活」が「平等である」との認識が４割から５割台に上るなど、分野や世代によっては平等感が増している様子もうかがえる。市民が社会のあらゆる分野で平等であると感じることができるよう、市民だけではなく地域や事業所等に向けての啓発や情報提供を行っていく必要がある。また、性別や年齢による意識差を解消していくために、対象に合わせた啓発の内容や方法を工夫することが望まれる。

２．家庭生活や子育てについて

家庭内での役割分担の状況をみると、『主に妻』は「炊事・掃除・洗濯などの家事」で約８割と高く、「家計の管理」「病人・高齢者の世話（介護）」「育児、子どものしつけ」なども妻が担っていることが示された。共働きの場合には家事や育児について「妻と夫が同程度」がやや高くなるが、それでも妻が担っている場合が多くみられる。一方、「生活費を得る」は『主に夫』が５割を超えてお

り、稼得役割は男性が担っている場合が多い。意識の面では「男は仕事、女は家庭」に同感しない人が大半であったが、実際の生活においては性別役割分担が行われていることがわかる。「高額な商品や土地・家屋の購入」や「家庭の問題における最終的決定」といった家庭内の重要事項についての決定も、「妻と夫が同程度」が３割台半ばから約４割に上る一方で、『主に夫』の割合も高く、夫が決定権を握っている様子もうかがえる。

子どもの育て方については、「性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる」は男女とも約８割が積極的な「賛成」と回答しているが、「性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」については女性が約８割であるのに対し男性は約７割と、男性でやや消極的な傾向がみられる。しかし、前回調査に比べると男性の「賛成」が増加しているほか、男性の 50 歳代以下では「賛成」が７割台半ばから約９割に上るなど、男性の意識の変化がうかがえる。「３歳までは母親の手で育てる」といういわゆる「３歳児神話」についても、全体では『賛成派』が５割台半ばと高いが、30 歳代以下では男女とも『反対派』が約４割から５割台で『賛成派』を上回っている。また、全体でも前回調査より『賛成派』が減少し、『反対派』が増加しており、子どもの育て方についての意識も変化しつつあるといえる。

以上のことから、やはり意識面ではジェンダー平等に向けた変化がみられるものの、家庭内では依然として性別で役割が固定されている傾向があり、また、前回調査から大きな変化がみられない項目も多く、意識の変化に実態が追いついていない様子がうかがえる。共働き世帯が増加するなか、家庭内での分担が進まなければ、共働きの女性がより多くの負担を抱えることになる。男性の家庭参画や生活自立を促進するために、市民への啓発や学校教育での取り組みを進めるとともに、両立支援策の充実が望まれる。

３．就労・働き方について

女性が職業を持つことに対する考え方では、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が６割を超え、特に女性では６割台半ばと高く、前回調査からも 10 ポイント以上増加している。また、男性も女性ほどではないものの就労継続が増加しており、男女とも女性が働き続けることが望ましいとする傾向が強まっている。

女性で「職業を持っている」人は約５割で、30 歳代から 50 歳代では８割台となっており、子育て期にある年代の人でも大半の人が職業を持っている。雇用形態をみると、女性は『非正規雇用者』の割合が約５割と高いが、正規雇用者も約４割に上る。

育児休業制度および介護休業制度の利用意向については、いずれの制度についても女性の約６割、男性の５割台半ばが「利用したい」と回答しており、前回調査と比べて男女とも「利用したい」が 10 ポイント以上増加するなど、利用意向が高まっている。

育児休業制度および介護休業制度を利用できそうにない、しないと回答した人の理由は、「職場に休める雰囲気がないから」「経済的に生活が成り立たなくなるから」が約５割と高くなっている。また、男性では「職場に休める雰囲気がないから」「経済的に生活が成り立たなくなるから」「自分の仕事は代わりの人がいないから」「職場にそのような制度があるのかわからないから」などが女性より高くなっている。近年、全国的には男性の育児休業取得率が高まっており、法律もかなりの程度整備されてきている。性別に関わらず制度を活用できるよう、市内事業所等へ働きかけるとともに、国の両立支援等助成金などの情報を積極的に提供するなど、事業所への支援を行うことが必要である。

自営業では、「自分名義の預貯金を持っている」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」「自分名義の不動産を持っている」などが男性より女性で低く、家族従業者に限るとさらに低くなる。また、前回調査に比べ、男女とも「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」「定期的に休日を取ることができる」「職業上の研修には自由に参加できる」などが減少しており、自営業者の厳しい状況もうかがえる結果となっている。行政としてどのような支援が可能か検討する必要がある。

ワーク・ライフ・バランスについて、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は理想では 26.3%だが、実際の生活では 4.1%にとどまり、「仕事を優先」の理想は 2.1%に対し実際は 21.9%と、理想と実際に乖離がみられる。ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要な条件整備としては、「代替要員の確保など育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が第１位で、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」「給与などの男女間格差をなくすこと」が続いている。性別でみると、男性は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」「職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること」などが女性より高く、職場の環境整備や意識改革が求められていることがうかがえる。一方、女性は「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が男性に比べて高くなっている。現状として家庭での家事や育児が女性の負担になっていることは上述したとおりであり、それが女性にとってワーク・ライフ・バランスを阻害する要因と認識されているようである。ジェンダー平等の視点からはもちろん、ワーク・ライフ・バランスを実現するためにも、男性の家庭参画を可能にするような取り組みが求められる。

４．地域活動について

地域の役職に推薦された場合（男性は、妻など身近な女性が推薦された場合）、女性の「引き受ける」の割合はいずれの役職でも男性より低く、女性の方が消極的な傾向がみられる。また、前回調査に比べ、男女とも「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が減少している。女性で最も「引き受ける」の割合が低いのは「行政区長」で 14.1%だが、「行政区の役員」は 24.6%となっており、「役員」であれば引き受けてもよいと考える人もいることがわかる。断る理由としても、「ＰＴＡ会長、子ども会会長」「行政区長」という「長」がつく役職では「責任が重いから」が第１位となっている。

住んでいる地域での活動における男女の差については、「わからない」が 36.5%で最も高いが、「特に男女で差はない」「地域の活動には女性の方が積極的である」など、女性が参画しにくい状況がないとの回答も多くみられる。

また、地域活動での役割分担についても、「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域の役員はほとんど男性になっている」「地域の集会では男性が上座に座る」「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」などは「そうしている」が減少しており、地域活動での役割分担の見直しが進みつつあることがうかがえる。

地域の長に女性が就いていない理由としては、「男性中心に組織が運営されているから」「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が上位となっている。上述したように、責任ある立場に就くことに消極的な女性も多いことから、まずは「長」以外の役職から経験を積んでもらうことも必要だろう。また、組織運営のありかたや活動内容の見直しを進め、「長」をはじめとする役職にか

かる負担を軽減するよう取り組むことは、性別に関わらず地域へ参画しやすい環境づくりにもつながると思われる。

災害へ備えるために地域で必要なことでは、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる」が約６割で最も高く、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」「避難所の運営に女性も参画できるようにする」なども高くなっている。前回調査と比べると、前回２位であった「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる」が第１位になり、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」の割合が増加するなど、災害が起きた場合を想定したより具体的な対応が求められていることがうかがえる。もちろんそのためには女性が意思決定過程に参画することや、平時よりジェンダー平等の視点をもって行動することが重要である。

５．暴力などの人権侵害について

ここ３年ぐらいでの職場でのセクシュアル・ハラスメントについては、女性の 18.3%、男性の 16.0%が被害経験ありと回答している。被害内容としては、「容姿や年齢について話題にする」「「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う」「交際関係や結婚・出産などプライベートなことを執拗に聞く」「宴会などでお酌やデュエットを要求する」「性的な話や冗談を聞かせる」などが約６～９％となっている。ハラスメントについては近年法整備が進み、事業主は様々なハラスメントについて対策を取ることが義務づけられている。職場でのハラスメント防止の取り組みをより一層強化するよう、市内事業所や労働者に対して啓発や情報提供を行うことが必要である。また、職場よりは少ないものの地域活動の場や学校に関わる場でも被害経験があると回答している人がみられるため、市民に対しても情報や研修機会を提供することが望まれる。

配偶者や交際相手からの暴力（以下、ＤＶとする）について、ここ３年ぐらいに何らかのＤＶを受けたことがある人は、女性が 24.3%、男性が 17.5%となっており、前回調査と比べ男性の被害が増加している。ＤＶの内容としては、「大声でどなられた」「何を言っても無視され続けた」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」など精神的暴力の被害経験が高いが、「足でけられたり、素手でたたかれたりなぐられたりした」「物を投げつけられた」といった身体的暴力の経験もみられる。また、ほとんどの暴力について女性の経験率が男性より高くなっている。

ＤＶを受けた人のうち、女性の約４割、男性の５割台半ばは誰にも相談しておらず、相談した場合でも多くは家族や友人･知人などに相談しており、専門機関への相談はわずかであった。また、前回調査と比べると、相談しなかった割合は女性では約５ポイント減少しているが、大きな変化はみられない。相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」などが高く、ＤＶを受けた人が被害を軽視したり、あきらめてしまっていたりする様子がうかがえる。

暴力の相談窓口の認知は、「行政の相談窓口」が約３割、「かま女性ホットライン」が約２割（女性では約３割）、「配偶者暴力相談支援センター」「弁護士会・法テラスなどの相談窓口」が約２割となっている。「知らない」という回答も３割台半ばとなっており、相談窓口について市民に周知することが必要である。

以上のように、嘉麻市内においても依然としてＤＶ被害が発生しており、被害を受けても誰にも相談しない人も多い。また、身近で暴力を見聞きした際にどう対処したかたずねた質問では、「加害者に暴力をやめるように話した」が約３割で前回調査から大幅に増加していた。それぞれの状況や暴力の程度によるものの、加害者に直接注意をすることは被害者を危険にさらす可能性もあり、注意が必要である。ＤＶ被害を受けた場合に本人や周囲の人が早期に気づき、適切な対応ができるよう、ＤＶについての基礎知識や被害者の心理、相談窓口の情報等について、広く市民に情報提供することが重要である。

６．悩みや困りごとについて

現在の悩みや困りごととしては、「健康、病気、障がいなど」が２割台半ば、「介護（将来、自分が介護されることについて）」「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」「家計、借金、相続など」「介護（自分または家族が介護をすることについて）」が約１割台半ばなどとなっており、約半数の人がなんらかの悩みや困りごとを抱えている。年齢別では、女性の 30 歳代で「なし」が１割台半ばと他の年代より低く、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」「健康、病気、障がいなど」「家計、借金、相続など」「育児、子育て、教育など」「恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など」が高いなど、この年代の女性が多様な悩みを抱えていることがわかる。悩みや困りごとを相談機関や公的機関に相談したかについては、相談した人は約２割と少なくなっている。

令和６年に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は、女性が抱える困難が、生活困窮や性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻など複雑化・多様化していることを受け、行政は民間団体等と連携しながら支援を行うことを求めている。困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するためにどのような環境や支援があるといいと思うかについては、「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」「利用できる支援制度の情報提供」が特に高くなっていた。相談窓口の情報の入手方法は「行政の広報誌」「インターネット検索」が上位となっているが、「行政の広報誌」「新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア」は年齢の高い層で、「インターネット検索」「SNS（X、LINE、YouTube など）」は年齢の低い層で高いなど、年代によって情報入手の方法が大きく異なっていることが明らかになった。そのため、必要な情報が市民に届くよう、提供する情報の内容や情報を届けたいターゲットによって媒体や提供方法を工夫することが必要だろう。

７．男女共同参画社会の実現について

男女共同参画に関する法や制度、用語の認知度は、「男女雇用機会均等法」「ＤＶ防止法」が約７割、「ジェンダー」「男女共同参画社会基本法」が約５割などで、特に高くなっている。前回調査と比べ、「ジェンダー」「ＬＧＢＴＱ」は認知度が上がっているが、「福岡県性暴力根絶条例」「女子差別撤廃条約」「女性活躍推進法」「ＤＶ防止法」など、法律の認知は低下している。また、「嘉麻市男女共同参画推進条例」「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」は、２割から３割台半ばの認知度となっており、前回調査からやや低下している。嘉麻市の男女共同参画を推進するためには市民の理解と協力が不可欠であり、嘉麻市の取り組みについてより広く市民に周知することが必要である。

男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは、「夫婦の間で家事な

どの分担をするように十分に話し合うこと」が約５割、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が約４割と高くなっている。「企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること」「男性が家事や育児、介護などの技能を高めること」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」も２割台半ばと比較的高い。

男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れることとしては、「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」「就学前教育、学校教育や社会教育の場で、男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する」などが上位にあがっている。性別でみると、女性は「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」「男性が積極的に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が男性に比べて高く、女性が両立支援や男性の家庭参画を求めていることがわかる。

嘉麻市においては、意識の面での男女共同参画は進みつつあり、また、30～50 歳代の女性の多くが働いている。また、地域においてもこれまでの役割分担が見直されていることもうかがえる。一方で、家庭内での性別役割分担や社会の様々な場面での不平等感はさほど解消されていないなどの課題も示された。今後は、事業所等の協力も得ながら、性別に関わらず仕事と家庭生活や地域活動等を両立できる環境づくりを図るとともに、男性の家事や育児、介護への参画や、女性の意思決定過程への参画を促進する取り組みを、学校教育や地域、職場等、様々な場面で進めていくことが重要である。

Ⅳ　参考資料

◎ 自由記述の抜粋

性別	年齢	男女共同参画社会実現に向けての取組、日ごろ感じていること
女性	20 歳未満	男女共同参画社会の実現に向けた取り組みは大変すばらしいことと思っている。私は女性であるが、世の中は権利を主張すれば義務も伴う。女性として権利を認められうれしくもあるが、男性と同じ仕事を常にできるかと言われればできないこともある。（主に力仕事）一番いいのは男だから女だからとか年齢に関係なくお互いがお互いのことを考え、思い合える行動ができることが大事なのかと思う。
女性	20 歳代	女性の仕事とワーク・ライフ・バランスが十分に整っていないことがキャリアアップや社会全体の意識改革が進んでいない原因と感じる。また、多様なジェンダーのあり方がある中で、性を二分割するのではなく、決まりにとらわれない生き方を表現する社会になってほしいと思う。
女性	20 歳代	社会においては男女が対等な存在であることが望ましいと思うが、女性にしか出産ができない現状をかんがえると、ある程度の男女の差が必要であると考える。そのうえで女性が社会復帰できるように育児支援などがあるが、何でもかんでも支援したらいいというものではないと思う。キャリアアップがしにくいと思うのであれば、出産・育児はあきらめる、タイミングを考える。近年では男女の差別は減ってきていると思うし、自分の仕事柄女性も多く、管理職に女性が多いため、すぐに男女差別だという考え方を捨てるべきだと思う。騒ぎ過ぎ。
女性	20 歳代	生活保護不正受給している人たくさんいます。きちんと働いている人が損をする生活はしたくないので、きちんと対策してください。
女性	30 歳代	みんなが協力しあって困っている人を見落とさずにみんなでより良い街にすることが結果的に男女共同参画社会の実現につながると思います。いつもありがとうございます。
女性	40 歳代	男性が育児、家事に積極的に参加していることを実際に行っている人に講演してもらったりすることで、世の男性の理解を深めてもらう機会を作るのも大事だと思う。男性に来てもらえる講演会にする。現在の職場でも出産後の女性のフォローを一生懸命する男性の話をよく耳にする。本当に感心させられる。ぜひ、いろいろな方にこの人たちの話を聞かせてあげたいと思った。きっとこのような親に育てられた子どもはしっかり育児や家事をしてくれる大人になるのだろうと思う。
女性	40 歳代	役場（本庁）の案内係は女性が多い。女性しかいない。なぜか。子育て支援課などは男性職員が対応する姿はあるが、市民課はほぼ女性職員の対応しか目にしたことがない。なぜか。市の採用の年齢枠や求める職種の見直しや資格を持たない人が働ける求人を増やす。退職した方はシルバー人材などしか働き口がない。男性は草刈りなどはできるが、女性は出来ない。高齢女性ができる仕事を増やす。しかし、税金や生命保険、家賃、通院などで収入が少ない人のための支援がない。子育て世代は支援があり助かる。
女性	40 歳代	そもそも男性が、女性がと区別し過ぎである。変えるべきは女性よりも男性の意識である。男女が共によりよく生活できるためにはどうしたらいいか、という視点で考えるべきである。女性の社会進出は必要であるが、男性の家庭への参加はもっと必要である。基本の労働時間

		を４～６時間、残業を含めても８時間以内となるような労働環境と十分な収入、また妊娠後は子どもが就学するまで男女ともに育休となり働かずとも暮らしていけるくらいの支援など社会の仕組みも含めて大きく変えなければ意識も変わらない。末端からではなく、根本から大きく変えるべきである。そうすれば自然と変わる。
女性	40 歳代	男だからとか女だからとか区別するのではなく、「適材適所」やれる人がやるという流れを作るべき。女だから前に出ちゃいけないとか男だから外で稼いでくるべきとか。やりたいように、なりたいようになればいい。皆たった一度きりの人生であるのだから。周りがとやかく言う必要は無い。
女性	40 歳代	何でもかんでも共同ではないと思う。何をするかによって、男性、女性どちらを優先させるかは異なってくるはず。何をするにも「できる人がやる。やりたい人がやる」というスローガンで推進していけば良いと思う。「ジェンダー平等を」と意識して言っていると言うことは、差別している人がいるということですよね。私の周りではそのような雰囲気や人はほぼ無いです。差別しているのは高齢世代に多いのでしょうか。バブル時代は男性が主導権を握って経済を回してきました。そのような時代背景があるので、「女性の活躍の場を～」とその世代間で言うようになったのではないでしょうか。私は 40 代ですが、これまで 20 代から働いてきた職場では、普通に女性管理者はいましたし、女性だから、と差別を受けている人はいなかったです。職場では、女性も積極的に意見を言っています。
女性	50 歳代	男女共同参画というが私は参画したくない。とにかく専業主婦にあこがれる。静かに暮らしたい。
女性	50 歳代	育児や家事をしながら働いたことの無い男性が役員や役職、議員や長になっている世の中なので、いつまでたっても変わらない。このような世の中なので、1 円でも安いスーパーを探し、必死で買い物をするお母さんたちを理解することができない。
女性	50 歳代	ひとり親生活において、条件により補助してもらえるものが違う。男女においても母子、父子家庭の差もあることが気になる。
女性	50 歳代	取り組み自体は素晴らしいことだと思う。男女問わずできる人ができることをすればよい。やる気のある人がやりたいことをすればよい。何をどうするべきか答えを皆が選択できればいいのであるが、考え方や価値観が違うのでとても難しいことだと思う。
女性	50 歳代	これに関する全ての予算を正確に知りたい。
女性	50 歳代	一部の極端な意見が市の政策に反映されないことを望みます。
女性	60 歳代	男女がお互い尊重し合い、共同参画や責務を分かち合うことができる社会と理解している。しかし、現実ではやはり上層部は男性がほとんど。昔から名誉肩書にこだわっている人、女性も自分の考えを発信する人もいるが、少数だと思う。女性も意識を変えていく必要があると思う。男女ともに意識を変えていくための行動とは何かを考えさせられました。
女性	60 歳代	大事なことだと思うが、実際にはどのようなことが行われているのか全くわからない。もう少し具体的な発信が欲しい。

女性	60 歳代	私の家の周りは高齢者が多く、集会をしてもなかなか参加者が少ない。昔は子供会、老人会もあり、スポーツ大会をしたりみんなで活動をしていたが、30 年過ぎた今は、団地入居者も少なく、空き部屋がたくさんあり難しい課題である。
女性	60 歳代	男女平等であると思うが、昔からの地域性のことや年齢も関係すると思う。なかなか難しい問題だと思う。自分自身そうあってほしいと思うが、今までの過去のおこないからも時間が必要だし、人の考えも変えていかなければならないことはとても大変だと思う。
女性	60 歳代	職員のフレックスタイムを充実させ、住民サービスの拡大をしてほしい。
女性	60 歳代	男女共同参画をどう行っているのか全く分からないが、特に感じることは、市議会議員の数が多いわりに、何をしているのか、まったく知らない。選挙の時だけ顔を見せて、お願いするだけ。後は何もしてくれず、困っていることなどを聞いて回ることぐらいしてほしい。議員の定数を減らしてほしい、税金の無駄遣いである。
女性	60 歳代	女性の視点でのいい意見を取り入れ、女性が積極的に地域の活動などに参画できる機会を増やせるように広報、PR、アンケートなど市政が意識して動かれたらいかがでしょうか。
女性	60 歳代	男女共同参画というのはよく耳にするが、正直どういうことなのか知らなかった。改めて自分の意識のなさに申し訳ないと思った。
女性	60 歳代	男女共同参画社会、一律にこうあるべきと決めつけるのは難しく、一人ひとり考え方や感じ方が違うと思う。男性、女性ともに自分の考えや思いを口に出すことができ、意見交換できる場が家庭や地域であればいいと思う。できることはやる、できなければできる人に頼る。
女性	60 歳代	年代的にも受けてきたものが違うし、身体的にもそれぞれ違う。なかなか難しいことだと思う。理想的には人として皆がそれぞれ認め合う社会になればいいと思う。
女性	60 歳代	男女共同参画社会難しいです。若い方は徐々に変わってきているかと思うが、人口減少、高齢化まっしぐらのこの地域では地域活動でも参加できる人が少ない状態で、どうしても女性に負担がかかっている。良い社会になるようお願いしたい。
女性	60 歳代	差別のないよりよい未来、子どもたちが笑顔で安心して過ごせる世の中、地域一帯で安心できる住みよい世の中。男女とテーマを付けていることから差別では。この世の中は男女しかいない。共同参画でいいのでは。
女性	60 歳代	一人ひとりの個性や人権が尊重される社会になって、差別のない世の中になったらいいと思う。
女性	70 歳以上	現実の生活面で行政区の役員などになれば、すべて男性社会の見解である。行政区の役員組織で嘉麻市で女性で成り立っているところはないと思う。どの行政区も男性ではないでしょうか。やはり変わり切れないところだと思う。
女性	70 歳以上	このアンケートの記入にあたり、いかに男女共同参画社会に疎いことがわかった。感覚的にわかっていただけだと再認識した。学校、職場、地域での学習会を開いて知識を得られたら良いと思った。

女性	70 歳以上	現在パート勤務をしている。１年前に家族が病気で仕事ができなくなり現在は私の年金収入と生活保護の援助をしてもらっている。収入のある時は毎月届けをしているが、年金と収入だけでは生活が苦しく、時折夜中に家の戸を大きな音をたてている状態である。先月、相談に町内の「かま女性ホットライン」に相談に行ったが、今も時々戸を叩き物音の大きさで不眠状態が続き、仕事のない日には家を空けている状態である。
女性	70 歳以上	この回答で市民に良くなったこと、解決できたことが知らされるのでしょうか。
女性	70 歳以上	男女共同参画に関係ある会議等に会員だけでなく、ほかの方たちにも参加してもらうように回覧板で呼びかけて参加できる方法を考えたらと思う。
女性	70 歳以上	毎回同じようなアンケート内容ですが、前回と比べて何か改善したり、改革したことがあったのでしょうか。年齢によっても随分違うと思うが、現在の若い人には男女共同参画意識がかなり芽生えてきたのではないでしょうか。
女性	70 歳以上	行政に行っても何もしてくれないし、見に来てもくれない。本人は逃げて留守、行くと言って来ない。
女性	70 歳以上	男女共同参画の取り組みは十分賛成である。暴力は絶対に許せない。マインドコントロールされているので、本人自身が分かっていないと思う。罪である。健康的な生活を過ごしてもらいたい。
女性	70 歳以上	暴力などの人権侵害については、特に深刻な問題で悩んでいる家庭はあると思う。言葉の暴力におびえ、同じことが繰り返されることを恐れ、言い返すことができない。また、他の人に相談したことがわかるとそれ以上に嫌な思いをすることになるかもしれないと思い、相談できないなど。そういう家庭があることを知ってもらいたい。
女性	70 歳以上	女性、母親の願いとして、もっと児童相談所、里親に福岡県としてもっと力を入れてほしい。嘉麻市にこども村は無理でしょうか。いい人材の方が何人もおられます。県外にいってもったいない。 私自身ＤＶで市役所をたずね、男女共同参画の方を紹介してもらい話を聞いてもらったが、何もアドバイス的なものは無く、話を聞いてもらうだけであった。2 か月後警察沙汰になり別居中である。足を運ぶ人は必死で行くので、その時ももっといろいろなアドバイスがほしいと思った。もっとＰＲ、窓口を広くして気軽に相談できるようお願いします。私も自分の経験からいろいろな方の相談に乗っている。
女性	70 歳以上	高齢の私にワーク・ライフ・バランスを聞かれてもわからない。年齢を考えて郵送してほしい。
女性	70 歳以上	高齢者が住みやすい嘉麻市にしてほしい。
女性	70 歳以上	主婦はなるべく家にいて添加物のないものを我が家で作り、子どもたちに食べさせてもらいたいと思う。
女性	70 歳以上	住宅の件について。犬、猫を飼ってはいけない住宅であるが、猫も大変多いようである。もっと決まりをしっかり話をしてほしい。周りの者もフンの始末で困っている。規約は守ってほしい。役所の方も大変だと思うが、住民の話ももっと聞いてほしい。

女性	70 歳以上	嘉麻市はまだまだ女性が社会的役割、リーダーとして活躍できていない現状が残念である。将来に期待している。家庭生活では積極的に男性が参加する時代が来ている。女性も働くのが一般的になってきているから、ともに協力し合って生活しているように思われる。時間はかかるが、きっと男女が平等に役割を担っていく時が来ると思う。出産は女性の役割なので、そこの負担軽減が社会で援助し、来ることを期待している。
女性	70 歳以上	この地域は昔から古い考え方をもった方がいるかもしれない。しかし、この頃の父親は男女に関する考え方が少しずつ変わってきていると思う。それより男性が女性をお金で買うとか遊ぶとかの方を教育した方がいいと思う。田舎だとそれが強い気がする。家庭生活の幸せとは何かをしっかり教育しないと根は絶たれないのではないかと思う。
女性	70 歳以上	高齢社会となり、税金など支払いが高くなっている。年金のみの生活は無理がある。自分も生活が苦しく生活保護をもらいたいと思う。
女性	70 歳以上	昔は家事、子育ては女の仕事とされ専業主婦が多かったが、共働きの家庭が増え、女の人は両立が大変だと思う。しかし、今は見聞きする限り、男の人も家事、子育てに頑張っている。男女（夫婦）お互い感謝、尊重し合うことが大切だと感じる。
女性	70 歳以上	高齢になると遠方まで行くことが難しくなるため、近場で他愛ない話ができる場所があちこちにあったらいいなと思う。
女性	70 歳以上	この様なアンケートで市政の参考にすることはいいと思いますが、市民生活のこともアンケートを実施してもらいたい。例えば山田にはタクシー会社がなくなり、交通手段が困難になっていること、物価が高くなり生活が困窮していることなど市民生活の実態の調査もしてほしいと思う。
女性	70 歳以上	良い事ばかり書いてあるが、現在 75 歳になる人に、子育て、ジェンダーなどと言ってもわからない。子育ては早く終わり、老人の介護のこと、年金のことだとわかるが。
女性	70 歳以上	思っていたのとは違い、とても難しい問題だと思った。
女性	70 歳以上	長年山田に住んでいるが、人口は減り、若い人たちは仕事もなく、また商店もシャッター街となりますます不便になっている。どうにかならないものだろうか。これ以上悪くならないようにお願いします。
女性	70 歳以上	今まで男女共同参画を聞いていても具体的な活動は知らない。過去、夫からの暴力があったが、相談窓口もなく、市役所（飯塚市）にいっても具体的な指示はなく、大変な思いで離れることができた。もう少し窓口が広げられるとわかりやすい。具体的な案などを提示してくれる人が必要と思う。今でも悲しい記憶である。
女性	70 歳以上	私の人生を振り返ったときに、この問題が現在取り上げられているが、若いころから夫の酒乱に悩まされて生活をしてきた。男女共同参画があの昔に実現されていたならば、と常に思う。私は 85 歳になり、世の中のためになるようなこともできないが、意識をもってこれから協力していきたい。
女性	70 歳以上	もう少し若い人にアンケートをお願いしたい。
女性	70 歳以上	老人ホームや施設では市報すら目にすることがない。

女性	70 歳以上	要望はあるが、さてどれから希望を書けばいいかそれも悩みである。
女性	70 歳以上	男女の区別なく教育を受けられる現在は、男女でなく個々の性格や得意、不得意、興味有り無しなどで向き、不向きがあると感じる。なので、人間として個々で社会活動に関われば良い。その結果、男性が多かったり、女性が多かったりの組織があっても問題は無いのではないかと思う。男女の関係なく能力の違いも存在する。
女性	70 歳以上	最近地域との関わりが希薄になっているように思われる。
女性	70 歳以上	男女共同参画社会は聞いたことがあるが、内容はよくわからない。少しでも知りたいのでこれから考えます。
女性	70 歳以上	住みよい山田になったらと思う。
女性	70 歳以上	会話の中で、女性が「うちの主人が」また「主人が入浴した後に入浴する、遅くなっても先には入らない」などの言葉を聞くと、女性の意識の中に男性優位、上位との根強い意識があると感じることがある。
女性	70 歳以上	男女共同参画、わかったような気もするが、わからない。70 歳ともなると全体に読むのが大変。途中でやめようと思った。
女性	70 歳以上	歳を重ねると社会との関りが少なくなる。近所づきあいも昔に比べると活発ではないため、災害時などのサポートが難しいと思う。日ごろから行政と市民のつながりが具体的にあると、相談しやすいのではないか。国勢調査の時期と意識調査の時期をずらすべきである。
女性	70 歳以上	職場の賃金格差の問題が一番大きいと感じる。特に民間企業に大きく感じる。女性の市議も一人しかいないので政治への進出ももっとあっていいのではと思う。男女共同参画社会の実現に向けての取り組み賛成である。
女性	70 歳以上	社会は遠い。家の中で習い事をするくらい。何も社会で困ることはない。
女性	70 歳以上	性別による差別的な扱いを受けることなく、男女がお互いに尊重し合い、あらゆる分野で（職場、学校、家庭）性別に関わらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合う社会。また、課題として固定的性別役割分担、政策、方針決定過程への女性の参画不足、就労における課題。女性に対する暴力、地域における格差など。
男性	20 歳代	嘉麻市でどのような政策を行っているのかを知らない面が多いので、知る機会があれば触れてみたい。
男性	20 歳代	収入源が１つしかない家庭でも、男性が育休を取れるような制度(育児休業給付金等)があれば、男女共に同じ価値観を持った生活が実現できると思う。物価高高騰は続くが手取りは増えない現状では、生活で精一杯です。
男性	30 歳代	男女共同参画社会がどのようなことで、今より何が良くなるのかがわからない。何かを変える場合良い点だけでなく、悪い点も出てくるため、誰にとって良い点・悪い点なのか整理して議論してほしい。嘉麻市がこの件でどのような取り組みをされているのかはわかりません。個人が地域や会社や家庭の中でできることを障害が少なくできることが望ましいと思います。その障害が性別という分け方が要因であれば解消することが望ましいですが、本質的な要因はそれではないことが多いのではないでしょうか。

男性	30 歳代	男女共同参画には個人的には反対です。もしくは男女共同参画費の予算をもう少し抑えるなどしてほしいです。移民などに忖度した政策にも見えるのでも少し他のところに予算を回して欲しいと思います、子育て支援など。
男性	40 歳代	男女共同参画を含め人間関係の中で差別的な考えや行動が生まれる根本的原因は、他者に対する最低限条件の敬意の欠落、未成熟だと思っている。他者を本当の意味で尊重できる人格をもった人間を育てていくことが一番確実な男女共同参画への道だと思う。
男性	40 歳代	女性が先頭に立って意見を通せるような明るい地域を目指してほしい。初の女性総理を応援している。
男性	40 歳代	男女共同参画とか税金の無駄遣い、10 兆円も我々の血税を使って生産性も何も無いからこども家庭庁と一緒で今すぐにでも無くすべき。
男性	50 歳代	女性が冷遇されているという前提で偏見に基づいた対策や調査が行わること自体が男女共同参画社会の実現の阻害要因の一つになっているのではないか。
男性	50 歳代	北欧諸国から学ぶべき。特にアイスランド。一喜一憂することなく、成功と失敗、失敗と成功の繰り越しが大切。プロセスが大事。アイスランドの男女共同参画社会の歴史に学べばヒントが見つかる。
男性	50 歳代	親と一緒に住んでいる。この先一人になると思うと不安である。生活もお金がいるし、動けなくなると皆自分のことでいっぱいで。今は一人で動けるが、自分一人でどうなるのか。
男性	50 歳代	近年は、田舎でも男女参画が増えていると感じています。特に私たち 50 歳代くらいからは散見されているのでは。地域活動では、特に声かけなどが必要では。また、「女性も遠慮せず」がより実現すればと思います。
男性	50 歳代	「男女平等」「ＬＧＢＴＱ」等々の言葉だけが先走りしている。本アンケートも「平等」を謳いながら、実際は「女性が不利な世の中なので有利にして」の意図が透けて見える。”女性〇〇を多くすべき”の設問が多いが、社会参加は能力によってのみ行なわれるべきであり、例えば女性議員・女性首長を性別のみで推進した場合、それは適切ではない。また、行き過ぎた「ＬＧＢＴＱ」推進は社会の混乱を招くと危惧している。それこそ、トランスジェンダー議員・首長が現れた場合は、男女参画事業は無意味となるのではないか。よって、「ＬＧＢ」は別として「Ｔ」（トランスジェンダー）については、男女共同参画社会の趣旨とはそぐわないと思っている。
男性	60 歳代	問 26 に男性が育児、介護に積極的に関わっていないかのような質問となっているが、男性差別である。
男性	60 歳代	ジェンダーフリーの一人ひとりの人格が大切にされるまちづくりを進めていくためには、そのリーダーシップを行政が適切に行っていく必要がある。市の公開講座やセミナーなどを催す際は、多くの人が参加してみようかなと気軽に思えるような仕掛けが大切だと思う。これからも嘉麻市が発展していくよう心から願っているし、協力もしていきたい。
男性	60 歳代	時代の変化、特に若い人の考え方が理解できない。私も古い人間、考え方をなかなか変えられない。

男性	60 歳代	嘉麻市のような田舎では、まだまだ「男のくせに」「女のくせに」ということを言う頑固な年配者が多いと思う。そのような人がいる限り何を言っても無駄である。政治家も同様、65～70 歳くらいで引退してほしい。
男性	60 歳代	人口減少、高齢化が進んでいる中で男女問わず、地域を守ることは重要である。しかし、それを前に進めるためにもまず、就業、収入の安定による家庭の安定が必要と思う。市民が男女共同参画社会実現に向けて取り組めるように社会基盤を安定させ、生き生きした社会をあわせてつくっていってもらいたい。
男性	70 歳以上	若い夫婦の間では「家事も育児も共同で行うもの」との意識は浸透しているように思う。しかし地域の行事の「長」はまだまだ女性の数は少ない。高齢者の今までの生き方、考え方がなかなか変わらないように思うので、もっともっと意識改革ができるように推進していってほしい。なんでも平等が当たり前の時代に近づいているが、やはり男性は男性の良さが、女性には女性の良さがあることも理解し、協力できることが望ましいと思う。
男性	70 歳以上	トップに立つ市長や議員の生活実態がこの男女共同参画社会の実現の模範となっているか。広報誌に部落差別など人権について意識されているようであるが、どうもきれいごとにしか思えない。8 月の広報誌に行政区の加入者が少ないとあったが、その理由の一つは宗教の自由がある。先に述べたが各行政区の下部組織の組が氏子会費を強制的に徴収するのはだめだとなぜ伝えないのか。疑問をもつ。市長が真に男女共同参画社会を希望するならすぐにでもそれを通知すべきだ。
男性	70 歳以上	日本の歴史は古く男女の間が淘汰され、大東亜戦争後からテレビなど現在も中国（共産党）指示の下で偏向報道されて、男女共同参画というばかばかしい社会を生み出そうとしていることには反対である。女性を見下すことは古来の日本にはなかったし、戦後から左に動かされて政治家や役人にはこれに気付いている人もいるが、ヨーロッパのようにグローバル化の失敗が将来必ず来る。日本人は日本人であるべき。中国やヨーロッパの考えをとる必要はない。日本古来の考え方で充分である。時代遅れのアンケートであった。
男性	70 歳以上	戦後、物不足時から少年期を送り高度成長、長引くデフレも経験した。農家の長男として農耕に励み、納税の義務も果たしてきた。今、私は女房とも施設にお世話になっているが、国の福祉行政の有難さを実感している。経営は息子に譲って気は楽である。農村社会の狭い世界でしか生きてこなかったが、地域の意見を出して民主的な話し合いには程遠く感じた。次の世代は個人の意見を出し合い、都会の生活者と同等の意見の出し合いを望むのは老人のひがみであろうか。
男性	70 歳以上	私はこの本を参考にしています。「話を聞かない男、地図が読めない女」
男性	70 歳以上	もっと女性の働きを大きくアピールしてほしい。
男性	70 歳以上	だんだん男女平等の世の中になっているが、一部の会社ではパワハラなどがまだあり、ある化粧品会社の女性職員が会社からののしられ自殺する事件があった。パワハラや大学教授などのパワハラなども多く、

		絶対に許されることではない。こういった質問は時間がかかるので関わりたくない。
男性	70 歳以上	男女共同参画社会の実現、市行政に期待する。
男性	70 歳以上	市によるさらなる啓発を望む。
男性	70 歳以上	市役所の機関で女性の管理職を増やす。
男性	70 歳以上	男女共同参画の取り組み制度の充実も必要だが、女性の積極的な参加意欲の向上の意識改革も必要だと思う。
男性	70 歳以上	啓発活動。経営者、事業者への周知徹底。
男性	70 歳以上	現在 74 歳の男性である。この意識調査は年齢制限が必要かと思う。子どもは成人しているので育児などの設問は関係ない、仕事もアルバイト的な仕事はしているが、現役ではないので、職場がらみの設問は回答できない。
男性	70 歳以上	この意識調査は 80 歳を過ぎた老人がするより若い現役世代向きと思う。私たちの世代と違い過ぎる。年金生活で贅沢をしなければ食べていけるので、夫婦で楽しく、子どもたちに迷惑をかけないように残りの人生を過ごしたいと思っている。嘉麻市が発展しますように。
男性	70 歳以上	世の中が劇的に変化し、道徳や女性、男性に関わらない生き方、考え方、スマホやパソコン、AI 情報だらけで動かされているように思える。目と目で話し合える女性のネットワークがもっともっと必要と思える。
男性	70 歳以上	この様なアンケートは迷惑である。
男性	70 歳以上	市民は行政の言うほど、男女共同参画について関心はない。
男性	70 歳以上	男女共同参画についての講演会などの実施を増やす。
男性	70 歳以上	本来人間として、女性、男性の上下はないが、昔のしきたりのなごりがまだ残っており、学習や社会を通じて平等な社会へ変わらなければならないと思う。
男性	70 歳以上	男女共同参画がお題目に終わらないように実効性のあるものにしてもらいたい。今回のようなリサーチはなされているが、このことが具現化している印象は全くない。国の旗振りにあわせて活動するのではなく、本気度を見せてほしいと思う。そして、その結果を広報誌ではなく、特集したもので可視化してほしい。正しく税金が使われているとは言えないのが、調査倒れに終わることであろう。
男性	70 歳以上	隣組や行政区に役所から必ず入るように約束をもらう。そうすれば隣の付き合い、区の行事の付き合いができ、雑談的に友達に心配事、悩み事を話せるのでは。
男性	70 歳以上	女性の市長誕生。
男性	70 歳以上	人間の意識改革という難しい策定になると思われるが、本市が特に個性的で特別な地域とは思わない。全国共通の取り組みであり、類似市町村の取り組みや策定を参考にされた方がいいのではないですか。
男性	70 歳以上	そもそも男は何ぞや、女とは何ぞや。それぞれの個性と能力を洗い出してこそお互いの人権を尊重できるのではないか。当世、どんどんあいまいになっているように思う。
男性	70 歳以上	男女の区別をなくすために、何事につけ男女同様の扱いをする。

男性	70 歳以上	男女共同参画とは聞こえが良くても雇用均等法では肝心の母性保護が省かれてしまい、その後の施策で非正規雇用が急増し、常態化してきた。また、日本の経済が低迷化しており、これらを背景に一般の家庭では生活にゆとりもなく、日々きゅうきゅうとした生活が多くなったと感じている。特に旧産炭地のこの地域では、大都市が好景気だというときも取り残されている。この意識調査の趣旨は理解できるが、行政区に対する関心が薄らぎ、市役所においてもこの問題への対応が見えない状況下で実際に共同参画を行なうのは困難が伴うものと認識している。コミュニティという言葉を最近はよく耳にするものの地域のまとまりは、大方が遠いものになってしまった今、安定した生活と地域のまとまりの原点回帰が必要と考えている。
男性	70 歳以上	年金受給者にこのようなアンケートを送らないでください、迷惑しています
男性	70 歳以上	男女共同参画社会というものが具体的にどのようなものかわかりません。平等の権利をもつことは当然と思うし、権利の行使の仕方には差があると思う。育児や収入の得方はどの家庭や個人も同じである必要はないと思っています。社会の参画の仕方についても女性だからという理由で阻害されているのなら早急に是正すべきと思います。ＬＧＢＴＱという概念を受け入れるなら男女共同参画という二分的な捉え方だけでは片付く問題でもない気がする。
無回答	無回答	女だからと甘えてもいけないし、男だからと上位の気分になってもいけない。個人の能力にリスペクトを持ち、責任をもつ。
無回答	無回答	市が本気でやる気があれば情報提供の場や研修（講演等）の場を多くつくれば、男女共同参画社会に近づけると思う。
無回答	無回答	嘉麻市の取り組みを全く知らなった。私の子どものころ、クラスには授業についていけない同級生が何人かいた。ただいつも一緒にいるので、みな普通に接し、それが当たり前であった。それは私たちが常に彼らを見て、聞いて、知っているからであり、今のように SNS での発言をうのみにして、誹謗中傷したり、差別をするのと根本的に違う気がする。「知らない」「無知」なのに信じてしまう怖さです。子どもの頭の中が真っ白でスポンジのように何でも吸収する小学生の時からジェンダー平等や LGBTQ を正しく教えることは大切だと思う。

◎ 使用した調査票

男女共同参画社会に向けての市民意識調査

調査ご協力のお願い

市民の皆様には市政に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本市では男女が、お互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会＝ジェンダー平等社会の実現」に向けて、様々な取り組みを進めているところです。

今回の市民意識調査は、今後、本市で推進する取り組みを検討するにあたり、市民の皆様のご意見をおうかがいし、男女共同参画のまちづくりに活かすために実施いたします。

調査対象として本市にお住まいの 18 歳以上の方の中から 3,000人を無作為に抽出したところ、あなた様に回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、率直なお考えをご回答いただきますようお願い申し上げます。

令和７年９月

嘉麻市長　赤間　幸弘

ご回答にあたってのお願い

◇この調査は、**あて名のご本人のお考えで**お答えください。ただし、ご本人による記入が困難な場合は、ご本人の意見を代理の方がお答えください。

◇調査票や返信用封筒に住所・氏名を記入する必要はありません。ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されるなど、**ご回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。**

◇**回答期限は、令和７年１０月６日（月）までです。**

郵送またはインターネットどちらかの方法でご回答ください。

【インターネットで回答する場合】

◇右に記載のＱＲコードの読み取りまたは、下記ＵＲＬにアクセスしてください。

https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/km/kama25/

◇重複回答を防ぐため、ランダムに生成された下記の「ＩＤ」と「パスワード」をログイン画面に入力して回答を始めてください。（個人を特定するものではありません）

ID
パスワード

Ｉ ＝ 英字(大文字)のアイ
ｌ ＝ 英字(小文字)のエル
０ ＝ 数字のゼロ
１ ＝ 数字のいち

【郵送で回答する場合】

◇ご記入は、黒色のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。

◇回答は、あてはまる番号に〇をつけてください。
選択する〇印の数は質問文の後に「１つ」「３つまで」というように記載されていますので、記載内容にしたがってご記入ください。

◇各項目で「その他」にお答えいただいた方は、その内容を（　）内に具体的にご記入ください。

◇調査票のご記入が終わりましたら、同封の「返信用封筒」に入れ、**１０月６日（月）まで**に投函してください。切手は不要です。

なお、この調査についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

【問い合わせ先】調査主体：嘉麻市　男女共同参画推進課
TEL　0948-62-5714　FAX　0948-62-5692
調査機関：特定非営利活動法人　福岡ジェンダー研究所
TEL　092-401-5811　FAX　092-401-5811

男女平等（ジェンダー平等）に関する考え方についておたずねします。

問１「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。１つ選んでください。

１．同感する
２．ある程度同感する
３．あまり同感しない
４．同感しない

付問１**【問１で「１.同感する」、「２.ある程度同感する」と回答した方におたずねします】**
同感すると思う理由はなぜですか。いくつでも選んでください。

１．女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
２．育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
３．男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
４．日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
５．自分の両親も役割分担をしていたから
６．その他(具体的に　　)

問２　あなたは、次の（ア）～（ク）の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。（ア）～（ク）の各分野について、あなたの考えに近いものをそれぞれ１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない
【記入例】○○の場では	1	2	③	4	5	6
（ア）家庭生活では	1	2	3	4	5	6
（イ）職場では	1	2	3	4	5	6
（ウ）学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
（エ）地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
（オ）政治の場では	1	2	3	4	5	6
（カ）法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
（キ）社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
（ク）社会全体では	1	2	3	4	5	6

家庭生活や子育てについておたずねします。

問３　あなたのご家庭では、次の（ア）～（ケ）のような家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。（ア）～（ケ）の各項目について、最もあてはまるものをそれぞれ１つ選んでください。配偶者（パートナー）や子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他
【記入例】○○○	1	2	③	4	5	6
（ア）炊事・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
（イ）生活費を得る	1	2	3	4	5	6
（ウ）家計の管理	1	2	3	4	5	6
（エ）育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
（オ）子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5	6
（カ）病人・高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5	6
（キ）高額な商品や土地・家屋の購入	1	2	3	4	5	6
（ク）家庭の問題における最終決定	1	2	3	4	5	6
（ケ）行政区・隣組などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問４　子どもを育てるうえで大切だと思うことについて、あなたはどうお考えですか。次の（ア）～（ウ）の各項目について、あなたの考え方に最も近いものをそれぞれ１つ選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない
【記入例】○○○	1	2	③	4	5
（ア）性別にかかわりなく経済的に自立できるよう育てる	1	2	3	4	5
（イ）性別にかかわりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい	1	2	3	4	5
（ウ）３歳までは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5

問５　これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。３つまで選んでください。

1．一人ひとりの個性や人権を尊重することについて学ぶこと
2．発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
3．家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
4．多様な性のあり方について理解を深める教育を進めること
5．生活指導や進路指導において、性別にかかわりなく能力を活かせるよう配慮すること
6．男女平等（ジェンダー平等）教育の理解と協力を深めること
7．働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
8．管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
9．教職員に対する男女平等（ジェンダー平等）などの研修を行うこと
10．その他（具体的に　　）

問６　次の（ア）、（イ）の項目について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
【記入例】○○○	1	②	3	4	5
（ア）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである	1	2	3	4	5
（イ）妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである	1	2	3	4	5

就労・働き方についておたずねします。

問７　一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。１つ選んでください。

１．結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい
２．結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
３．子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
４．子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい
５．女性は職業を持たない方がよい
６．その他（具体的に　　）
７．わからない

付問１【問７で「２．」～「６．」のいずれかに答えた方におたずねします】
あなたが、そう思う理由は何ですか。２つまで選んでください。

１．女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
２．女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
３．女性の能力は正当に評価されないから
４．女性が働く上で不利な慣習などが多いから
５．育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
６．現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
７．保育や介護などの施設が整っていないから
８．その他（具体的に　　）

問８　あなたは、いま職業（収入のある仕事）を持っていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。１つ選んでください。

１．職業を持っている
２．以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない
３．いままで職業を持ったことはない

付問１【問８で「１．職業を持っている」と答えた方におたずねします】
あなたの職業は次のどれですか。１つ選んでください。

１．自営業主（農林漁業）
２．自営業主（商工サービス業）
３．自営業主（医師、弁護士などの自由業）
４．家族従業者（農林漁業）
５．家族従業者（商工サービス業）

付付問１へ

６．会社役員・管理職（課長級以上）
７．正社員・正職員
８．契約社員・派遣社員
９．常勤パートタイマー
10．臨時・アルバイト
11．内職
12．その他（具体的に　　）

付付問２へ

付付問１【問８付問１で「１．」～「５．」のいずれかに答えた方におたずねします】

あなたの就労状況としては、次のどれにあてはまりますか。いくつでも選んでください。

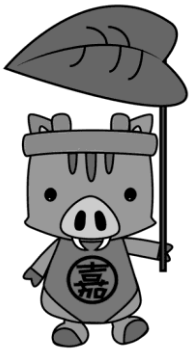
１．自分で受け取って管理できる給与・報酬がある
２．定期的に休日を取ることができる
３．職業上の研修には自由に参加できる
４．作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある
５．自分名義の預貯金を持っている
６．自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている
７．家族経営協定※1を結んでいる
８．その他（具体的に　　）
９．あてはまらない

※１の説明は 18 ページにあります。

付付問２【問８付問１で「６．」～「10.」のいずれかに答えた方におたずねします】

今の職場で女性にとって働きにくい点はどのようなことだと思いますか。３つまで選んでください。

１．募集・採用の機会が少ない
２．賃金に男女格差がある
３．補助的な業務や雑用が多い
４．能力を正当に評価されない
５．昇進・昇格に男女格差がある
６．管理職に登用されない
７．結婚や出産時に退職する慣例や退職するような圧力がかかる
８．中高年女性に退職を促すような圧力がかかる
９．女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい
10．仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない
11．残業や休日出勤が多い
12．仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではない
13．女性が働くことについて、上司や同僚の認識が低い
14．その他（具体的に　　）
15．特にない



問９　育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。それぞれ１つ選んでください。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	利用したい	利用したいが利用できそうにないと思う	利用したくない	わからない
【記入例】○○○制度	1	②	3	4
（ア）育児休業制度	1	2	3	4
（イ）介護休業制度	1	2	3	4

付問１【問９のいずれかで「２．」または「３．」と答えた方におたずねします】
あなたがそう思う理由は何ですか。３つまで選んでください。

1．経済的に生活が成り立たなくなるから
2．職場に休める雰囲気がないから
3．休みをとると勤務評定に影響するから
4．自分の仕事は代わりの人がいないから
5．一度休むと元の仕事に戻れないから
6．現在取り組んでいる仕事を続けたいから
7．妻、夫など家族や親族の理解が得られないから
8．家族の協力で、利用しなくても対応できるから
9．職場にそのような制度があるのかわからないから
10．育児や介護は、女性がやるべきだと思うから
11．その他（具体的に　　）

問10　あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。（ア）実際の生活、（イ）理想の生活のそれぞれについて１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先
【記入例】○○○	1	2	③	4	5	6	7
（ア）実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
（イ）理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

問11 性別にかかわりなく「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させる「ワーク・ライフ・バランス※2」（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか。３つまで選んでください。

1．給与などの男女間格差をなくすこと
2．残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
3．代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること
4．育児や介護のために退職した社員（職員）をもとの職場で再雇用する制度を導入すること
5．育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること
6．延長保育や学童保育など保育サービスを充実すること
7．在宅勤務やフレックスタイム制度※3など、柔軟な勤務制度を導入すること
8．女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること
9．職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること
10．その他（具体的に　　）
11．わからない

※２、※３の説明は 18 ページにあります。

地域活動についておたずねします。

問12 次の（ア）～（エ）の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどう思いますか。それぞれ１つ選んでください。

また、「２．断る（断ることをすすめる）」を選んだ方はその理由についてもご記入ください。（下記【断る理由】の中から１つ選び、番号を記入してください）

項目ごとに横に見てお答えください。→（○印はそれぞれ１つずつ）	引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）	【断る理由】
【記入例】○○○○	1	②	→ 2
（ア）ＰＴＡ会長、子ども会会長	1	2	→
（イ）行政区長	1	2	→
（ウ）行政区の役員	1	2	→
（エ）市の審議会や委員会のメンバー	1	2	→

【断る理由】

1．家族の協力が得られないから
2．女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3．家事・育児や介護に支障がでるから
4．仕事に支障が出るから
5．役職につく知識や経験がないから
6．女性には向いていないから
7．責任が重いから
8．その他（具体的な内容については、各欄横の余白部分にご記入ください　　）

問13　あなたが住んでいる地域で、現在次のようなことがありますか。いくつでも選んでください。

1．地域の団体、組織などの役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい
2．地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする
3．会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい
4．地域の活動に女性が少ないため歓迎される
5．地域の活動には女性の方が積極的である
6．特に男女で差はない
7．その他（具体的に　　）
8．わからない

問14　地域活動での男女の役割分担についておたずねします。

（1）現状：あなたが参加している地域活動の現状について（ア）～（カ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

（2）意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。（ア）～（カ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	（1）現状			（2）意識		
	そうしている	そうしていない	わからない	現状のままでいい	改善すべき	わからない
【記入例】○○○○	①	2	3	1	②	3
（ア）催し物の企画などは主に男性が決定している	1	2	3	1	2	3
（イ）地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	1	2	3
（ウ）地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	1	2	3	1	2	3
（エ）地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	1	2	3
（オ）地域の集会では男性が上座に座る	1	2	3	1	2	3
（カ）行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い	1	2	3	1	2	3

問15　内閣府調査（令和６年４月１日現在）によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では 10.9%（嘉麻市12.7%）でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状ですが、その理由は何だと思いますか。２つまで選んでください。

1．男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から
2．男性が女性の能力を正当に評価していないから
3．家族の支援・協力が得られないから
4．女性が責任のある役を引き受けたがらないから
5．地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性より男性の方が向いているから
6．その他（具体的に　　）
7．わからない

問16　これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点からの対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。いくつでも選んでください。

1．避難所の運営に女性も参画できるようにする
2．女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3．避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を入れる
4．避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5．防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
6．日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
7．日ごろからの男女平等（ジェンダー平等）、男女共同参画意識を高める
8．その他（具体的に　　）

暴力などの人権侵害についておたずねします。

問17　あなたは過去３年ぐらいの間に「Ａ　職場」「Ｂ　地域活動の場」「Ｃ　学校に関わる場」で次のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。Ａ、Ｂ、Ｃのそれぞれについて受けたことがあるものすべてを選んでください。

ＡＢＣごとに縦に見てお答えください。↓ （○印はそれぞれいくつでも）	A 職場で ⇓	B 地域活動の場で ⇓	C 学校に関わる場で ⇓
「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言う	1	1	1
宴会などでお酌やデュエットを要求する	2	2	2
交際関係や結婚・出産など、プライベートなことを執拗に聞く	3	3	3
容姿や年齢について話題にする	4	4	4
性的な話や冗談を聞かせる	5	5	5
性的な噂をたてる	6	6	6
不必要に身体をさわる	7	7	7
性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけたりする	8	8	8
交際をせまる	9	9	9
性的な関係をせまる	10	10	10
その他（具体的に　　）	11	11	11
どれも受けたことがない	12	12	12

付問１へ

付問１【問17で「Ａ　職場」「Ｂ　地域活動の場」「Ｃ　学校に関わる場」でひとつでも「１．」～「11.」に答えた方におたずねします】

その後、あなたはどのような行動をとりましたか。いくつでも選んでください。

１．相手に直接抗議した
２．職場の上司や学校の先生などに相談した
３．家族や友人に相談した
４．公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した
５．その他
（具体的に　　）
６．特に何もしなかった

問18　次のことが配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない
【記入例】○○○○	1	②	3	4
（ア）骨折させる	1	2	3	4
（イ）打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3	4
（ウ）足でけったり、素手でたたく・なぐる	1	2	3	4
（エ）物を投げつける	1	2	3	4
（オ）げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどす	1	2	3	4
（カ）何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
（キ）交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をする	1	2	3	4
（ク）他人や子どもの前で侮辱したり、馬鹿にしたりする	1	2	3	4
（ケ）大声でどなる	1	2	3	4
（コ）「痛い目にあわせてやる」などと生命、身体を脅かすような暴言を吐く	1	2	3	4
（サ）嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
（シ）避妊に協力しない、中絶を強要する	1	2	3	4
（ス）見たくないのに、アダルトサイトやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4
（セ）必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
（ソ）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」という	1	2	3	4

問19【配偶者や交際相手が現在いる方、これまで配偶者や交際相手がいた方におたずねします】

あなたは、ここ３年ぐらいの間にあなたの配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）		何度もあった	1、2度あった	全くない
【記入例】○○○○		1	②	3
身体的暴力	（ア）骨折させられた	1	2	3
	（イ）打ち身や切り傷などのケガをさせられた	1	2	3
	（ウ）足でけられたり、素手でたたかれたりなぐられたりした	1	2	3
	（エ）物を投げつけられた	1	2	3
精神的暴力	（オ）げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどされた	1	2	3
	（カ）何を言っても無視され続けた	1	2	3
	（キ）交友関係や電話・メールなどのチェックや制限をされた	1	2	3
	（ク）他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした	1	2	3
	（ケ）大声でどなられた	1	2	3
	（コ）「痛い目にあわせてやる」などと生命、身体を脅かすような暴言を吐かれた	1	2	3
性的暴力	（サ）嫌がっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
	（シ）避妊に協力してくれない、中絶を強要された	1	2	3
	（ス）見たくないのに、アダルトサイトやポルノ雑誌を見せられた	1	2	3
経済的暴力	（セ）必要な生活費を渡されない	1	2	3
	（ソ）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」といわれた	1	2	3

付問１【問19のいずれかで「１.何度もあった」または「２．１、２度あった」と答えた方におたずねします】あなたはこれまでに、問19であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。いくつでも選んでください。

１．家族、親族
２．友人、知人
３．警察署・交番
４．配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など）
５．人権擁護委員、民生委員、行政区長・隣組長など
６．嘉麻市男女共同参画推進課（女性相談窓口）
７．かま女性ホットライン
８．医療関係者（医師、看護師など）
９．学校関係者（教員、養護教員、カウンセラー）
10．その他（具体的に　　）
11．どこ（だれ）にも相談しなかった

付付問１へ

付付問１【問19付問１で「11．どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします】どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
いくつでも選んでください。

１．どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
２．恥ずかしくてだれにも言えなかったから
３．相談してもむだだと思ったから
４．相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから
５．加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
６．相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから
７．自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
８．子どものためにがまんするしかないと思ったから
９．世間体が悪いから
10．他人を巻き込みたくなかったから
11．他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
12．そのことについて思い出したくなかったから
13．自分にも悪いところがあると思ったから
14．相手の行為は愛情の表現だと思ったから
15．相談するほどのことではないと思ったから
16．その他（具体的に　　）

問20　配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。１つ選んでください。

１．家族や知人などから相談されたことがある
２．身近に当事者がいる
３．身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある
４．身近で見聞きしたことはない
５．その他（具体的に　　）

付問１【問20で「１．家族や知人などから相談されたことがある」または「２．身近に当事者がいる」と答えた方におたずねします】
あなたは、そのことを知ってどうしましたか。いくつでも選んでください。

１．被害者と一緒に病院や相談機関に行った
２．被害者に相談機関などを紹介した
３．被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした
４．配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した
５．加害者に暴力をやめるように話した
６．被害者にがまんするように話した
７．何もできなかった
８．何もする必要はないと思った
９．その他（具体的に　　）

問21　あなたは、ＤＶ(配偶者からの暴力)について相談できる窓口があることを知っていますか。知っている相談窓口をいくつでも選んでください。

１．配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など）
２．男性被害者のための相談窓口
３．ＬＧＢＴＱの方の相談窓口
４．行政の相談窓口（市町村、法務局、人権擁護委員など）
５．弁護士会・法テラスなどの相談窓口
６．加害者相談(ＤＶをやめたい方)の相談窓口
７．かま女性ホットライン
８．その他（具体的に　　）
９．知らない

配偶者や恋人等からのDV（暴力）、虐待、セクハラなどの問題のほか、仕事や家庭の問題、子育てや介護のことなどで悩んでいませんか？
市が委託した市外の相談機関で、専門の女性相談員がお受けしますので、お気軽にお電話ください。
かま女性ホットライン
☎ ０92-513-7337
毎週月・水・木・金曜日／12：00～19：00
毎週土曜日／10：00～17：00
（祝日、12月29日～1月3日を除く）

ひとりで悩まずに、
まずはお電話ください
■秘密厳守　■相談無料
■専門の女性相談員が対応します
■状況に応じて面接相談も受けています
※通話料はかかりますのでご了承ください
かま女性ホットライン

悩みや困りごとについておたずねします。

問22　あなたは、現在、次のような悩みや困りごとがありますか。いくつでも選んでください。

１．仕事、雇用、転職、再就職、起業など
２．健康、病気、障がいなど
３．家計、借金、相続など
４．友人、知人との関係や職場での人間関係など
５．恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など
６．家族、親族との関係など
７．育児、子育て、教育など
８．介護（自分または家族が介護をすることについて）
９．介護（将来、自分が介護されることについて）
10．異性・配偶者（パートナー）との性に関する悩みなど
11．自分の性に関する悩み
12．その他（具体的に　　）
13．なし

付問１【問22で「１.」～「12.」のいずれかに答えた方におたずねします】
あなたは、悩みや困りごとについて、相談機関や公的機関に相談したことがありますか。１つ選んでください。

１．相談した ⟶ 付付問１へ　　２．相談しなかった ⟶ 付付問２へ

付付問１【問22付問１で「１.相談した」と答えた方におたずねします】

相談した機関はどこですか。いくつでも選んでください。

１．医療関係者（医師、看護師など）
２．介護関係者（ケアマネジャー、ホームヘルパーなど）
３．学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
４．民間の専門家や専門機関（弁護士、法テラス、カウンセラー、ＮＰＯ団体など）
５．行政の相談窓口（市民相談、こころの電話相談、かま自立相談支援センター、福祉事務所、教育相談、ひとり親家庭相談、家庭児童相談、消費生活センター、労働者支援事務所、人権相談、女性相談など）
６．警察（110番、心のリリーフ・ライン（県警の犯罪被害者相談電話）など）
７．その他（具体的に　　）

付付問２【問22付問１で「２.相談しなかった」と答えた方におたずねします】

相談しなかった、できなかった理由は何ですか。いくつでも選んでください。

１．どこに相談してよいかわからなかったから
２．家族や友人に相談したから
３．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
４．相談してもむだだと思ったから
５．相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから
６．相談するほどのことではないと思ったから
７．世間体が悪いから
８．その他（具体的に　　）

問23　相談窓口の情報をどのように入手していますか。いくつでも選んでください。

１．インターネット検索
２．SNS（X、LINE、YouTube など）
３．チラシやカード
４．行政の広報誌
５．新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディア
６．家族から
７．友人、知人から
８．その他（具体的に　　）

問24　困難な問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。いくつでも選んでください。

１．気軽に話を聞いてもらえる SNS などの相談窓口
２．自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口
３．利用できる支援制度の情報提供
４．同じような悩みを持つ人と出会える場所
５．相談・支援を受けている間の寄り添いや見守り
６．自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関
７．生活のための経済援助
８．就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）
９．カウンセリングなどの心理学的支援
10．弁護士などによる法的支援
11．その他（具体的に　　）

男女共同参画社会の実現についておたずねします。

問25　次の（ア）～（ソ）のことがらで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。（ア）～（ソ）のそれぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

項目ごとに横に見てお答えください。→ （○印はそれぞれ１つずつ）	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない
【記入例】○○○法	1	②	3
（ア）男女共同参画社会基本法	1	2	3
（イ）男女雇用機会均等法	1	2	3
（ウ）ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
（エ）女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
（オ）政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
（カ）困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
（キ）女子差別撤廃条約	1	2	3
（ク）福岡県性暴力根絶条例	1	2	3
（ケ）嘉麻市男女共同参画推進条例	1	2	3
（コ）嘉麻市男女共同参画社会基本計画	1	2	3
（サ）嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画	1	2	3
（シ）デートＤＶ※4	1	2	3
（ス）ＬＧＢＴＱ※5	1	2	3
（セ）家族経営協定※6	1	2	3
（ソ）ジェンダー※7	1	2	3

※４、※５、※６、※７の説明は 18 ページにあります。

問26　男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。３つまで選んでください。

1．男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2．男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3．夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
4．年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5．夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること
6．男性が家事や育児、介護などの技能を高めること
7．妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと
8．男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
9．企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守など環境整備をすること
10．社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
11．わからない
12．その他（具体的に　　）
13．特にない

問27　「男女共同参画社会」の実現のために、あなたは、嘉麻市では今後どのようなことに力を入れていったら良いと思いますか。３つまで選んでください。

1．広報・啓発活動や学習機会を充実する
2．市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
3．行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす
4．就学前教育、学校教育や社会教育の場で、男女平等（ジェンダー平等）についての学習を充実する
5．経営者・事業主を対象に男女均等な取扱い(仕事の内容・賃金など)について周知徹底する
6．経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う
7．男性が積極的に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う
8．女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
9．女性の生涯にわたる健康づくりの支援策や母性保護対策を充実する
10．性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する
11．配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
12．セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の取り組みを強化する
13．各種団体のリーダーとなる女性を養成する
14．男女共同参画を推進する住民グループの活動を支援する
15．子ども・子育て支援事業を充実する
16．高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する
17．市政を担うトップを先頭に管理職、職員の男女共同参画についての研修を充実する
18．その他（具体的に　　）
19．わからない　　20．特にない

以下の質問は、調査結果を統計的に整理するため必要なものです。
ご記入にご協力をお願いします。

あなたご自身のことをおたずねします。

Ｆ１　あなたの性別は。

１．女性　　２．男性　　３．回答しない・該当しない

Ｆ２　あなたの年齢は。

１．20歳未満
２．20歳代
３．30歳代
４．40歳代
５．50歳代
６．60歳代
７．70歳以上

Ｆ３　あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。

１．一人暮らし
２．夫婦・パートナーのみ
３．二世代同居（親と子）
４．三世代同居（親と子と孫）
５．その他（具体的に　　）

Ｆ４　あなたは現在、結婚（事実婚を含む）をしていらっしゃいますか。

１．配偶者・パートナーがいる（共働きである）
２．配偶者・パートナーがいる（共働きでない）
３．配偶者はいない（離別）
４．配偶者はいない（死別）
５．結婚していない

Ｆ５　あなた自身も含め、同居のご家族に次にあげる方はおられますか。
（あてはまるものすべて選んでください。）

１．乳幼児（３歳未満）
２．未就学児
３．小・中・義務教育学校の児童生徒
４．高校生
５．専門学校生
６．大学・短大生
７．65歳以上の人
８．１～７以外の人

Ｆ６　あなたのお住まいは。

１．山田地区
２．稲築地区
３．碓井地区
４．嘉穂地区
５．地区がわからない方は、行政区名あるいは住所を記入してください。

（　　）

次ページにつづく

嘉麻市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて、また、男女共同参画について日ごろ感じておられることなど、ご意見、ご要望など自由にご記入ください。

※1※6 **家族経営協定とは**：家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めるものです。

※2 **ワーク･ライフ･バランス（仕事と生活の調和）とは**：仕事と、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付合い等）などとの調和がとれ、その結果それぞれが充実されていくという考え方やそのための取り組みのことです。国では「ワーク・ライフ・バランス憲章」を制定し、仕事と生活の調和の実現をめざしています。

※3 **フレックスタイム制度とは**：１ヶ月以内の一定期間の総労働時間をあらかじめ定めておき、その枠内で各日の始業及び終業時刻を従業員が自分で選択できる制度です。

※4 **デートＤＶとは**：結婚していない交際相手からふるわれる暴力。中学生、高校生など若い人のあいだでも起きています。

※5 **ＬＧＢＴＱとは**：Ｌ（レズビアン＝女性同性愛者）、Ｇ（ゲイ＝男性同性愛者）、Ｂ（バイセクシュアル＝両性愛者）、Ｔ（トランスジェンダー＝生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人）、Ｑ（自分の性のあり方を決められなかったり、迷ったりしている人、または決めたくない、決めないとしている人）などを表現する包括的な言葉。

※7 **ジェンダーとは**：生まれついての生物学的性別（セックス／sex）に対して、社会通念や慣習の中では、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があります。このような社会的・文化的な男性、女性の別を「社会的性別」（ジェンダー／gender）といいます。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。
郵送またはインターネットどちらかの方法で
10月6日（月）までにご回答ください。

男女共同参画社会に向けての市民意識調査報告書

令和８年３月

発行／福岡県嘉麻市

〒820-0592
福岡県嘉麻市上臼井４４６番地１
嘉麻市　男女共同参画推進課
TEL　0948-62-5714　FAX　0948-62-5692